

次なる
茨木へ。



茨木市

男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和4年(2022年)3月



茨木市

目 次

I 調査の概要	1
II 市民意識調査の結果	5
1. あなた自身やご家族について	5
2. 男女共同参画に関する意識について	12
3. 子育てや学校教育について	41
4. 家庭生活と仕事などについて	46
5. 男女の人権について	61
6. セクシュアルマイノリティについて	82
7. 茨木市の取組について	88
8. 自由記述	98
III 小中学生アンケート調査の結果	107
1. あなた自身やご家族について	107
2. 男女共同参画に関する意識について	111
3. 学校生活について	115
4. 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたこと	120
5. デートDVについて	126
6. セクシュアルマイノリティについて	129
7. 悩みごとの相談状況	130
8. 茨木市の取組について	131
IV 大学生意識調査の結果	134
1. あなた自身について	134
2. 男女共同参画に関する意識について	136
3. 男女の人権について	142
4. 悩みごとの相談状況	149
5. セクシュアルマイノリティについて	150
6. 茨木市の取組について	154
V 調査結果の考察	155
VI 調査票	163
1. 市民意識調査	163
2. 小学生調査	171
3. 中学生調査	173
4. 大学生調査	176

I 調査の概要

(1) 調査目的

第2次茨木市男女共同参画計画(改訂版)は令和3年度までの計画であることから、社会情勢の変化や男女共同参画をとりまく環境の変化を勘案し、現在の本市の状況を踏まえた次期計画(第3次茨木市男女共同参画計画)を策定するにあたり、その基礎資料となる意識調査を実施する。

(2) 調査の概要

	市民意識調査	小中学生アンケート調査	大学生意識調査
調査対象	・茨木市に居住する18歳以上の男女2,000人	・茨木市内の学校に通う小学5年生の男女369人 ・茨木市内の学校に通う中学3年生の男女431人	・市内の大学に通う学生
調査期間	令和3年10月20日～10月31日	令和3年10月15日～11月15日	令和3年10月20日～11月30日
調査方法	郵送による調査票の配布、郵送回収またはインターネット回答	学校を通じて直接配付・直接回収	学校を通じて調査協力依頼、インターネット回答
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関する意識について ・子育てや学校教育について ・家庭生活と仕事などについて ・男女の人権について ・セクシュアルマイノリティについて ・茨木市の取組について 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関する意識について ・学校生活について ・「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたこと ・デートDVについて(中学生調査のみ) ・セクシュアルマイノリティについて(中学生調査のみ) ・悩みごとの相談状況 ・茨木市の取組について 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関する意識について ・男女の人権について ・悩みごとの相談状況 ・セクシュアルマイノリティについて ・茨木市の取組について

(3) 報告書の見方

1. 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象数)に対する百分率(%)を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問では、百分率(%)の合計は100.0%を超える。
2. 百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
3. 図中にある「n」は、集計対象票数(あるいは、分類別の該当対象数)を示し、比率は「n」を100.0%として表した。
4. クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明(無回答)」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。

I 調査の概要

(4)回収状況

■市民意識調査

	標本数	回収数(回収率)			
			女性	男性	「わからない、答えたくないなど」・無回答
全体	2,000 票	1,153 票 (57.7%)	612 票	521 票	20 票
郵送回収		854 票	480 票	359 票	15 票
インターネット回答		299 票	132 票	162 票	5 票

母集団の人口構成

		18～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
女性	人数	2,900	15,174	16,766	22,602	19,773	14,583	31,287	123,085
	%	2.4%	12.3%	13.6%	18.4%	16.1%	11.8%	25.4%	100.0%
男性	人数	2,966	14,825	16,444	21,830	19,726	13,459	23,290	112,540
	%	2.6%	13.2%	14.6%	19.4%	17.5%	12.0%	20.7%	100.0%
合計	人数	5,866	29,999	33,210	44,432	39,499	28,042	54,577	235,625
	%	2.5%	12.7%	14.1%	18.9%	16.8%	11.9%	23.2%	100.0%

配布数

		18～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
女性	人数	24	121	135	181	161	120	253	995
	%	2.4%	12.2%	13.6%	18.2%	16.2%	12.1%	25.4%	100.0%
男性	人数	26	135	152	195	176	117	204	1,005
	%	2.6%	13.4%	15.1%	19.4%	17.5%	11.6%	20.3%	100.0%
合計	人数	50	256	287	376	337	237	457	2,000
	%	2.5%	12.8%	14.4%	18.8%	16.9%	11.9%	22.9%	100.0%

回収数

		18～19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答	合計
女性	人数	12	47	80	108	101	93	170	1	612
	%	2.0%	7.7%	13.1%	17.6%	16.5%	15.2%	27.8%	0.2%	100.0%
	回収率(%)	50.0%	38.8%	59.3%	59.7%	62.7%	77.5%	67.2%	-	61.5%
男性	人数	7	48	63	93	88	75	147	0	521
	%	1.3%	9.2%	12.1%	17.9%	16.9%	14.4%	28.2%	0.0%	100.0%
	回収率(%)	26.9%	35.6%	41.4%	47.7%	50.0%	64.1%	72.1%	-	51.8%
合計	人数	21	96	143	201	192	169	317	14	1,153
	%	1.8%	8.3%	12.4%	17.4%	16.7%	14.7%	27.5%	1.2%	100.0%
	回収率(%)	42.0%	37.5%	49.8%	53.5%	57.0%	71.3%	69.4%	-	57.7%

注) 合計には性別に「わからない、答えたくないなど」と回答した人・無回答の人を含むため女性と男性の計とは一致しない

■小中学生アンケート調査

	標本数	回収数(回収率)			
		女性	男性	「回答しない」・無回答	
小学生	369 票	360 票 (97.6%)	152 票	165 票	43 票
中学生	431 票	399 票 (92.6%)	200 票	173 票	26 票

■大学生意識調査

	標本数	回収数		
		女性	男性	「わからない、答えたくないなど」
大学生	302 票	194 票	98 票	10 票

注) 大学を通じて調査協力依頼を行い、自由回答形式で回収したため、標本数の設定はない。

I 調査の概要

(5) 市民意識調査の精度

住民意識調査は標本調査のため、調査結果から母集団を推定することができます。

調査結果の信頼度95%レベル(同一の調査を100回行った場合95回まではこの結果になるであろうという推定)における信頼区間は以下のとおりです。

主な%について求めたのが下表です。

この表から、例えば問「あなたの職業は。(○は1つ)」の質問で女性は「家事専業(専業主婦・主夫)」に約30%の人が答えている場合、信頼区間の2分の1幅が3.6%であるので100回調査すると95回までは26.4%から33.6%の間の答えが得られるということになります。

【主な標本における比率の信頼区間(信頼度95%)】

今回調査の信頼区間(女性)

P(%)	信頼区間の 1/2 幅
50	±4.0
45 55	±3.9
40 60	±3.9
35 65	±3.8
30 70	±3.6
25 75	±3.4
20 80	±3.2
15 85	±2.8
10 90	±2.4
5 95	±1.7

$$\text{標本誤差} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N=母集団(令和3年9月末現在満18歳以上)

母集団人口(女性123,085人、男性112,540人)

n=標本数(女性の有効回答者=612人)

(男性の有効回答者=521人)

P=回答率(標本測定値)

各設問での回答

(例:「そう思う」「どちらかといえばそう思う」など)

今回調査の信頼区間(男性)

P(%)	信頼区間の 1/2 幅
50	±4.3
45 55	±4.3
40 60	±4.2
35 65	±4.1
30 70	±3.9
25 75	±3.7
20 80	±3.4
15 85	±3.1
10 90	±2.6
5 95	±1.9

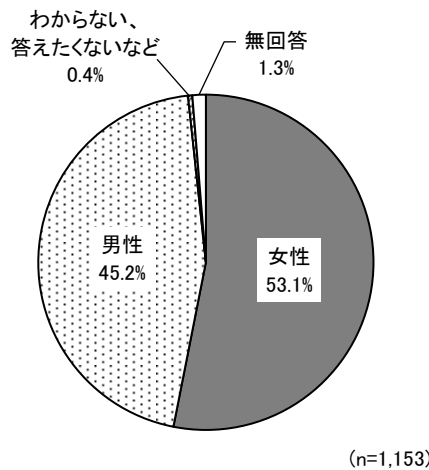
II 市民意識調査の結果

1. あなた自身やご家族について

(1) 性別

回答者の性別は「女性」が53.1%、「男性」が45.2%となっており、「女性」の方がやや割合が高くなっている。

図 性別

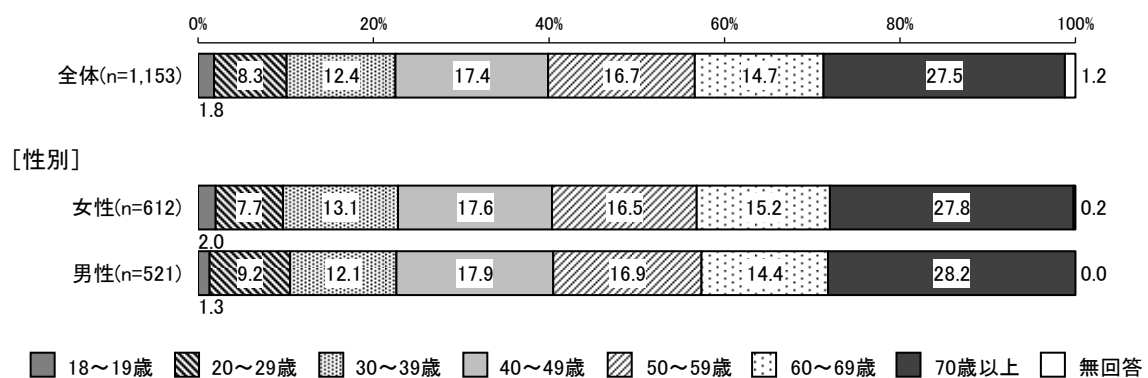


(2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が27.5%、「40～49歳」が17.4%、「50～59歳」が16.7%などとなっており、60歳以上の回答者が4割強となっている。

性別による年齢の違いはほとんどみられない。

図 性別 年齢



II 市民意識調査の結果

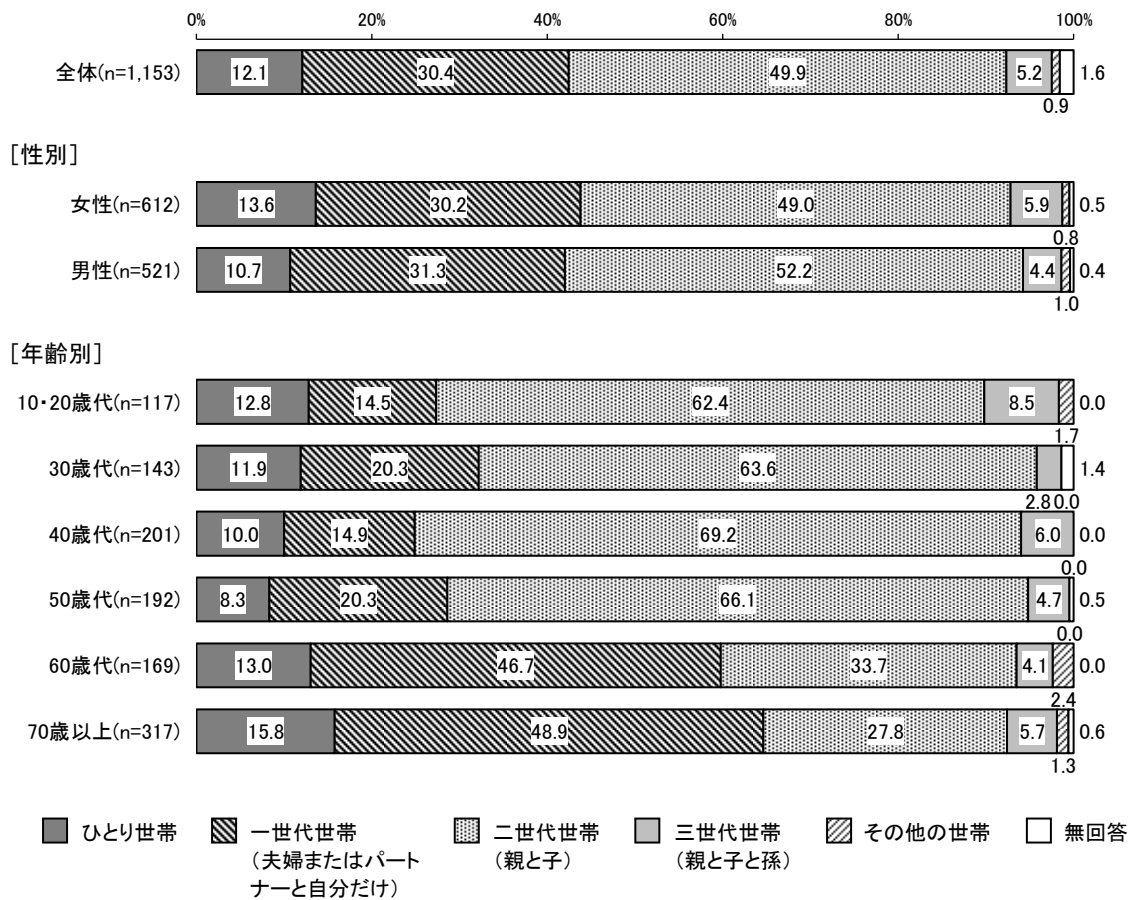
(3) 家族構成

家族構成は、「二世帯世帯(親と子)」が49.9%で最も高く、次いで「一世帯世帯(夫婦またはパートナーと自分だけ)」(30.4%)、「ひとり世帯」(12.1%)、「三世帯世帯(親と子と孫)」(5.2%)の順となっている。

性別にみると、「ひとり世帯」の割合は女性が男性より2.9ポイント、「二世帯世帯(親と子)」は男性が女性より3.2ポイント高くなっている

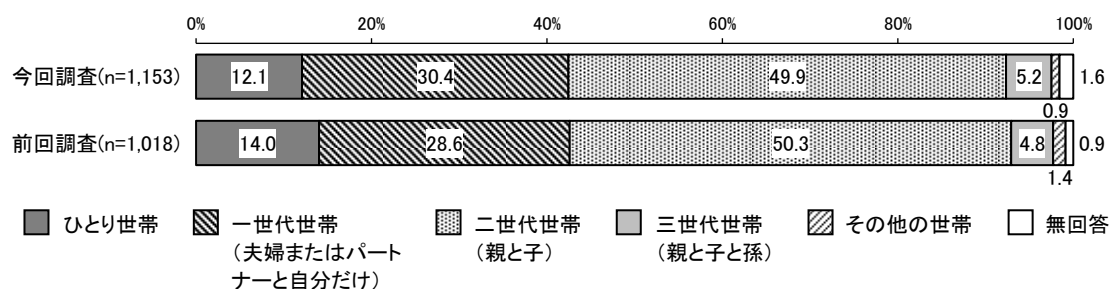
年齢別にみると、50歳代以下の年齢層では「二世帯世帯(親と子)」、60歳代以上の年齢層では「一世帯世帯(夫婦またはパートナーと自分だけ)」の割合が最も高くなっている。「ひとり世帯」の割合は70歳以上で15.8%となっている。

図 性別、年齢別 家族構成



平成28年度に実施した前回調査と比較すると、今回調査、前回調査とも、割合の多い順から「二世帯世帯(親と子)」が約5割を占め、「一世帯世帯(夫婦またはパートナーと自分だけ)」が約3割、次いで「ひとり世帯」となっており、割合もほぼ同様である。

図 家族構成(前回調査との比較)



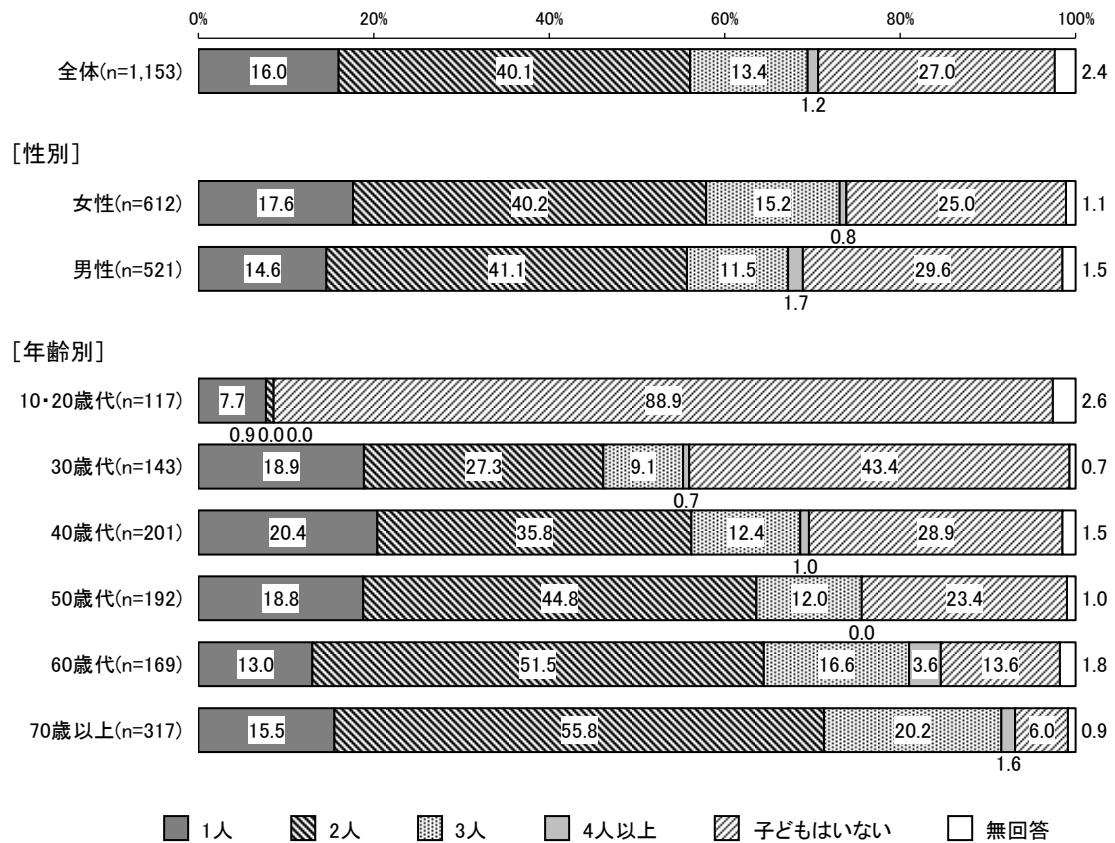
(4)子どもの人数

子どもの人数は、「2人」が40.1%で最も高く、次いで「1人」(16.0%)、「3人」(13.4%)、「4人以上」(1.2%)となっており、子どものいる人が合わせて70.7%、「子どもはいない」は27.0%となっている。

性別にみると、男性の方が「子どもはいない」の割合がやや高くなっている。

年齢別にみると、10・20歳代は「子どもはいない」が88.9%を占めているが、年齢が高くなるにつれて「子どもはいない」の割合は低くなっており、60歳代以上の年齢層では「2人」が約5割を占めている。

図 性別、年齢別 子どもの人数



II 市民意識調査の結果

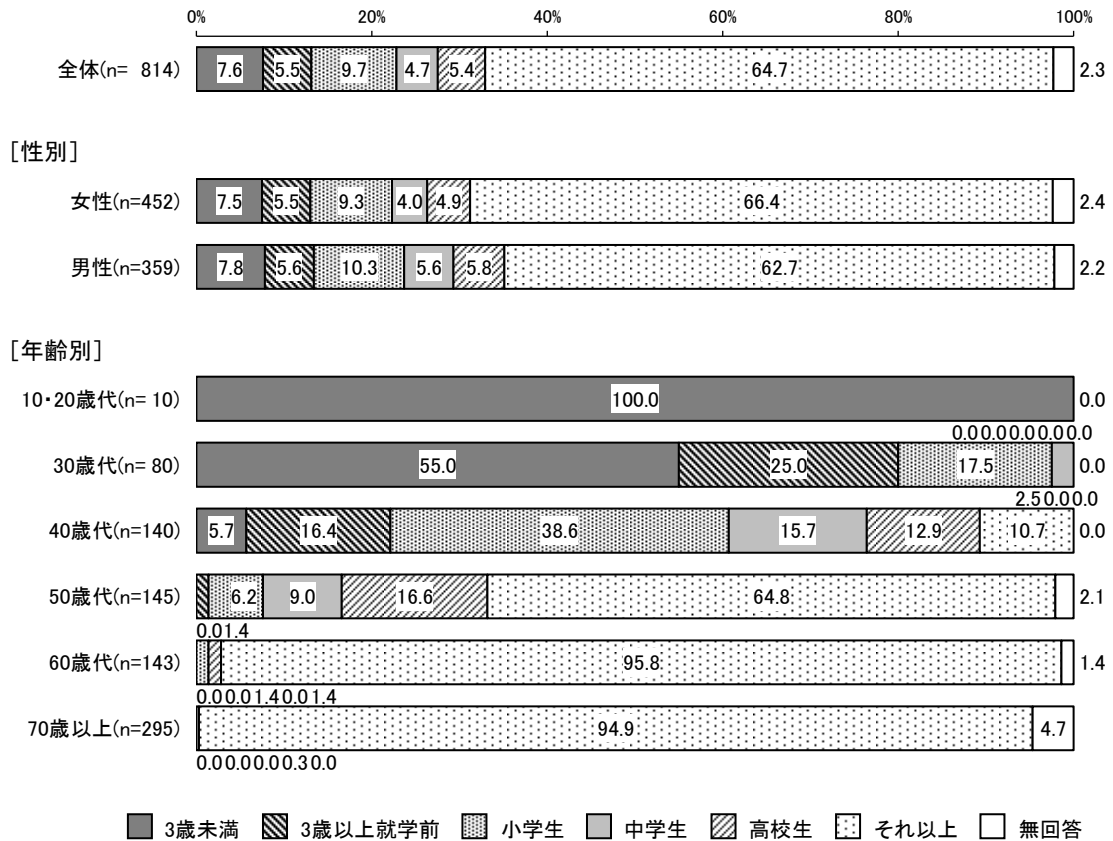
(5) 末子の年齢

末子の年齢は、「それ以上」(高校生より上)が64.7%で最も高く、次いで「小学生」(9.7%)、「3歳未満」(7.6%)、「3歳以上就学前」(5.5%)となっている。

性別にみると、高校生まではいずれも男性の方が高く、「それ以上」は女性の方が高くなっている。

年齢別にみると、10～30歳代は「3歳未満」と「3歳以上就学前」、40歳代は「小学生」、50歳代以上の年齢層では「それ以上」の割合が高くなっている。

図 性別、年齢別 末子の年齢



(6) 就労形態

就労形態は、「勤め人(正規の社員や職員)」が30.9%で最も高く、次いで「勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員や職員)」(19.3%)、「家事専業(専業主婦・主夫)」(17.1%)、「無職(家事専業を除く)」(16.7%)となっている。

性別にみると、女性では、「家事専業(専業主婦・主夫)」が31.5%で最も高く、男性では、「勤め人(正規の社員や職員)」が44.1%で最も高くなっている。

年齢別にみると、女性の30歳代は「勤め人(正規の社員や職員)」、40～60歳代は「勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員や職員)」の割合が最も高くなっている。男性の30～50歳代は「勤め人(正規の社員や職員)」が7割以上を占めている。

図 性別 就労形態

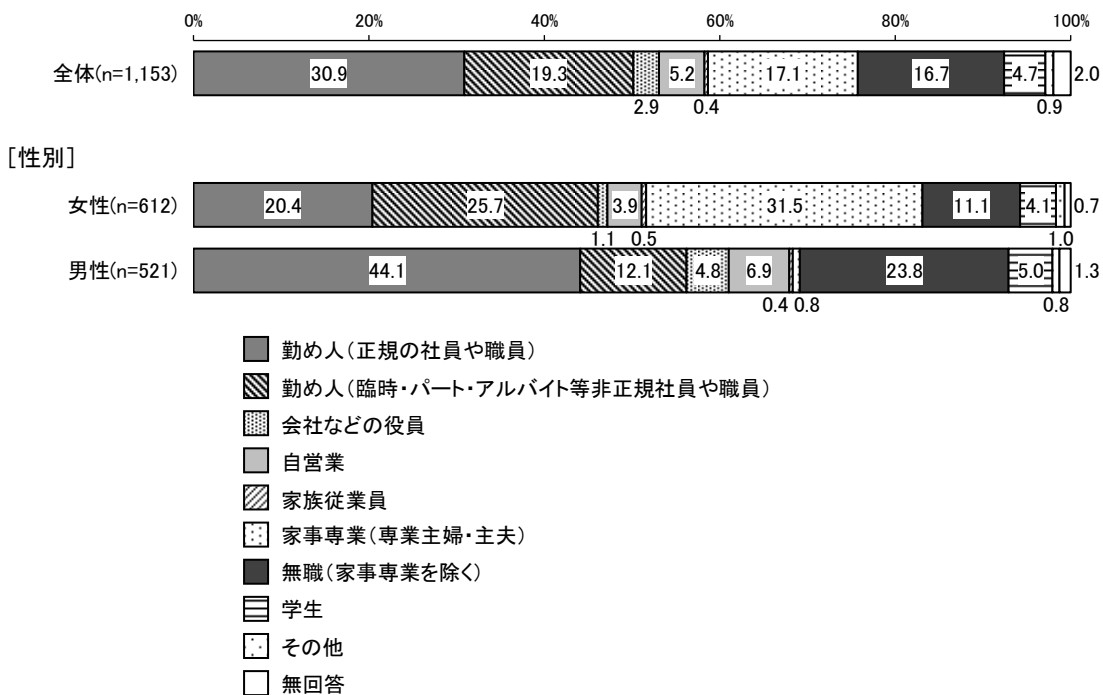


表 性年齢別 就労形態

		回答者数(n)	勤め人(正規の社員や職員)	勤め人(臨時・パート・アルバイト等非正規社員や職員)	会社などの役員	自営業	家族従業員	家事専業(専業主婦・主夫)	無職(家事専業を除く)	学生	その他	無回答
全体		1,153	30.9	19.3	2.9	5.2	0.4	17.1	16.7	4.7	0.9	2.0
性年齢別	10・20歳代	59	39.0	10.2	-	-	-	6.8	3.4	40.7	-	-
	30歳代	80	50.0	22.5	-	3.8	1.3	18.8	2.5	-	-	1.3
	40歳代	108	29.6	34.3	2.8	5.6	-	24.1	2.8	0.9	-	-
	50歳代	101	19.8	40.6	1.0	5.0	1.0	23.8	5.9	-	3.0	-
	60歳代	93	7.5	45.2	1.1	5.4	-	32.3	7.5	-	1.1	-
	70歳以上	170	1.8	7.6	1.2	2.9	0.6	54.7	28.2	-	1.2	1.8
	10・20歳代	55	43.6	3.6	1.8	-	1.8	-	3.6	45.5	-	-
	30歳代	63	84.1	6.3	1.6	3.2	-	-	3.2	1.6	-	-
	40歳代	93	71.0	6.5	6.5	9.7	1.1	1.1	2.2	-	1.1	1.1
	50歳代	88	76.1	4.5	6.8	8.0	-	1.1	3.4	-	-	-
	60歳代	75	20.0	37.3	8.0	12.0	-	-	22.7	-	-	-
	70歳以上	147	3.4	12.9	3.4	6.1	-	1.4	66.7	-	2.0	4.1

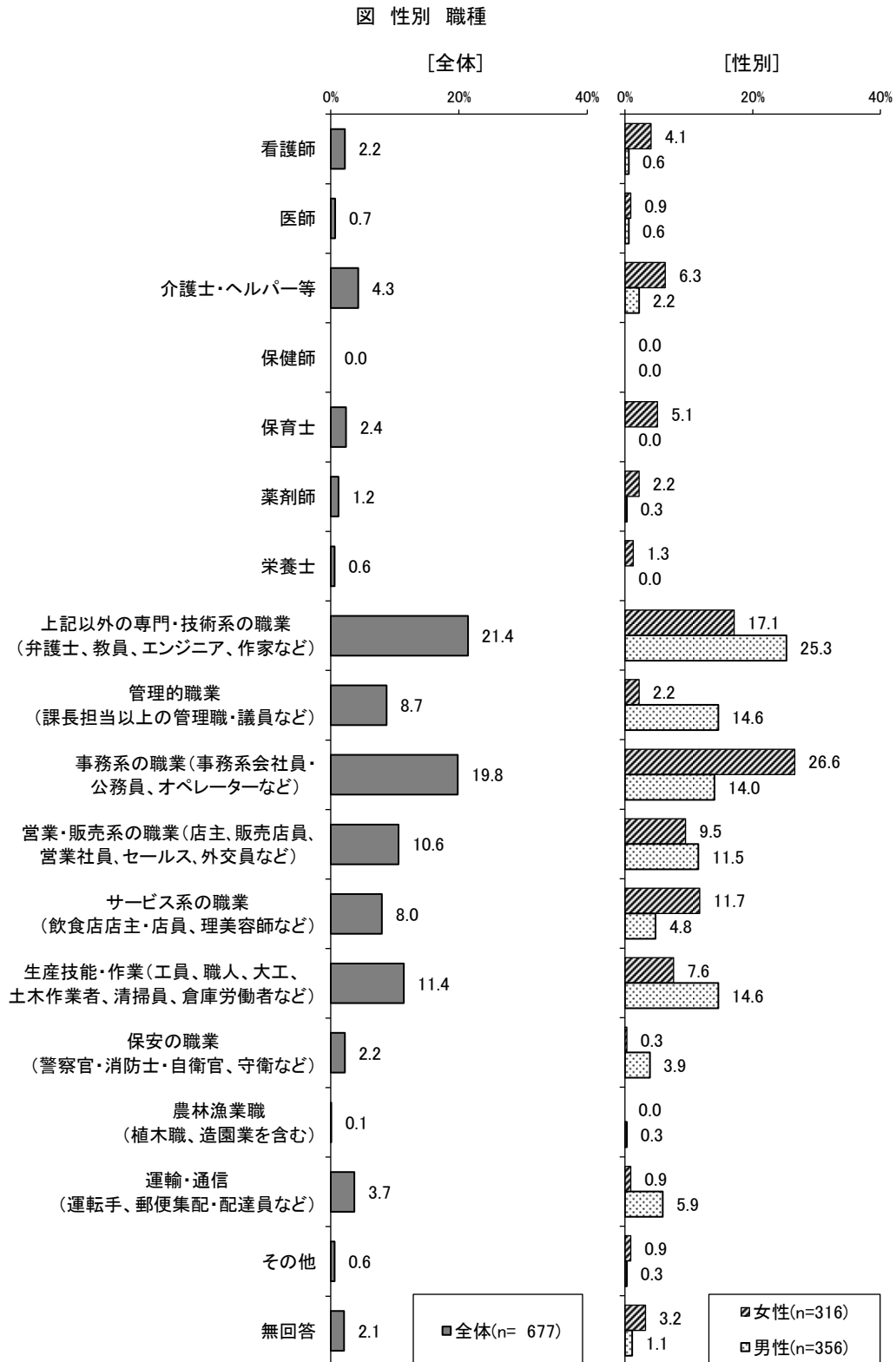
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

II 市民意識調査の結果

(7) 職種

働いている人の職種は、「上記以外の専門・技術系の職業(弁護士、教員、エンジニア、作家など)」が21.4%、「事務系の職業(事務系会社員・公務員、オペレーターなど)」が19.8%、「生産技能・作業(工員、職人、大工、土木作業員、清掃員、倉庫労働者など)」が11.4%となっている。

性別にみると、女性は男性よりも「事務系の職業(事務系会社員・公務員、オペレーターなど)」と「サービス系の職業(飲食店店主・店員、理美容師など)」の割合が高くなっている。



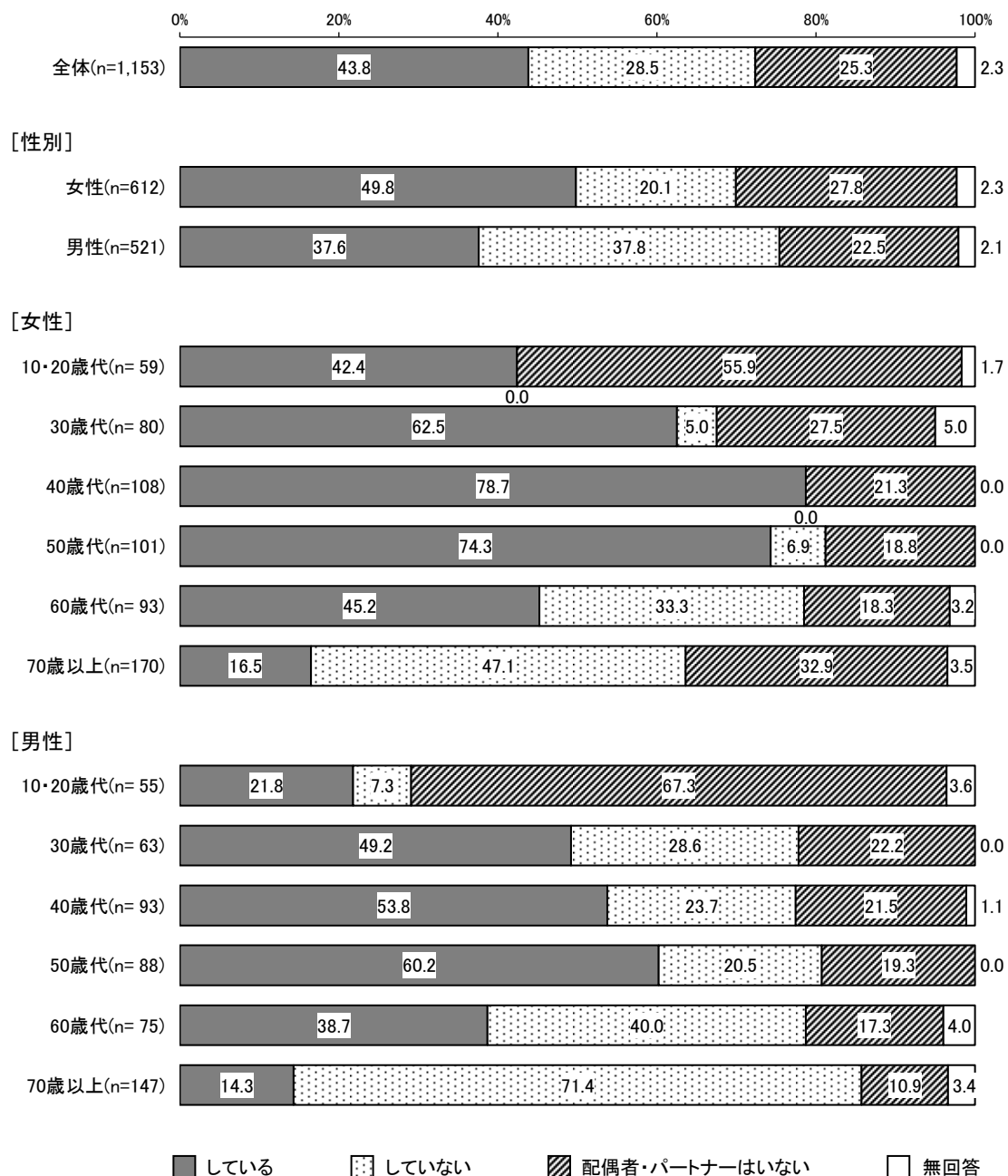
(8) 配偶者・パートナーの就労状態

配偶者(パートナーを含む)の就労状態は、「している」が43.8%、「していない」が28.5%、「配偶者・パートナーはいない」が25.3%となっている。

性別にみると、女性の配偶者は「している」が49.8%、男性の配偶者は「している」と「していない」がそれぞれ37.6%、37.8%とほぼ同率となっている。

年齢別にみると、50歳代以下の女性の配偶者は「していない」の割合が低く、10・20・40歳代は0%となっている。30～50歳代の男性の配偶者は年齢が上がるにつれ「している」の割合が高くなっている。

図 性別、性年齢別 配偶者・パートナーの就労状態



2. 男女共同参画に関する意識について

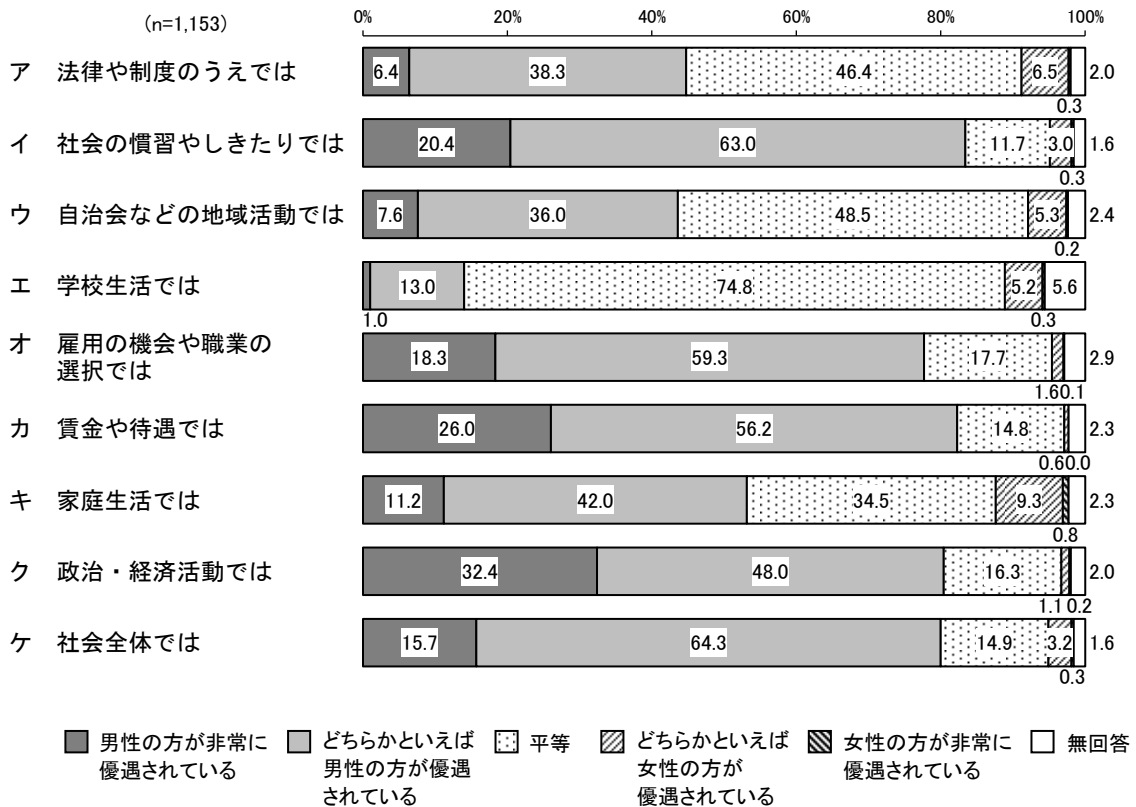
(1) 男女の地位の平等感

問1 あなたは、男女の地位がどの程度平等になっていると思われますか。次の分野で、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

社会の様々な分野において男女の地位がどの程度平等になっていると思うかたずねたところ、「エ 学校生活では」は「平等」が74.8%と高くなっている。また、「ア 法律や制度のうえでは」と「ウ 自治会などの地域活動では」も「平等」の割合が、『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)よりもやや高くなっている。

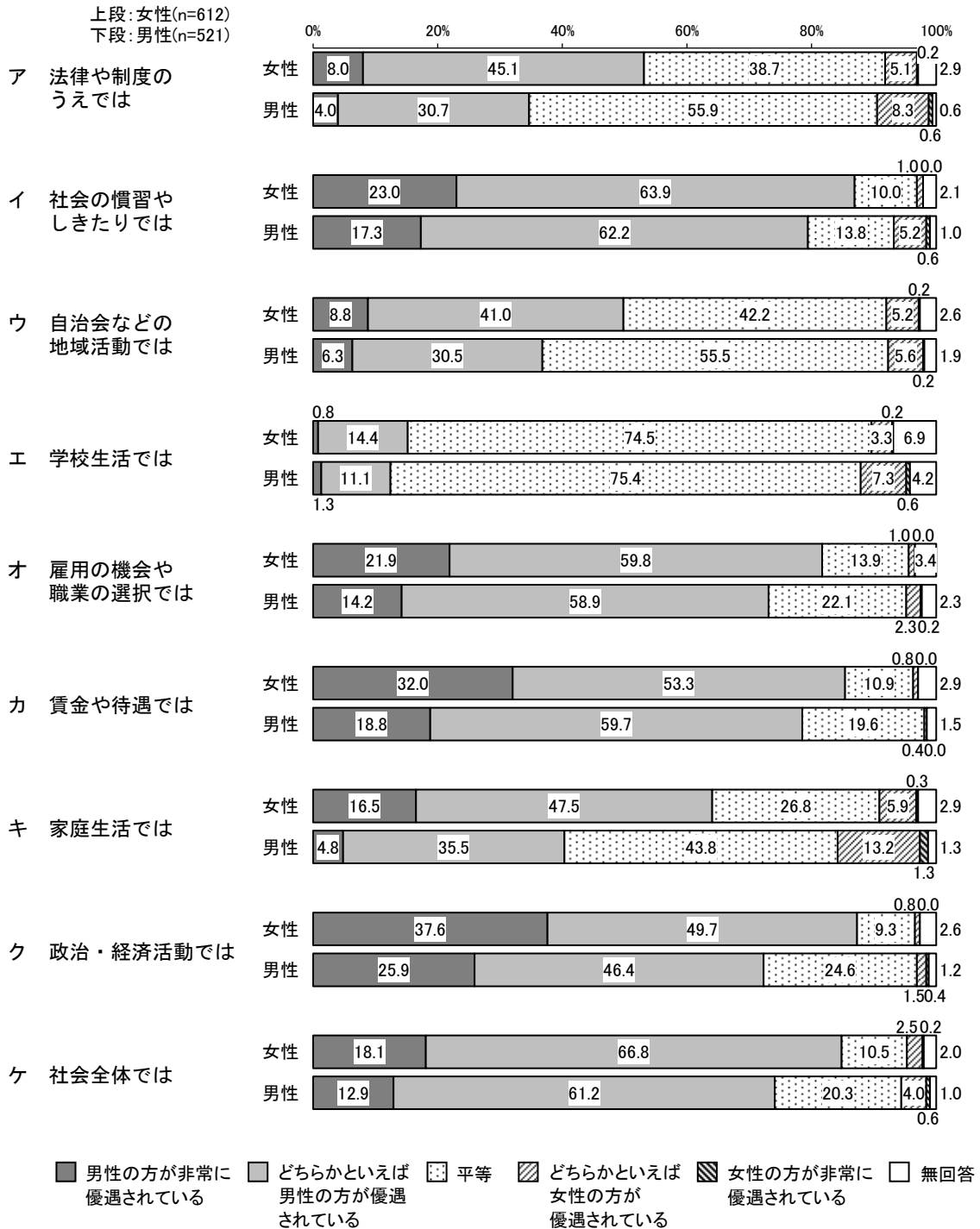
そのほかの分野はいずれも「平等」よりも『男性優遇』の割合が高くなっており、特に「イ 社会の慣習やしきたりでは」(83.4%)、「カ 賃金や待遇では」(82.2%)、「ク 政治・経済活動では」(80.4%)、「ケ 社会全体では」(80.0%)で『男性優遇』の割合が高くなっている。

図 男女の地位の平等感



性別にみると、いずれの分野でも『男性優遇』と回答した人の割合は女性の方が男性よりも高くなっており、特に「キ 家庭生活では」で23.7ポイント、「ア 法律や制度のうえでは」で18.4ポイント、「ク 政治・経済活動では」で15.0ポイント高くなって、性別による意識の違いが大きくなっている。一方、「エ 学校生活では」で、性別による『男性優遇』の違いはほとんどみられない。

図 性別 男女の地位の平等感



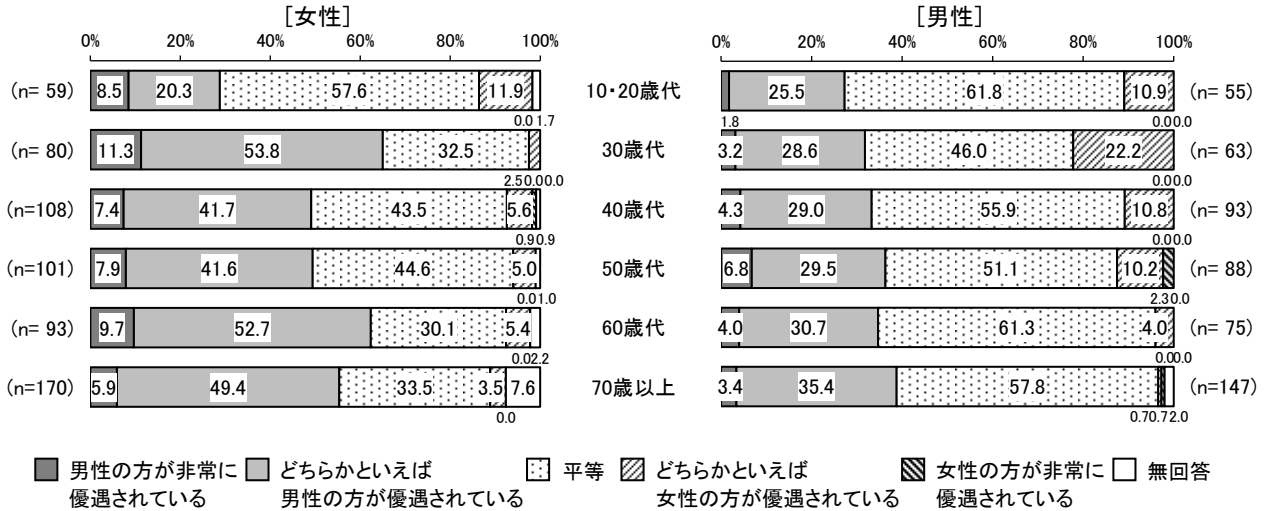
II 市民意識調査の結果

ア 法律や制度のうえでは

女性の10・20歳代では、『男性優遇』が28.8%と、他の年齢層と比べて低くなっている。

男性の30歳代では、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が22.2%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等感 — ア 法律や制度のうえでは

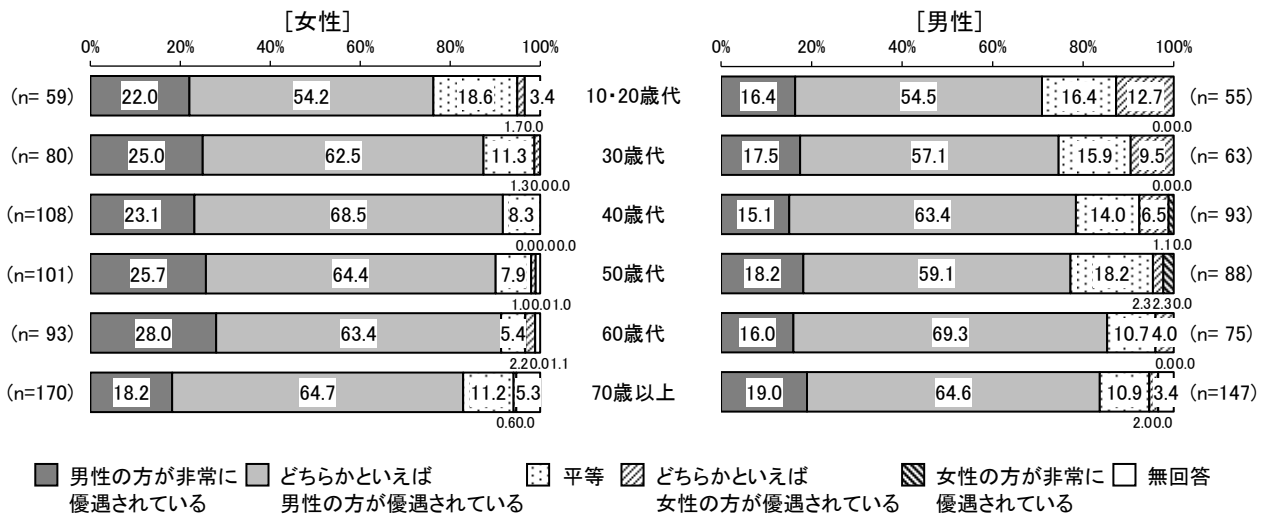


イ 社会の慣習やしきたりでは

女性では、40～60歳代で『男性優遇』が9割以上と高くなっている。

男性では、年齢が高くなるにつれて『男性優遇』の割合が高くなる傾向にあり、60歳代以上で8割を超えている。

図 性年齢別 男女の地位の平等感 — イ 社会の慣習やしきたりでは

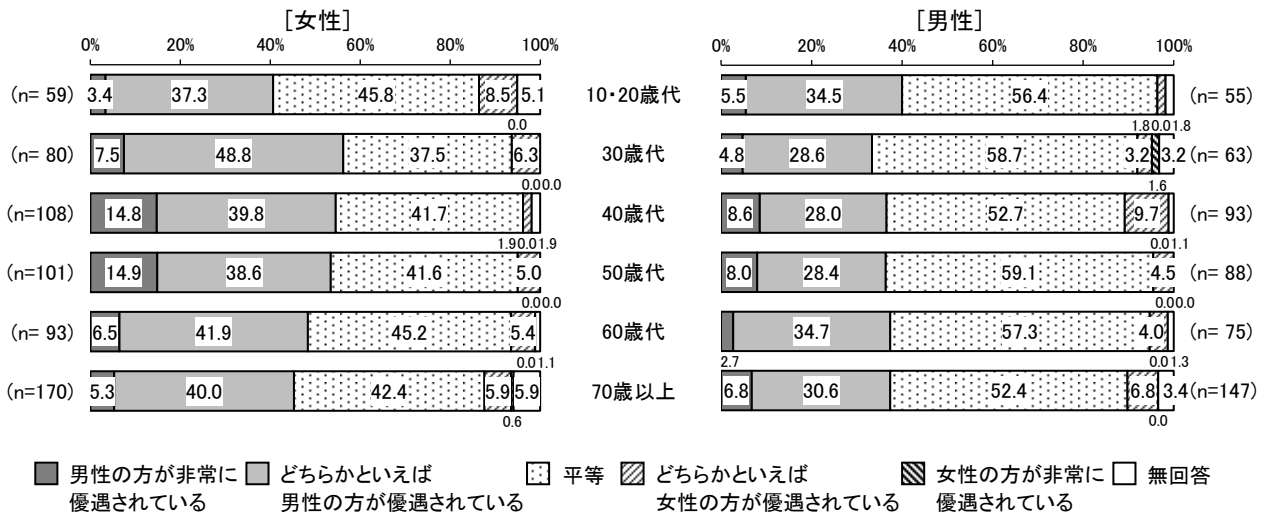


ウ 自治会などの地域活動では

女性では、30～50歳代で『男性優遇』が5割以上となっている。

男性では、いずれの年齢層も「平等」が5割以上となっている。

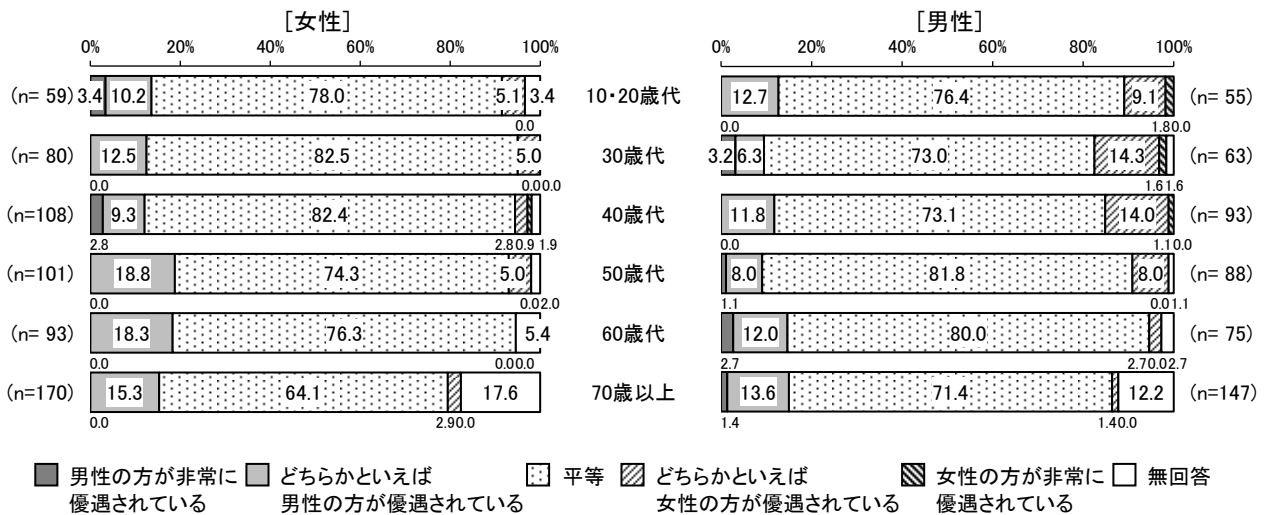
図 性年齢別 男女の地位の平等感 — ウ 自治会などの地域活動では



エ 学校生活では

男女とも、いずれの年齢層も「平等」が高い割合を占めているが、女性の70歳以上では64.1%と他の年齢層より低くなっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等感 — エ 学校生活では

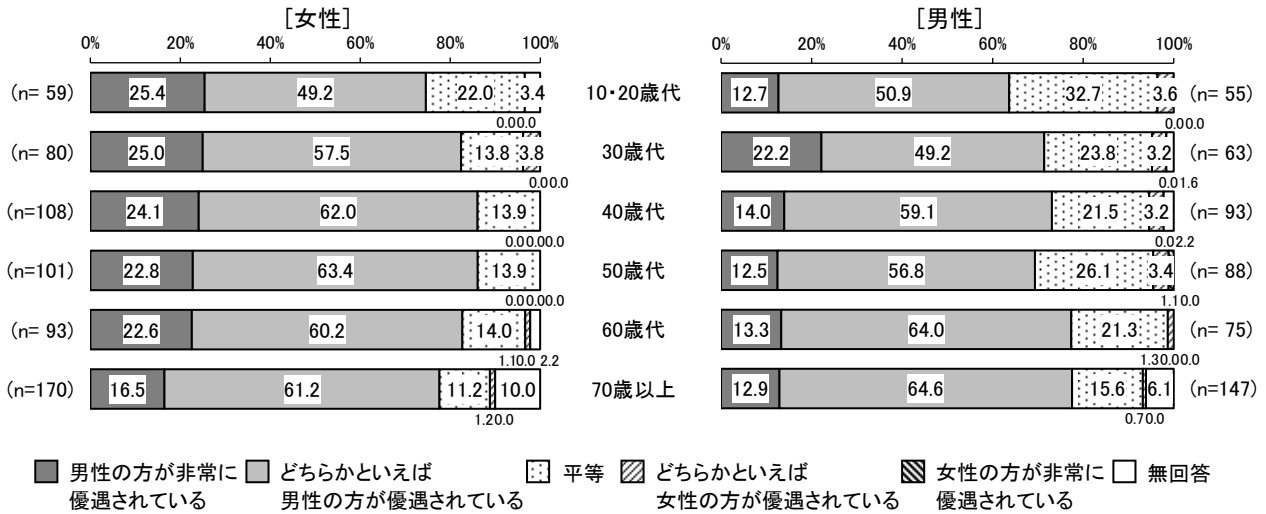


II 市民意識調査の結果

オ 雇用の機会や職業の選択では

男女とも、『男性優遇』がいずれの年齢層も6割以上を占めており、女性の40・50歳代と男性の60歳代以上で他の年齢層よりやや高くなっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等感 - オ 雇用の機会や職業の選択では

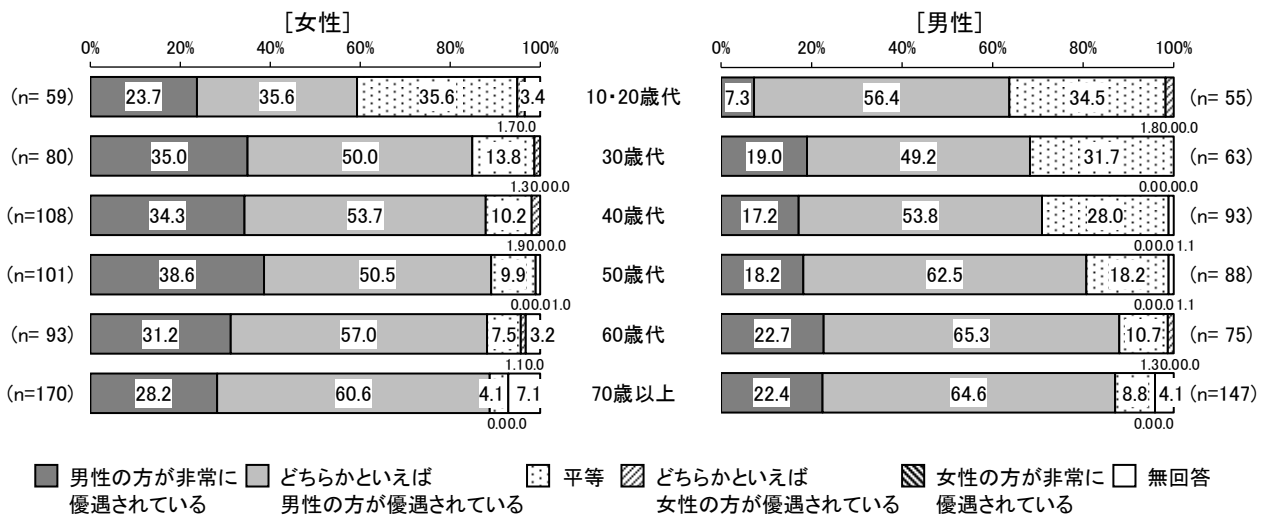


カ 賃金や待遇では

女性では、10・20歳代で『男性優遇』の割合が59.3%と他の年齢層より低くなっている。

男女とも、年齢が低くなるにつれて「平等」が高くなっており、女性の10・20歳代と男性の30歳代以下では3割以上となっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等感 - カ 賃金や待遇では

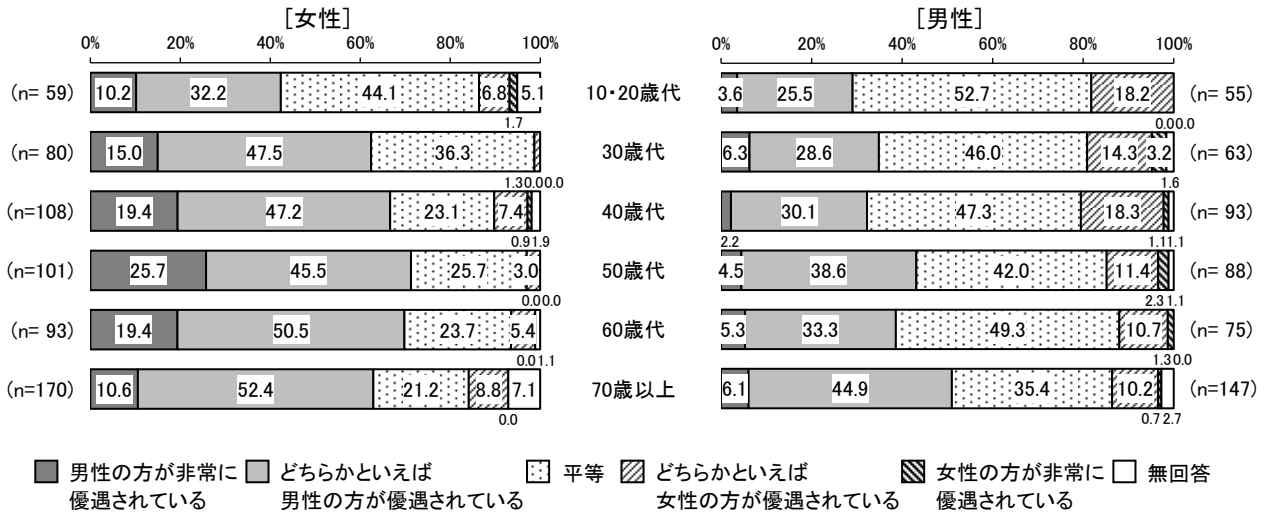


キ 家庭生活では

女性では、50歳代で『男性優遇』の割合が71.2%と最も高くなっている。一方、10・20歳代では『男性優遇』(42.4%)よりも「平等」が44.1%と高くなっている。

男性では、60歳代以下で「平等」の割合が高くなっており、10・20歳代で5割を上回っている。

図 性年齢別 男女の地位の平等感 — キ 家庭生活では

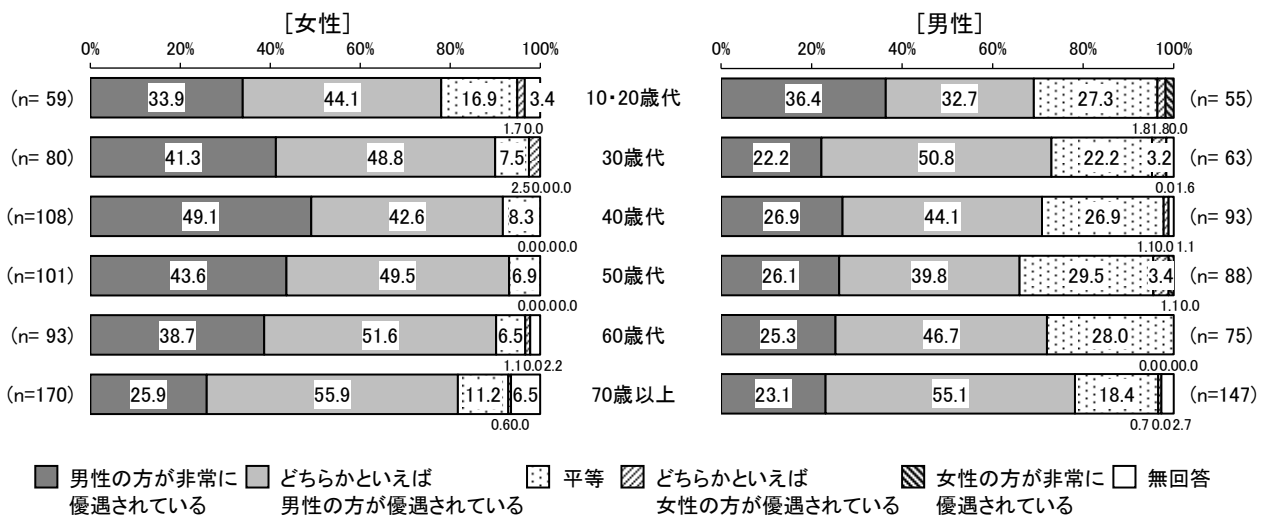


ク 政治・経済活動では

女性では、30～50歳代で「男性の方が非常に優遇されている」が4割以上を占め、30～60歳代で『男性優遇』は9割以上となっている。

男性では、70歳以上で『男性優遇』の割合が78.2%と他の年齢層より高くなっている。

図 性年齢別 男女の地位の平等感 — ク 政治・経済活動では



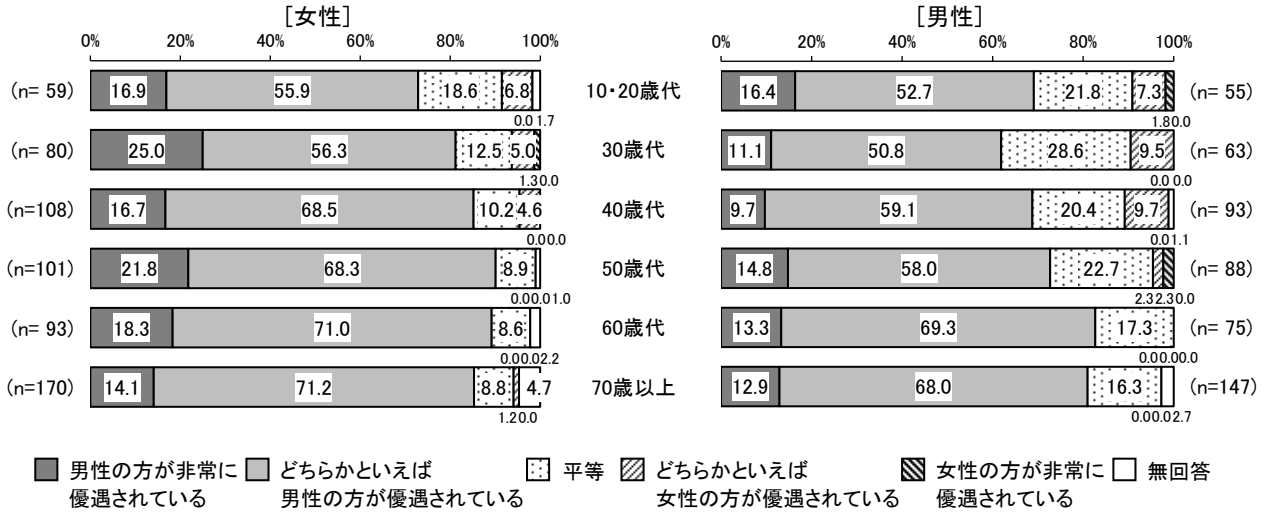
II 市民意識調査の結果

ケ 社会全体では

女性では、いずれの年齢層も『男性優遇』の割合が7割を超えており、50歳代では90.1%と最も高くなっている。

男性では、10～50歳代で「平等」が2割以上となっている。

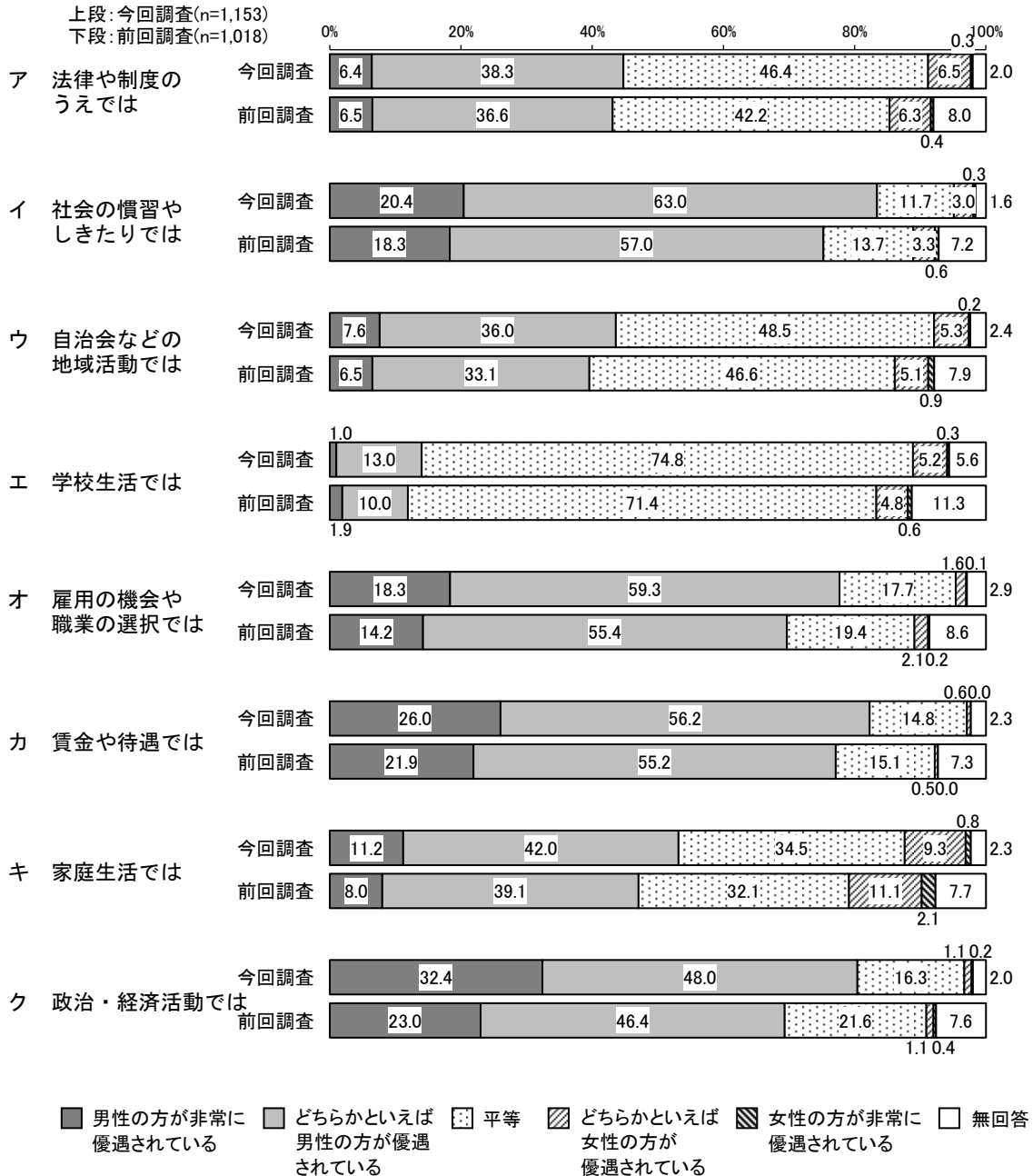
図 性年齢別 男女の地位の平等感 - ケ 社会全体では



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、いずれの分野でも『男性優遇』と回答した人の割合は今回調査が高くなっており、特に「ク 政治・経済活動では」は11.0ポイント、「イ 社会の慣習やしきたりでは」は8.1ポイント、「オ 雇用の機会や職業の選択では」は8.0ポイント高くなっている。

図 男女の地位の平等感(前回調査との比較)

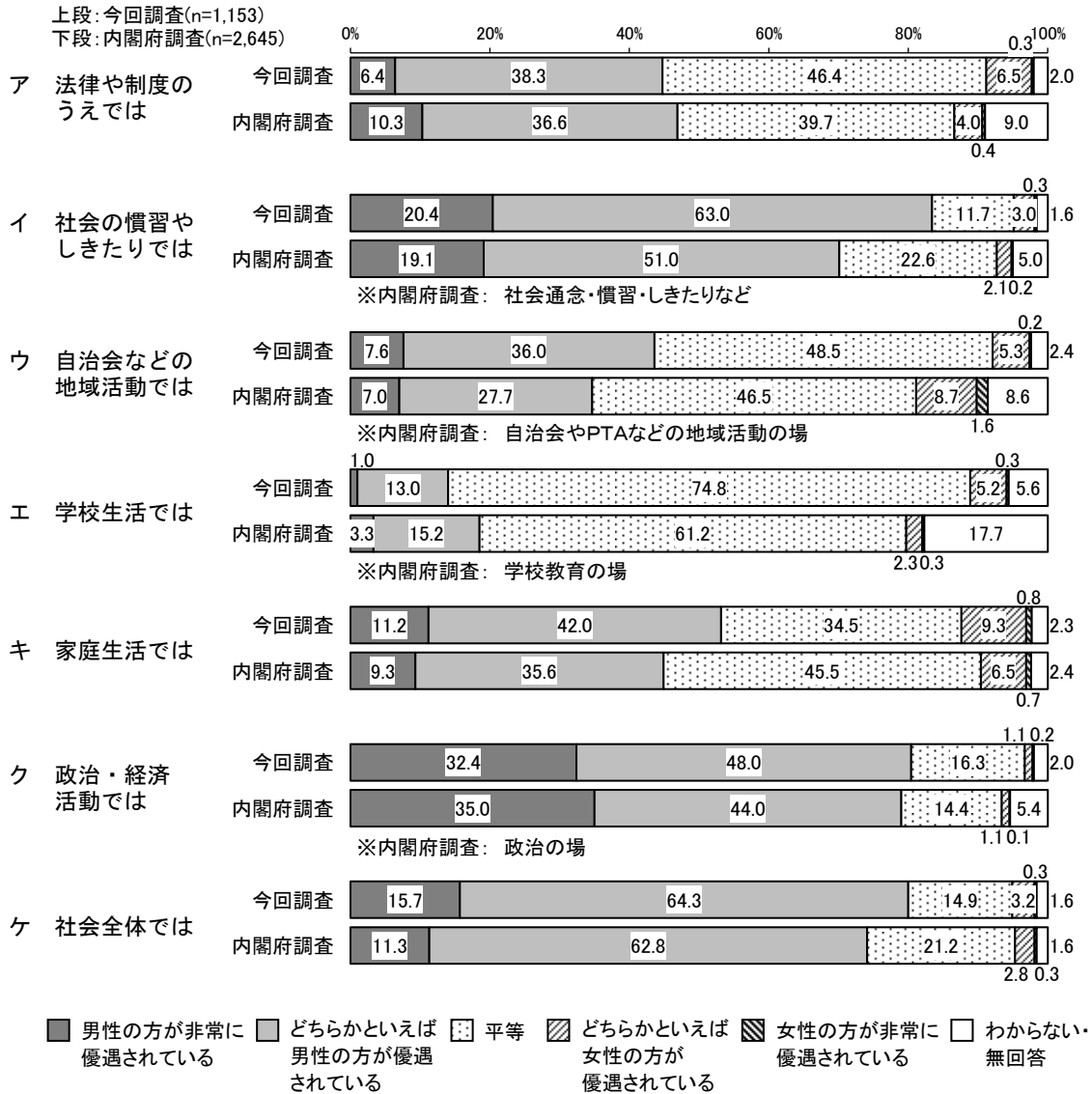


II 市民意識調査の結果

■内閣府調査との比較

令和元年度に内閣府が実施した世論調査と比較すると、「ア 法律や制度のうえでは」と「エ 学校生活では」を除くすべての分野で、『男性優遇』の割合が内閣府調査より高くなっており、特に「イ 社会の慣習やしきたりでは」は13.3ポイント、「ウ 自治会などの地域活動では」は8.9ポイント、「キ 家庭生活では」は8.3ポイント高くなっている。一方、「エ 学校生活では」は、「平等」の割合が内閣府調査より13.6ポイント高くなっている。

図 男女の地位の平等感(内閣府調査との比較)



(2) 性別役割分担意識

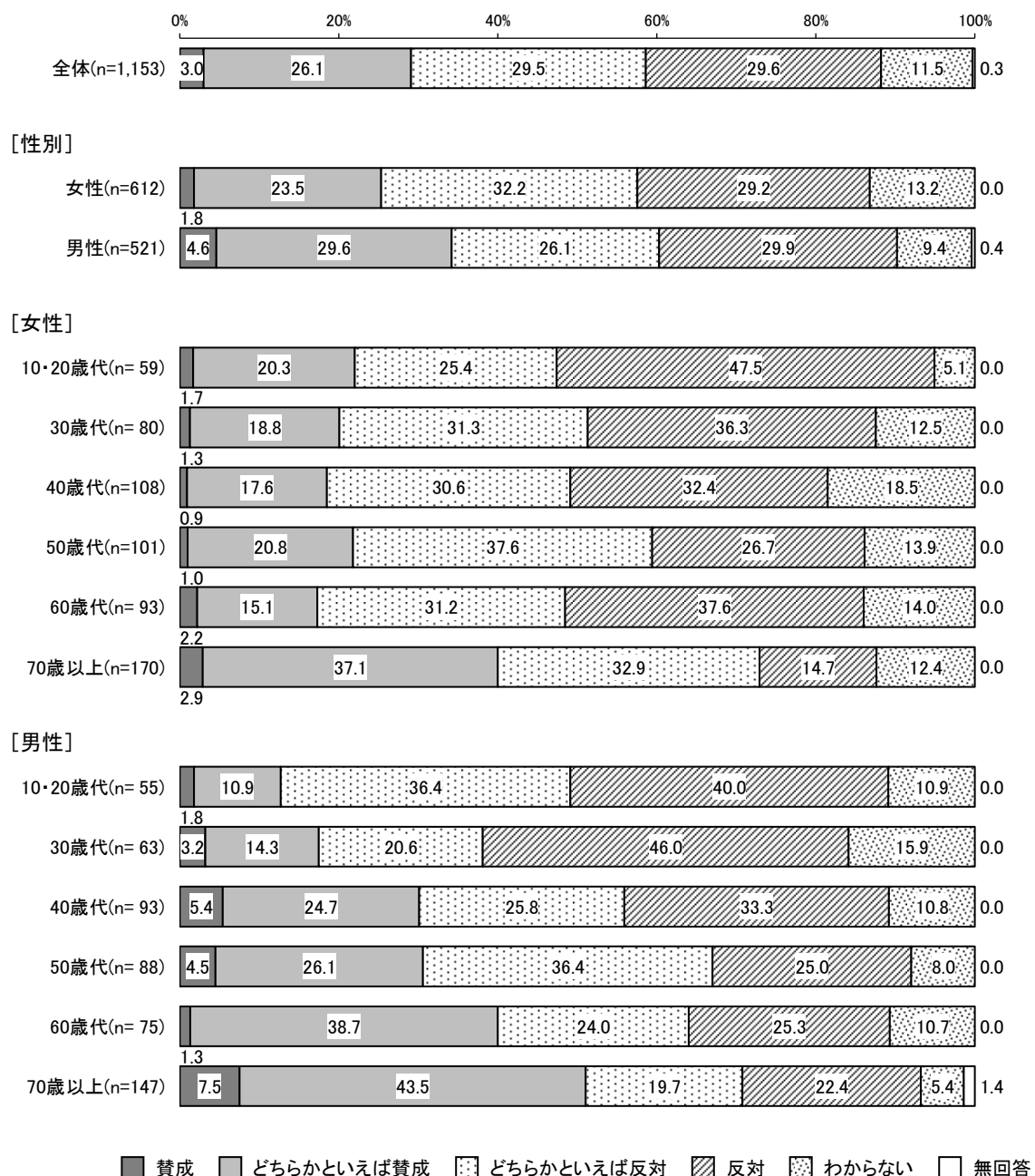
問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方(性別役割分担意識)についてどう思うかたずねたところ、「賛成」(3.0%)と「どちらかといえば賛成」(26.1%)を合計した『賛成』が29.1%、「どちらかといえば反対」(29.5%)と「反対」(29.6%)を合計した『反対』が59.1%となっており、『反対』が『賛成』よりも30.0ポイント高くなっている。

性別にみると、男女ともに『反対』の割合が『賛成』よりも高くなっており、女性の『反対』は男性よりも5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男性の70歳以上以外は『反対』が『賛成』よりも高くなっている。10・20歳代では、男女ともに『反対』が7割以上となり、他の年齢層より高くなっている。70歳以上では、男女とも『賛成』の割合が高く4～5割程度となっている。

図 性別、性年齢別 性別役割分担意識

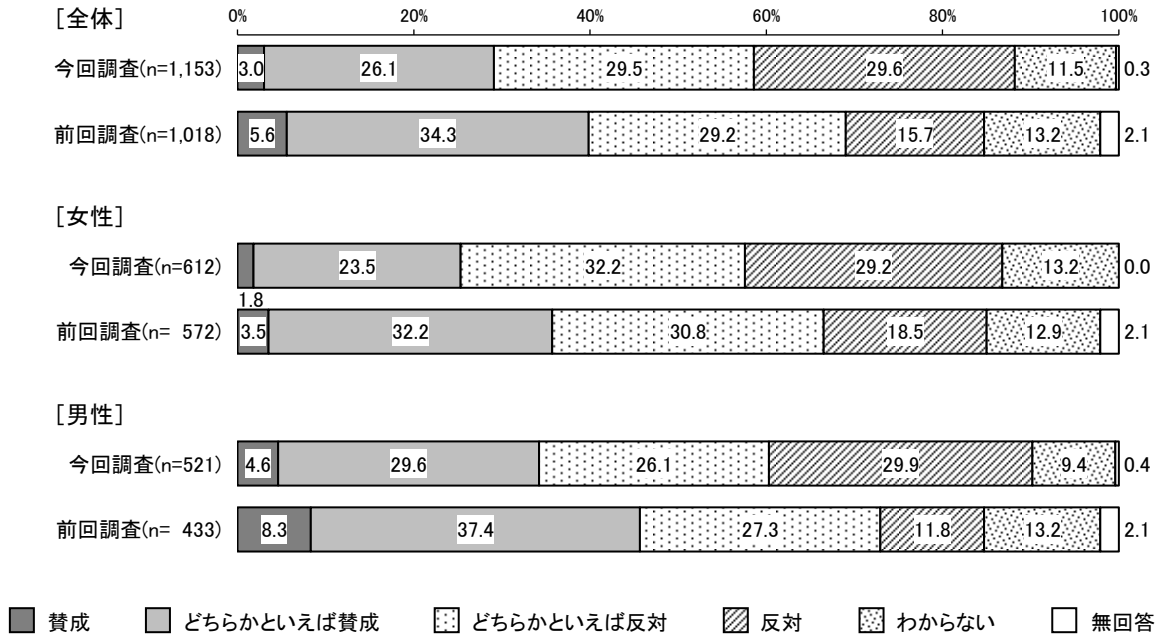


II 市民意識調査の結果

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、『反対』の割合が今回調査の方が高くなっており、女性で12.1ポイント、男性で16.9ポイント高くなっている。また、『反対』の中でも「どちらかといえば反対」の割合は前回調査とほとんど変わらないが、明確に「反対」とする回答割合が大きく増加しており、特に男性ではその傾向が顕著である。

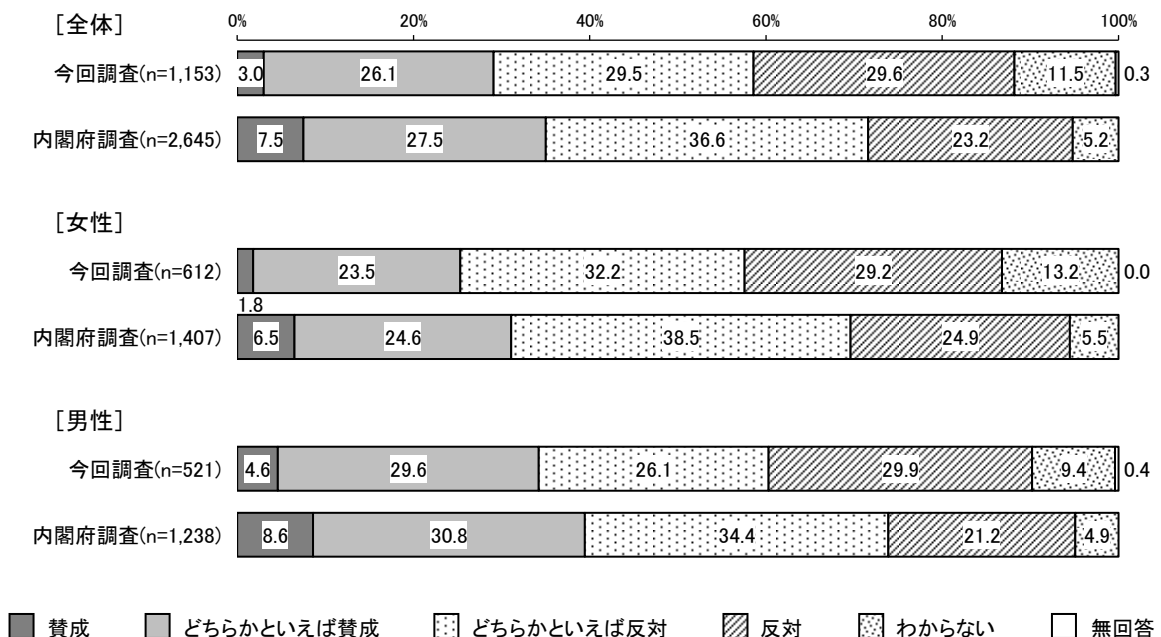
図 性別 性別役割分担意識(前回調査との比較)



■ 内閣府調査との比較

令和元年度に内閣府が実施した世論調査と比較すると男女とも、『賛成』の割合が今回調査の方が低く、『反対』の割合に違いはほとんどみられない。

図 性別 性別役割分担意識(内閣府調査との比較)



(3) 性別役割分担に賛成する理由

《問2で、「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。》

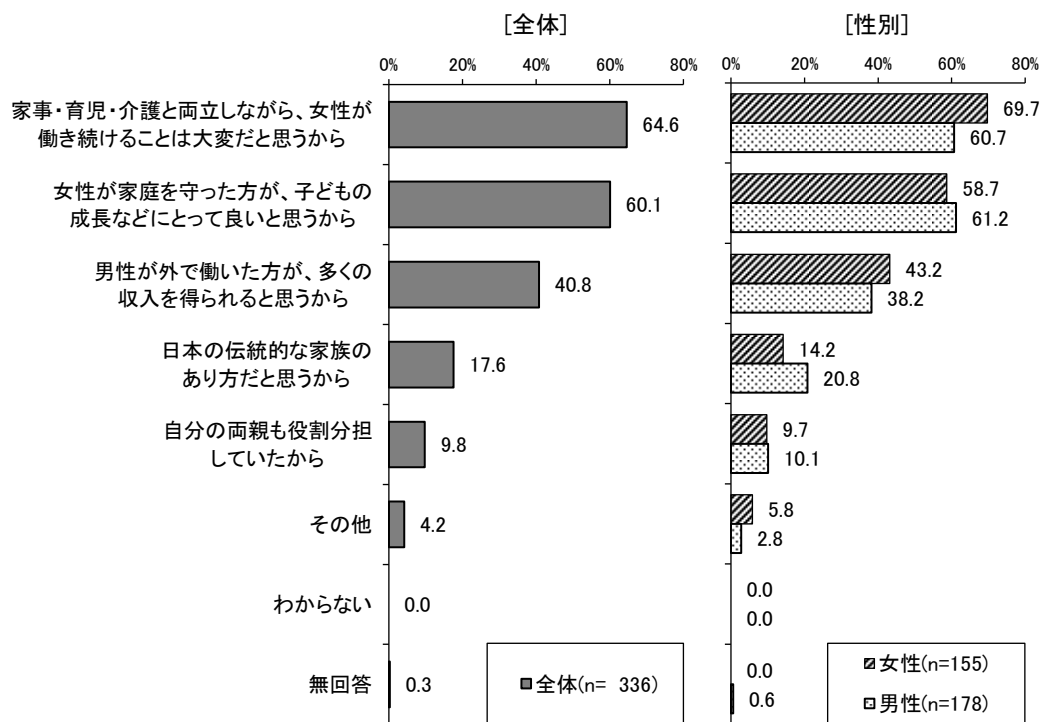
問3-1 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

性別役割分担に賛成する人にその理由をたずねたところ、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が64.6%で最も高く、次いで、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が60.1%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が40.8%となっている。

性別にみると、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」は女性69.7%・男性60.7%と、女性の方が9.0ポイント高くなっている。また、「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」は女性14.2%・男性20.8%と、男性の方が6.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性では、30・40・60歳代で「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」、50歳代と70歳以上で「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が高く、男性の70歳以上で「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」が約3割で高くなっている。

図 性別 性別役割分担に賛成する理由



その他意見の要約	
身体的・精神的性差があるから	4件
それぞれが得意なことをやればよいから	4件
本人同士で決めればよい	2件
男性が仕事を休みにくいから	1件
女性の社会進出により晩婚化・少子化が進んだから	1件
女性には母性があるから	1件
役割分担した方がよいから	1件

II 市民意識調査の結果

表 性年齢別 性別役割分担に賛成する理由

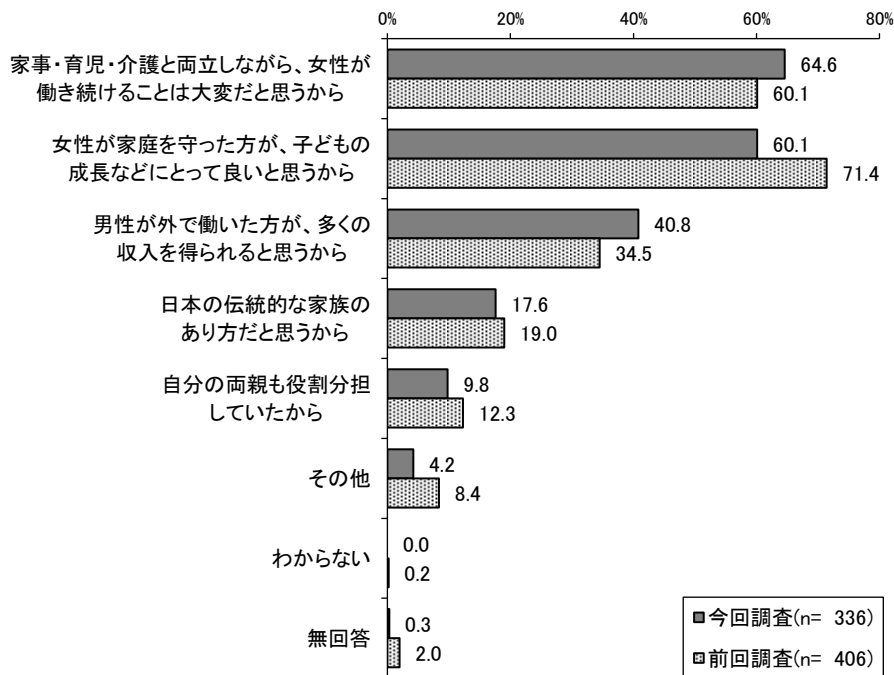
		回答者数(n)	家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから	女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	日本の伝統的な家族のあり方だと思うから	自分の両親も役割分担していたから	その他	わからない	無回答	
全体		336	64.6	60.1	40.8	17.6	9.8	4.2	-	0.3	
性年齢別	女性	10・20 歳代	13	69.2	23.1	23.1	7.7	15.4	7.7	-	-
		30 歳代	16	81.3	31.3	37.5	12.5	12.5	18.8	-	-
		40 歳代	20	75.0	50.0	50.0	-	-	5.0	-	-
		50 歳代	22	59.1	72.7	40.9	4.5	13.6	4.5	-	-
		60 歳代	16	75.0	37.5	31.3	18.8	-	12.5	-	-
		70 歳以上	68	67.6	75.0	50.0	22.1	11.8	1.5	-	-
		10・20 歳代	7	57.1	28.6	42.9	-	14.3	-	-	-
	男性	30 歳代	11	63.6	27.3	63.6	9.1	18.2	-	-	-
		40 歳代	28	42.9	64.3	17.9	17.9	7.1	10.7	-	-
		50 歳代	27	48.1	59.3	29.6	18.5	7.4	-	-	-
		60 歳代	30	66.7	60.0	43.3	16.7	13.3	3.3	-	-
		70 歳以上	75	69.3	69.3	42.7	28.0	9.3	1.3	-	1.3

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

■前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が前回調査より10ポイント以上低くなっている。

図 性別役割分担に賛成する理由(前回調査との比較)



(4) 性別役割分担に反対する理由

《問2で、「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方におたずねします。》

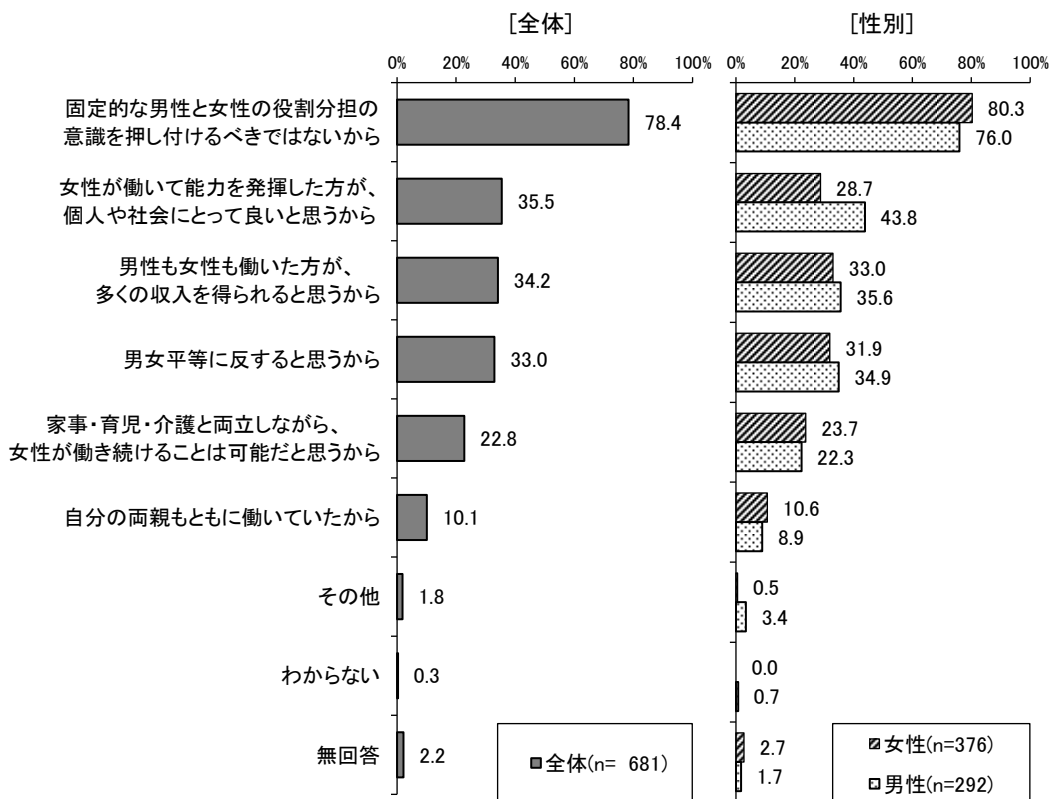
問3-2 それはなぜですか。(〇はいくつでも)

性別役割分担に反対する人にその理由をたずねたところ、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」が78.4%で最も高く、次いで、「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が35.5%、「男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が34.2%、「男女平等に反すると思うから」が33.0%となっている。

性別にみると、「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」は女性28.7%・男性43.8%と、男性の方が15.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性の10・20歳代で「男女平等に反すると思うから」が5割以上となっており、男性の40歳代以上で「女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が約5割以上となっている。また、女性の10・20歳代と男性の40歳代で「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」、男性の40歳代で「男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が他の年齢層より高くなっている。

図 性別 性別役割分担に反対する理由



その他意見の要約	
対等であるべきだが育児期は難しい	3件
男性も子育てに参加すべき・したいから	2件
決めつけはいけなから	2件
男性だけの収入では生活ができないから	1件
人間的成長につながるから	1件
シングルマザーもたくさんいるから	1件

II 市民意識調査の結果

表 性年齢別 性別役割分担に反対する理由

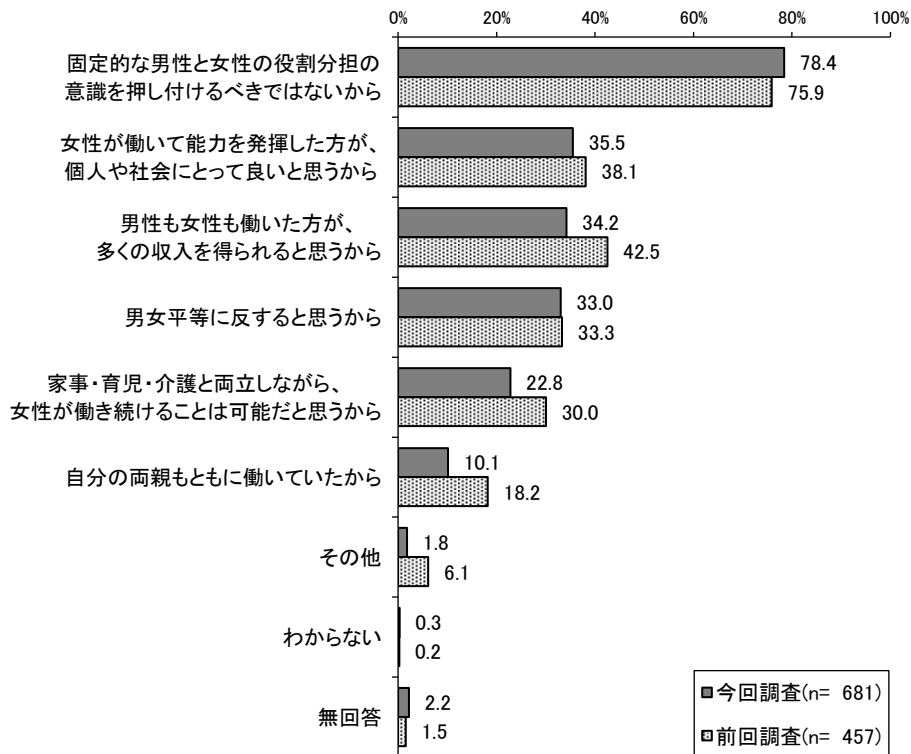
		回答者数(n)	固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから	女性が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	男女平等に反すると思うから	家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから	自分の両親もともに働いていたから	その他	わからない	無回答
全体		681	78.4	35.5	34.2	33.0	22.8	10.1	1.8	0.3	2.2
性年齢別	女性										
	10・20歳代	43	93.0	18.6	30.2	53.5	20.9	20.9	-	-	-
	30歳代	54	83.3	29.6	38.9	29.6	24.1	14.8	1.9	-	-
	40歳代	68	86.8	27.9	38.2	27.9	20.6	8.8	1.5	-	1.5
	50歳代	65	83.1	23.1	27.7	27.7	18.5	3.1	-	-	3.1
	60歳代	64	81.3	28.1	31.3	28.1	32.8	12.5	-	-	1.6
	70歳以上	81	63.0	38.3	32.1	32.1	24.7	8.6	-	-	7.4
	男性										
	10・20歳代	42	78.6	26.2	26.2	19.0	16.7	4.8	-	2.4	-
	30歳代	42	76.2	19.0	40.5	31.0	21.4	9.5	4.8	-	2.4
	40歳代	55	90.9	49.1	50.9	38.2	14.5	12.7	3.6	-	-
	50歳代	54	75.9	48.1	29.6	31.5	31.5	9.3	1.9	-	-
	60歳代	37	62.2	64.9	27.0	40.5	24.3	2.7	5.4	-	2.7
	70歳以上	62	69.4	51.6	35.5	45.2	24.2	11.3	4.8	1.6	4.8

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、「男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」と「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから」と「自分の両親もともに働いていたから」が前回調査より7～8ポイント程度低くなっている。

図 性別役割分担に反対する理由(前回調査との比較)



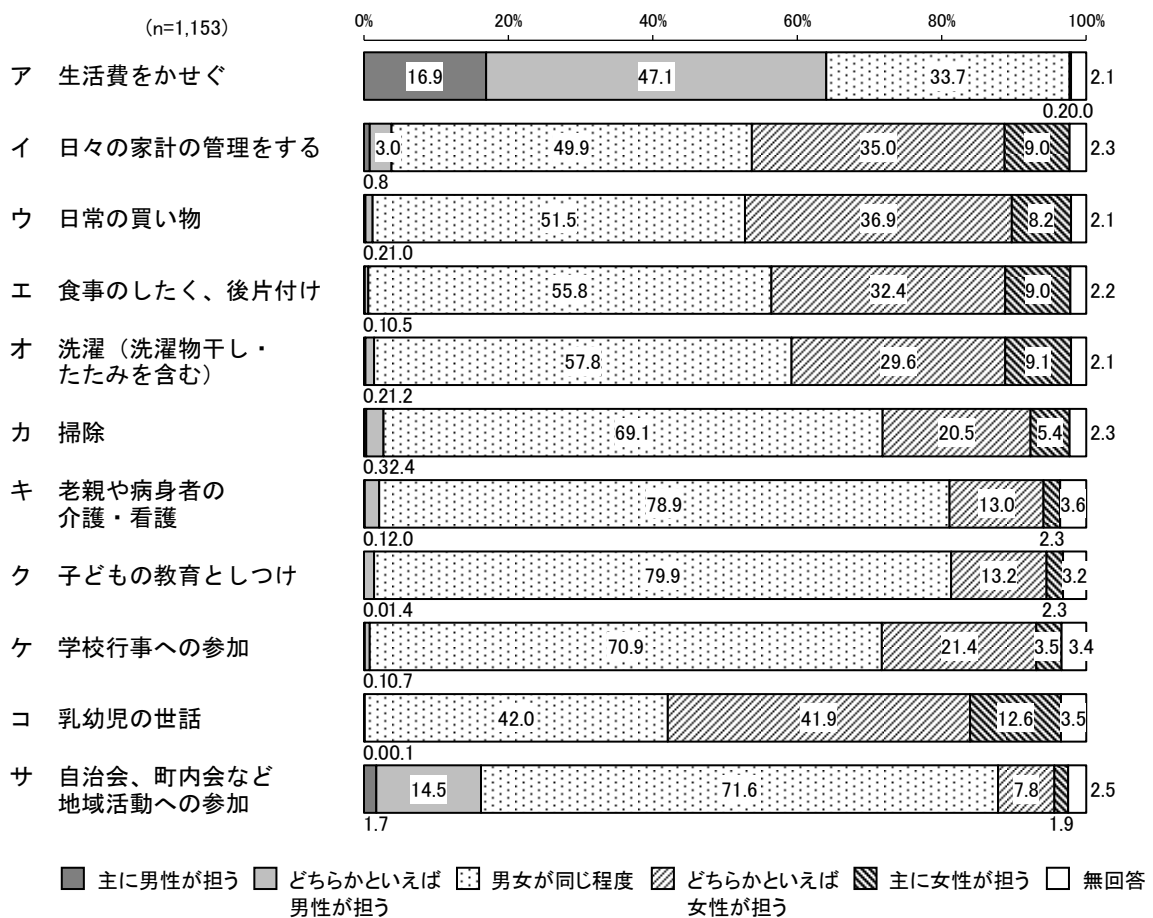
(5) 家庭の仕事の役割分担

《全員におたずねします。》

問4 家庭におけるさまざまな役割について、おたずねします。あなたは以下のことがらをどのように分担するのが良いと思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

家庭の仕事の役割分担についてたずねたところ、「ア 生活費をかせぐ」と「コ 乳幼児の世話」を除くすべての分野で「男女が同じ程度」が約半数以上となっており、特に「ク 子どもの教育としつけ」が79.9%、「キ 老親や病身者の介護・看護」が78.9%と高くなっている。一方で、「ア 生活費をかせぐ」は『男性が担う』（「主に男性が担う」と「どちらかといえば男性が担う」の合計）が、「コ 乳幼児の世話」は『女性が担う』（「主に女性が担う」と「どちらかといえば女性が担う」の合計）がそれぞれ64.0%、54.5%と高くなっている。

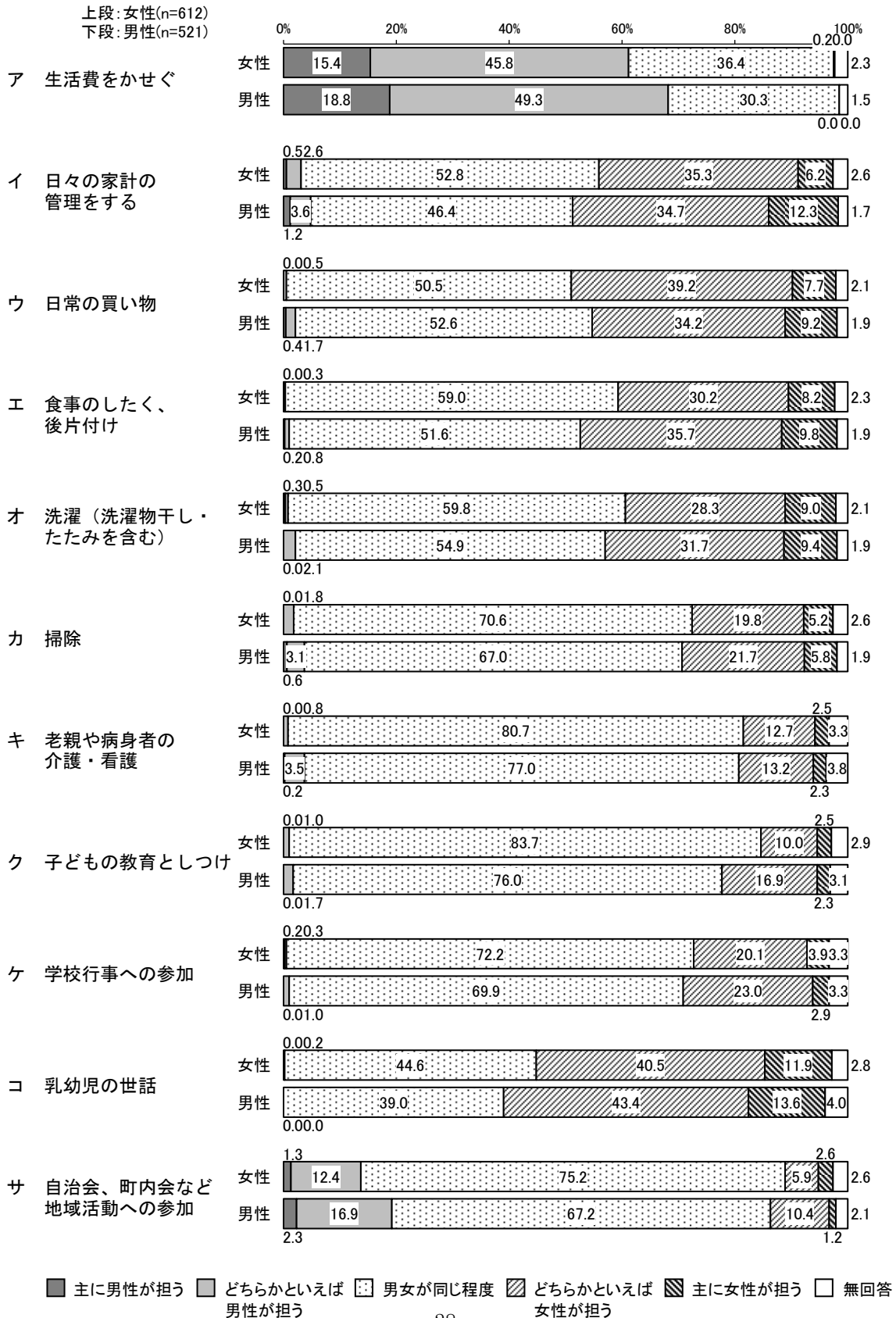
図 家庭の仕事の役割分担



II 市民意識調査の結果

性別にみると、「ア 生活費をかせぐ」は男性の方が『男性が担う』の割合が、女性よりも6.9ポイント高くなっている。また、「エ 食事のしたく、後片付け」と「ク 子どもの教育としつけ」は男性の方が『女性が担う』の割合がそれぞれ7.1ポイント、6.7ポイント高くなっている。「ウ 日常の買い物」を除くすべての分野で女性の方が「男女が同じ程度」の割合が高くなっている。

図 性別 家庭の仕事の役割分担

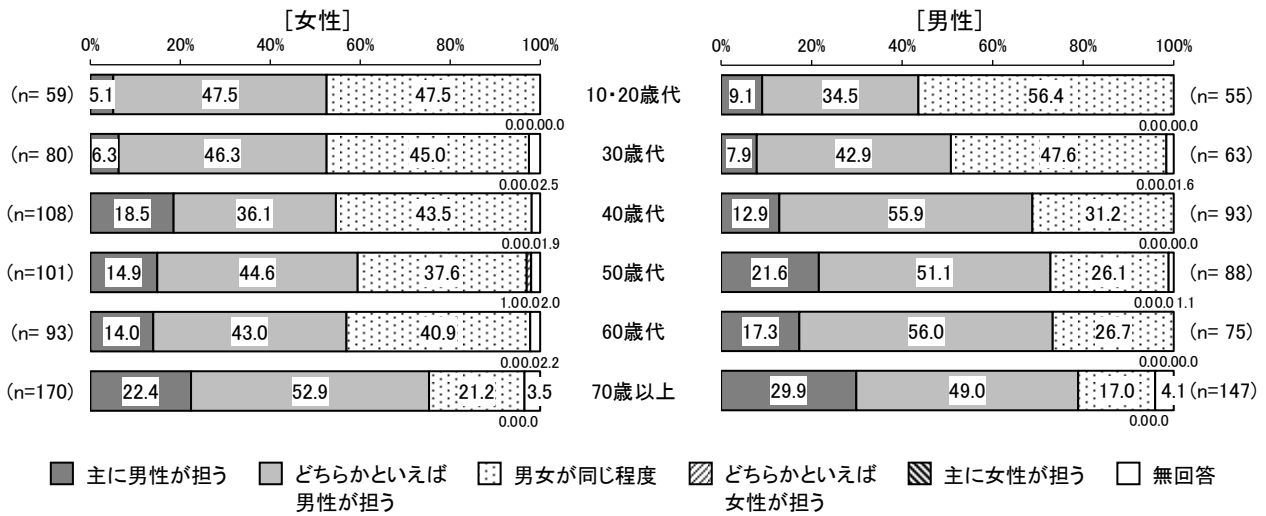


ア 生活費をかせぐ

女性では、70歳以上で『男性が担う』が7割以上と、他の年齢層と比べて高くなっている。

男性では、年齢が高くなるにつれて『男性が担う』の割合が高くなっている。

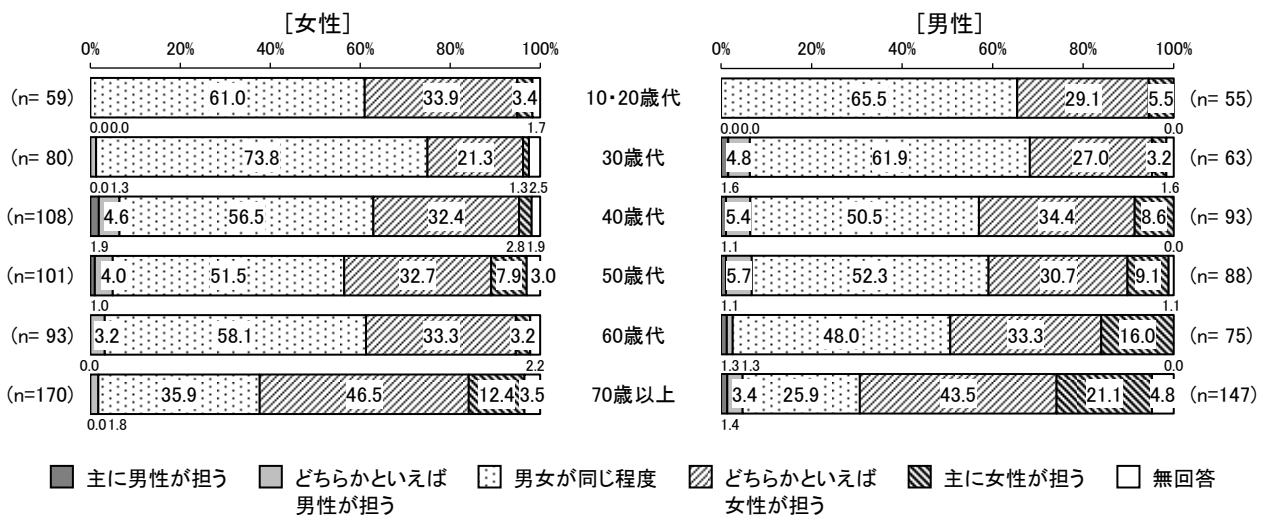
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 — ア 生活費をかせぐ



イ 日々の家計の管理をする

男女ともに、30歳代で『女性が担う』が最も低くなっており、女性の30歳代では「男女が同じ程度」が73.8%と高くなっている。

図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 — イ 日々の家計の管理をする

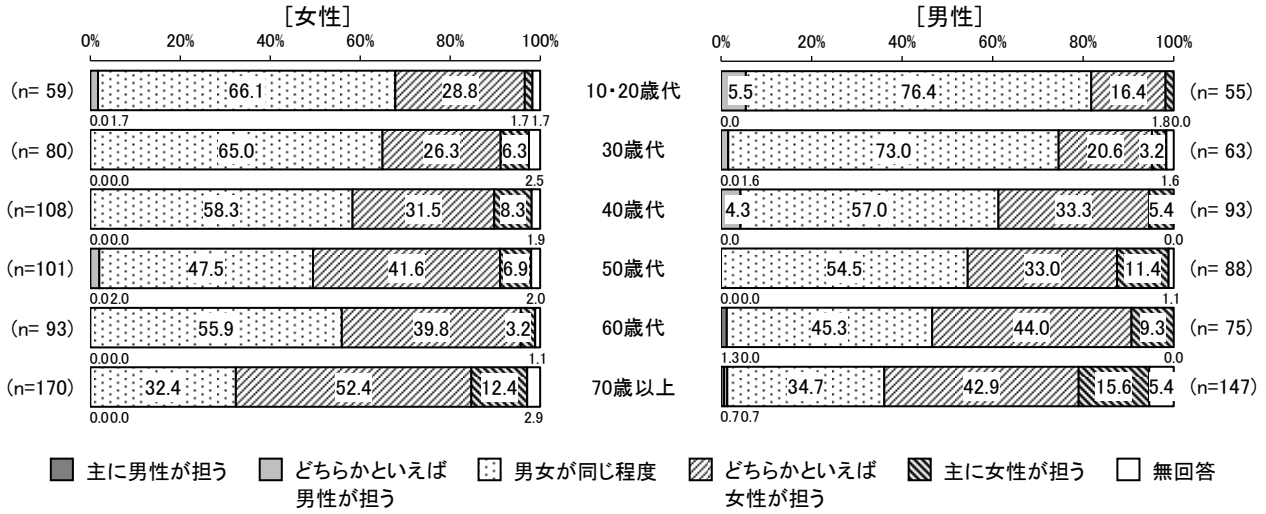


II 市民意識調査の結果

ウ 日常の買い物

男女とも10～30歳代では「男女が同じ程度」が女性は6割台、男性は7割台と高くなっている。男性では、年齢が高くなるにつれて『女性が担う』の割合が高くなっている。

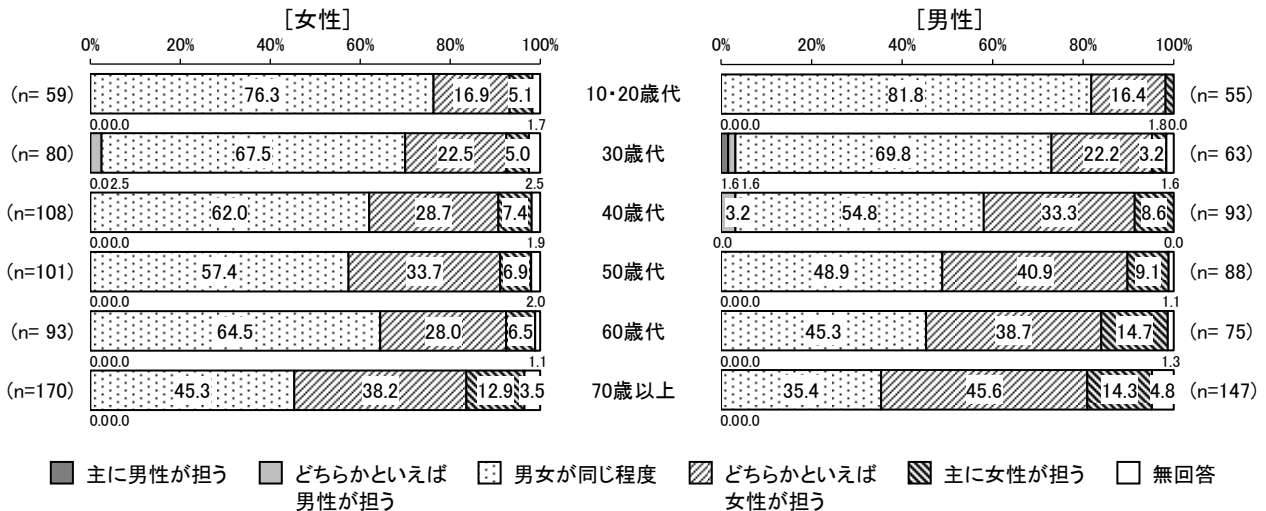
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 — ウ 日常の買い物



エ 食事のしたく、後片付け

男女とも10・20歳代では「男女が同じ程度」が女性は7割台、男性は8割台と高くなっている。男性では、年齢が高くなるにつれて『女性が担う』の割合が高くなっており、50歳代以上は5割を超えている。

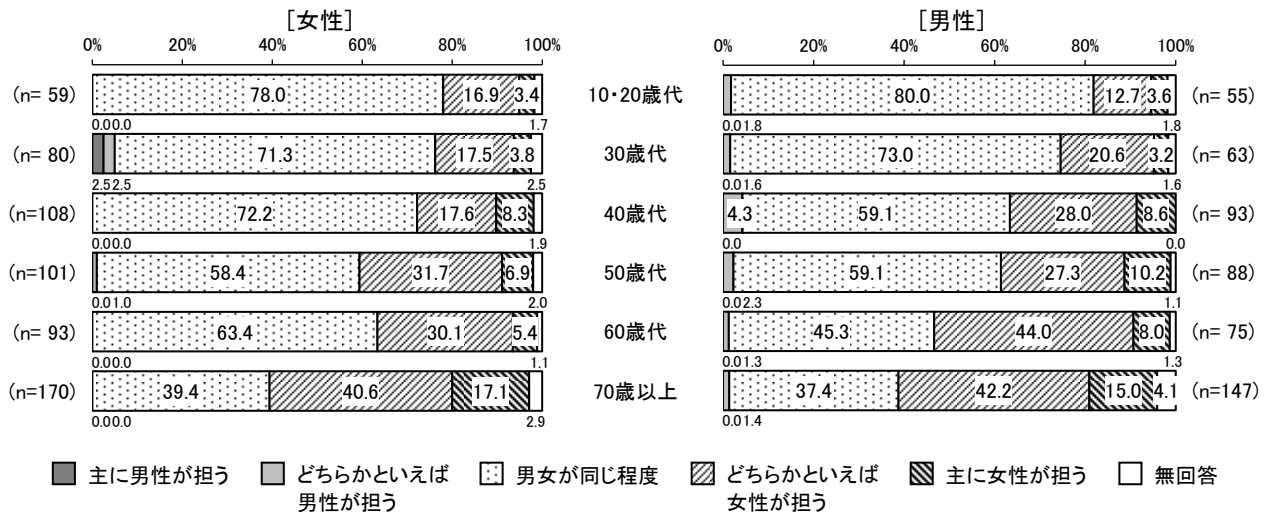
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 — エ 食事のしたく、後片付け



オ 洗濯(洗濯物干し・たたみを含む)

男女とも10～30歳代では「男女が同じ程度」が7割以上と高くなっている。男性では、年齢が高くなるにつれて『女性が担う』の割合が高くなっており、60歳代以上は5割を超えている。

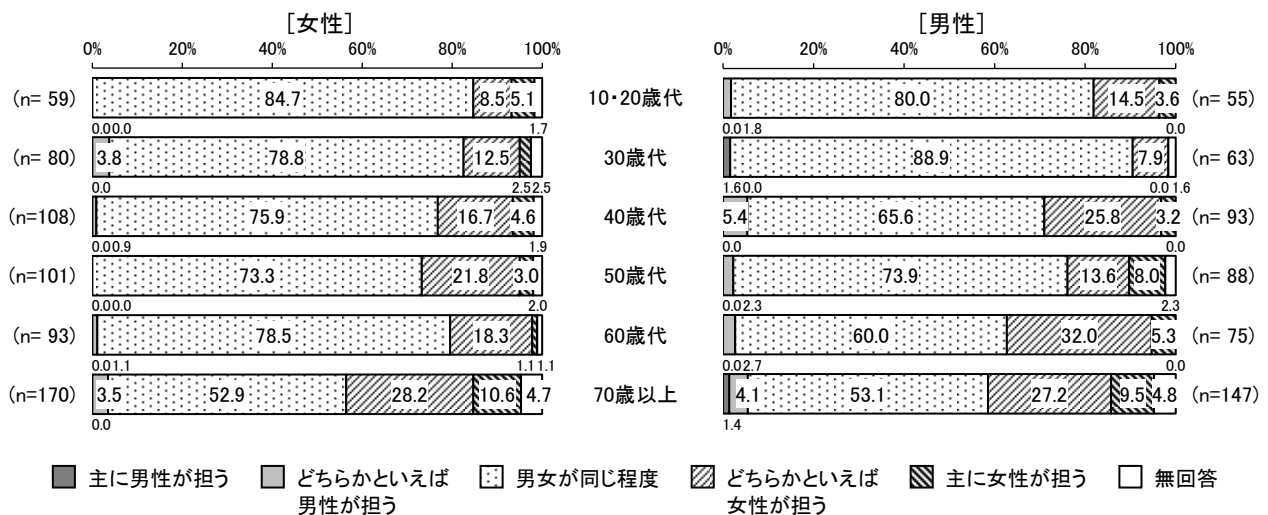
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - オ 洗濯(洗濯物干し・たたみを含む)



カ 掃除

男女とも、すべての年齢層で「男女が同じ程度」が5割を超えており、女性の10・20歳代と男性の10～30歳代では8割以上となっている。一方で、女性の70歳以上と男性の60歳代以上では『女性が担う』がそれぞれ3割台となっている。

図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - カ 掃除

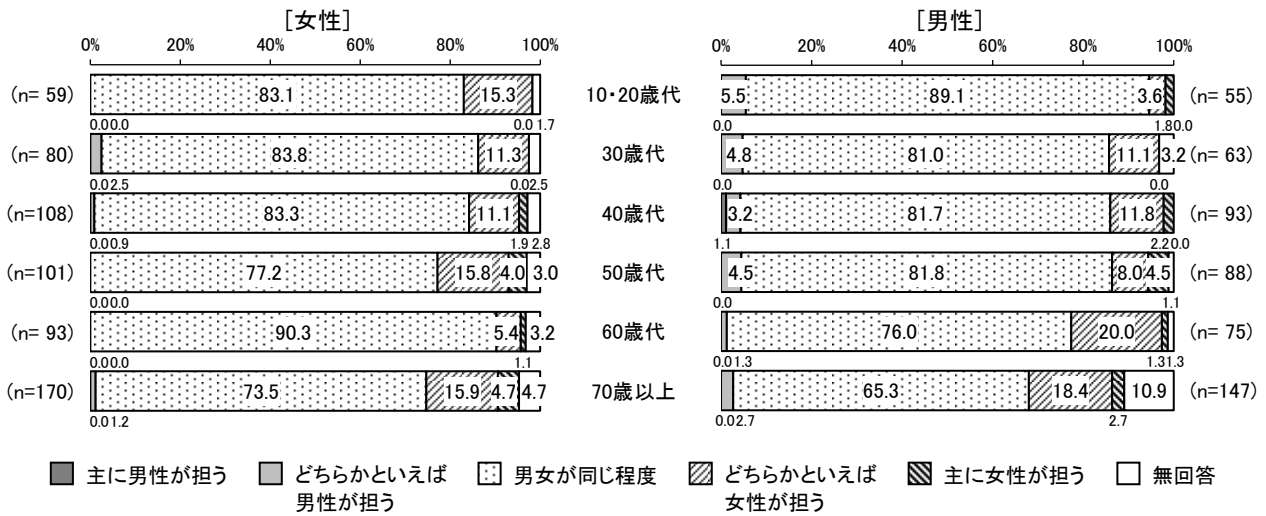


II 市民意識調査の結果

キ 老親や病身者の介護・看護

男女とも、いずれの年齢層も「男女が同じ程度」が高い割合を占めている。女性の50歳代と70歳以上と男性の60歳代以上で『女性が担う』が約2割となっている。

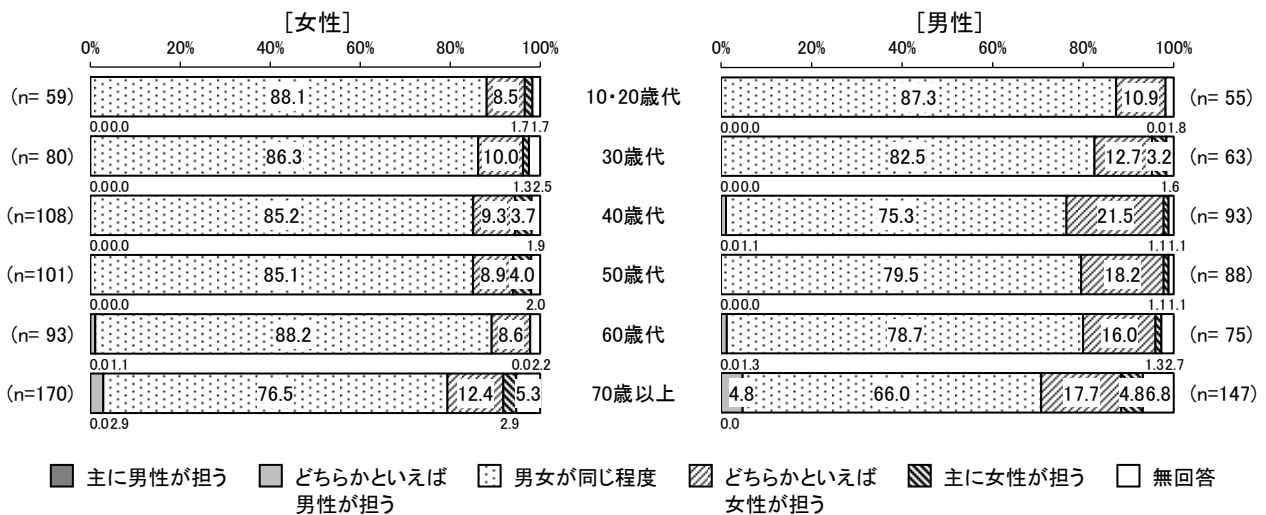
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 — キ 老親や病身者の介護・看護



ク 子どもの教育としつけ

男女とも、いずれの年齢層も「男女が同じ程度」が高い割合を占めている。『女性が担う』は、いずれの年齢層も女性が約1割、男性が1～2割程度となっている。

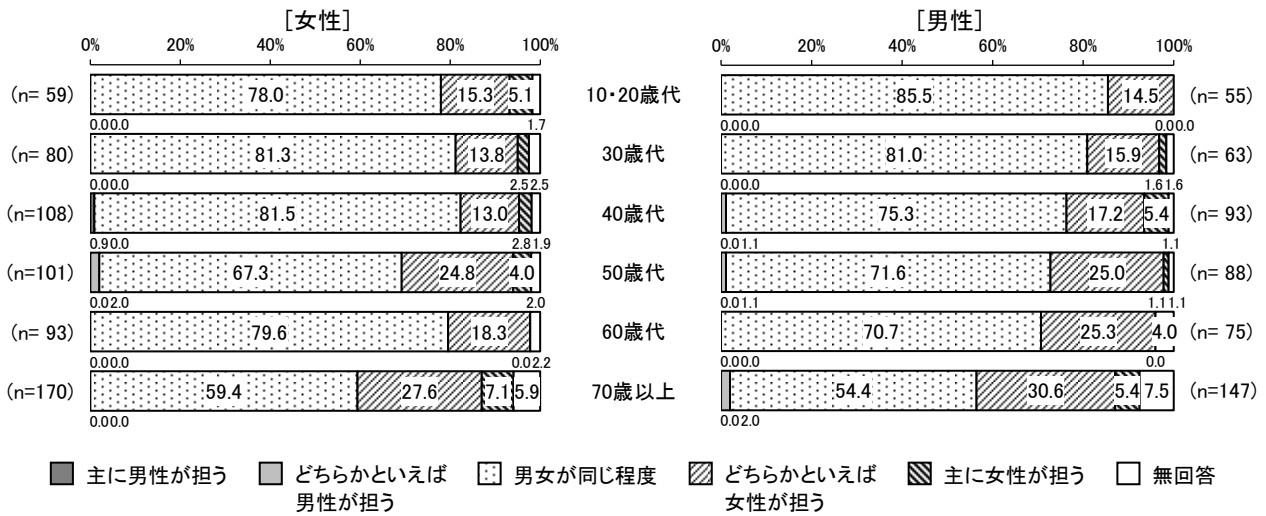
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 — ク 子どもの教育としつけ



ケ 学校行事への参加

女性の30・40歳代と男性の10～30歳代では「男女が同じ程度」が8割以上と高くなっている。男性では、年齢が高くなるにつれて『女性が担う』の割合が高くなっている。

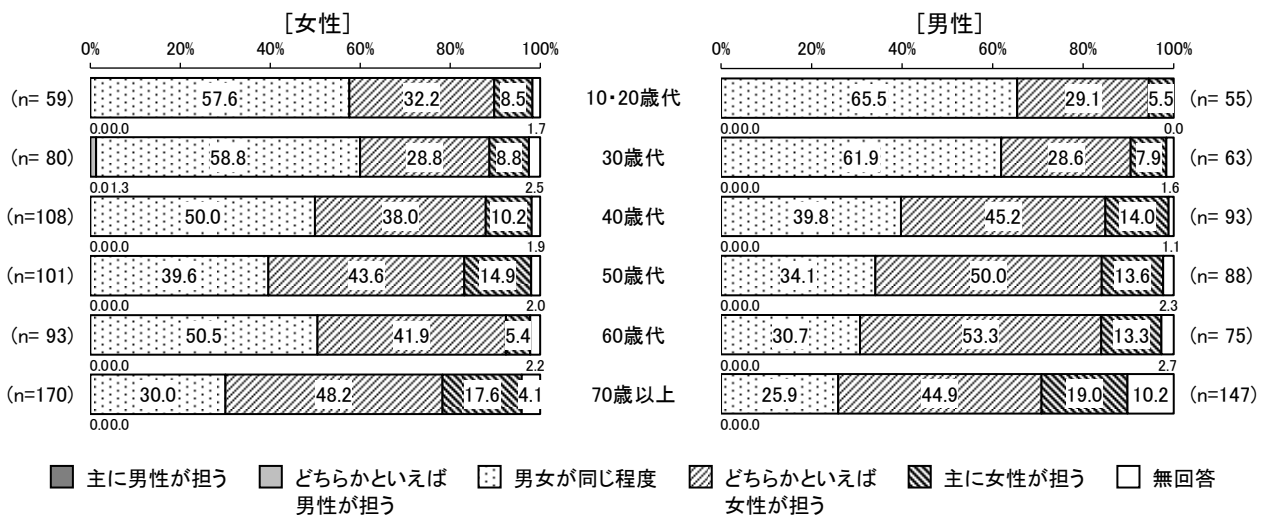
図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - ケ 学校行事への参加



コ 乳幼児の世話

男性では、年齢が低いほど「男女が同じ程度」の割合が高くなり、年齢が高くなるほど『女性が担う』の割合が高くなる。女性の70歳以上と男性の50歳代以上で『女性が担う』がそれぞれ6割以上となっている。

図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - コ 乳幼児の世話

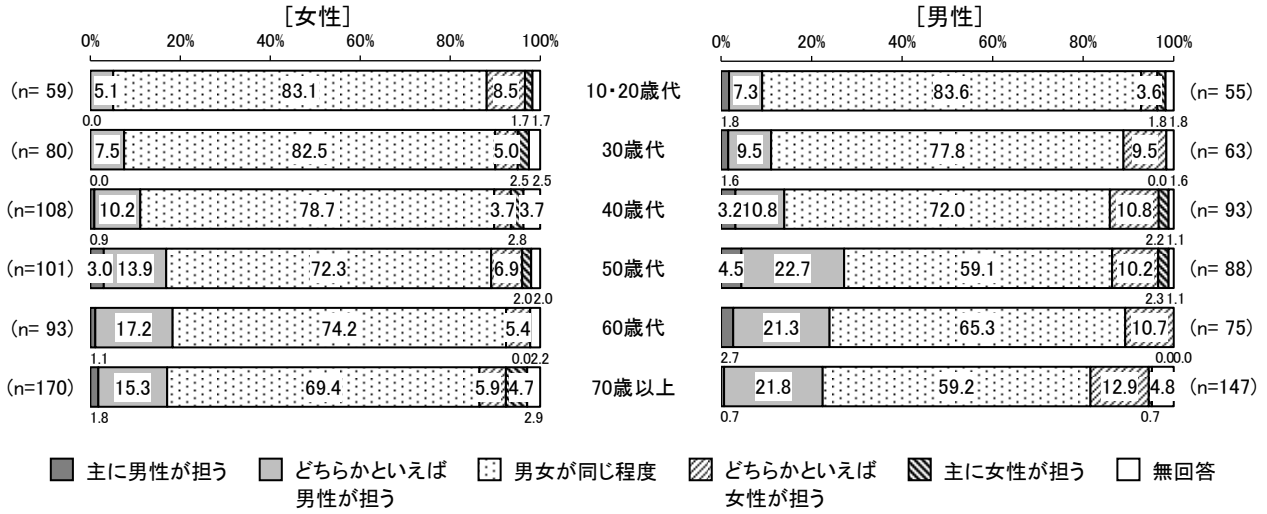


II 市民意識調査の結果

サ 自治会、町内会など地域活動への参加

男女とも、年齢が高くなるにつれ「男女が同じ程度」の割合が低くなる傾向となっており、男性の50歳代以上で『男性が担う』が2割台となっている。

図 性年齢別 家庭の仕事の役割分担 - サ 自治会、町内会など地域活動への参加



(6)「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無

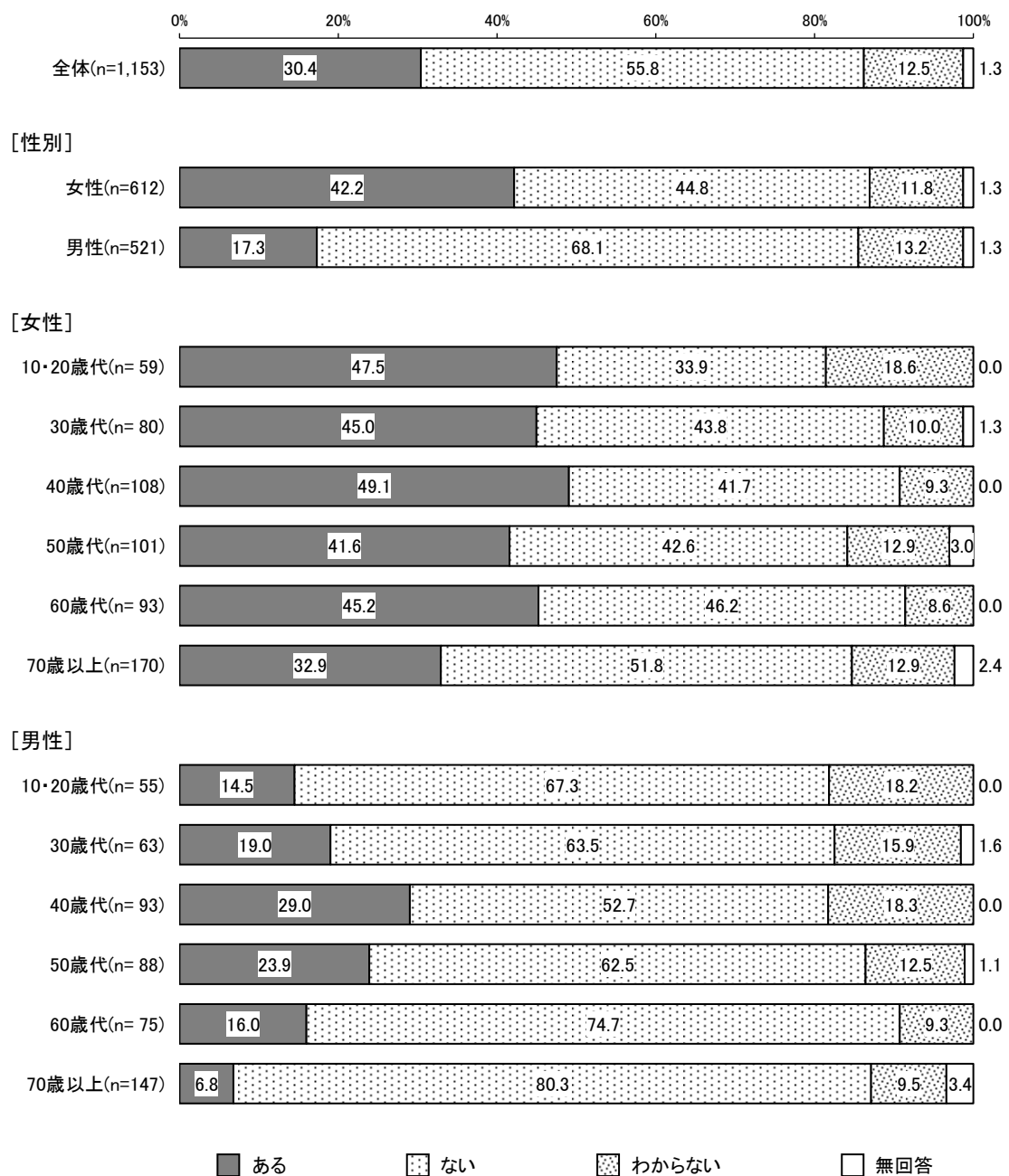
問5 あなたは、「女性であること」または「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(〇は1つ)

「女性・男性であること」によって感じた負担感や生きづらさの有無についてたずねたところ、「ある」が30.4%、「ない」が55.8%、「わからない」が12.5%となっている。

性別にみると、「ある」と回答した女性の割合が、男性よりも24.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性では10～40歳代ではいずれも「ある」の割合が「ない」を上回っており、70歳以上では「ある」が32.9%と他の年齢層と比べて低くなっている。男性では40歳代の「ある」が3割弱で、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性別、性年齢別 「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたことの有無



II 市民意識調査の結果

(7)「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたこと

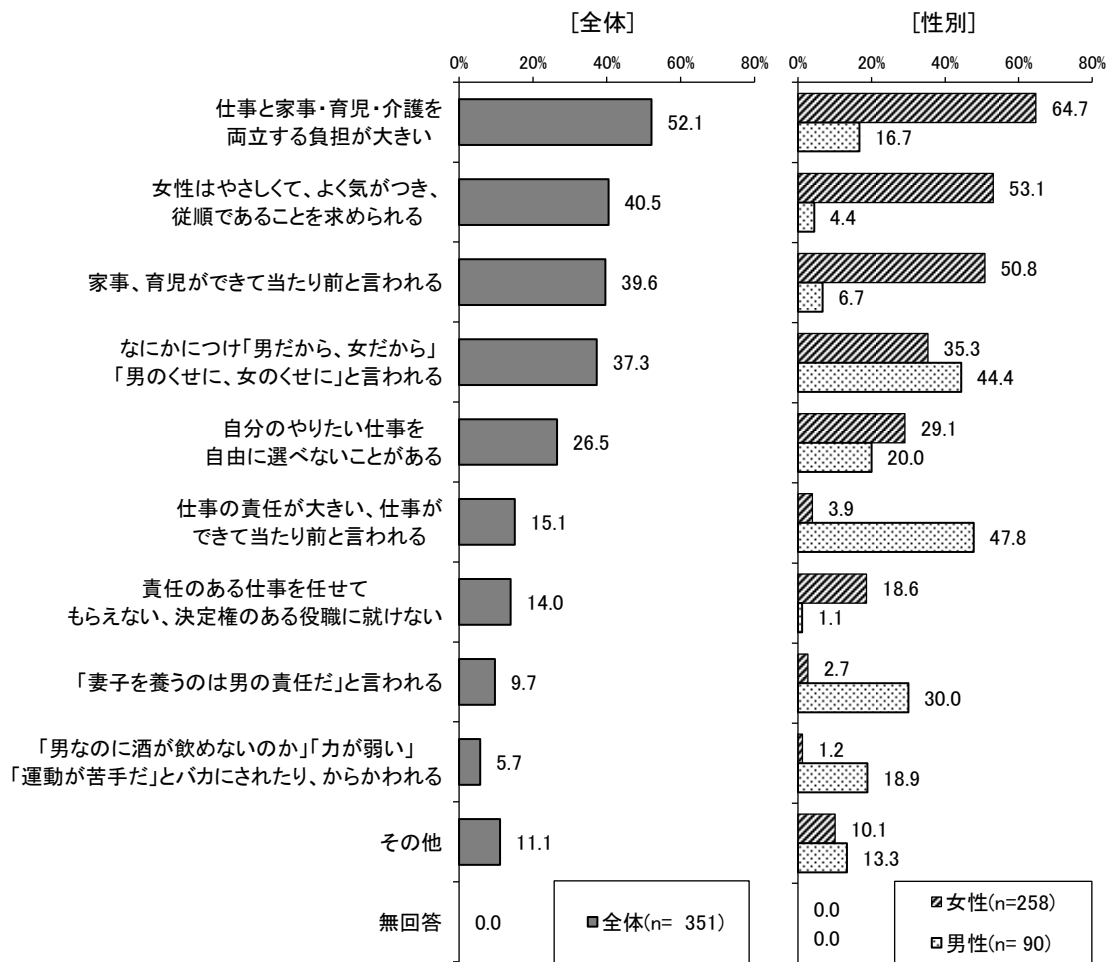
《問5で、「1. ある」と答えた方におたずねします。》

問6 それは、どのようなときに感じましたか。(〇はいくつでも)

「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたことの内容についてたずねたところ、「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が52.1%で最も高く、次いで「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」(40.5%)、「家事、育児ができて当たり前と言われる」(39.6%)、「なにかにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」(37.3%)となっている。

性別にみると、女性は「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」「女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる」「家事、育児ができて当たり前と言われる」がいずれも5割以上となっている。男性は「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる」「なにかにつけ『男だから、女だから』『男のくせに、女のくせに』と言われる」がいずれも4割以上となっている。

図 性別「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたこと



その他意見の要約			
性別による固定観念がある	11件	女性は仕事と家庭の両立が難しい	1件
女性は性被害にあうことが多い	4件	夫婦同姓の制度	1件
女性が子育てをするのが当然視される	3件	性別で対応が異なる	1件
女性は子育ての負担が大きい	3件	女性は顔で判断される	1件
女性は服装・化粧の負担感がある	3件	異性のグループに入りづらい	1件
男性は仕事の負担が大きい	2件	男性物より女性物の方が選択肢が多い	1件
女性は働く場で軽く扱われる	2件	女性が働いて生活するのは大変である	1件
女性は家事の負担が大きい	2件	夫から「養ってもらってるくせに」と言われる	1件
女性は就職・転職に不利になる	1件	女性は仕事と家庭の両立が難しい	1件

年齢別にみると、女性の40～60歳代で「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が7割以上と、他の年齢層と比べて高くなっている。男性の30歳代以上では約半数が「仕事の責任が大きい、仕事ができたり前と言われる」と答えている。

表 性年齢別「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたこと

		回答者数(n)	仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい	女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる	家事、育児ができて当たり前と言われる	なにかにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる	自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある	仕事の責任が大きい、仕事ができたり前と言われる	責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役職に就けない	「妻子を養うのは男の責任だ」と言われる	「男なのに酒が飲めないのか」「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる	その他	無回答
全体		351	52.1	40.5	39.6	37.3	26.5	15.1	14.0	9.7	5.7	11.1	-
性年齢別	10・20歳代	28	39.3	57.1	50.0	39.3	32.1	3.6	21.4	-	-	10.7	-
	30歳代	36	58.3	55.6	58.3	30.6	33.3	2.8	25.0	2.8	5.6	13.9	-
	40歳代	53	71.7	45.3	49.1	17.0	28.3	5.7	24.5	-	-	20.8	-
	50歳代	42	71.4	59.5	50.0	38.1	33.3	2.4	14.3	-	-	4.8	-
	60歳代	42	73.8	52.4	50.0	40.5	21.4	2.4	11.9	7.1	-	9.5	-
	70歳以上	56	62.5	53.6	48.2	46.4	28.6	5.4	16.1	5.4	1.8	1.8	-
	10・20歳代	8	-	12.5	12.5	50.0	12.5	25.0	-	25.0	37.5	12.5	-
	30歳代	12	-	-	16.7	58.3	25.0	50.0	8.3	33.3	25.0	8.3	-
	40歳代	27	18.5	3.7	7.4	33.3	18.5	48.1	-	18.5	18.5	18.5	-
	50歳代	21	9.5	4.8	4.8	47.6	14.3	52.4	-	42.9	9.5	14.3	-
	60歳代	12	16.7	-	-	41.7	41.7	50.0	-	16.7	8.3	16.7	-
	70歳以上	10	60.0	10.0	-	50.0	10.0	50.0	-	50.0	30.0	-	-

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。
ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

II 市民意識調査の結果

(8) 新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響

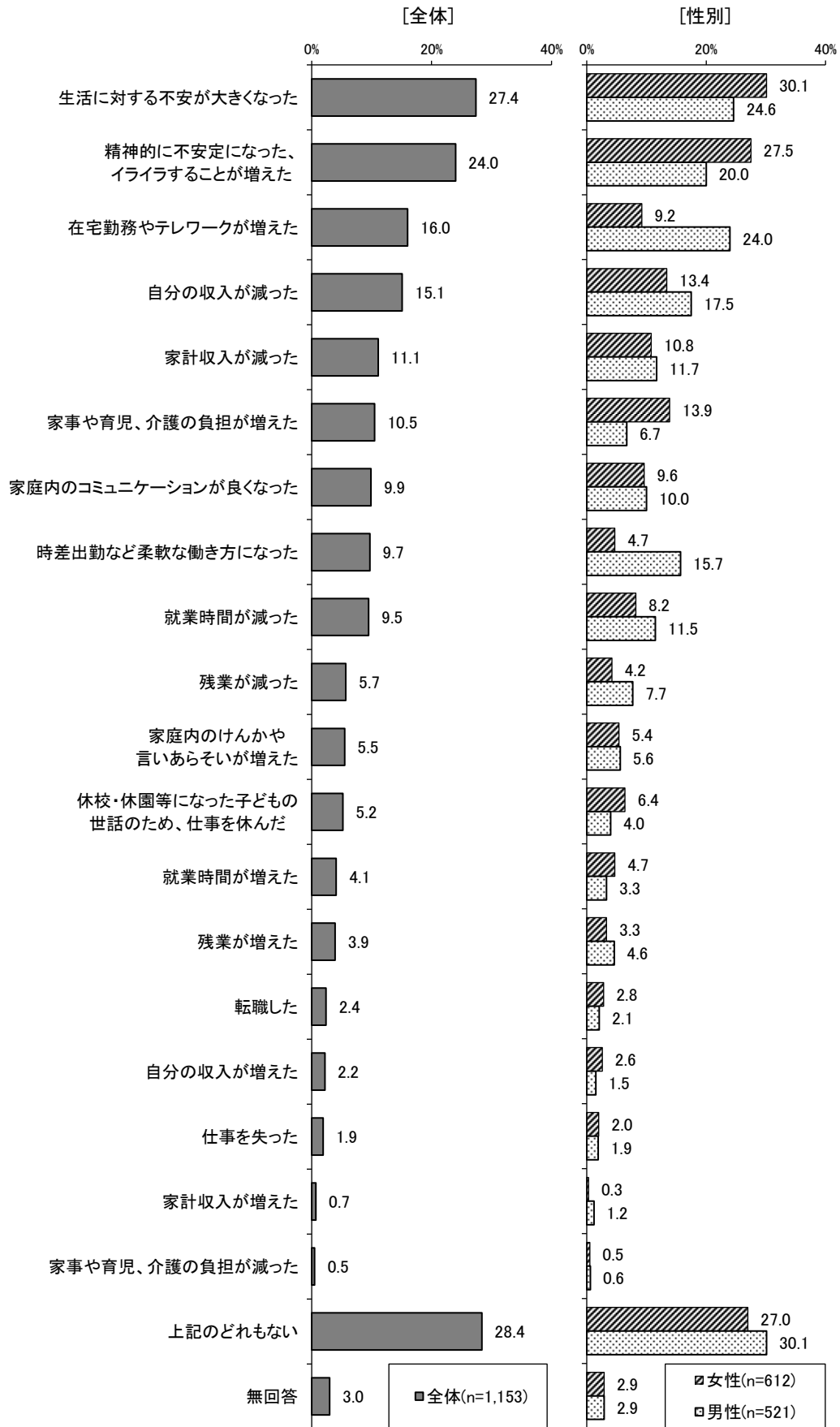
《全員におたずねします。》

問7 新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響についておたずねします。新型コロナウイルス感染症拡大以前（概ね2020年3月以前）と、現在の仕事や生活の状況を比べて、次のようなことがありますか。（○はいくつでも）

新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響についてたずねたところ、「生活に対する不安が大きくなった」が27.4%で最も高く、次いで「精神的に不安定になった、イライラすることが増えた」（24.0%）、「在宅勤務やテレワークが増えた」（16.0%）、「自分の収入が減った」（15.1%）となっている。「上記のどれもない」は28.4%となっている。

性別にみると、男女で違いがみられるのは、「生活に対する不安が大きくなった」「精神的に不安定になった、イライラすることが増えた」「家事や育児、介護の負担が増えた」が女性の方が高く、「在宅勤務やテレワークが増えた」「自分の収入が減った」「時差出勤など柔軟な働き方になった」が男性の方が高くなっている。

図 性別 新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響



II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性の30・40歳代で「家事や育児、介護の負担が増えた」が2割台、男性の10～50歳代で「在宅勤務やテレワークが増えた」が3割台と、他の年齢層と比べて高くなっている。また、男性の50歳代では「自分の収入が減った」、30歳代では「時差出勤など柔軟な働き方になった」も3割台と高くなっている。男女とも70歳以上では「上記のどれもない」が約4割を占めている。

表 性年齢別 新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響

		回答者数(n)	生活に対する不安が大きくなった	精神的に不安定になった、イライラすることが増えた	在宅勤務やテレワークが増えた	自分の収入が減った	家計収入が減った	家事や育児、介護の負担が増えた	家庭内のコミュニケーションが良くなった	時差出勤など柔軟な働き方になった	就業時間が減った	残業が減った	家庭内のけんかや言いあそいが増えた
全体		1,153	27.4	24.0	16.0	15.1	11.1	10.5	9.9	9.7	9.5	5.7	5.5
性年齢別	10・20 歳代	59	32.2	30.5	16.9	23.7	5.1	1.7	8.5	8.5	10.2	10.2	3.4
	30 歳代	80	25.0	31.3	17.5	12.5	8.8	26.3	7.5	6.3	3.8	10.0	8.8
	40 歳代	108	27.8	24.1	12.0	11.1	15.7	25.9	15.7	11.1	11.1	4.6	4.6
	50 歳代	101	27.7	29.7	8.9	22.8	18.8	16.8	12.9	3.0	11.9	4.0	5.0
	60 歳代	93	31.2	24.7	8.6	16.1	9.7	11.8	7.5	4.3	9.7	1.1	6.5
	70 歳以上	170	34.1	26.5	1.2	4.7	6.5	4.1	6.5	-	4.7	1.2	4.7
	10・20 歳代	55	18.2	20.0	34.5	10.9	5.5	5.5	14.5	20.0	7.3	1.8	1.8
	30 歳代	63	22.2	19.0	39.7	15.9	11.1	17.5	7.9	31.7	14.3	15.9	4.8
	40 歳代	93	26.9	19.4	30.1	22.6	17.2	8.6	7.5	15.1	14.0	14.0	2.2
	50 歳代	88	23.9	20.5	35.2	31.8	17.0	5.7	13.6	25.0	17.0	10.2	5.7
	60 歳代	75	29.3	17.3	20.0	16.0	8.0	5.3	8.0	13.3	12.0	4.0	5.3
	70 歳以上	147	24.5	21.8	4.8	9.5	9.5	2.7	9.5	3.4	6.8	2.7	9.5

		回答者数(n)	休校・休園等になった子どもの世話のため、仕事を休んだ	就業時間が減った	残業が増えた	転職した	自分の収入が増えた	仕事を失った	家計収入が増えた	家事や育児、介護の負担が減った	上記のどれもない	無回答
全体		1,153	5.2	4.1	3.9	2.4	2.2	1.9	0.7	0.5	28.4	3.0
性年齢別	10・20 歳代	59	-	8.5	8.5	3.4	6.8	1.7	-	-	16.9	-
	30 歳代	80	13.8	2.5	3.8	2.5	2.5	2.5	2.5	-	17.5	1.3
	40 歳代	108	19.4	4.6	3.7	5.6	1.9	1.9	-	0.9	22.2	-
	50 歳代	101	3.0	6.9	4.0	4.0	4.0	1.0	-	-	21.8	2.0
	60 歳代	93	1.1	8.6	4.3	2.2	3.2	5.4	-	2.2	30.1	2.2
	70 歳以上	170	1.8	1.2	-	0.6	0.6	0.6	-	-	39.4	7.6
	10・20 歳代	55	-	3.6	3.6	7.3	1.8	-	1.8	-	25.5	-
	30 歳代	63	14.3	3.2	7.9	4.8	3.2	-	3.2	-	27.0	3.2
	40 歳代	93	7.5	8.6	9.7	2.2	4.3	2.2	3.2	-	24.7	-
	50 歳代	88	3.4	3.4	5.7	1.1	-	1.1	-	-	17.0	1.1
	60 歳代	75	1.3	1.3	2.7	1.3	-	5.3	-	1.3	36.0	2.7
	70 歳以上	147	0.7	0.7	0.7	-	0.7	2.0	-	1.4	41.5	6.8

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

3. 子育てや学校教育について

(1) 子育てについての考え方

問8 子育てについて、あなたの考え方に近いものはどれですか。(○はそれぞれ1つ)

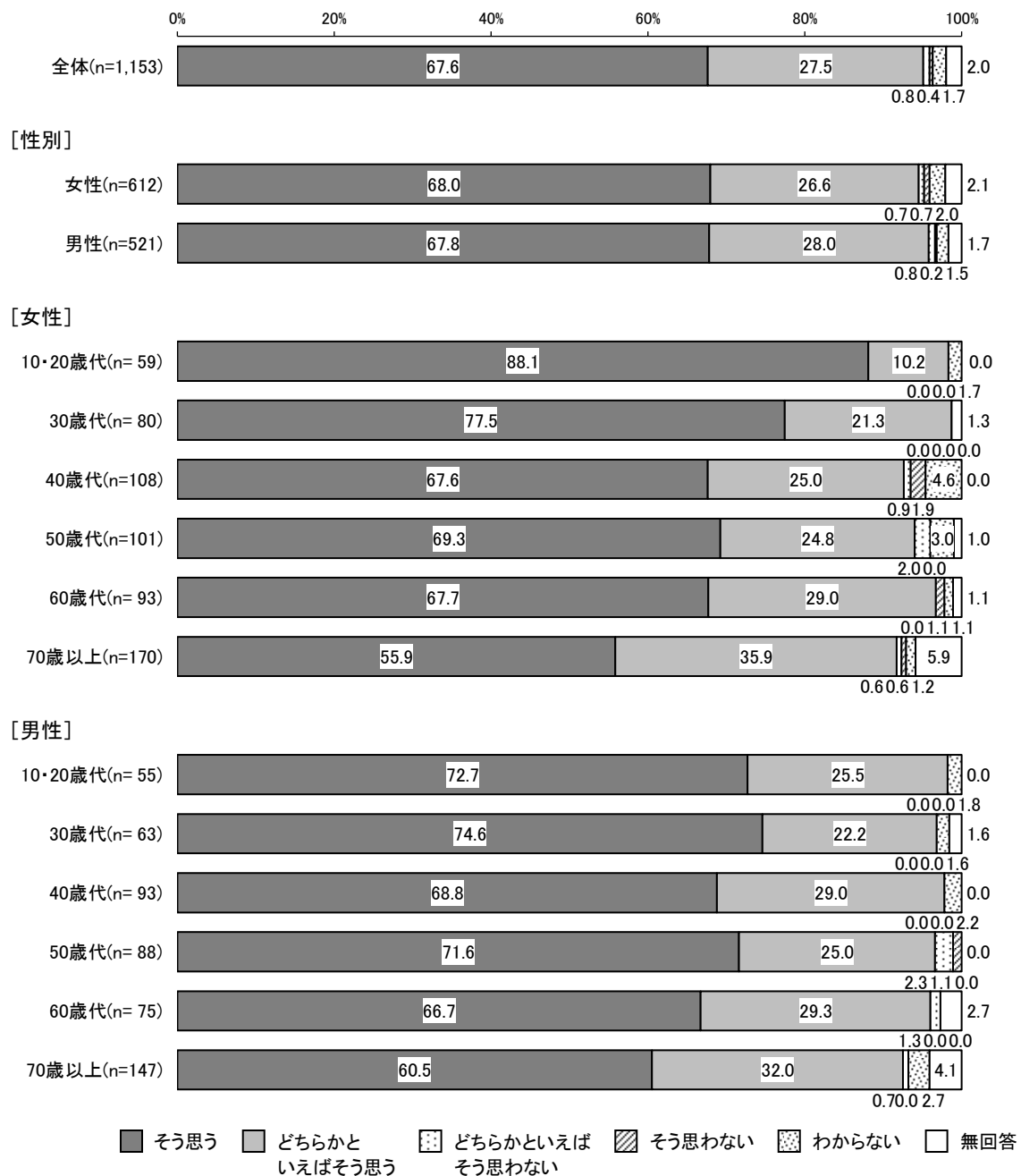
ア 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方が良い

子育てについての考え方についてたずねたところ、「ア 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方が良い」という考え方については、「そう思う」が67.6%、「どちらかといえばそう思う」が27.5%となっており、『賛成』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が95.1%と大多数を占めている。

性別による意識の違いはほとんどみられない。

年齢別にみると、男女とも年齢が低いほど「そう思う」の割合が高くなる傾向となっており、女性の10・20歳代では9割弱となっている。

図 性別、性年齢別 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方が良い



II 市民意識調査の結果

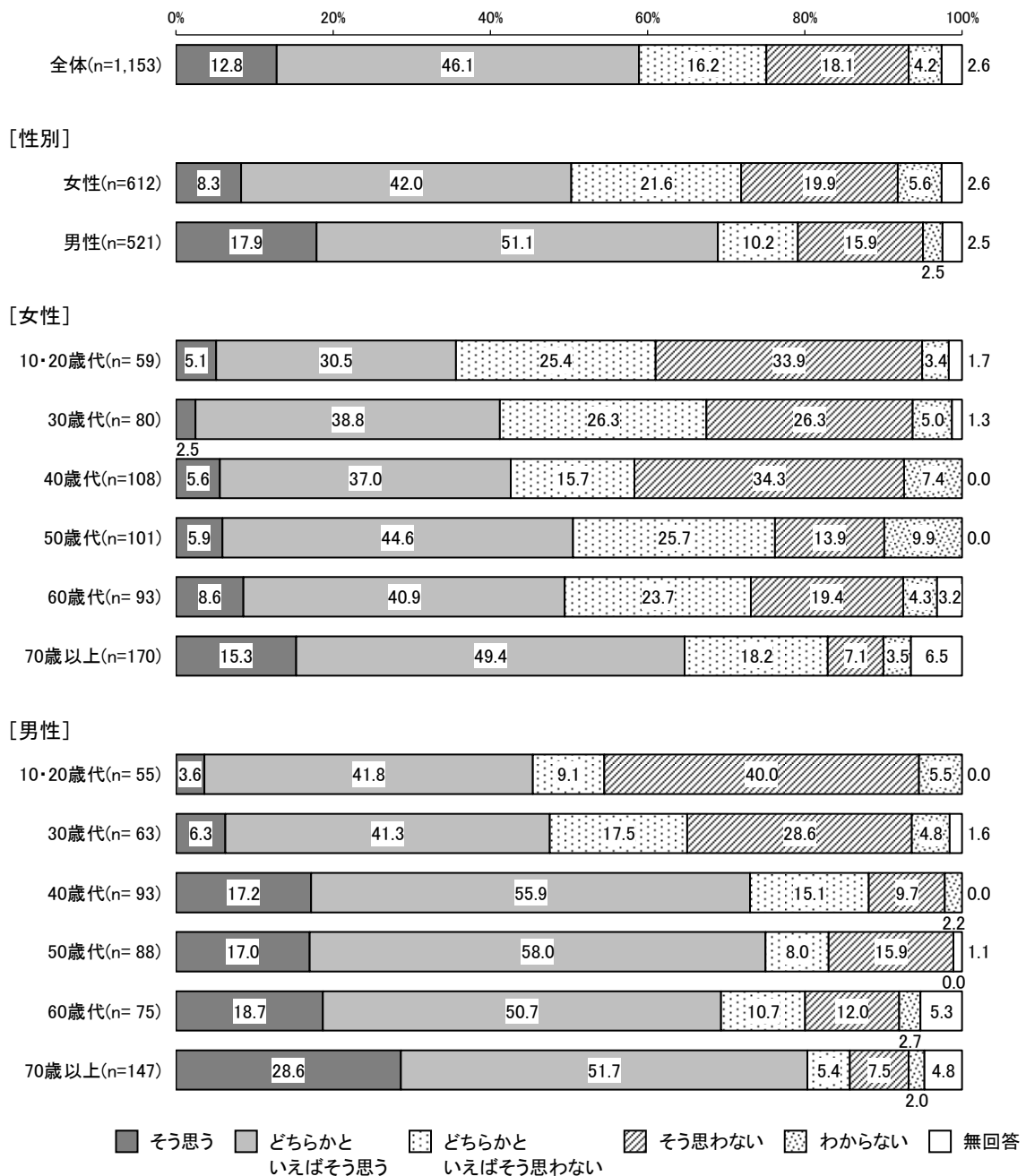
イ 言葉遣いや仕草など、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのが良い

「イ 言葉遣いや仕草など、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのが良い」という考え方については、「どちらかといえばそう思う」が46.1%で最も高く、次いで「そう思わない」が18.1%となっており、『賛成』は58.9%となっている。対して『反対』(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)は34.3%となっている。

性別にみると、男女とも『賛成』が半数を上回り、男性の方が18.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性は40歳代以下、男性は10・20歳代で『反対』の方が高くなっている。年齢が高くなると『賛成』の割合が高くなる傾向がみられ、男性の70歳以上では、『賛成』が約8割となっている。

図 性別、性年齢別 言葉遣いや仕草など、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのが良い



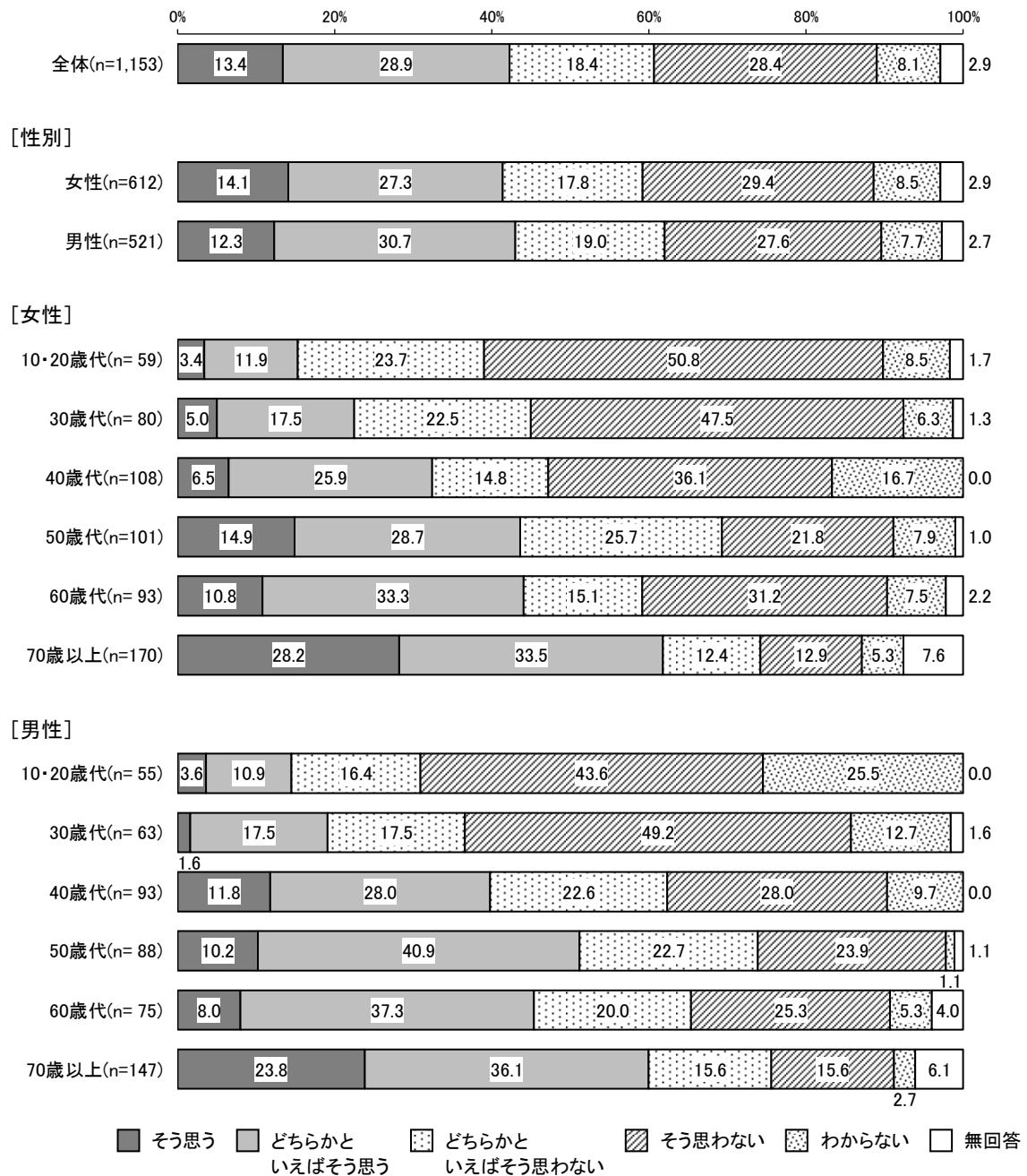
ウ 子どもが3歳くらいまでは母親が育てた方がよい

「ウ 子どもが3歳くらいまでは母親が育てた方がよい」という考え方については、「どちらかといえばそう思う」が28.9%と最も高く、次いで「そう思わない」が28.4%となっている。『賛成』は42.3%、『反対』は46.8%と拮抗している。

性別による意識の違いはほとんどみられない。

年齢別にみると、男女とも年齢が低いほど『反対』の割合が高く、年齢が高いほど『賛成』が高くなる傾向にある。男性の10・20歳代では「わからない」が25.5%を占めており、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性別、性年齢別 子どもが3歳くらいまでは母親が育てた方がよい



II 市民意識調査の結果

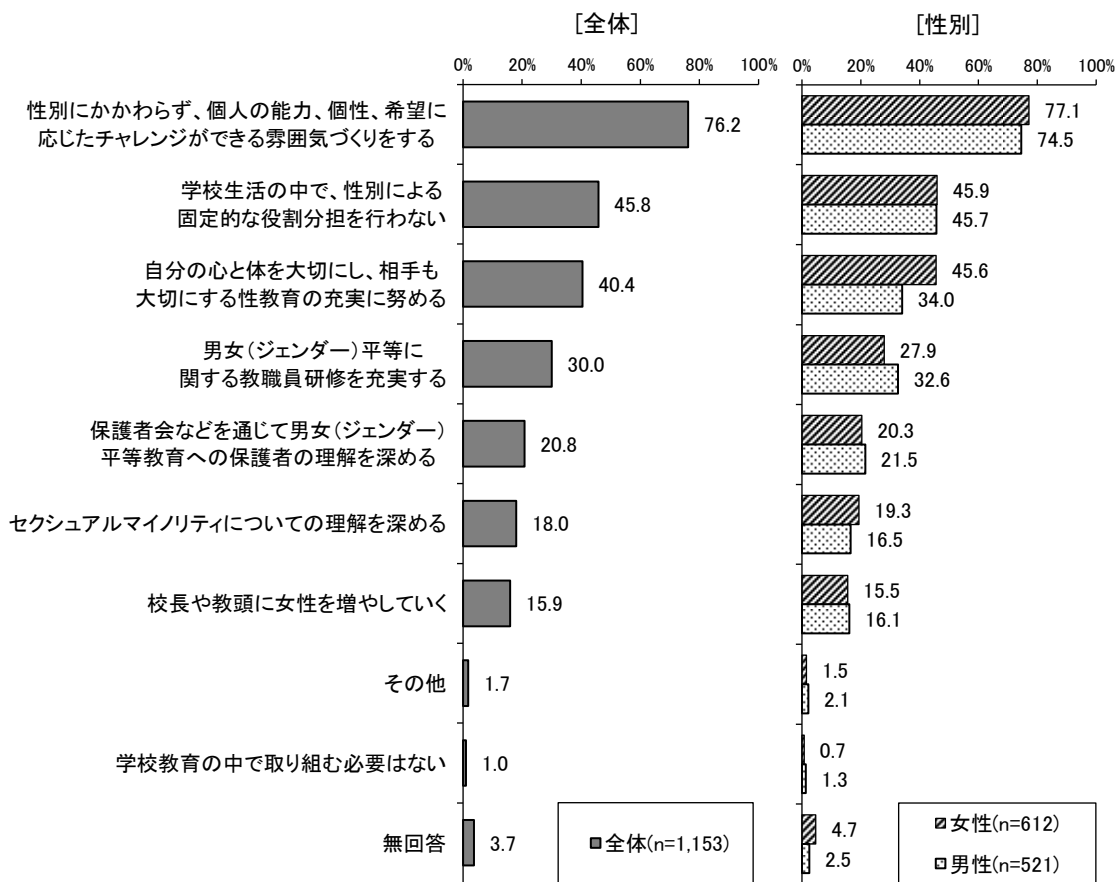
(2) 学校教育や学校生活の中で男女共同参画を進めるために必要なこと

問9 学校教育や学校生活の中で、男女共同参画を進めるために、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

学校教育や学校生活の中で男女共同参画を進めるために必要な取組についてたずねたところ、「性別にかかわらず、個人の能力、個性、希望に応じたチャレンジができる雰囲気づくりをする」が76.2%で最も高く、次いで「学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない」(45.8%)、「自分の心と体を大切にし、相手も大切にしている性教育の充実に努める」(40.4%)、「男女(ジェンダー)平等に関する教職員研修を充実する」(30.0%)となっている。

性別にみると、「自分の心と体を大切にし、相手も大切にしている性教育の充実に努める」が、女性の方が男性と比べて10ポイント以上高くなっている。

図 性別 学校教育や学校生活の中で男女共同参画を進めるために必要なこと



その他意見の要約			
教職員の意識を高める	4件	家庭教育を進める	1件
個人を尊重する心を育てる	3件	平等と「男らしく」「女らしく」は別である	1件
海外の事例を学ぶ	3件	身体的性差を理解する	1件
取組の効果が分からない	2件	日本においてジェンダー平等が実現してほしい	1件
学校における対話が必要である	1件	性教育も男女で一緒に行う	1件
女性の雇用枠を増やす	1件		

年齢別にみると、女性の10～40歳代と男性の30歳代で「自分の心と体を大切にし、相手も大切にする性教育の充実に努める」が5割以上、女性の10～30歳代で「セクシュアルマイノリティについての理解を深める」が3割以上で、他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 学校教育や学校生活の中で男女共同参画を進めるために必要なこと

		回答者数(n)	性別にかかわらず、個人の能力、個性、希望に応じたチャレンジができる雰囲気づくりをする	学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない	自分の心と体を大切にし、相手も大切に性教育の充実に努める	男女(ジェンダー)平等に関する教職員研修を充実する	深める 保護者会などを通じて男女(ジェンダー)平等教育への保護者の理解を深める	セクシュアルマイノリティについての理解を深める	校長や教頭に女性を増やしていく	その他	学校教育の中で取り組む必要はない	無回答	
全体		1,153	76.2	45.8	40.4	30.0	20.8	18.0	15.9	1.7	1.0	3.7	
性年齢別	女性												
	10・20歳代	59	71.2	44.1	50.8	33.9	23.7	37.3	23.7	-	-	-	
	30歳代	80	75.0	45.0	50.0	21.3	11.3	32.5	15.0	2.5	-	2.5	
	40歳代	108	86.1	49.1	52.8	28.7	13.0	17.6	19.4	-	0.9	-	
	50歳代	101	78.2	54.5	36.6	29.7	23.8	24.8	13.9	4.0	-	-	
	60歳代	93	82.8	52.7	47.3	26.9	20.4	15.1	16.1	2.2	1.1	2.2	
	70歳以上	170	71.2	36.5	41.8	28.2	25.9	7.1	11.2	0.6	1.2	14.1	
	男性												
	10・20歳代	55	78.2	43.6	41.8	27.3	10.9	21.8	14.5	3.6	3.6	-	
	30歳代	63	71.4	39.7	50.8	28.6	11.1	20.6	7.9	1.6	1.6	1.6	
	40歳代	93	69.9	44.1	37.6	31.2	24.7	22.6	18.3	4.3	1.1	2.2	
	50歳代	88	72.7	46.6	20.5	38.6	23.9	20.5	17.0	2.3	1.1	-	
	60歳代	75	81.3	50.7	33.3	33.3	28.0	10.7	14.7	1.3	-	2.7	
	70歳以上	147	74.8	46.9	29.9	33.3	23.1	9.5	19.0	0.7	1.4	5.4	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

4. 家庭生活と仕事などについて

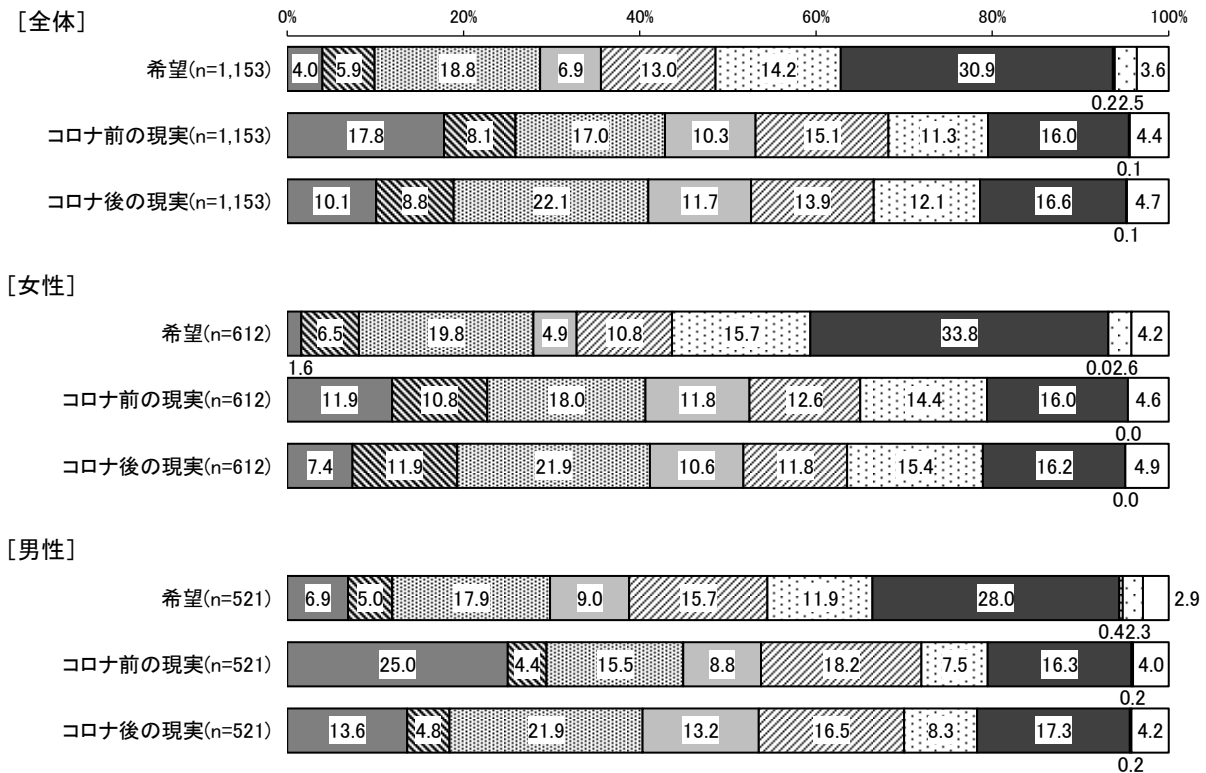
(1) 生活の中で優先したいこと、していること

問10 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

生活の中で優先したいことと、していることについてたずねたところ、生活の中で優先したいことは、『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切」が30.9%で最も高く、次いで『個人の生活』を優先」(18.8%)、『家庭や地域活動』と『個人の生活』を優先」(14.2%)となっている。性別にみると、『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切」は女性が33.8%、男性が28.0%で女性の方がやや高くなっている。

生活の中で優先していることは、コロナウイルス感染拡大前は『仕事』を優先」が17.8%で最も高かったが、コロナウイルス感染拡大後は『個人の生活』を優先」が22.1%で最も高くなっている。この意識の変化は男性の方が顕著で、加えて男性は『仕事』と『家庭や地域活動』を優先」もやや高くなっている。

図 性別 生活の中で優先したいこと、していること



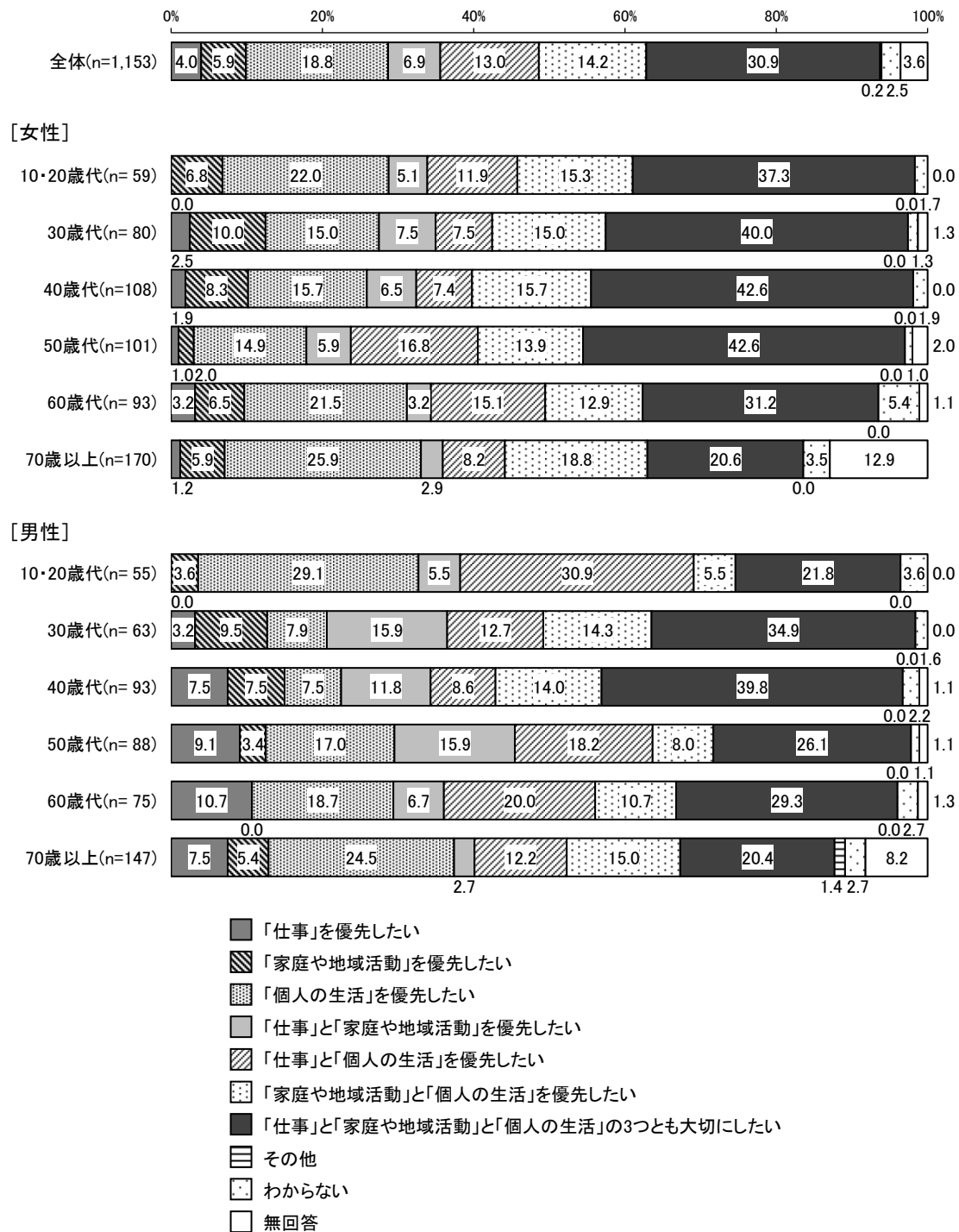
その他意見の要約		
希望	優先順位はシチュエーションによって異なる	1件
コロナ前の現実	人が喜ぶことを最優先	1件
コロナ後の現実	人が喜ぶことを最優先	1件

希望

生活の中で優先したいことについて年齢別にみると、女性では30～50歳代で『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしたい』が4割以上となっており、70歳以上で『個人の生活』を優先したい』が最も高い。

男性では30～60歳代で『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしたい』、70歳以上で『個人の生活』を優先したい』が最も高くなっている。また10・20歳代で『個人の生活』を優先したい』と『仕事』と『個人の生活』を優先したい』がそれぞれ29.1%、30.9%と高くなっている。

図 性年齢別 生活の中で優先したいこと



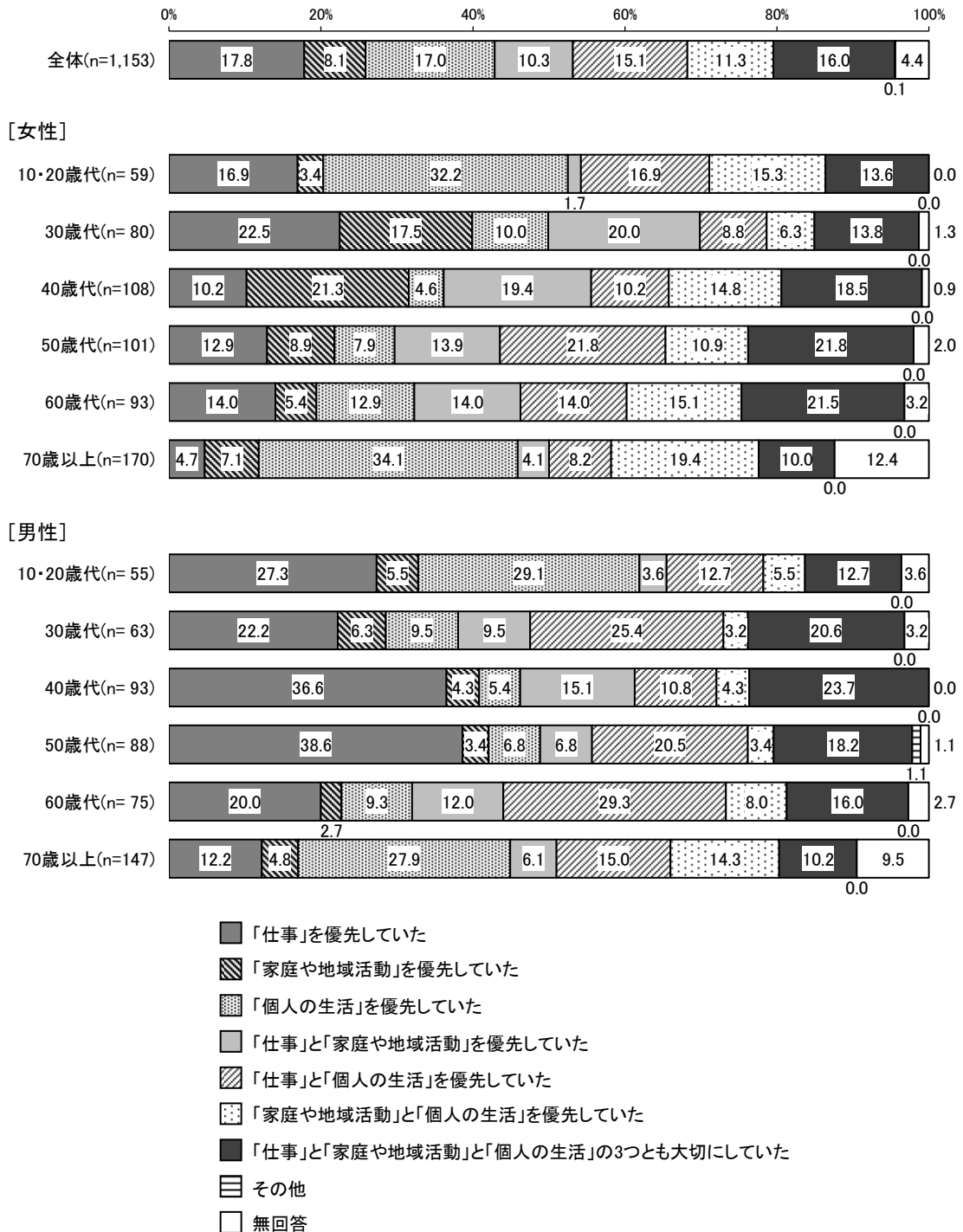
II 市民意識調査の結果

コロナ前の現実

コロナウイルス感染拡大前で、生活の中で優先していることについて年齢別にみると、女性では10・20歳代以下と70歳以上で『個人の生活』を優先していた、30歳代で『仕事』を優先していた、40歳代で『家庭や地域活動』を優先していたが最も高くなっている。

男性では10・20歳代と70歳以上で『個人の生活』を優先していた、30・60歳代で『仕事』と『個人の生活』を優先していた、40・50歳代で『仕事』を優先していたがそれぞれ最も高くなっており、年齢によって生活の実態が異なっている。

図 性年齢別 コロナ前に生活の中で優先していたこと

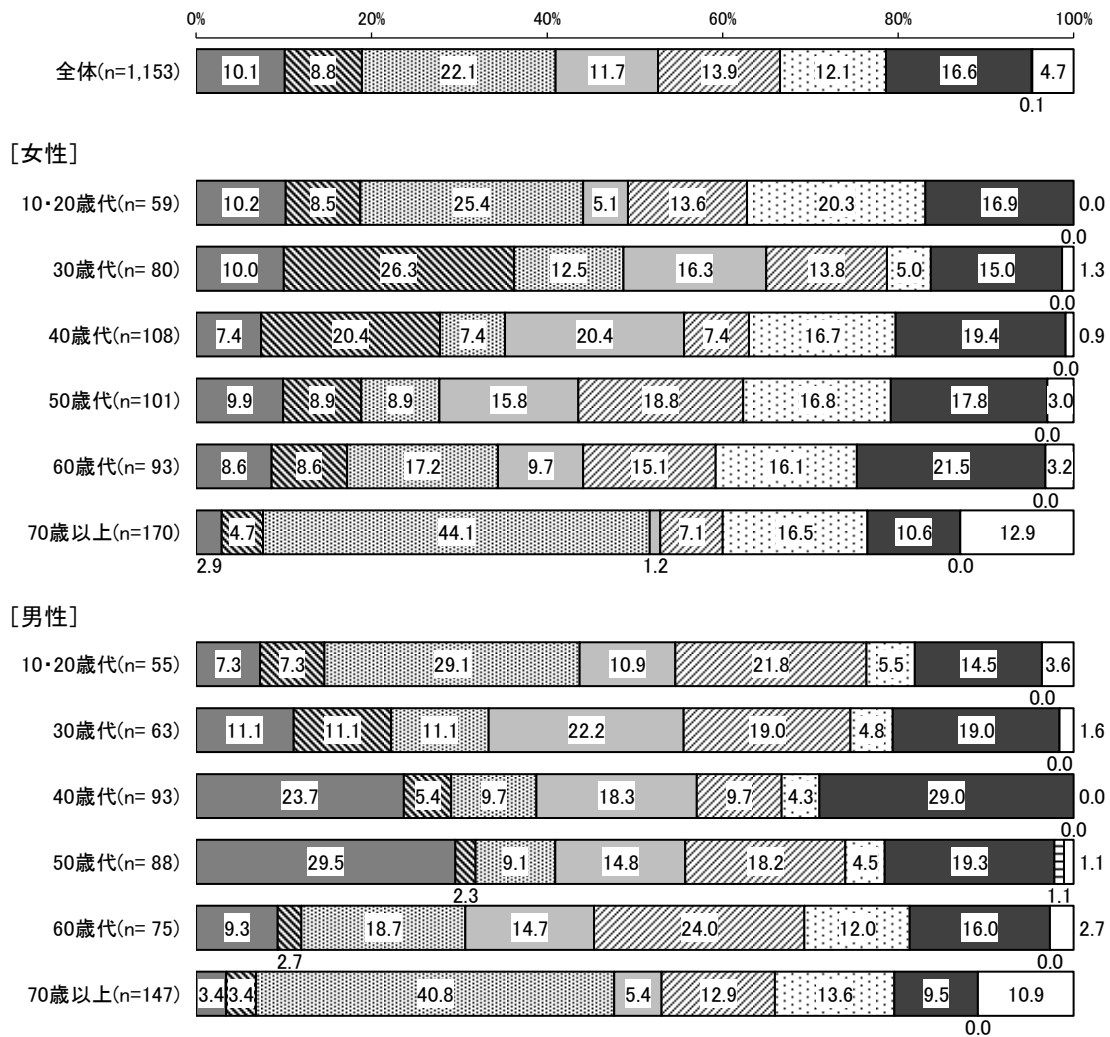


コロナ後の現実

コロナウイルス感染拡大後で、生活の中で優先していることについて年齢別にみると、女性では30歳代で『家庭や地域活動』を優先している、40歳代で『家庭や地域活動』を優先している」と『仕事』と『家庭や地域活動』を優先しているの両方、70歳以上で『個人の生活』を優先しているが最も高くなっている。

男性では30歳代で『仕事』と『家庭や地域活動』を優先しているが、40歳代で『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしている」、60歳代で『仕事』と『個人の生活』を優先しているが最も高くなっている。

図 性年齢別 コロナ後に生活の中で優先していること



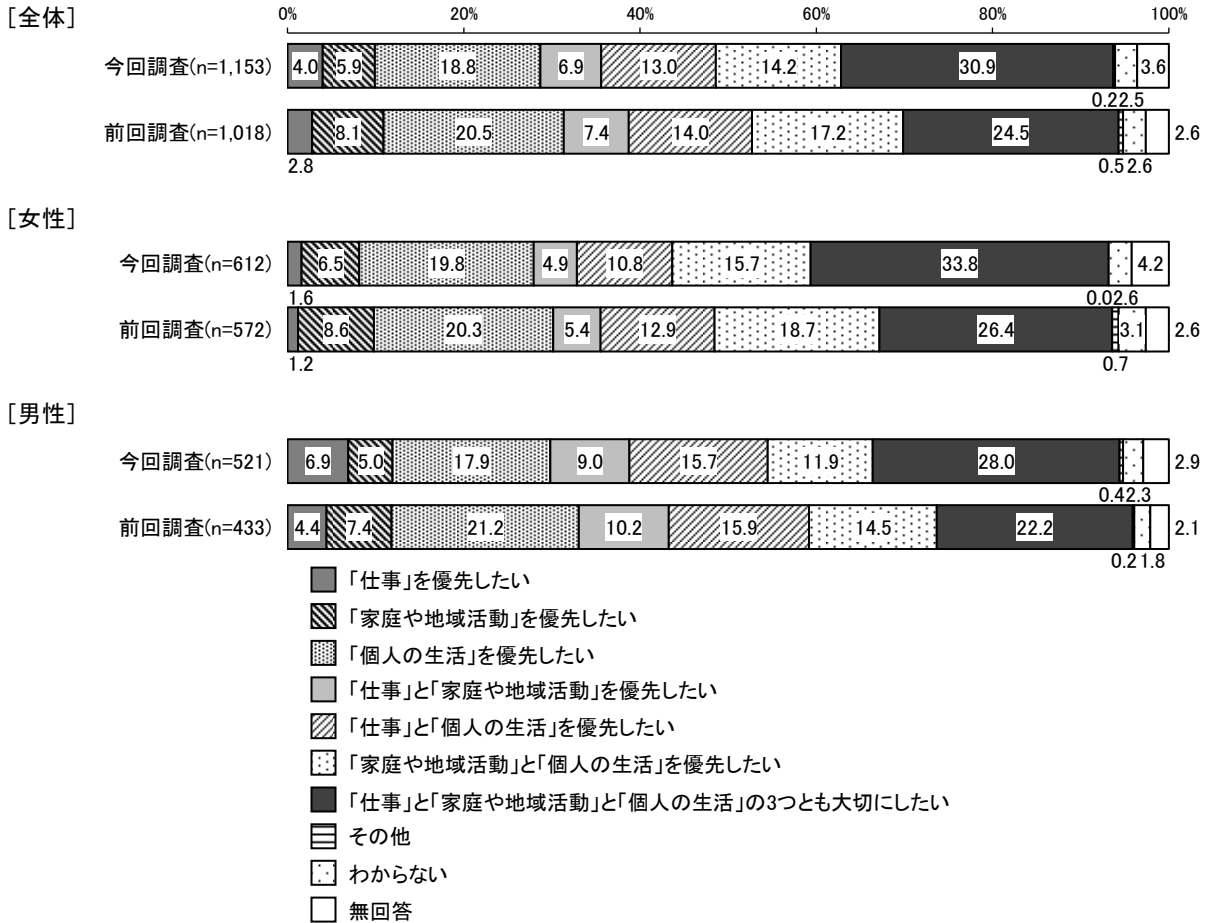
- 「仕事」を優先している
- ▨ 「家庭や地域活動」を優先している
- ▩ 「個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭や地域活動」を優先している
- ▨ 「仕事」と「個人の生活」を優先している
- ▩ 「家庭や地域活動」と「個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしている
- その他
- 無回答

II 市民意識調査の結果

■ 前回調査との比較

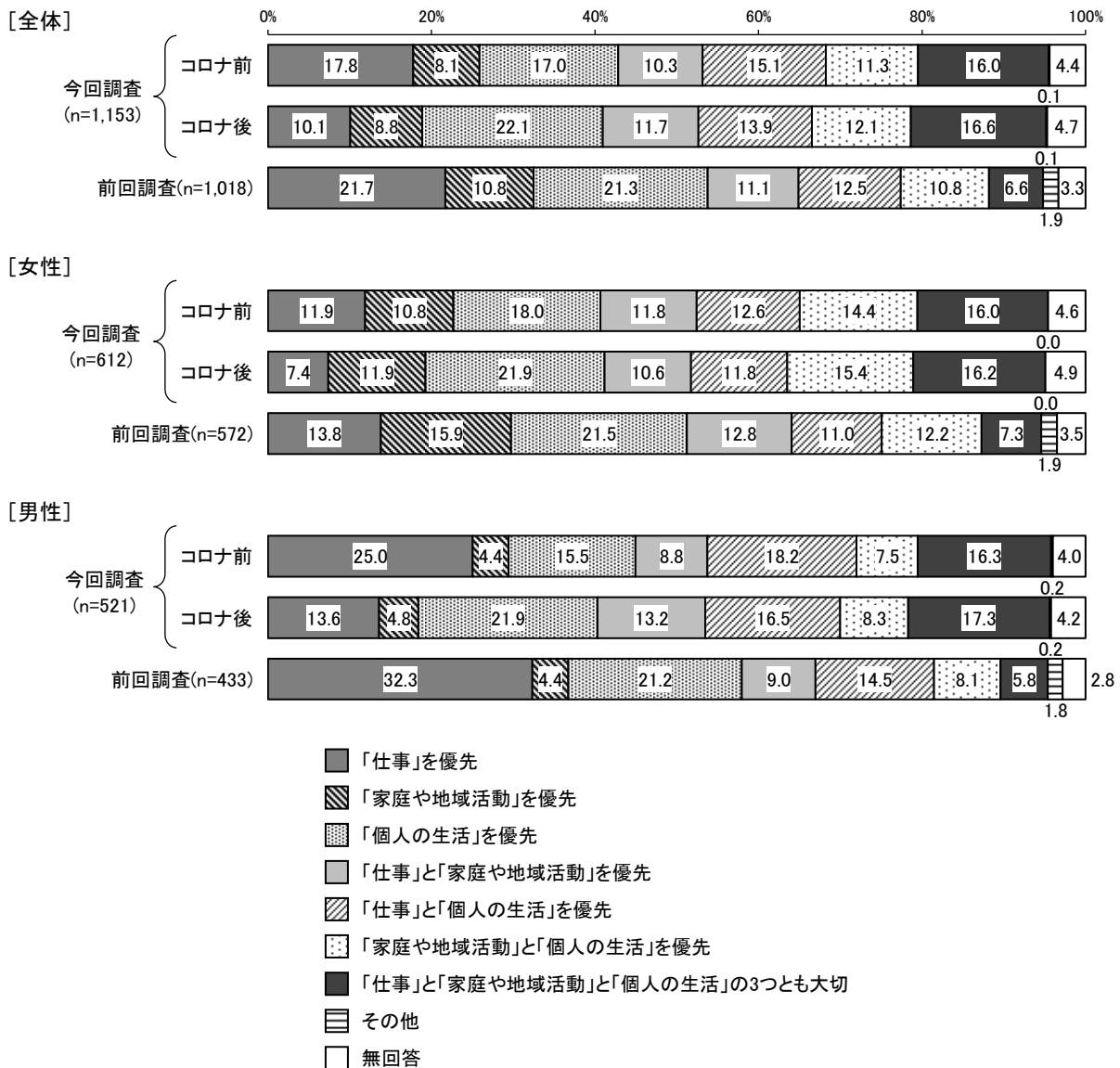
平成28年度に実施した前回調査と比較すると、生活の中で優先したいことについては、「『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしたい」が前回調査より6.4ポイント高くなっており、性別では女性で7.4ポイント、男性で5.8ポイント高くなっている。

図 性別 生活の中で優先したいこと(前回調査との比較)



生活の中で優先していることについては、前回調査よりも『仕事』を優先」の割合が低く、『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切」が高くなっている。特に『仕事』を優先」の変化は、男性の方が女性よりも顕著で、男性はコロナ前が7.3ポイント、コロナ後が18.7ポイント、前回調査より低くなっている。

図 性別 生活の中で優先していること(前回調査との比較)



II 市民意識調査の結果

(2) ワーク・ライフ・バランスの認知度

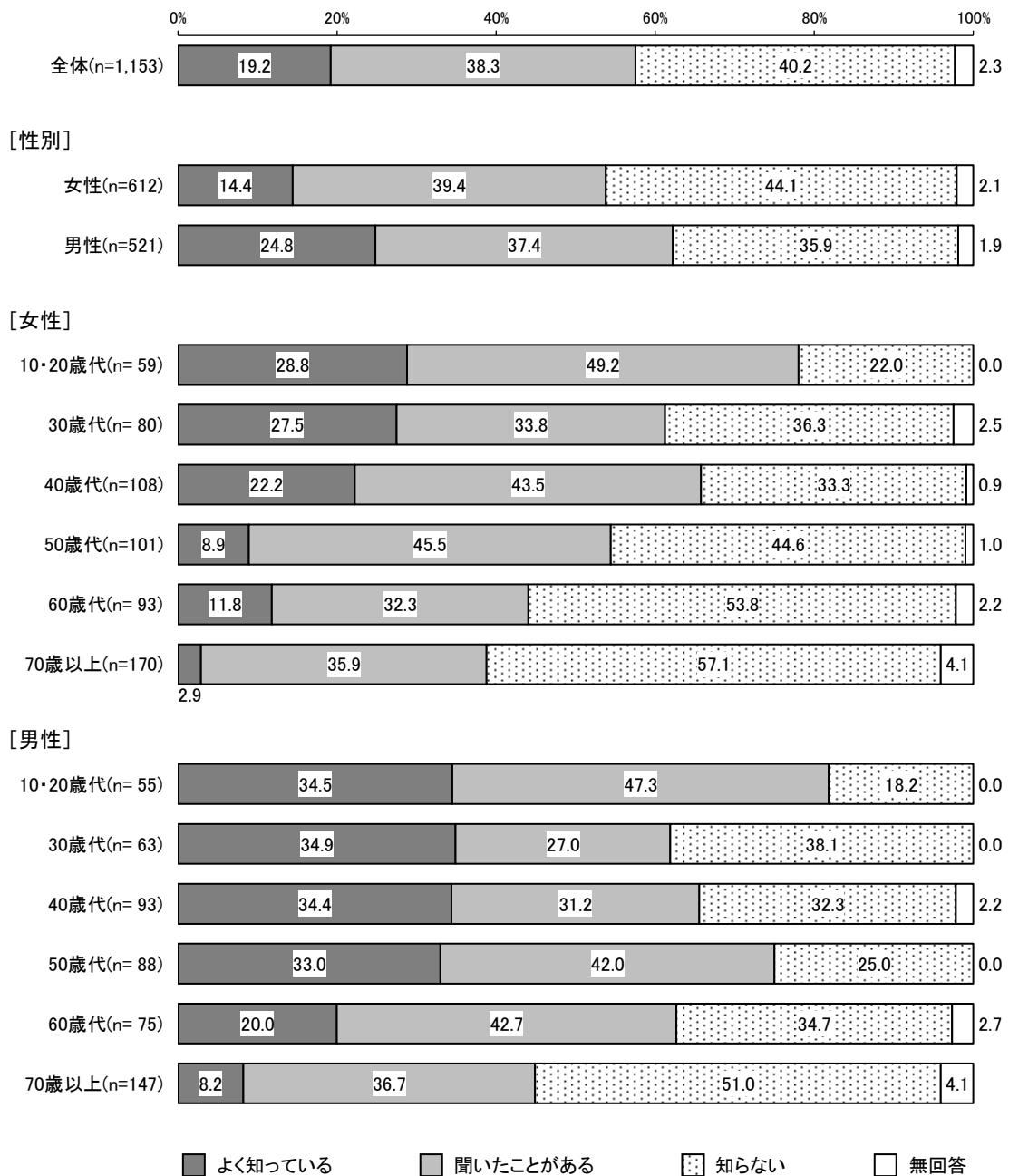
問11 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」について、どの程度知っていますか。
 (〇は1つ)

ワーク・ライフ・バランスの認知度についてたずねたところ、「知らない」が40.2%で最も高く、次いで「聞いたことがある」(38.3%)、「よく知っている」(19.2%)となっており、『聞いたことがある』(「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計)は57.5%となっている。

性別にみると、『聞いたことがある』は男性の方が8.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女とも10・20歳代で『聞いたことがある』の割合が高く、女性で78.0%、男性で81.8%となっている。また、男性の50歳代以下では「よく知っている」がいずれも3割以上と高くなっている。

図 性別、性年齢別 ワーク・ライフ・バランスの認知度



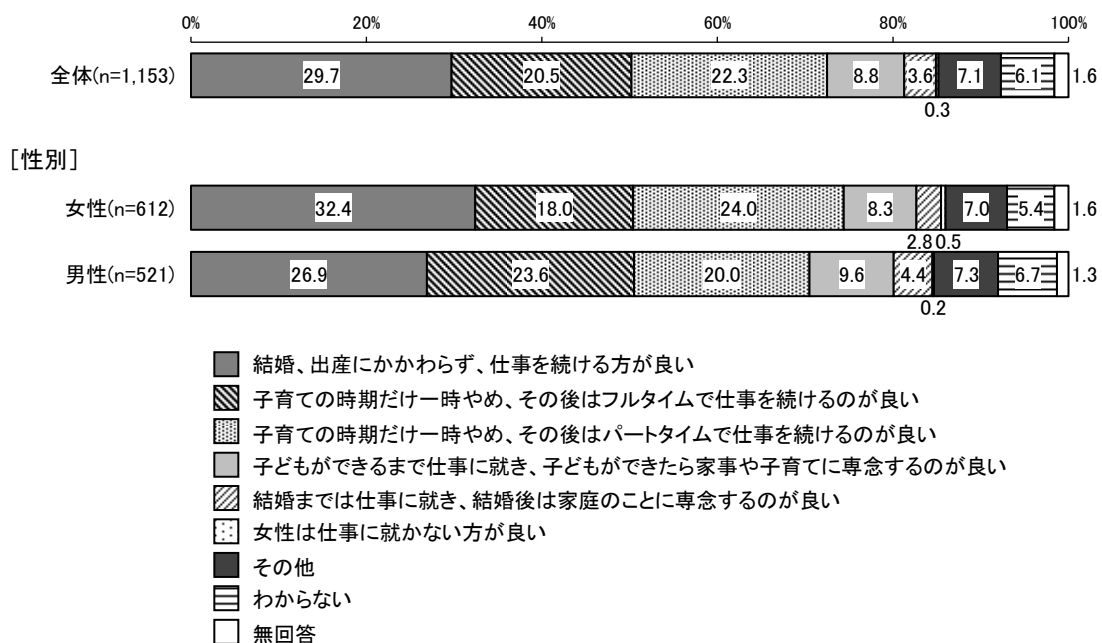
(3) 女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考え

問12 一般的なこととして、女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわりについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考えについてたずねたところ、「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い」が29.7%で最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けるのが良い」(22.3%)、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けるのが良い」(20.5%)、「子どもができるまで仕事に就き、子どもができたなら家事や子育てに専念するのが良い」(8.8%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い」で5.5ポイント、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けるのが良い」で4.0ポイントとそれぞれ高くなっている。

図 性別 女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考え

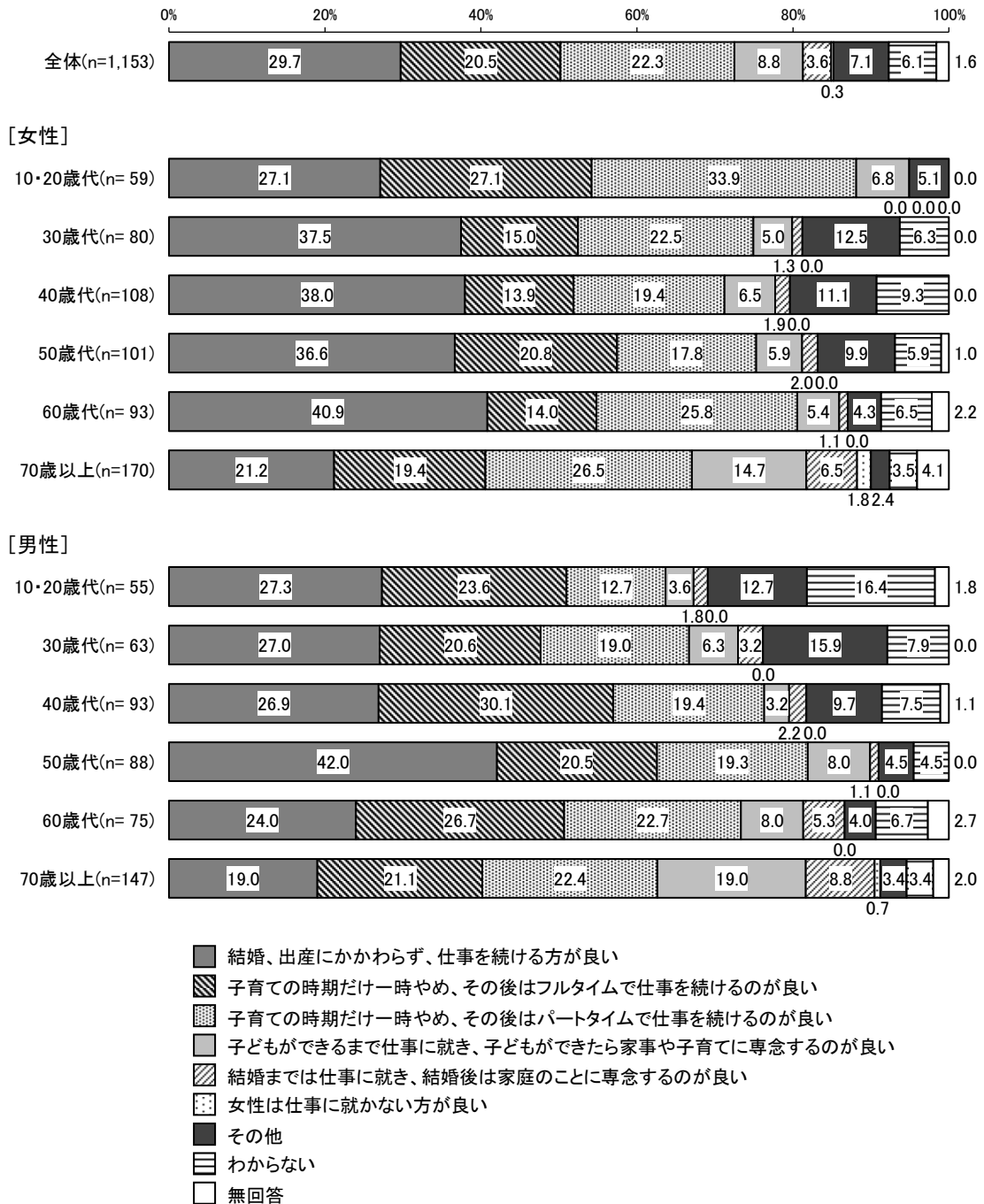


その他意見の要約			
本人の意思に任せる	40件	男女とも仕事と家庭が両立できる職場環境が整っていない	2件
家庭の状況に応じて選べばよい	23件	子育ての時期は、父母のどちらかが一時やめる	1件
どのような選択も自由に選べるのが重要	6件	夫婦で考え続けることが大切	1件
一概に言えない	3件	生活のために仕事を続けてきた	1件
無理のない範囲で選択するのがよい	2件	男女とも仕事と家庭が両立できる社会になればよい	1件
家庭の収入による	2件		

II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性では10・20歳代で「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けるのが良い」、30～60歳代で「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い」が他の年齢層と比べて高くなっている。男性では10・20歳代で「わからない」、50歳代で「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い」が他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性年齢別 女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考え



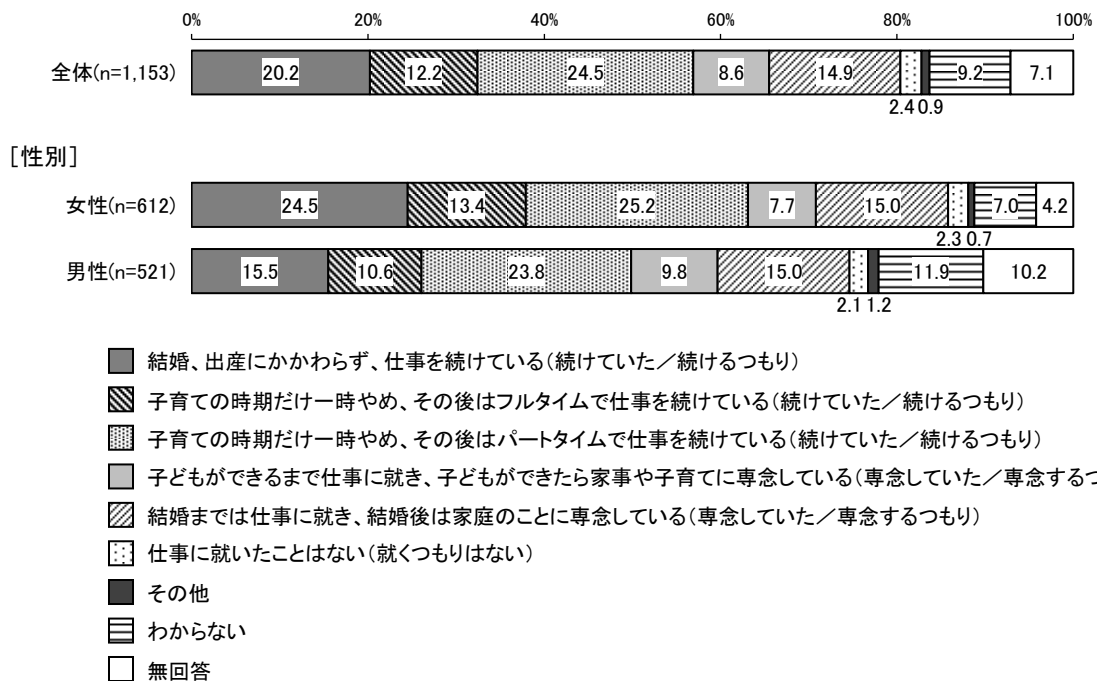
(4) 実際の女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方

問13 女性の方→ あなたの場合、実際の働き方は、どれにあたりますか。またはどのようにされるつもりですか。(○は1つ)
 男性の方→ あなたに配偶者・パートナーがいる場合、あなたの配偶者・パートナーの実際の働き方は、どれにあたりますか。またはどのようにされると思いますか。(○は1つ)

実際の女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についてたずねたところ、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事をしている(続けていた/続けるつもり)」が24.5%で最も高く、次いで「結婚、出産にかかわらず、仕事をしている(続けていた/続けるつもり)」(20.2%)、「結婚までは仕事に就き、結婚後は家庭のことに専念している(専念していた/専念するつもり)」(14.9%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「結婚、出産にかかわらず、仕事をしている(続けていた/続けるつもり)」が9.0ポイント高くなっている。

図 性別 実際の女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方

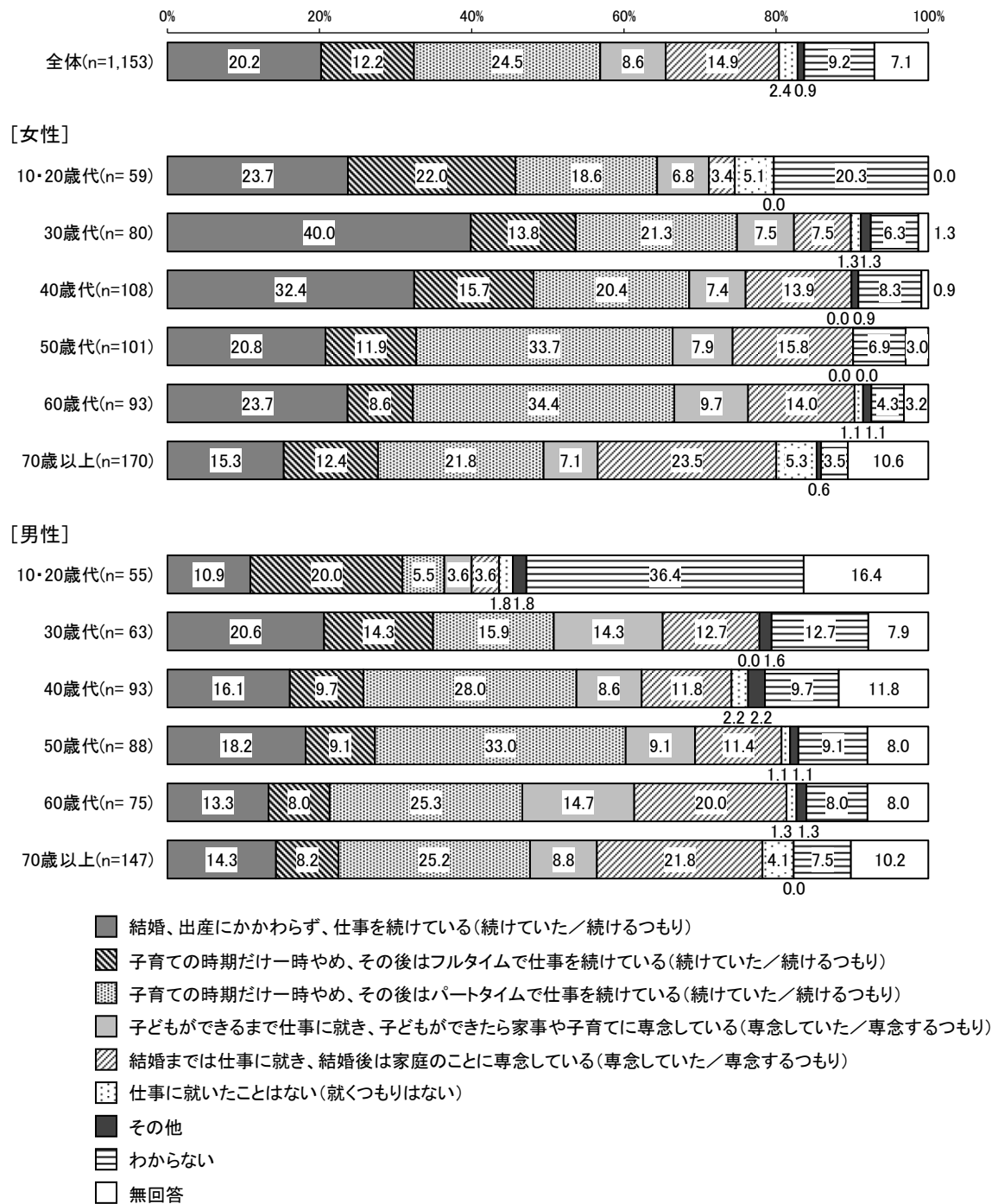


その他意見の要約			
その時々で考えて決めた	3件	病気のため退職した	1件
すでに退職した	2件	自分で仕事をしている	1件
時々、手伝いや内職をした	1件	転勤で仕事を諦めた	1件
一概には言えない	1件		

II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性では30・40歳代は「結婚、出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」、50・60歳代は「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」の割合が最も高くなっている。男性では30歳代で「結婚、出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」の割合が20.6%と高くなっている。男女とも10・20歳代では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり)」の割合が約2割、「わからない」が2割以上と高くなっている。

図 性年齢別 実際の女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方



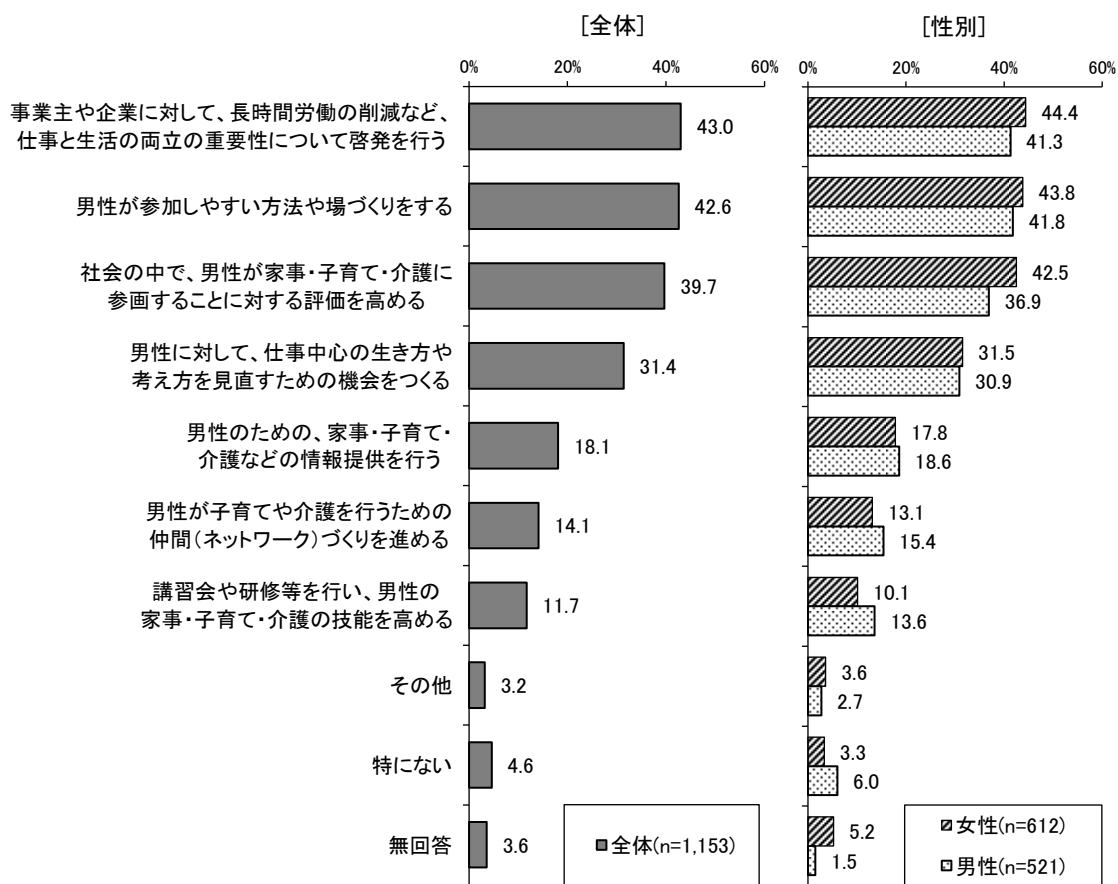
(5) 男性が家事子育てなどに積極的に参加していくために必要なこと

問14 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男性が家事子育てなどに積極的に参加していくために必要なことをたずねたところ、「事業主や企業に対して、長時間労働の削減など、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行う」が43.0%で最も高く、次いで「男性が参加しやすい方法や場づくりをする」(42.6%)、「社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める」(39.7%)、「男性に対して、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくる」(31.4%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める」が5.6ポイント高くなっている。

図 性別 男性が家事子育てなどに積極的に参加していくために必要なこと



その他意見の要約			
収入の維持・増加	6件	女性に対する意識啓発	2件
企業に対する法律・制度の強化	6件	企業の法令順守の徹底	1件
子どもの時からの意識づくり	5件	すべてを変える	1件
男性の家事育児参加を当然とする意識啓発	4件	周囲の人の意識	1件
男性が長時間労働しない社会	3件	性別にかかわらずフルタイムで働く人にかかわることである	1件
家庭の中での話し合い	3件	祖父母世代の意識啓発	1件
個人の考え方による	3件		

II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性では40歳代で「事業主や企業に対して、長時間労働の削減など、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行う」と「社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める」が高く、「男性が参加しやすい方法や場づくりをする」を含めた上位3項目はいずれも5割以上があげている。

男性では10・20歳代で「社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める」が52.7%、70歳以上で「講習会や研修等を行い、男性の家事・子育て・介護の技能を高める」が21.8%と高くなっている。

表 性年齢別 男性が家事子育てなどに積極的に参加していくために必要なこと

		回答者数(n)	事業主や企業に対して、長時間労働の削減など、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行う	男性が参加しやすい方法や場づくりをする	社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める	男性に対して、仕事中心の生き方や考え方を直すための機会をつくる	男性のための、家事・子育て・介護などの情報提供を行う	男性が子育てや介護を行うための仲間(ネットワーク)づくりを進める	講習会や研修等を行い、男性の家事・子育て・介護の技能を高める	その他	特になし	無回答	
全体		1,153	43.0	42.6	39.7	31.4	18.1	14.1	11.7	3.2	4.6	3.6	
性年齢別	女性												
	10・20歳代	59	39.0	52.5	33.9	35.6	27.1	20.3	20.3	1.7	3.4	-	
	30歳代	80	45.0	46.3	43.8	30.0	21.3	11.3	10.0	3.8	1.3	1.3	
	40歳代	108	56.5	50.0	50.0	29.6	12.0	11.1	5.6	4.6	0.9	0.9	
	50歳代	101	51.5	52.5	44.6	30.7	16.8	14.9	5.9	5.0	1.0	2.0	
	60歳代	93	50.5	46.2	41.9	40.9	14.0	9.7	5.4	6.5	4.3	1.1	
	70歳以上	170	31.2	29.4	39.4	27.6	19.4	13.5	14.7	1.2	6.5	15.3	
	男性												
	10・20歳代	55	40.0	41.8	52.7	27.3	21.8	20.0	9.1	3.6	3.6	-	
	30歳代	63	41.3	41.3	49.2	28.6	20.6	22.2	7.9	3.2	6.3	-	
40歳代	93	46.2	41.9	41.9	33.3	15.1	15.1	11.8	5.4	6.5	1.1		
50歳代	88	45.5	46.6	35.2	38.6	15.9	15.9	8.0	2.3	4.5	1.1		
60歳代	75	34.7	44.0	38.7	28.0	14.7	16.0	14.7	2.7	4.0	2.7		
70歳以上	147	39.5	38.1	22.4	28.6	22.4	10.2	21.8	0.7	8.2	2.7		

注)濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

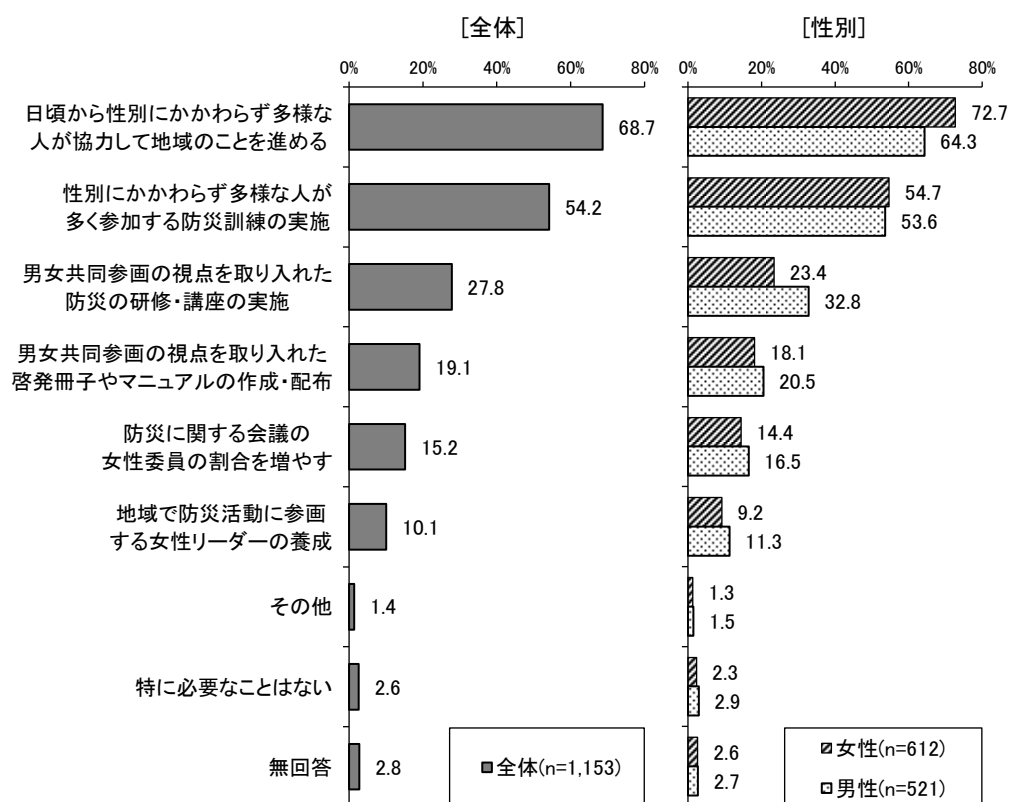
(6) 性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なこと

問15 災害時において、性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくためには、日頃からどのようなことを行っていく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なことをたずねたところ、「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」が68.7%で最も高く、次いで「性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施」(54.2%)、「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」(27.8%)、「男女共同参画の視点を取り入れた啓発冊子やマニュアルの作成・配布」(19.1%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」が8.4ポイント高く、男性の方が女性よりも「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」が9.4ポイント高くなっている。

図 性別 性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なこと



その他意見の要約			
近隣のつきあいを大切にする	3件	病人に配慮する	1件
多様な地域の人が参加する組織づくり	3件	子どもの登下校時の行動マニュアル	1件
オンラインを活用した研修	1件	日頃から災害用の備えをする	1件
ペット同行の避難所対応	1件	行政による防災計画の策定	1件
過剰な平等は必要でない	1件	障害者の視点を取り入れる	1件
医師の意見を取り入れる	1件		

II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性では「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」と「性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施」を全年齢層で5割以上があげている。また30歳代では「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」が21.3%で他の年齢層と比べて高くなっている。

男性では60歳代で「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」、40歳代以上で「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」、10・20・50歳代で「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」が、他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくために必要なこと

		回答者数(n)	日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める	性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施	男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施	男女共同参画の視点を取り入れた啓発冊子やマニュアルの作成・配布	防災に関する会議の女性委員の割合を増やす	地域で防災活動に参画する女性リーダーの養成	その他	特に必要なことはない	無回答
全体		1,153	68.7	54.2	27.8	19.1	15.2	10.1	1.4	2.6	2.8
性年齢別	10・20歳代	59	78.0	52.5	18.6	22.0	11.9	8.5	1.7	-	-
	30歳代	80	66.3	57.5	21.3	16.3	21.3	10.0	-	2.5	1.3
	40歳代	108	68.5	57.4	20.4	17.6	18.5	10.2	1.9	4.6	0.9
	50歳代	101	72.3	55.4	18.8	13.9	13.9	7.9	2.0	1.0	1.0
	60歳代	93	76.3	57.0	29.0	14.0	15.1	10.8	2.2	2.2	2.2
	70歳以上	170	74.7	50.6	27.6	22.9	8.8	8.2	0.6	2.4	6.5
	10・20歳代	55	52.7	49.1	27.3	20.0	21.8	10.9	-	7.3	-
	30歳代	63	58.7	46.0	25.4	23.8	17.5	17.5	1.6	1.6	3.2
	40歳代	93	62.4	57.0	34.4	20.4	11.8	11.8	2.2	4.3	2.2
	50歳代	88	63.6	54.5	31.8	14.8	25.0	8.0	-	4.5	-
	60歳代	75	76.0	54.7	36.0	24.0	13.3	9.3	2.7	-	2.7
	70歳以上	147	66.7	55.1	36.1	21.1	13.6	11.6	2.0	1.4	5.4

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

5. 男女の人権について

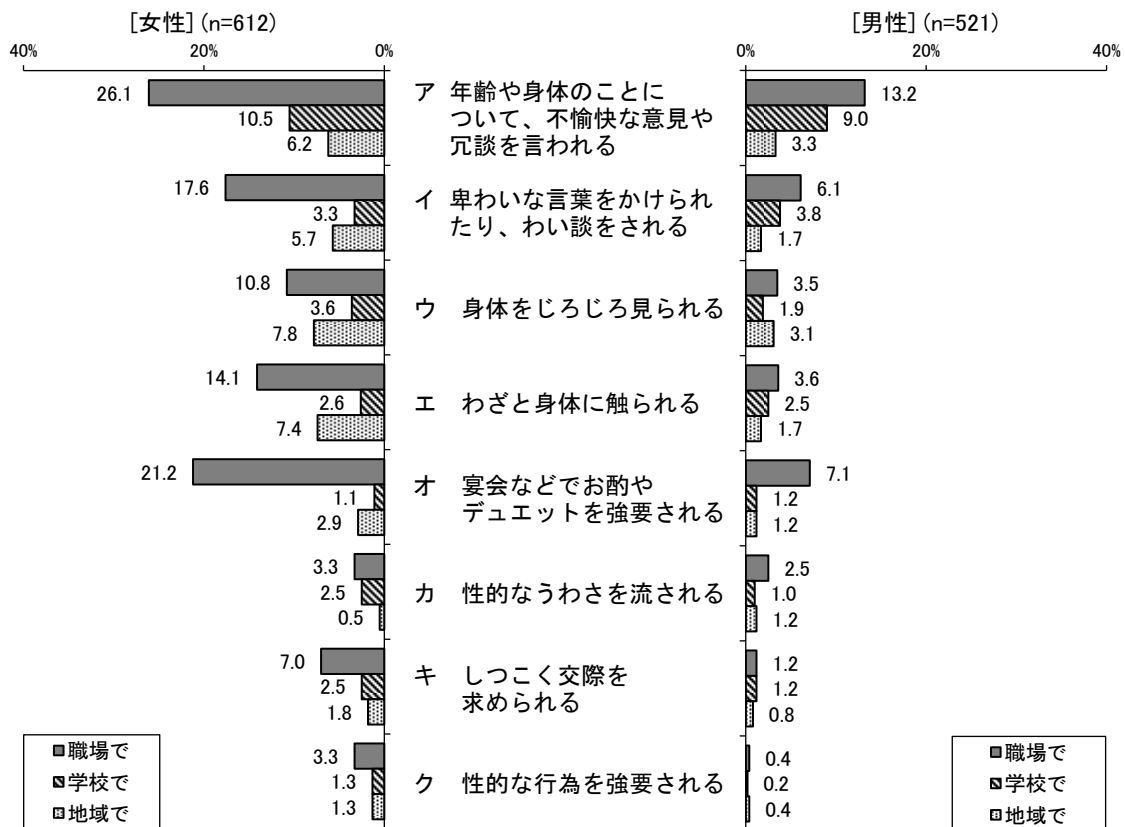
(1) セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

問16 セクシュアル・ハラスメントについておたずねします。あなたは、職場や学校、地域などで次のような行為をされたことがありますか。(〇はいくつでも)

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験をたずねたところ、女性では「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」「イ 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」が職場で、「ウ 身体をじろじろ見られる」「エ わざと身体に触られる」が職場と地域であったと答えた割合が高くなっている。

男性では「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」が職場と学校で、「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」が職場であったと答えた割合が高くなっている。

図 性別 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験



II 市民意識調査の結果

年齢別にみると、女性では30～50歳代が職場、10・20歳代が学校で「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」、30～50歳代が職場で「イ 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」、50歳代が職場、10・20歳代が地域で「ウ 身体をじろじろ見られる」、40・50歳代が職場、30歳代が地域で「エ わざと身体に触られる」、40～60歳代が職場で「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」が他の年齢層と比べて高くなっている。

男性では、30歳代が学校で「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」が他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

		回答者数(n)	ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる					イ 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる				
			職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答
全体		1,153	20.2	9.8	5.1	62.8	9.1	12.4	3.6	4.0	71.9	11.4
性年齢別	女性											
	10・20歳代	59	27.1	22.0	6.8	59.3	-	13.6	6.8	5.1	74.6	3.4
	30歳代	80	33.8	11.3	3.8	57.5	2.5	26.3	7.5	8.8	62.5	2.5
	40歳代	108	33.3	17.6	8.3	53.7	0.9	23.1	5.6	6.5	69.4	1.9
	50歳代	101	40.6	8.9	5.9	48.5	5.0	29.7	3.0	5.9	56.4	7.9
	60歳代	93	26.9	5.4	5.4	60.2	7.5	17.2	1.1	5.4	67.7	10.8
	70歳以上	170	8.8	5.3	6.5	61.2	19.4	4.7	-	4.1	65.3	25.9
男性												
10・20歳代	55	7.3	14.5	3.6	76.4	3.6	-	9.1	-	87.3	3.6	
30歳代	63	19.0	20.6	4.8	71.4	-	9.5	11.1	1.6	82.5	-	
40歳代	93	23.7	15.1	3.2	67.7	2.2	14.0	3.2	2.2	84.9	1.1	
50歳代	88	13.6	5.7	3.4	77.3	3.4	5.7	4.5	2.3	88.6	4.5	
60歳代	75	14.7	5.3	1.3	72.0	9.3	2.7	1.3	1.3	86.7	10.7	
70歳以上	147	5.4	2.0	3.4	62.6	27.2	4.1	-	2.0	63.3	31.3	

		回答者数(n)	ウ 身体をじろじろ見られる					エ わざと身体に触られる				
			職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答
全体		1,153	7.5	2.9	6.0	75.4	11.8	9.2	2.6	4.8	74.7	10.8
性年齢別	女性											
	10・20歳代	59	10.2	1.7	18.6	66.1	3.4	8.5	5.1	8.5	78.0	1.7
	30歳代	80	12.5	6.3	8.8	73.8	2.5	12.5	5.0	15.0	72.5	2.5
	40歳代	108	13.9	6.5	8.3	76.9	2.8	20.4	4.6	7.4	72.2	2.8
	50歳代	101	20.8	4.0	5.9	66.3	8.9	19.8	2.0	5.0	69.3	5.0
	60歳代	93	8.6	3.2	7.5	74.2	9.7	17.2	2.2	5.4	66.7	8.6
	70歳以上	170	3.5	1.2	4.7	65.3	26.5	7.6	-	5.9	63.5	23.5
男性												
10・20歳代	55	1.8	1.8	3.6	92.7	3.6	-	7.3	5.5	85.5	3.6	
30歳代	63	1.6	1.6	1.6	96.8	-	3.2	3.2	1.6	92.1	-	
40歳代	93	7.5	5.4	6.5	84.9	2.2	10.8	4.3	2.2	82.8	2.2	
50歳代	88	3.4	1.1	2.3	90.9	4.5	2.3	2.3	1.1	93.2	4.5	
60歳代	75	4.0	1.3	1.3	84.0	12.0	1.3	-	-	86.7	12.0	
70歳以上	147	2.0	0.7	2.7	64.6	30.6	2.7	0.7	1.4	64.6	31.3	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

		回答者数(n)	オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される					カ 性的なうわさを流される					
			職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	
全体		1,153	14.8	1.1	2.2	71.6	11.8	2.9	1.9	0.8	83.3	12.1	
性年齢別	女性	10・20歳代	59	16.9	5.1	3.4	76.3	3.4	1.7	8.5	-	86.4	3.4
	30歳代	80	23.8	2.5	-	71.3	5.0	8.8	5.0	2.5	85.0	2.5	
	40歳代	108	29.6	1.9	5.6	64.8	2.8	5.6	3.7	0.9	88.9	2.8	
	50歳代	101	30.7	-	2.0	59.4	7.9	3.0	2.0	-	85.1	10.9	
	60歳代	93	25.8	-	1.1	65.6	8.6	3.2	-	-	86.0	10.8	
	70歳以上	170	8.2	-	4.1	62.4	25.9	-	-	-	73.5	26.5	
	男性	10・20歳代	55	9.1	-	-	87.3	3.6	-	1.8	-	94.5	3.6
30歳代	63	7.9	3.2	4.8	87.3	-	4.8	3.2	1.6	93.7	-		
40歳代	93	11.8	3.2	-	82.8	2.2	1.1	-	3.2	93.5	2.2		
50歳代	88	9.1	1.1	1.1	87.5	3.4	4.5	2.3	2.3	89.8	4.5		
60歳代	75	4.0	-	2.7	80.0	13.3	4.0	-	-	82.7	13.3		
70歳以上	147	3.4	-	-	64.6	32.0	1.4	-	-	67.3	31.3		

		回答者数(n)	キ しつこく交際を求められる					ク 性的な行為を強要される					
			職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	職場で	学校で	地域で	い 受けたことがな	無回答	
全体		1,153	4.3	1.9	1.3	81.3	12.2	1.9	0.8	1.0	84.6	12.4	
性年齢別	女性	10・20歳代	59	10.2	6.8	5.1	78.0	3.4	3.4	5.1	6.8	84.7	3.4
	30歳代	80	11.3	5.0	-	85.0	2.5	6.3	2.5	1.3	88.8	3.8	
	40歳代	108	9.3	3.7	3.7	80.6	4.6	2.8	2.8	-	90.7	3.7	
	50歳代	101	12.9	2.0	3.0	74.3	9.9	5.0	-	1.0	83.2	10.9	
	60歳代	93	2.2	-	-	86.0	11.8	2.2	-	2.2	84.9	11.8	
	70歳以上	170	1.8	0.6	0.6	71.8	25.3	1.8	-	-	71.8	26.5	
	男性	10・20歳代	55	-	1.8	-	94.5	3.6	-	-	-	96.4	3.6
30歳代	63	1.6	-	1.6	96.8	-	-	-	-	100.0	-		
40歳代	93	3.2	3.2	-	91.4	3.2	-	-	-	97.8	2.2		
50歳代	88	1.1	2.3	1.1	93.2	4.5	1.1	1.1	2.3	93.2	4.5		
60歳代	75	-	-	-	86.7	13.3	-	-	-	86.7	13.3		
70歳以上	147	0.7	-	1.4	66.7	31.3	0.7	-	-	68.0	31.3		

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

II 市民意識調査の結果

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、女性では職場で「ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」と「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」が、前回調査より10ポイント以上高くなっている。男性では職場で「オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される」が、前回調査より4.8ポイント高くなっている。男女とも職場、学校ではすべての項目で前回調査より割合が高くなっている。

図 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験(前回調査との比較) — 女性

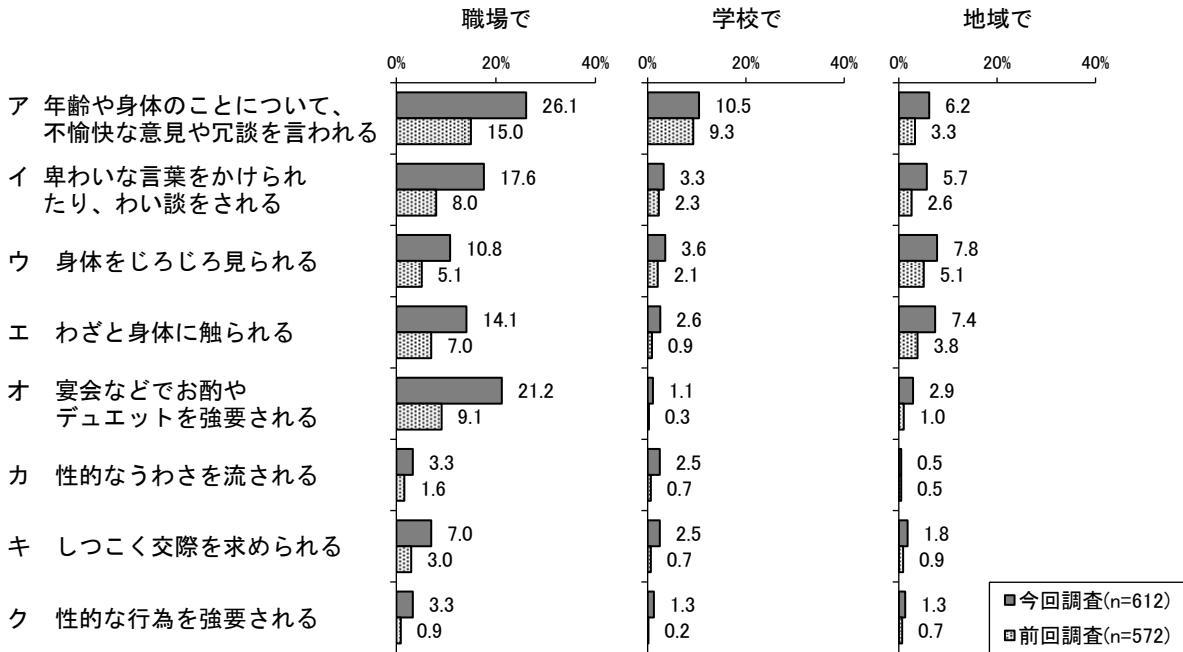
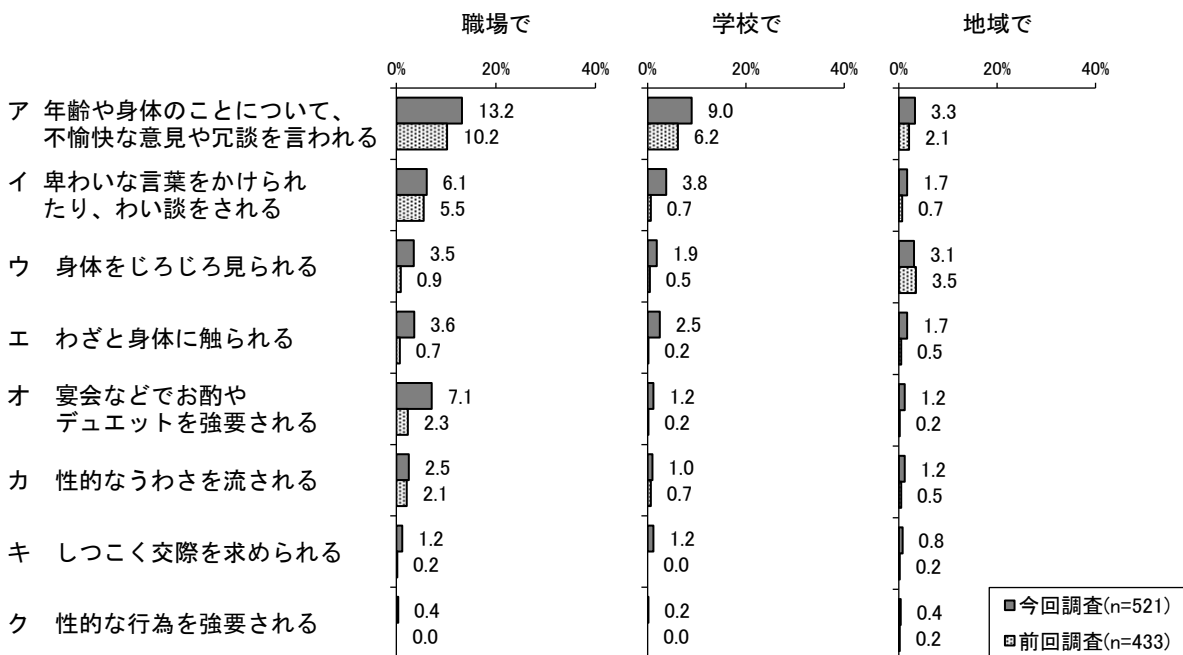


図 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験(前回調査との比較) — 男性

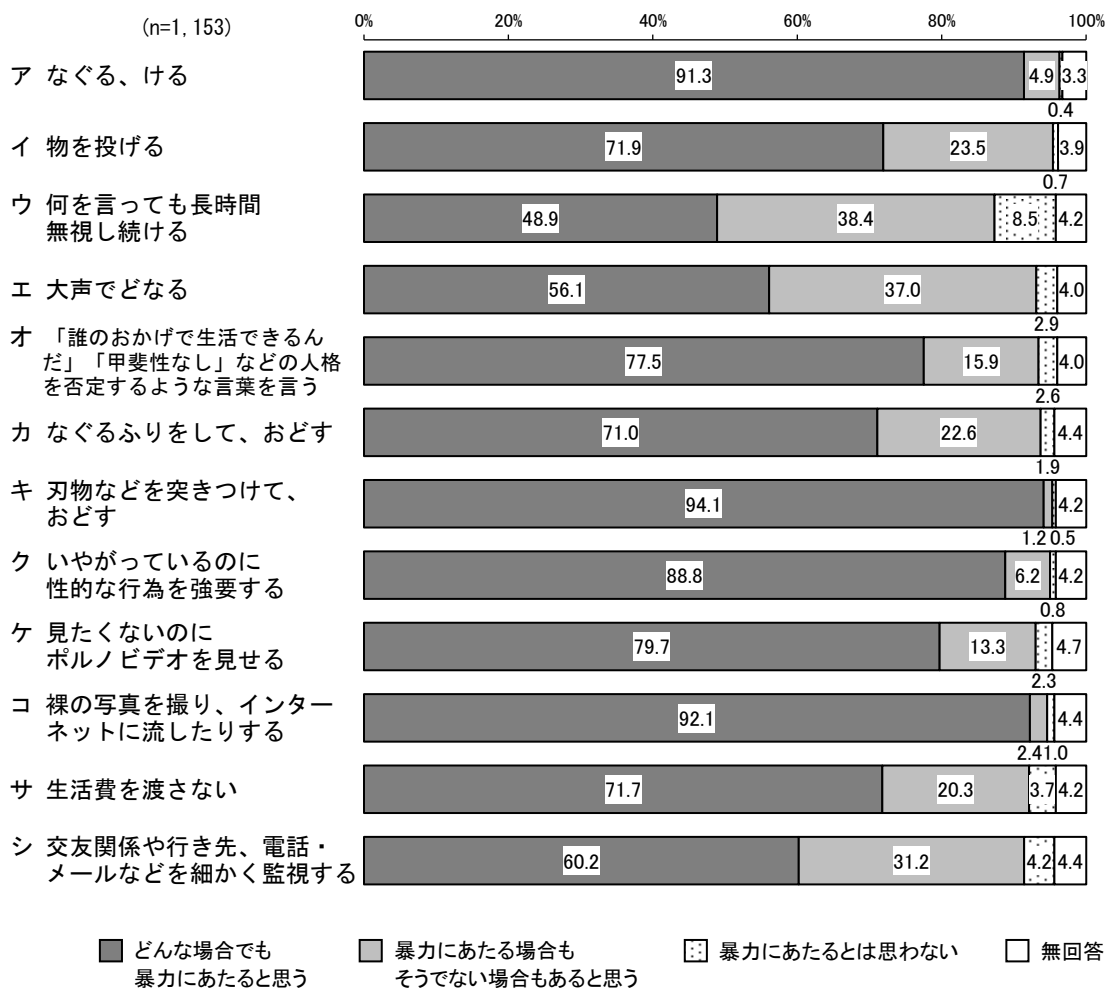


(2) 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと

問17 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、暴力だと思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うことについてたずねたところ、「ア なぐる、ける」「キ 刃物などを突きつけて、おどす」「コ 裸の写真を撮り、インターネットに流したりする」は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割以上と高くなっている。一方で、「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」では「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が他の項目と比較して高く、3割以上となっている。

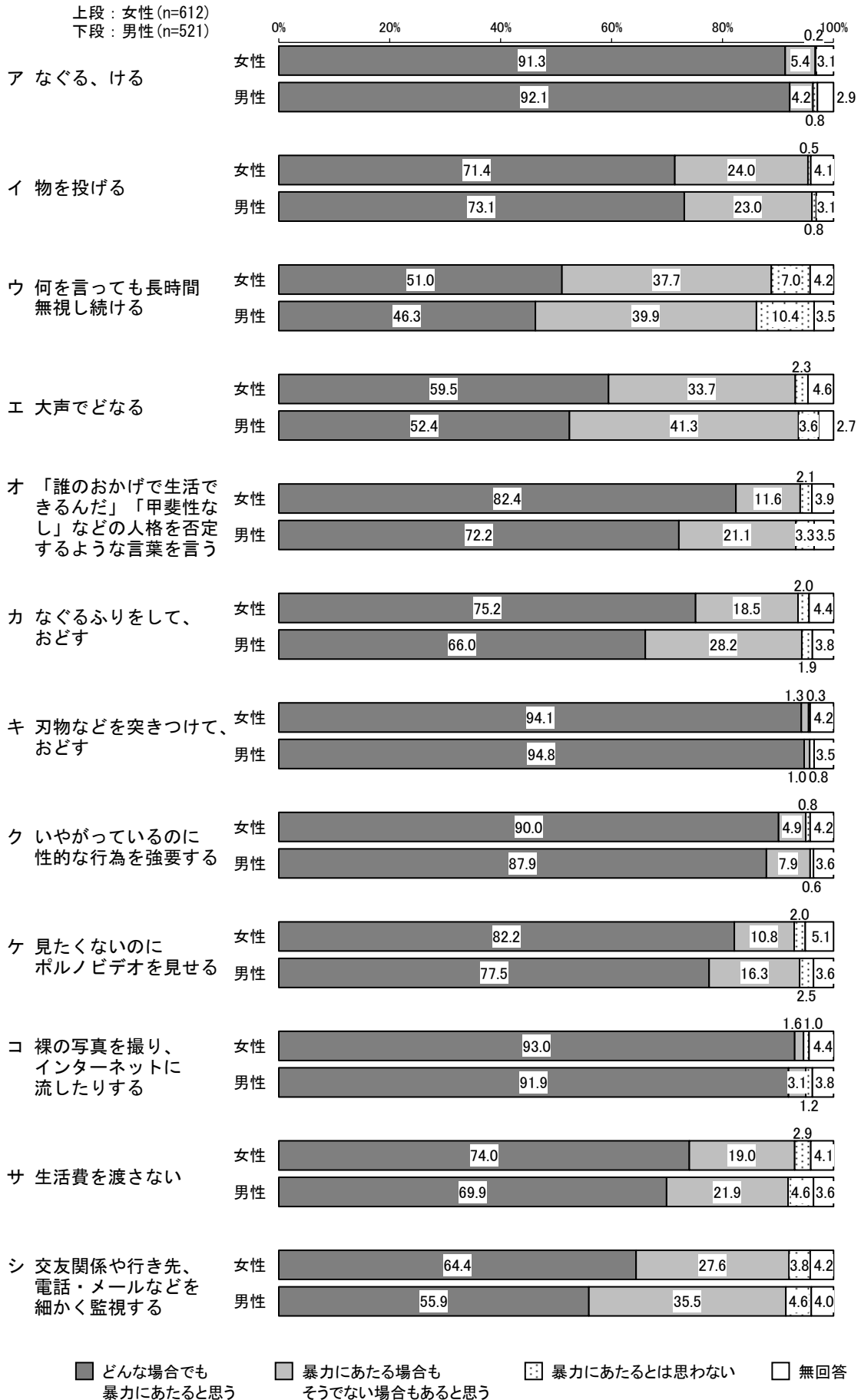
図 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと



性別にみると、「ア なぐる、ける」「イ 物を投げる」「キ 刃物などを突きつけて、おどす」は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が男女でほぼ同率で、それ以外の項目は女性の方が男性よりも高くなっている。特に「オ 『誰のおかげで生活できるんだ』『甲斐性なし』などの人格を否定するような言葉を言う」と「カ なぐるふりをして、おどす」で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える割合は、女性の方が男性よりも10ポイント前後高くなっている。

II 市民意識調査の結果

図 性別 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと



「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合を、年齢別にみると、女性では10～40歳代で「カ なぐるふりをして、おどす」、10・20歳代で「ケ 見たくないのにポルノビデオを見せる」、50歳代で「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「オ 『誰のおかげで生活できるんだ』『甲斐性なし』などの人格を否定するような言葉を使う」、60歳代で「シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」が他の年齢層と比べて高くなっている。一方、70歳以上で「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「カ なぐるふりをして、おどす」、10・20歳代で「サ 生活費を渡さない」が他の年齢層と比べて低くなっている。

男性では、10・20歳代で「ケ 見たくないのにポルノビデオを見せる」が他の年齢層と比べて高くなっており、70歳以上で「カ なぐるふりをして、おどす」「ケ 見たくないのにポルノビデオを見せる」が他の年齢層と比べて低くなっている。

表 性年齢別 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと
 ー 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合

		回答者数(n)	ア なぐる、ける	イ 物を投げる	ウ 何を言っても長時間無視し続ける	エ 大声でどなる	オ 「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」などの人格を否定するような言葉を使う	カ なぐるふりをして、おどす	キ 刃物などを突きつけて、おどす	ク いやがっているのに性的な行為を強要する	ケ 見たくないのにポルノビデオを見せる	コ 裸の写真を撮り、インターネットに流したりする	サ 生活費を渡さない	シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	
全体		1,153	91.3	71.9	48.9	56.1	77.5	71.0	94.1	88.8	79.7	92.1	71.7	60.2	
性年齢別	女性	10・20歳代	59	91.5	74.6	54.2	57.6	86.4	88.1	96.6	89.8	91.5	94.9	61.0	55.9
		30歳代	80	93.8	73.8	55.0	62.5	82.5	82.5	91.3	91.3	85.0	91.3	76.3	65.0
		40歳代	108	97.2	72.2	55.6	62.0	87.0	84.3	99.1	92.6	85.2	98.1	76.9	66.7
		50歳代	101	96.0	71.3	61.4	67.3	88.1	80.2	100.0	100.0	89.1	100.0	80.2	68.3
		60歳代	93	91.4	68.8	50.5	65.6	86.0	78.5	94.6	91.4	86.0	95.7	78.5	73.1
		70歳以上	170	84.1	70.6	39.4	49.4	72.9	57.1	88.2	81.8	70.0	84.7	70.0	58.8
		男性	10・20歳代	55	94.5	70.9	56.4	49.1	80.0	78.2	98.2	94.5	90.9	94.5	70.9
	30歳代		63	92.1	69.8	44.4	46.0	71.4	77.8	96.8	87.3	84.1	93.7	71.4	49.2
	40歳代		93	91.4	74.2	45.2	57.0	77.4	69.9	96.8	93.5	79.6	92.5	65.6	50.5
	50歳代		88	94.3	76.1	58.0	56.8	79.5	72.7	95.5	92.0	80.7	95.5	76.1	67.0
	60歳代		75	96.0	69.3	41.3	58.7	69.3	65.3	97.3	90.7	78.7	97.3	74.7	58.7
	70歳以上		147	88.4	74.8	39.5	47.6	63.3	50.3	89.8	78.2	66.0	85.0	65.3	52.4

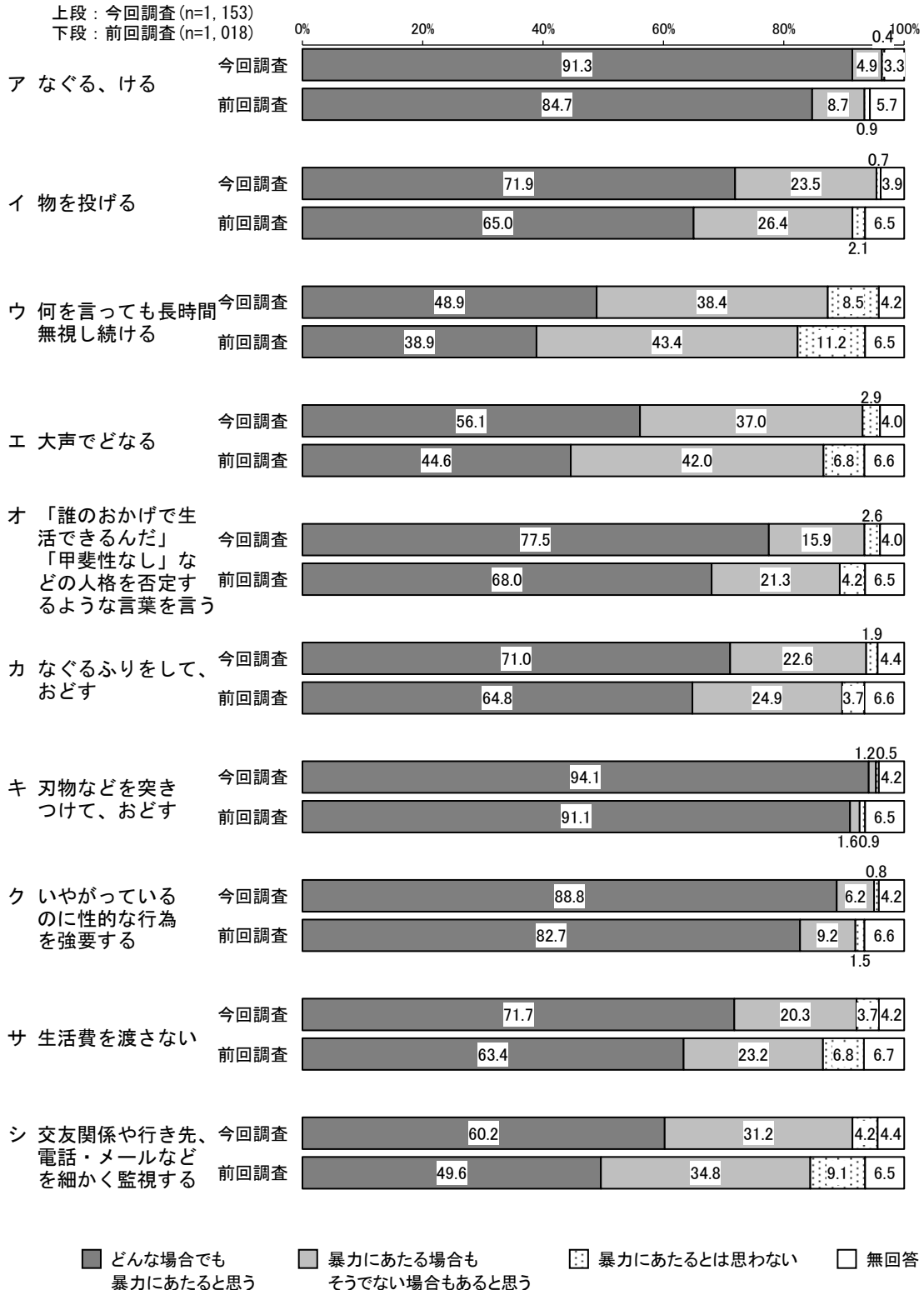
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

II 市民意識調査の結果

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、すべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が前回調査よりも高くなっている。特に「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」は、前回調査よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が10ポイント以上高くなっている。

図 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと(前回調査との比較)



(3) 交際相手の有無

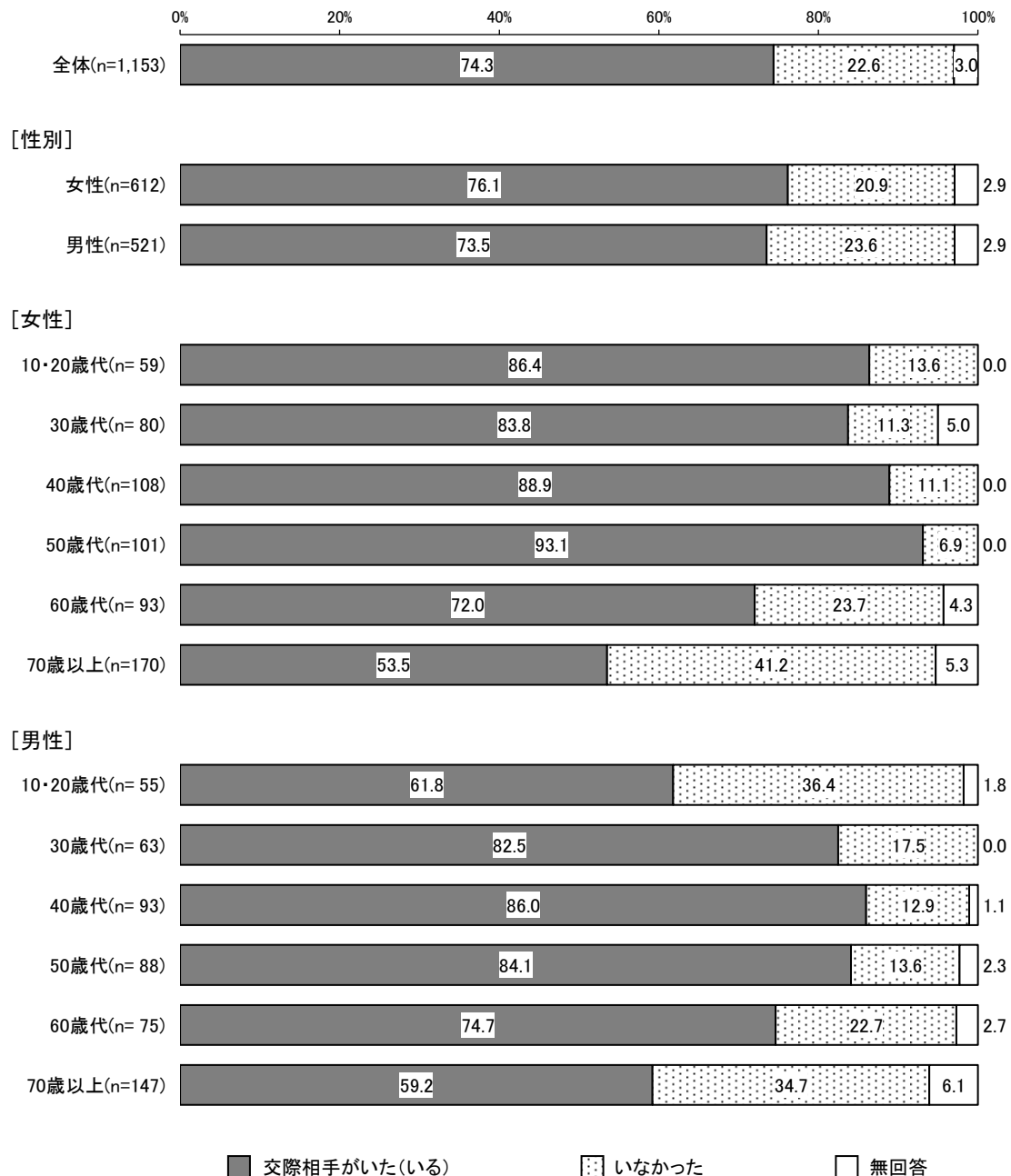
問18 あなたは、これまでに交際相手がありましたか。(結婚している方は結婚前について) (○は1つ)

交際相手の有無についてたずねたところ、「交際相手があった(いる)」が74.3%、「いなかった」が22.6%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「交際相手があった(いる)」の割合がやや高くなっている。

年齢別にみると、10・20歳代では「いなかった」が女性で13.6%、男性で36.4%となっている。

図 性別、性年齢別 交際相手の有無



II 市民意識調査の結果

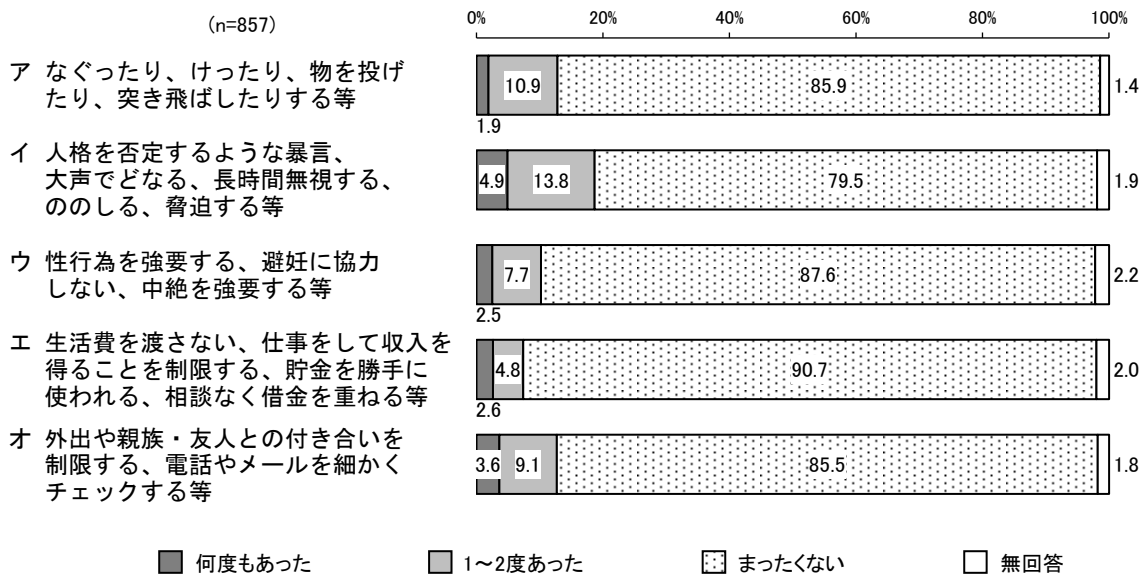
(4) 交際相手からの暴力の有無

《交際相手のいた(いる)方におたずねします。》

問19 これまでに交際相手が、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

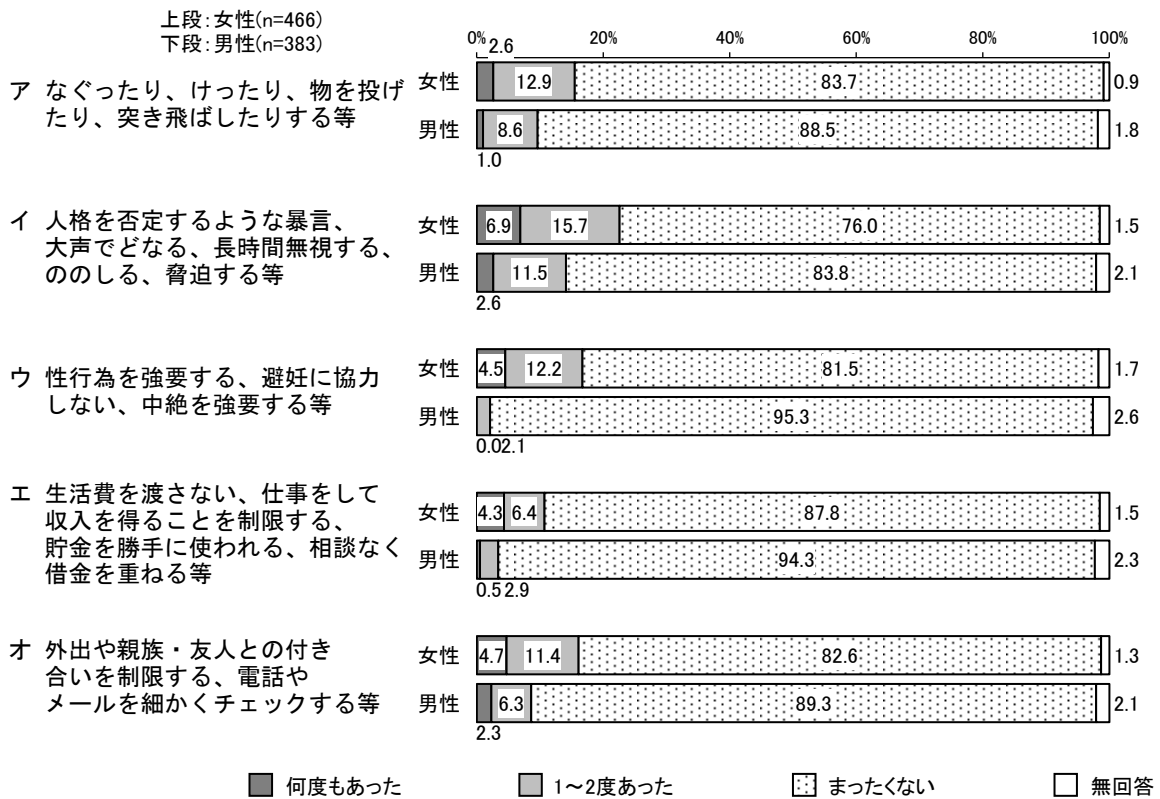
交際相手からの暴力の有無についてたずねたところ、『あった』(「何度もあった」と「1~2度あった」の合計)は「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」で18.7%、「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」で12.8%、「オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等」で12.7%、「ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等」で10.2%、「エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等」で7.4%となっている。

図 交際相手からの暴力の有無



性別にみると、いずれの項目でも『あった』の割合は女性の方が高くなっており、特に「ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等」は男性よりも14.6ポイント高くなっている。

図 性別 交際相手からの暴力の有無



II 市民意識調査の結果

年齢別に『あった』の割合をみると、女性の30歳代で「ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等」、女性の40・50歳代で「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」と「オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等」、女性の50歳代で「エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等」が他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 交際相手からの暴力の有無 — 「何度もあった」と「1～2度あった」の計

		回答者数(n)	ア なぐったり、けつたり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等	イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等	ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等	エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等	オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等
全体		857	12.8	18.7	10.2	7.4	12.7
性年齢別	10・20歳代	51	11.8	11.7	19.6	5.9	9.8
	30歳代	67	17.9	25.4	28.4	6.0	20.9
	40歳代	96	18.8	31.3	19.8	12.5	22.9
	50歳代	94	20.2	28.7	13.8	18.0	23.4
	60歳代	67	12.0	16.5	14.9	9.0	9.0
	70歳以上	91	9.9	15.4	7.7	8.8	6.6
	男性	10・20歳代	34	8.8	5.9	-	-
30歳代	52	15.3	19.3	1.9	1.9	11.5	
40歳代	80	11.3	17.5	2.5	6.3	8.8	
50歳代	74	14.9	21.7	4.1	4.1	10.9	
60歳代	56	5.4	10.7	-	3.6	5.4	
70歳以上	87	3.4	6.9	2.3	2.3	4.6	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

(5)「デートDV」の認知度

《全員におたずねします。》

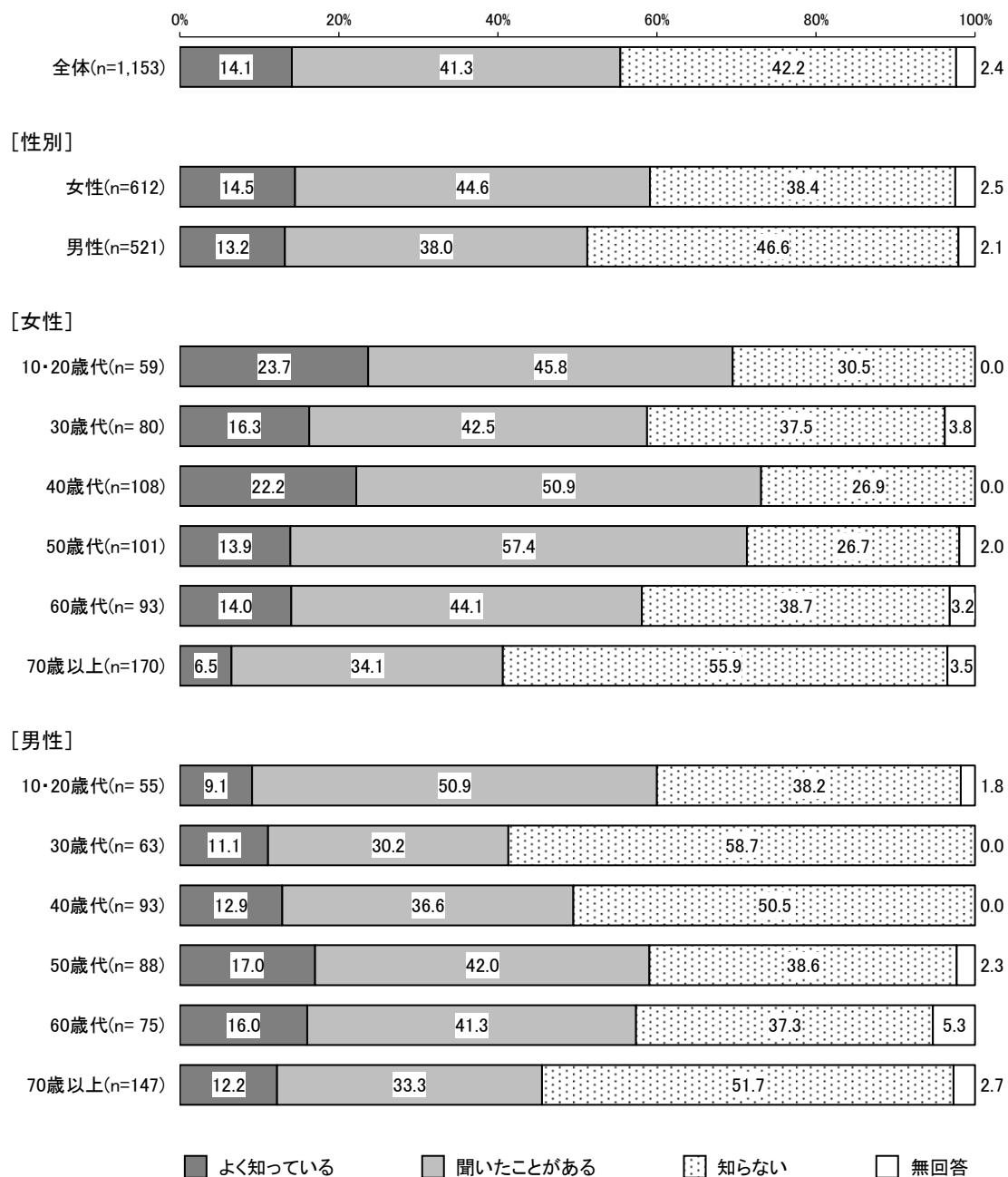
問20 あなたは、「デートDV」について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

「デートDV」の認知度についてたずねたところ、「知らない」が42.2%で最も高く、次いで「聞いたことがある」(41.3%)、「よく知っている」(14.1%)となっており、『聞いたことがある』(「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計)は55.4%となっている。

性別にみると、『聞いたことがある』は女性の方が男性よりも7.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性の40・50歳代では『聞いたことがある』の割合が7割以上と高くなっている。男性では30歳代で『聞いたことがある』の割合が41.3%と他の年齢層と比べて低くなっている。

図 性別、性年齢別「デートDV」の認知度



II 市民意識調査の結果

(6) 配偶者の有無

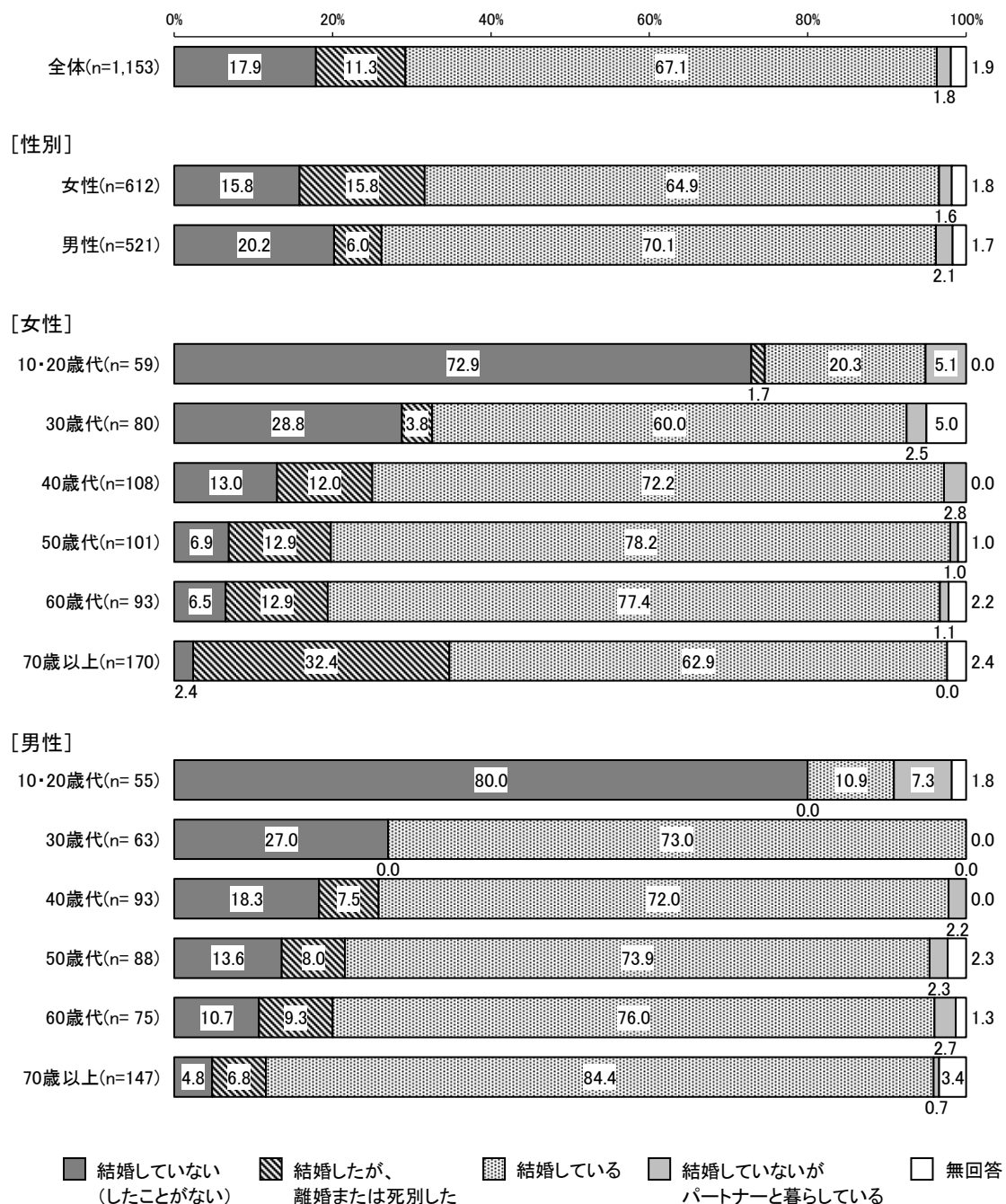
問21 あなたは、結婚（事実婚を含む）していますか。（○は1つ）

配偶者の有無は、「結婚している」が67.1%と最も高く、次いで、「結婚していない(したことがない)」(17.9%)、「結婚したが、離婚または死別した」(11.3%)、「結婚していないがパートナーと暮らしている」(1.8%)となっている。

性別にみると、女性の「結婚したが、離婚または死別した」が男性よりも9.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女とも10・20歳代で「結婚していない(したことがない)」が、それぞれ7割以上を占めている。また、女性の70歳以上で「結婚したが、離婚または死別した」が32.4%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性別、性年齢別 配偶者の有無



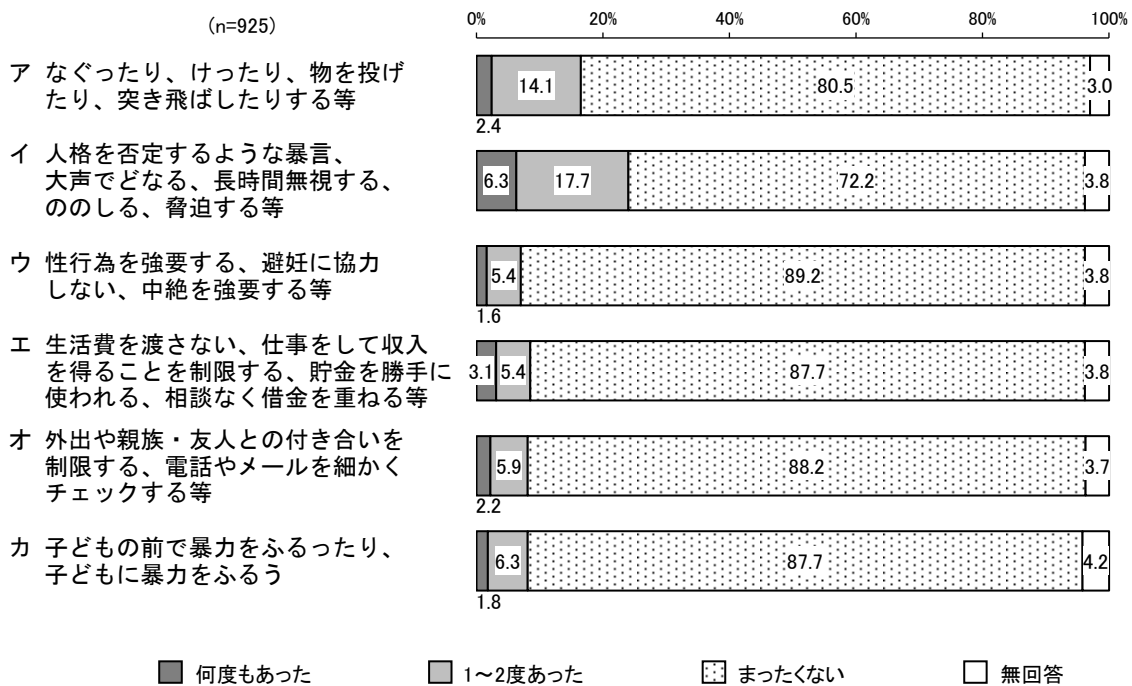
(7) 配偶者・パートナーからの暴力の有無

《結婚（事実婚を含む）したことのある方におたずねします。》

問22 これまでに配偶者・パートナーが、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。
(○はそれぞれ1つ)

配偶者・パートナーからの暴力の有無についてたずねたところ、『あった』(「何度もあった」と「1～2度あった」の合計)は「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」で24.0%、「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」で16.5%となっている。

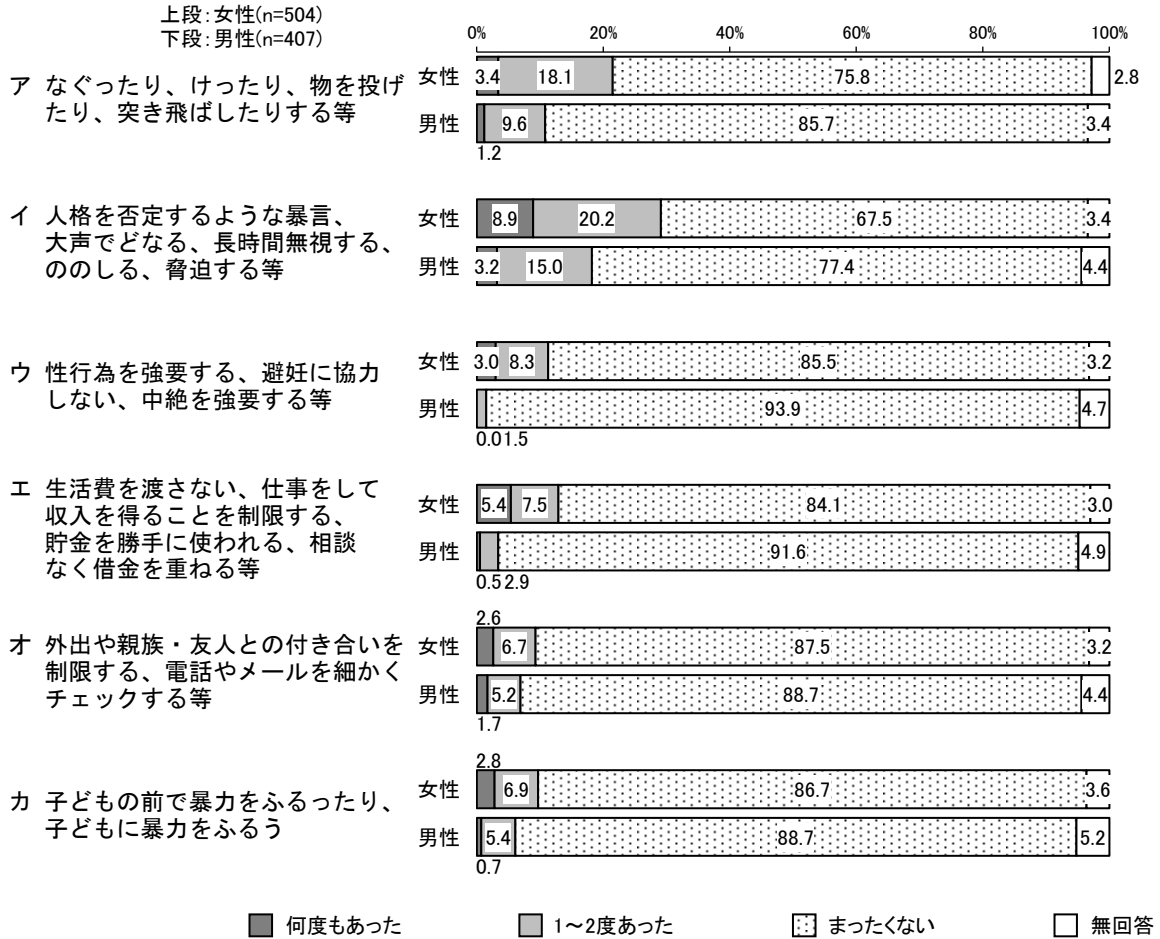
図 配偶者・パートナーからの暴力の有無



II 市民意識調査の結果

性別にみると、いずれの項目でも『あった』の割合は女性の方が高くなっており、特に「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」と「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」で男性よりも10ポイント以上高くなっている。

図 性別 配偶者・パートナーからの暴力の有無



年齢別に『あった』の割合をみると、女性では50歳代は全項目で相対的に割合が高く、「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」は37.6%、「エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等」は20.4%と他の年齢層より高くなっている。また、50歳代以上で「ア ながったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」の割合が40歳代以下と比べて高くなっている。

男性では50歳代で「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」が27.0%、30歳代で「オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等」が15.2%と高くなっている。

表 性年齢別 配偶者・パートナーからの暴力の有無

－ 「何度もあった」と「1～2度あった」の計

		回答者数(n)	ア ながったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等	イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等	ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等	エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等	オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等	カ 子どもの前で暴力をふるったり、子どもに暴力をふるう
全体		925	16.5	24.0	7.0	8.5	8.1	8.1
性年齢別	10・20歳代	16	6.3	12.5	-	12.6	18.8	-
	30歳代	53	15.1	20.8	5.7	3.8	1.9	1.9
	40歳代	94	15.9	30.8	10.6	12.8	11.7	10.7
	50歳代	93	25.8	37.6	14.0	20.4	14.0	16.1
	60歳代	85	28.2	34.1	17.7	11.7	7.1	9.4
	70歳以上	162	21.6	25.3	9.8	12.3	8.1	9.3
	男性	10	-	-	-	-	-	-
10・20歳代	10	-	-	-	-	-	-	
30歳代	46	6.5	21.8	2.2	-	15.2	10.9	
40歳代	76	15.8	19.7	1.3	5.3	9.2	7.9	
50歳代	74	16.3	27.0	1.4	4.1	6.8	5.5	
60歳代	66	10.6	16.7	-	3.0	9.1	7.6	
70歳以上	135	7.4	13.3	2.2	3.7	2.2	3.7	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

II 市民意識調査の結果

(8) 暴力を受けた際の相談状況

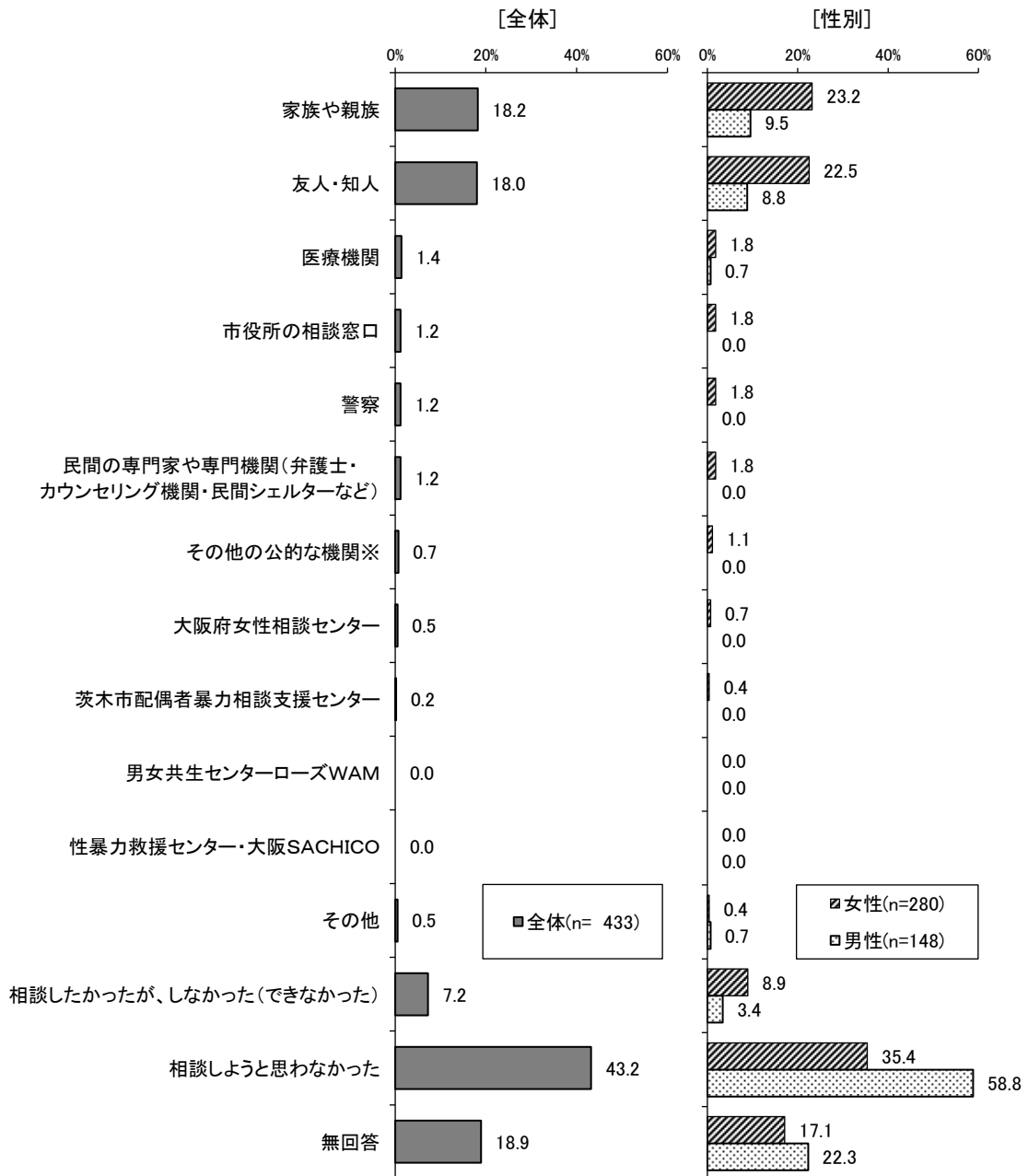
《問19・問22で、1つでもされたことがあったと答えた方におたずねします。》

問23 そのことを誰か（どこか）に相談しましたか。（○はいくつでも）

暴力を受けた際の相談状況についてたずねたところ、「家族や親族」(18.2%)と「友人・知人」(18.0%)の2項目が特に高くなっている。一方で、「相談したかったが、しなかった(できなかった)」は7.2%、「相談しようと思わなかった」は43.2%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「家族や親族」と「友人・知人」でそれぞれ13.7ポイント高くなっている。一方で「相談しようと思わなかった」は、男性が女性よりも23.4ポイント高くなっている。

図 性別 暴力を受けた際の相談状況



※その他の公的な機関 …… 「茨木市配偶者暴力相談支援センター」「男女共生センターローズ WAM」「市役所の相談窓口」「大阪府女性相談センター」「性暴力救援センター・大阪 SACHICO」「警察」以外の相談機関

その他意見の要約	
保健センター	1件
直接本人に話した	1件

年齢別にみると、女性では10～40歳代は「友人・知人」が最も高く、50歳代以上は「家族や親族」が最も高くなっている。

男性の50・60歳代で「相談しようと思わなかった」が7割以上と高くなっている。

表 性年齢別 暴力を受けた際の相談状況

		回答者数(n)	家族や親族	友人・知人	医療機関	市役所の相談窓口	警察	民間の専門家や専門機関(弁護士・カウンセリング機関・民間シェルターなど)	3～8以外の公的な機関	大阪府女性相談センター	茨木市配偶者暴力相談支援センター	M 男女共生センターローズWA
全体		433	18.2	18.0	1.4	1.2	1.2	1.2	0.7	0.5	0.2	-
性年齢別	女性											
	10・20歳代	18	11.1	33.3	5.6	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	33	24.2	30.3	-	-	3.0	-	-	-	-	-
	40歳代	58	15.5	29.3	1.7	1.7	5.2	3.4	1.7	1.7	-	-
	50歳代	57	29.8	26.3	1.8	3.5	-	3.5	1.8	-	1.8	-
	60歳代	41	26.8	24.4	2.4	-	-	-	-	2.4	-	-
	70歳以上	72	25.0	6.9	1.4	2.8	1.4	1.4	1.4	-	-	-
男性												
10・20歳代	6	16.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	25	8.0	16.0	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	30	10.0	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	28	10.7	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	25	8.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳以上	34	8.8	8.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		回答者数(n)	阪SACHICO 性暴力救援センター・大	その他	相談しなかったが、しなかった(できなかった)	相談しようと思わなかった	無回答
全体		433	-	0.5	7.2	43.2	18.9
性年齢別	女性						
	10・20歳代	18	-	-	5.6	22.2	33.3
	30歳代	33	-	-	3.0	36.4	18.2
	40歳代	58	-	-	5.2	41.4	13.8
	50歳代	57	-	1.8	12.3	28.1	10.5
	60歳代	41	-	-	12.2	43.9	7.3
	70歳以上	72	-	-	11.1	33.3	26.4
男性							
10・20歳代	6	-	-	-	33.3	33.3	
30歳代	25	-	-	4.0	48.0	28.0	
40歳代	30	-	3.3	-	50.0	30.0	
50歳代	28	-	-	10.7	71.4	7.1	
60歳代	25	-	-	-	76.0	16.0	
70歳以上	34	-	-	2.9	55.9	26.5	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

II 市民意識調査の結果

(9) 暴力を相談しなかった、しようと思わなかった理由

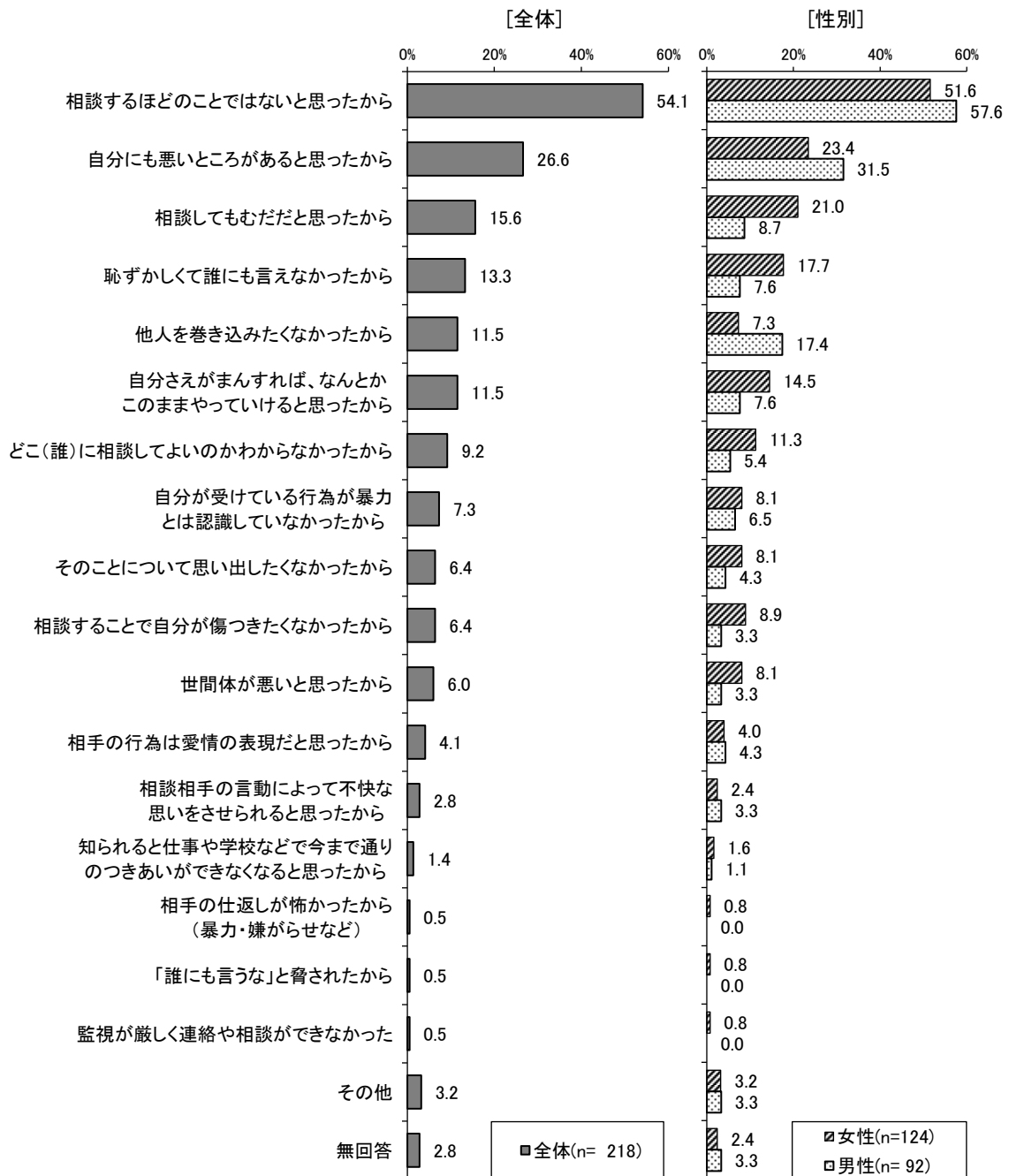
《問23で「13. 相談したかったが、しなかった（できなかった）」「14. 相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします。》

問24 相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

暴力を相談しなかった、しようと思わなかった理由についてたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が54.1%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(26.6%)、「相談してもむだだと思ったから」(15.6%)、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(13.3%)となっている。

性別にみると、女性の方が高い項目として「相談してもむだだと思ったから」と「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」があり、それぞれ男性よりも10ポイント以上高くなっている。一方で男性の方が高い項目として「他人を巻き込みたくなかったから」があり、女性よりも10ポイント以上高くなっている。

図 性別 暴力を相談しなかった、しようと思わなかった理由



その他意見の要約	
自分で解決した	4件
電話がつながらなかった	1件
子どもと父親を離せない	1件
離婚を想定しているから	1件

年齢別にみると、女性の60歳代で「相談してもむだだと思ったから」と「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、男性の40歳代で「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」が他の年齢層と比べて高くなっている。

表 性年齢別 暴力を相談しなかった、しよと思わなかった理由

		回答者数(n)	相談するほどのことではないと思ったから	自分にも悪いところがあると思っただから	相談してもむだだと思ったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	どこ(誰)に相談してよいかわからなかったから	自分が受けている行為が暴力とは認識していなかったから	そのことについて思い出しなくなかったから	相談することで自分が傷つきたくなかったから	
全体		218	54.1	26.6	15.6	13.3	11.5	11.5	9.2	7.3	6.4	6.4	
性年齢別	女性	10・20歳代	5	60.0	40.0	40.0	60.0	-	20.0	20.0	20.0	40.0	60.0
		30歳代	13	69.2	30.8	7.7	7.7	-	15.4	-	23.1	-	7.7
		40歳代	27	59.3	29.6	14.8	3.7	18.5	11.1	14.8	3.7	14.8	3.7
		50歳代	23	43.5	21.7	21.7	13.0	4.3	8.7	13.0	4.3	8.7	8.7
		60歳代	23	52.2	13.0	30.4	30.4	4.3	17.4	-	4.3	-	8.7
		70歳以上	32	40.6	21.9	21.9	21.9	6.3	18.8	18.8	9.4	6.3	6.3
		男性	10・20歳代	2	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	30歳代		13	61.5	38.5	15.4	23.1	23.1	23.1	7.7	15.4	15.4	15.4
	40歳代		15	73.3	40.0	-	-	6.7	-	6.7	6.7	-	-
	50歳代		23	52.2	30.4	8.7	13.0	21.7	4.3	4.3	-	-	-
	60歳代		19	47.4	36.8	10.5	5.3	15.8	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
	70歳以上		20	65.0	20.0	10.0	-	10.0	10.0	5.0	10.0	5.0	-

		回答者数(n)	世間体が悪いと思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思っただから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思っただから	知られると仕事や学校などで今まで通りのつきあいができなくなると思っただから	知られると仕返しや学校などが(暴力・嫌がらせなど)	「誰にも言うな」と脅されたから	監視が厳しく連絡や相談ができなかった	その他	無回答	
全体		218	6.0	4.1	2.8	1.4	0.5	0.5	0.5	3.2	2.8	
性年齢別	女性	10・20歳代	5	20.0	-	-	20.0	-	20.0	-	-	-
		30歳代	13	7.7	7.7	-	-	-	-	-	7.7	7.7
		40歳代	27	3.7	3.7	-	-	-	-	3.7	3.7	-
		50歳代	23	4.3	4.3	-	4.3	4.3	-	-	8.7	-
		60歳代	23	13.0	-	4.3	-	-	-	-	-	4.3
		70歳以上	32	9.4	6.3	6.3	-	-	-	-	-	3.1
		男性	10・20歳代	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代		13	15.4	7.7	7.7	7.7	-	-	-	7.7	-
	40歳代		15	-	20.0	-	-	-	-	-	6.7	-
	50歳代		23	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	60歳代		19	-	-	5.3	-	-	-	-	-	10.5
	70歳以上		20	5.0	-	5.0	-	-	-	-	5.0	5.0

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

6. セクシュアルマイノリティについて

(1) セクシュアルマイノリティの認知度

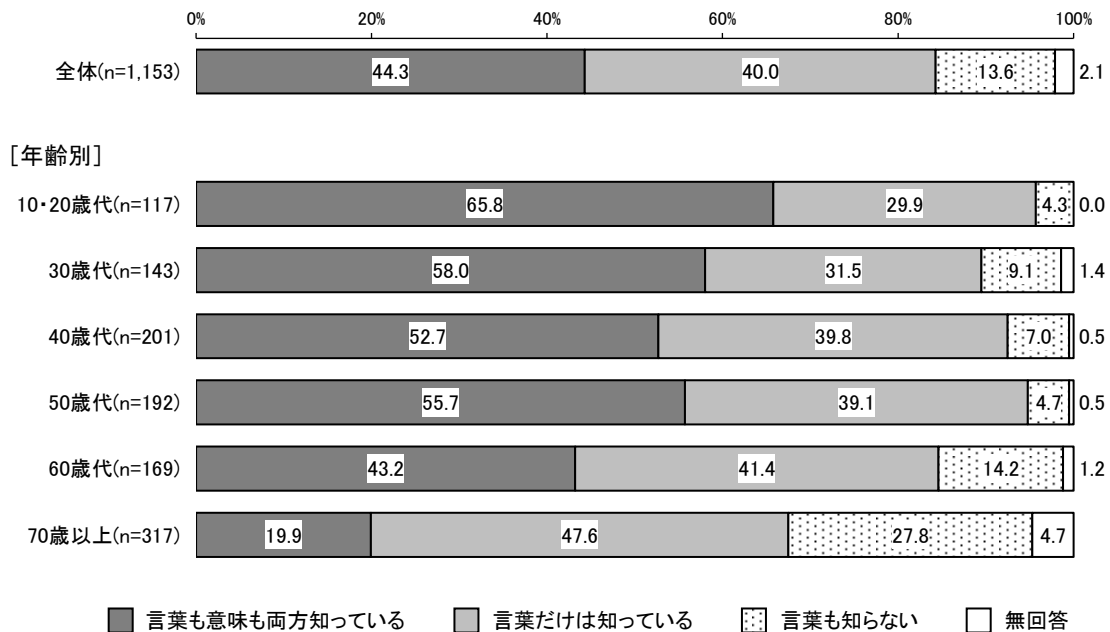
《全員におたずねします。》

問25 あなたは、LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティについて、どの程度知っていますか。
(○は1つ)

セクシュアルマイノリティの認知度についてたずねたところ、「言葉も意味も両方知っている」が44.3%で最も高く、次いで「言葉だけは知っている」(40.0%)、「言葉も知らない」(13.6%)となっており、『知っている』(「言葉も意味も両方知っている」と「言葉だけは知っている」の合計)は84.3%となっている。

年齢別にみると、年齢が低いほど『知っている』の割合が高くなる傾向となっており、10・20歳代では大多数が『知っている』と答えている。

図 年齢別 セクシュアルマイノリティの認知度

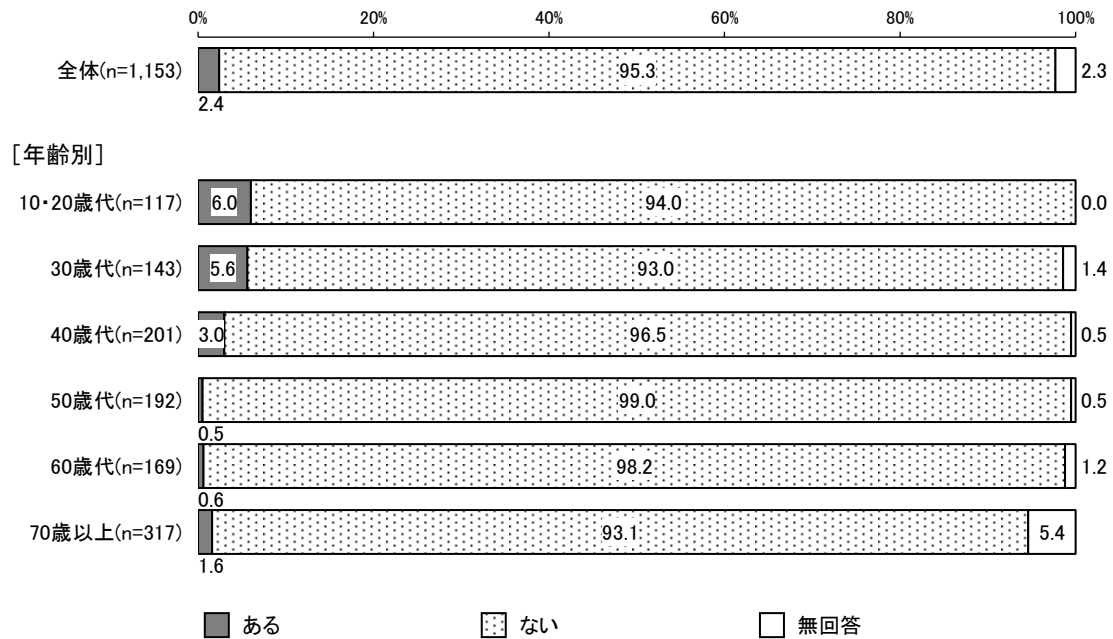


(2) 性自認・性的指向で悩んだことの有無

問26 あなたは、今までに性自認（自分で自分の性別をどう思うか）または性的指向（どんな性別の人を好きになるか）に悩んだことがありますか。（○は1つ）

性自認・性的指向で悩んだことの有無についてたずねたところ、「ある」は2.4%となっている。
年齢別にみると、「ある」は10・20歳代で6.0%、30歳代で5.6%となっている。

図 年齢別 性自認・性的指向で悩んだことの有無



II 市民意識調査の結果

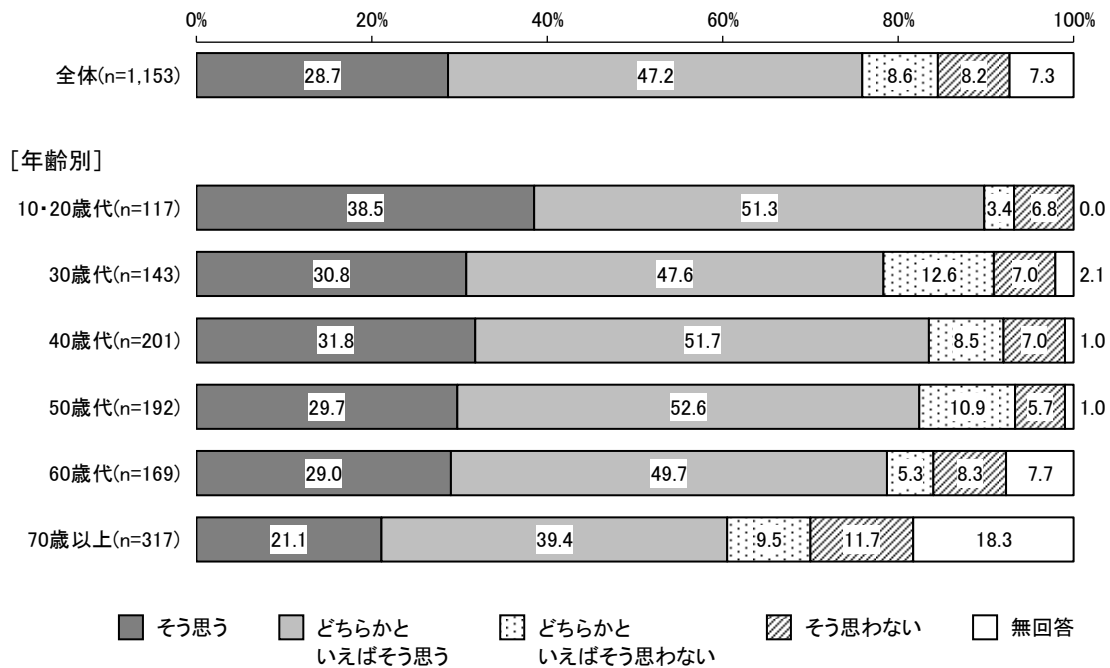
(3)セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか

問27 LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティにとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。
(○は1つ)

セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うかについてたずねたところ、「そう思う」が28.7%、「どちらかといえばそう思う」が47.2%となっており、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が75.9%となっている。

年齢別にみると、10・20歳代で『そう思う』の割合が約9割と、他の年齢層に比べて高くなっている。

図 年齢別 セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか



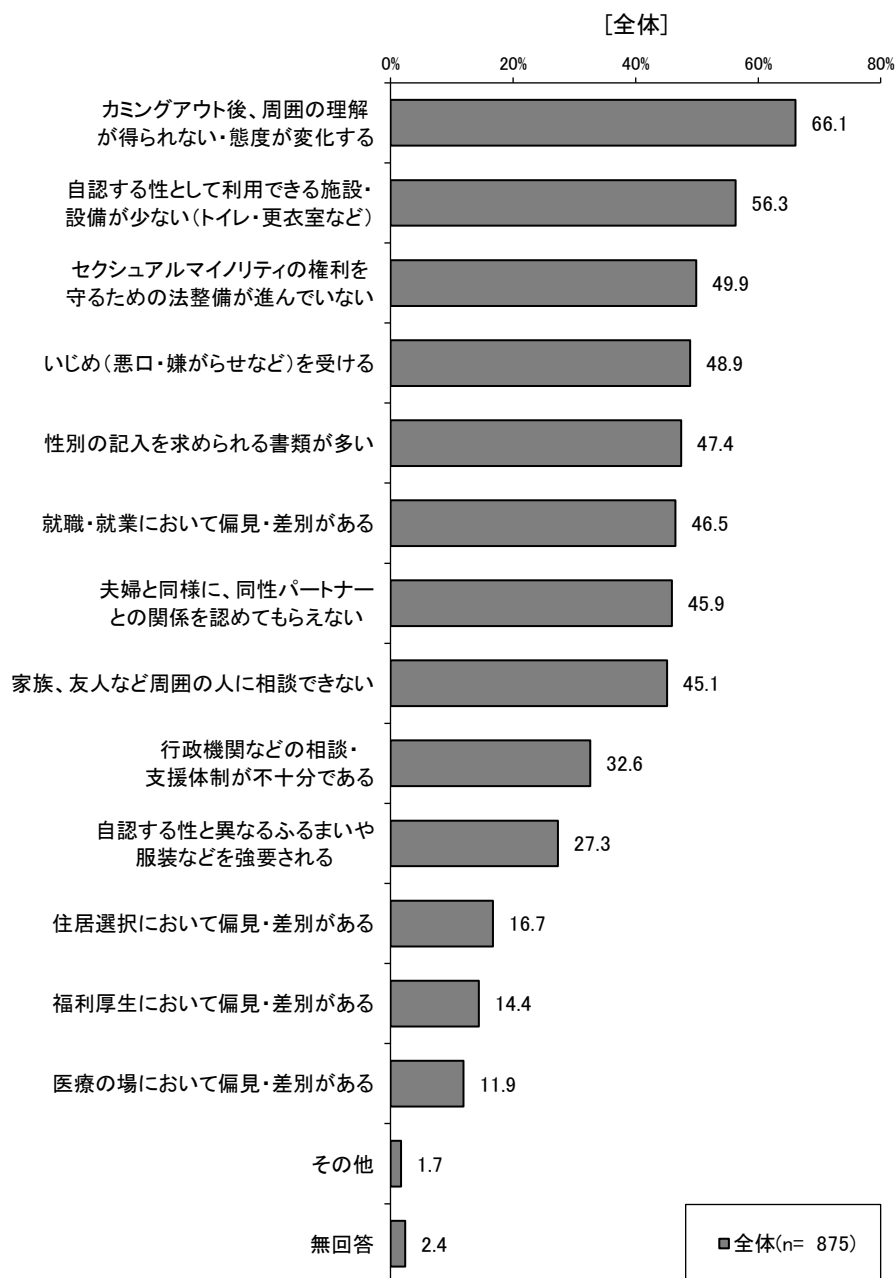
(4)セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由

《問27で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と答えた方におたずねします。》

問28 どのようなことが生活しづらい社会にしていると思いますか。(〇はいくつでも)

セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由についてたずねたところ、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が66.1%と最も高く、次いで「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」(56.3%)、「セクシュアルマイノリティの権利を守るための法整備が進んでいない」(49.9%)、「いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける」(48.9%)となっている。

図 セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由



II 市民意識調査の結果

その他意見の要約			
社会的な理解の不足	4件	当事者への視線	1件
支援の充実	1件	なんとなく	1件
少数者が生活しづらいのは回避できないが、人への思いやりが大切	1件	違いを認めない社会	1件
社会的な理解の不足	1件	マスコミにおける差別的表現	1件
高齢者の理解不足	1件	学校教育において男女を分けること	1件

年齢別にみると、10・20歳代で「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」と「自認する性と異なるふるまいや服装などを強要される」、30歳代で「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」「家族、友人など周囲の人に相談できない」、40歳代で「いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける」が他の年齢層と比べて高くなっている。

表 年齢別 セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由

		回答者数(n)	カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する	自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)	セクシュアルマイノリティの権利を守るための法整備が進んでいない	いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける	性別の記入を求められる書類が多い	就職・就業において偏見・差別がある	夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない	家族、友人など周囲の人に相談できない	行政機関などの相談・支援体制が不十分である	自認する性と異なるふるまいや服装などを強要される
全体		875	66.1	56.3	49.9	48.9	47.4	46.5	45.9	45.1	32.6	27.3
年齢別	10・20歳代	105	73.3	69.5	46.7	49.5	53.3	41.0	51.4	46.7	29.5	41.9
	30歳代	112	80.4	70.5	50.9	52.7	52.7	51.8	57.1	58.0	33.0	36.6
	40歳代	168	73.8	58.3	49.4	60.1	50.0	51.2	50.6	47.0	36.9	32.7
	50歳代	158	71.5	62.0	58.2	50.6	46.8	47.5	45.6	44.9	36.1	27.8
	60歳代	133	64.7	51.1	54.9	49.6	51.9	50.4	49.6	43.6	38.3	19.5
	70歳以上	192	44.3	39.6	42.2	35.4	36.5	40.1	30.7	35.9	24.0	14.6

		回答者数(n)	住居選択において偏見・差別がある	福利厚生において偏見・差別がある	医療の場において偏見・差別がある	その他	無回答
全体		875	16.7	14.4	11.9	1.7	2.4
年齢別	10・20歳代	105	14.3	16.2	11.4	-	1.0
	30歳代	112	21.4	17.0	15.2	1.8	0.9
	40歳代	168	14.9	14.9	11.9	2.4	0.6
	50歳代	158	19.0	12.7	13.9	1.9	0.6
	60歳代	133	16.5	18.0	12.8	0.8	2.3
	70歳以上	192	15.1	10.9	7.8	2.6	6.3

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

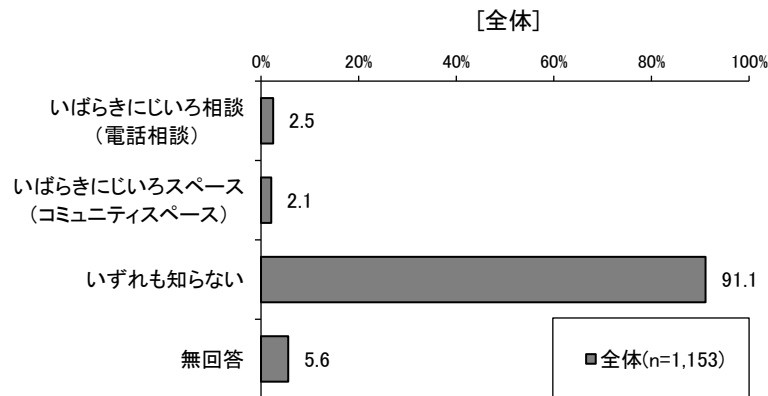
(5) 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度

《全員におたずねします。》

問29 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組を知っていますか。(○はいくつでも)

茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度についてたずねたところ、「いばらきにじいろ相談(電話相談)」が2.5%、「いばらきにじいろスペース(コミュニティスペース)」が2.1%となっており、「いずれも知らない」は91.1%と約9割を占めている。

図 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度



年齢別にみると、若年層の方が「いずれも知らない」の割合が高い傾向で、30歳代以下では「いばらきにじいろ相談(電話相談)」と「いばらきにじいろスペース(コミュニティスペース)」はいずれも1%未満となっている。

表 年齢別 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度

		回答者数(n)	いばらきにじいろ相談 (電話相談)	いばらきにじいろスペース (コミュニティスペース)	いずれも知らない	無回答
全体		1,153	2.5	2.1	91.1	5.6
年齢別	10・20歳代	117	-	0.9	97.4	1.7
	30歳代	143	0.7	0.7	98.6	0.7
	40歳代	201	2.0	3.0	94.5	1.5
	50歳代	192	2.6	3.1	91.7	4.7
	60歳代	169	4.1	2.4	89.9	5.9
	70歳以上	317	3.5	1.9	84.2	11.7

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

7. 茨木市の取組について

(1) ローズWAMの認知度

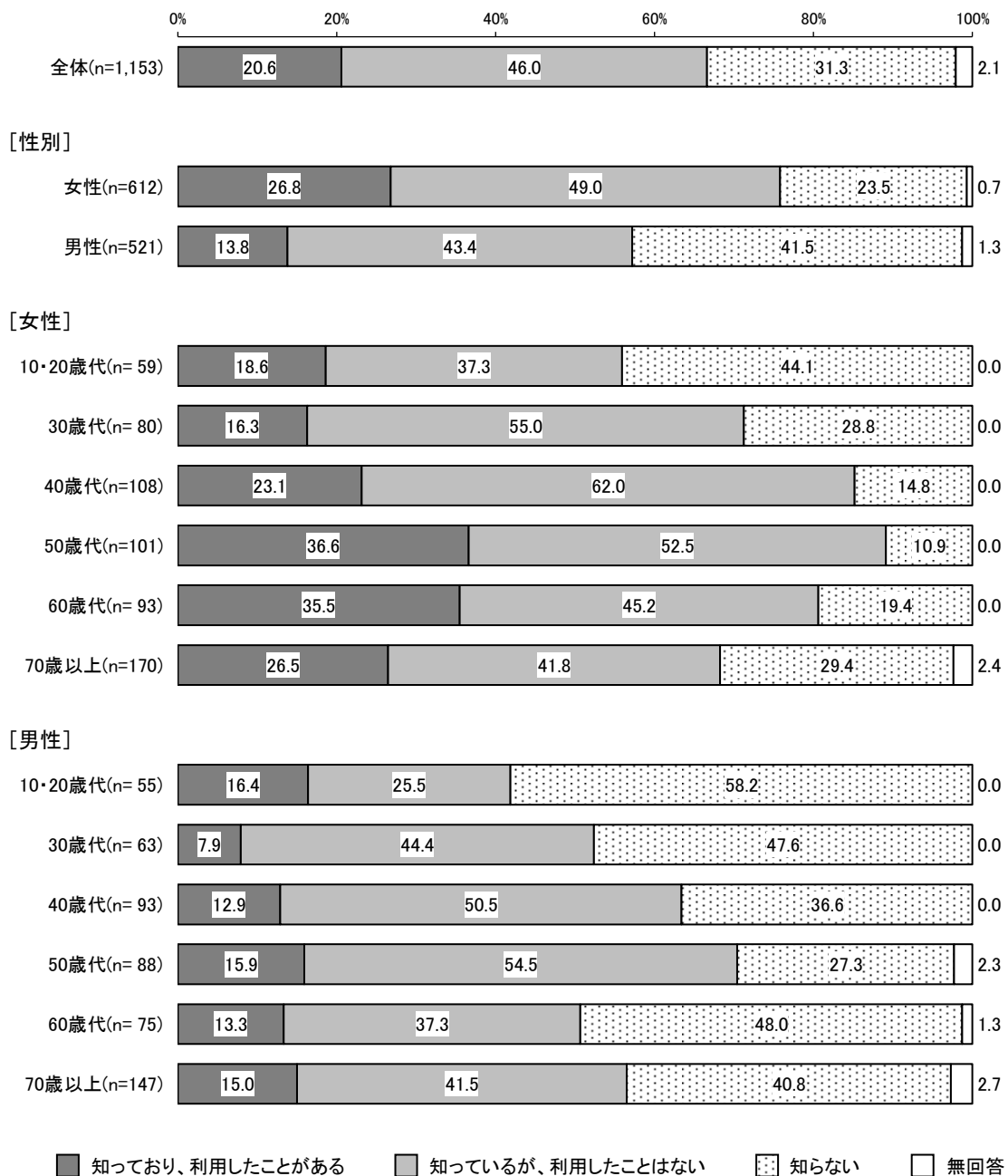
問30 あなたは、男女共生センターローズWAMを知っていますか。(○は1つ)

ローズWAMの認知度についてたずねたところ、「知っているが、利用したことはない」が46.0%で最も高く、次いで「知らない」(31.3%)、「知っているが、利用したことがある」(20.6%)となっており、『知っている』(「知っているが、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計)は66.6%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも『知っている』が18.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女とも40・50歳代で『知っている』の割合が高い傾向にあり、女性の50歳代で『知っている』が89.1%と9割近くを占めている。

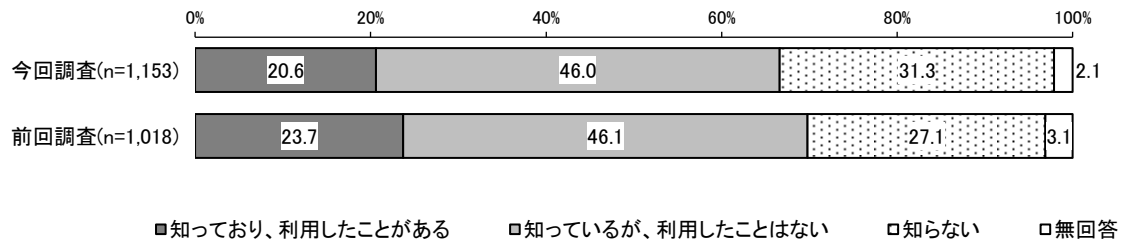
図 性別、性年齢別 ローズWAMの認知度



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、『知っている』が前回調査よりも3.2ポイント低くなっている。

図 ローズWAMの認知度(前回調査との比較)



II 市民意識調査の結果

(2) ローズWAMの利用内容

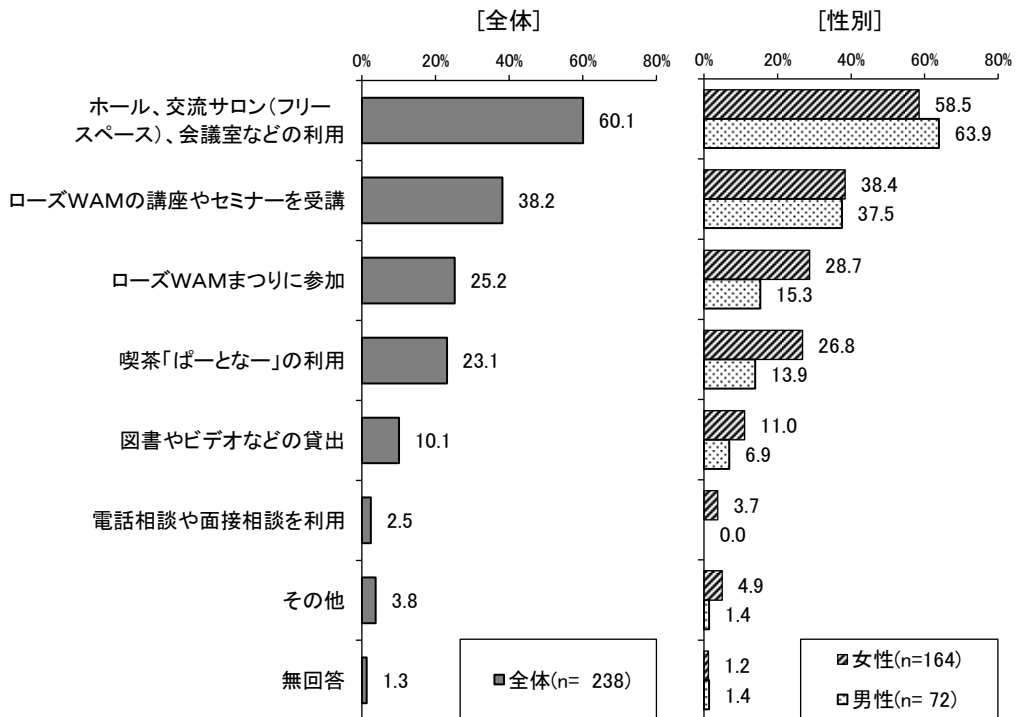
《問30で「1. 知っており、利用したことがある」と答えた方におたずねします。》

問31 どういったことで利用されましたか。(〇はいくつでも)

ローズWAMの利用内容についてたずねたところ、「ホール、交流サロン(フリースペース)、会議室などの利用」が60.1%と最も高く、次いで「ローズWAMの講座やセミナーを受講」(38.2%)、「ローズWAMまつりに参加」(25.2%)、「喫茶『ぱーとなー』の利用」(23.1%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「ローズWAMまつりに参加」と「喫茶『ぱーとなー』の利用」で10ポイント以上高くなっている。

図 性別 ローズWAMの利用内容



その他意見の要約			
研修・試験の会場	3件	家庭相談	1件
運営側の立場で利用	2件	学校の授業で来館	1件
自主学习	1件	トイレ利用	1件

年齢別にみると、女性の60歳代以上で「ローズWAMまつりに参加」と「喫茶『ぱーとなー』の利用」が他の年齢層と比べて高くなっている。また、男性の70歳以上で「ローズWAMまつりに参加」が高くなっている。

表 性年齢別 ローズWAMの利用内容

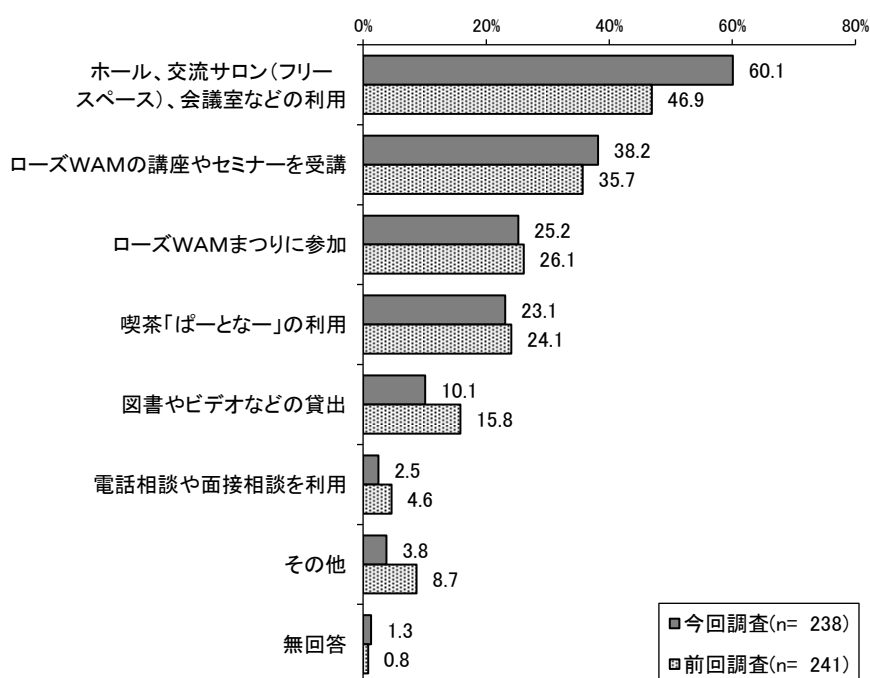
		回答者数(n)	ホール、交流サロン(フリースペース)、会議室などの利用	ローズWAMの講座やセミナーを受講	ローズWAMまつりに参加	喫茶「ぱーとなー」の利用	図書やビデオなどの貸出	電話相談や面接相談を利用	その他	無回答
全体		238	60.1	38.2	25.2	23.1	10.1	2.5	3.8	1.3
性年齢別	女性									
	10・20歳代	11	90.9	18.2	9.1	9.1	-	-	-	-
	30歳代	13	61.5	15.4	23.1	7.7	-	-	15.4	-
	40歳代	25	48.0	44.0	28.0	20.0	8.0	4.0	-	-
	50歳代	37	59.5	43.2	21.6	18.9	16.2	2.7	8.1	-
	60歳代	33	54.5	42.4	36.4	36.4	12.1	9.1	3.0	3.0
	70歳以上	45	57.8	40.0	35.6	40.0	13.3	2.2	4.4	2.2
	男性									
	10・20歳代	9	77.8	11.1	11.1	11.1	11.1	-	-	-
	30歳代	5	60.0	40.0	-	-	-	-	-	-
40歳代	12	75.0	8.3	16.7	16.7	16.7	-	-	-	
50歳代	14	64.3	42.9	-	14.3	7.1	-	-	-	
60歳代	10	40.0	70.0	10.0	10.0	-	-	10.0	10.0	
70歳以上	22	63.6	45.5	31.8	18.2	4.5	-	-	-	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、回答者数(n)が15未満の属性については網掛けを除外している。

■前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、「ホール、交流サロン(フリースペース)、会議室などの利用」が前回調査よりも13.2ポイント高くなっており、「図書やビデオなどの貸出」が5.7ポイント低くなっている。

図 ローズWAMの利用内容(前回調査との比較)



II 市民意識調査の結果

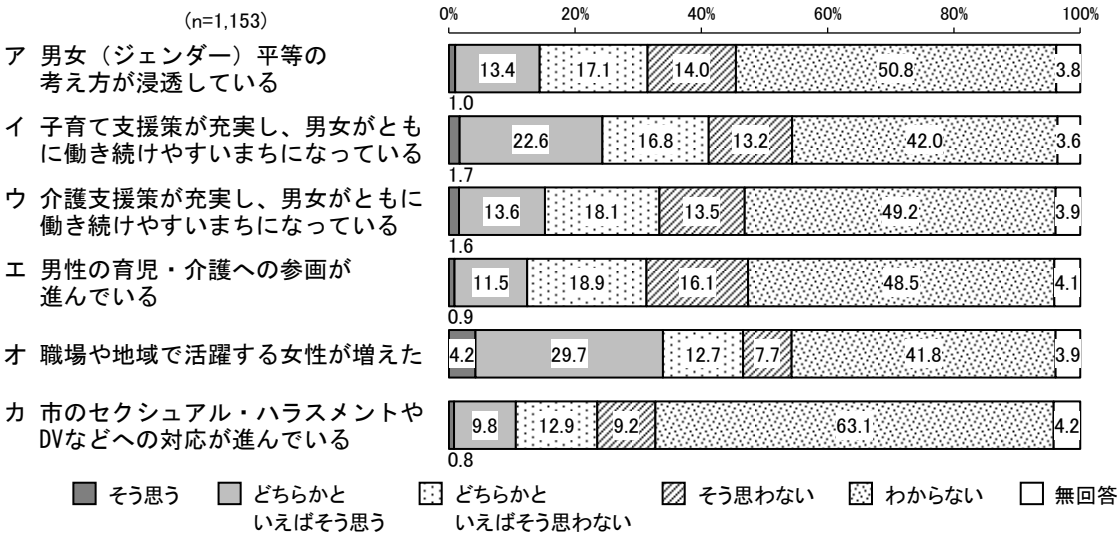
(3) 男女共同参画の進展に関する認識

《全員におたずねします。》

問32 この5年間くらいの間の茨木市の状況についておたずねします。あなたご自身の経験に照らして、あなたの考えに最も近いと思うものを選んでください。(○はそれぞれ1つ)

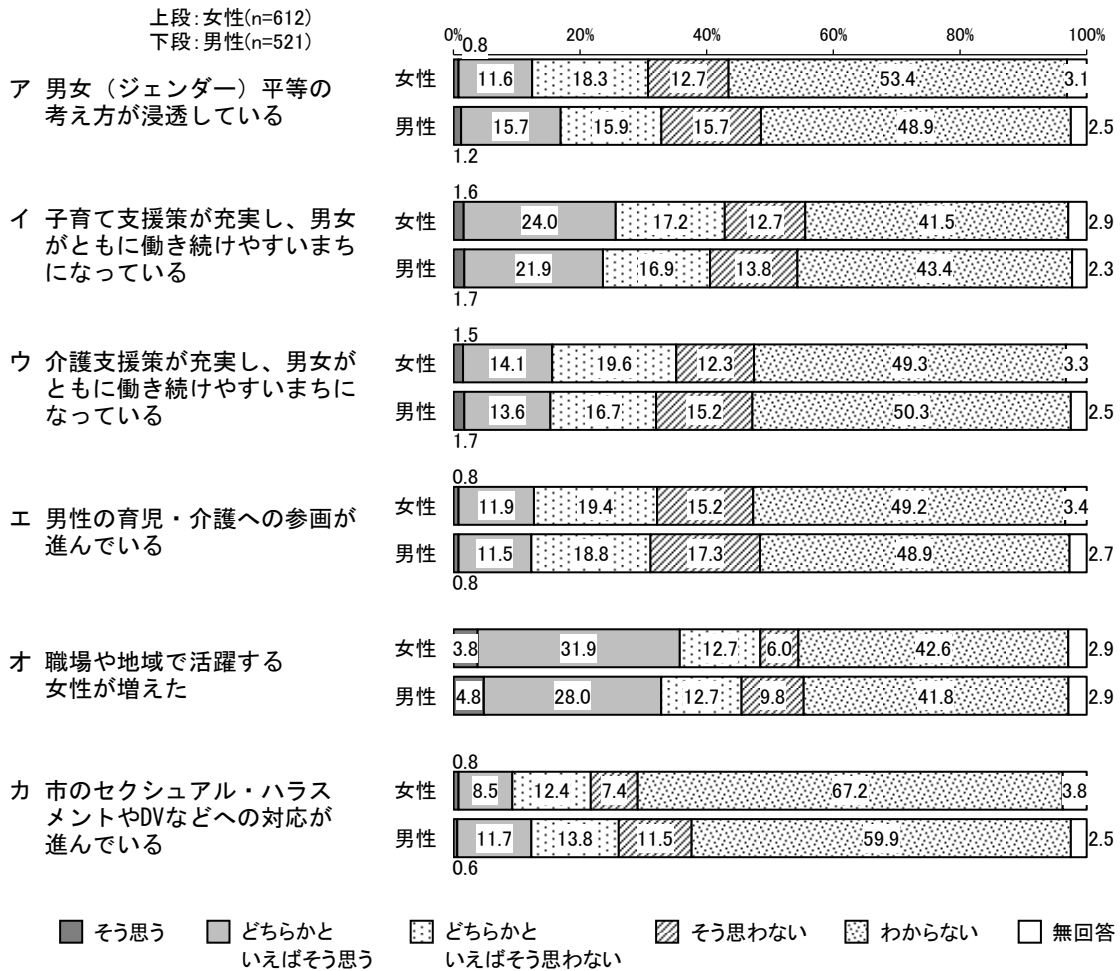
男女共同参画の進展に関する認識についてたずねたところ、「オ 職場や地域で活躍する女性が増えた」以外のすべての項目で、『そう思わない』(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)が『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)よりも高くなっている。また、すべての項目で「わからない」が4割以上を占めており、「市のセクシュアル・ハラスメントやDVなどへの対応が進んでいる」は6割を超えている。

図 男女共同参画の進展に関する認識



性別にみると、「ア 男女(ジェンダー)平等の考え方が浸透している」で、男性の方が女性よりも『そう思う』が4.5ポイント高く、「カ 市のセクシュアル・ハラスメントやDVなどへの対応が進んでいる」で、男性の方が女性より『そう思わない』が5.5ポイント高くなっている。

図 性別 男女共同参画の進展に関する認識



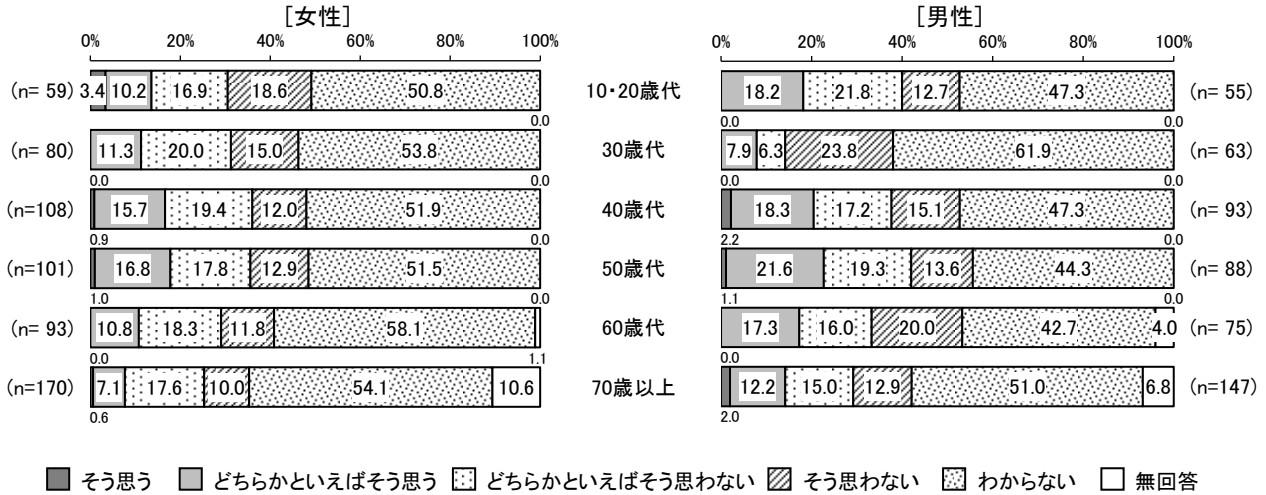
II 市民意識調査の結果

ア 男女(ジェンダー)平等の考え方が浸透している

女性は年齢が低いほど、『そう思わない』の割合が高くなる傾向がみられる。

男性の30歳代では、他の年齢層と比べて「わからない」が6割強と高く、『そう思う』が7.9%で低くなっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 - ア 男女(ジェンダー)平等の考え方が浸透している

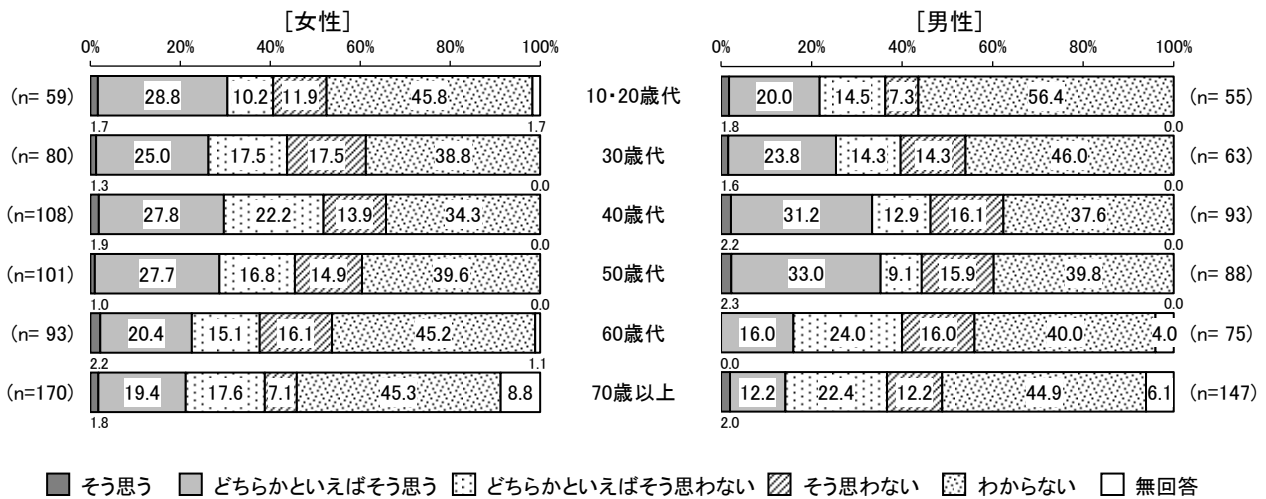


イ 子育て支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている

女性の30・40歳代では『そう思わない』が、他の年齢層と比べてやや高くなっている。

男性は50歳代以下では『そう思う』が比較的高い割合を占めているが、60歳代以上になると『そう思わない』が高くなっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 - イ 子育て支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている

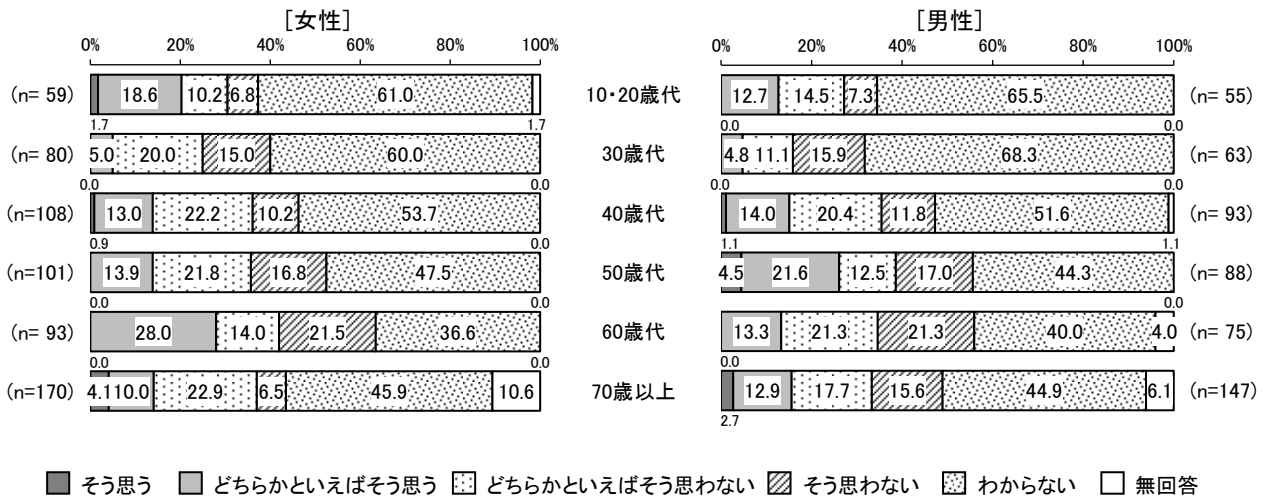


ウ 介護支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている

女性の60歳代では、『そう思う』が28.0%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

男性の60歳代では、『そう思わない』が42.6%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 — ウ 介護支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている

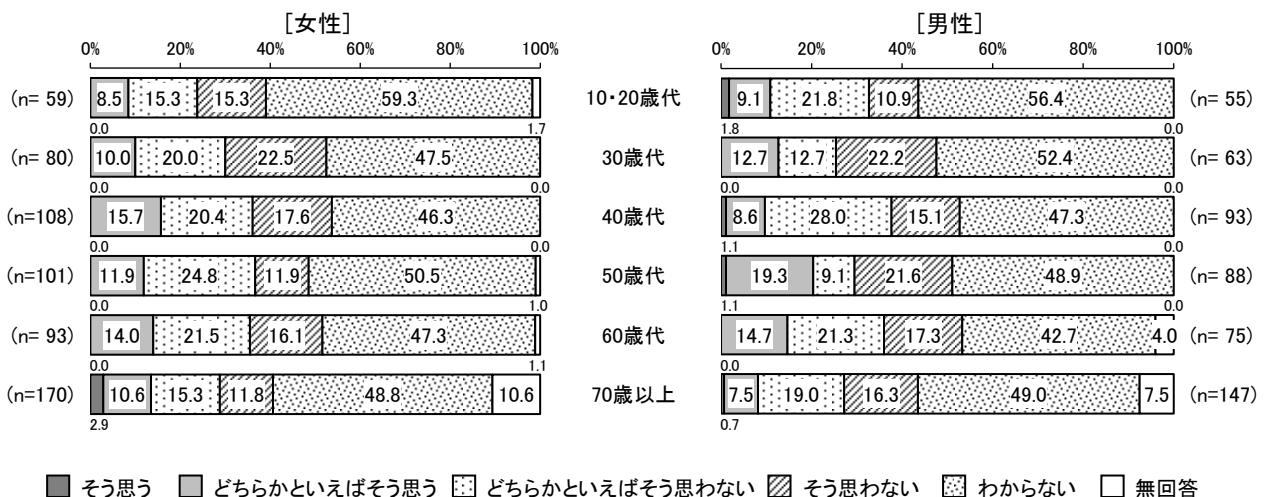


エ 男性の育児・介護への参画が進んでいる

女性の30歳代では、『そう思わない』が42.5%と、他の年齢層と比べてやや高くなっている。

男性の40歳代では、『そう思わない』が43.1%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 — エ 男性の育児・介護への参画が進んでいる



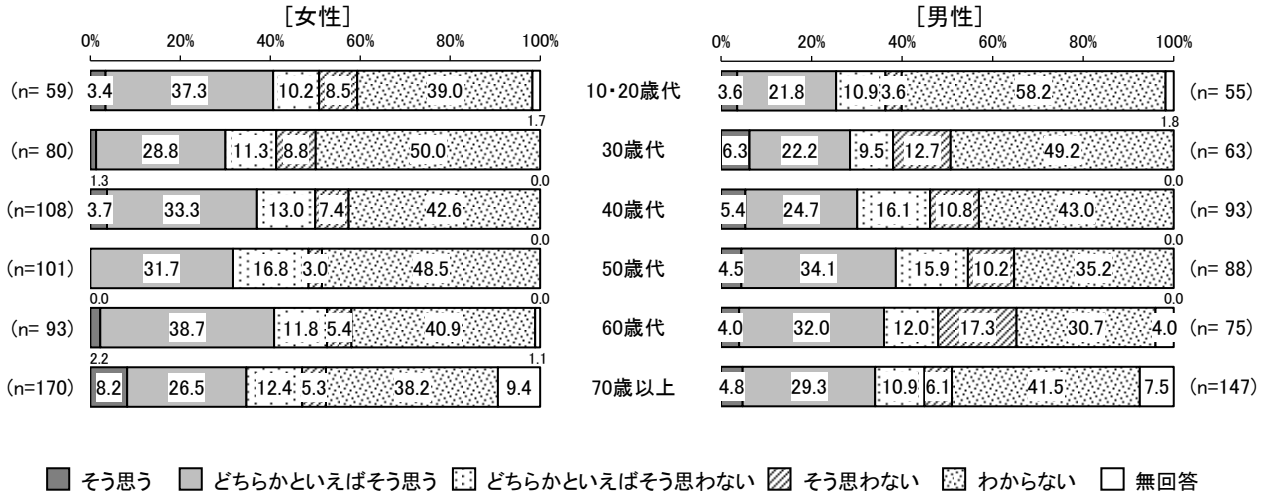
II 市民意識調査の結果

オ 職場や地域で活躍する女性が増えた

女性の30・50歳代では、『そう思う』が約3割と、他の年齢層と比べて低くなっており、「わからない」が約5割を占めている。

男性は50歳代以上で『そう思う』の割合が40歳代以下より高くなっている。

図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 — オ 職場や地域で活躍する女性が増えた

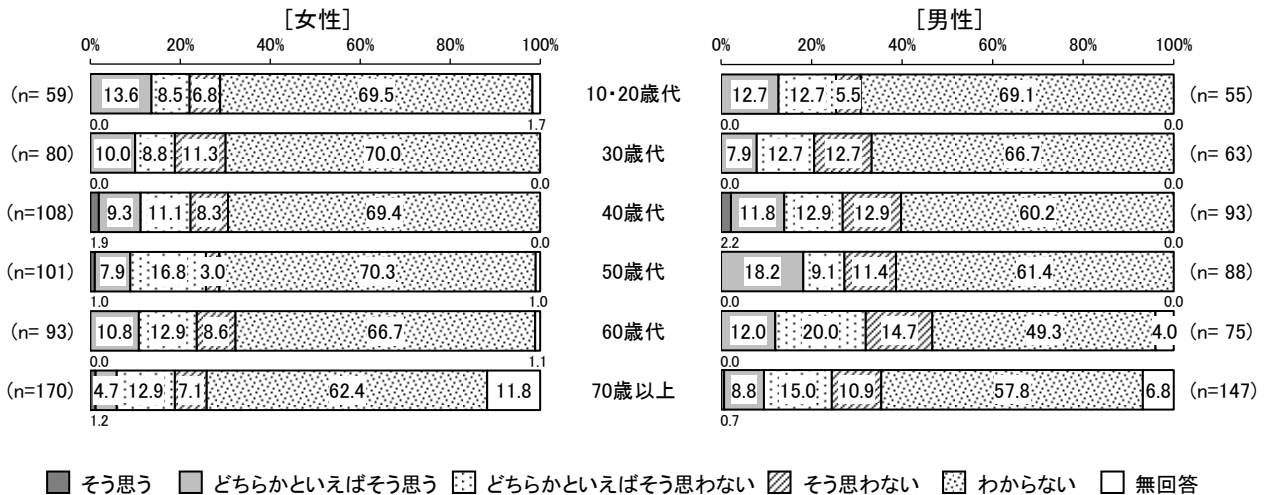


カ 市のセクシュアル・ハラスメントやDVなどへの対応が進んでいる

女性では全年齢層で「わからない」が6割以上を占めており、30・50歳代では7割に達している。

男性の60歳代では、『そう思わない』が34.7%と、他の年齢層と比べて高くなっている。

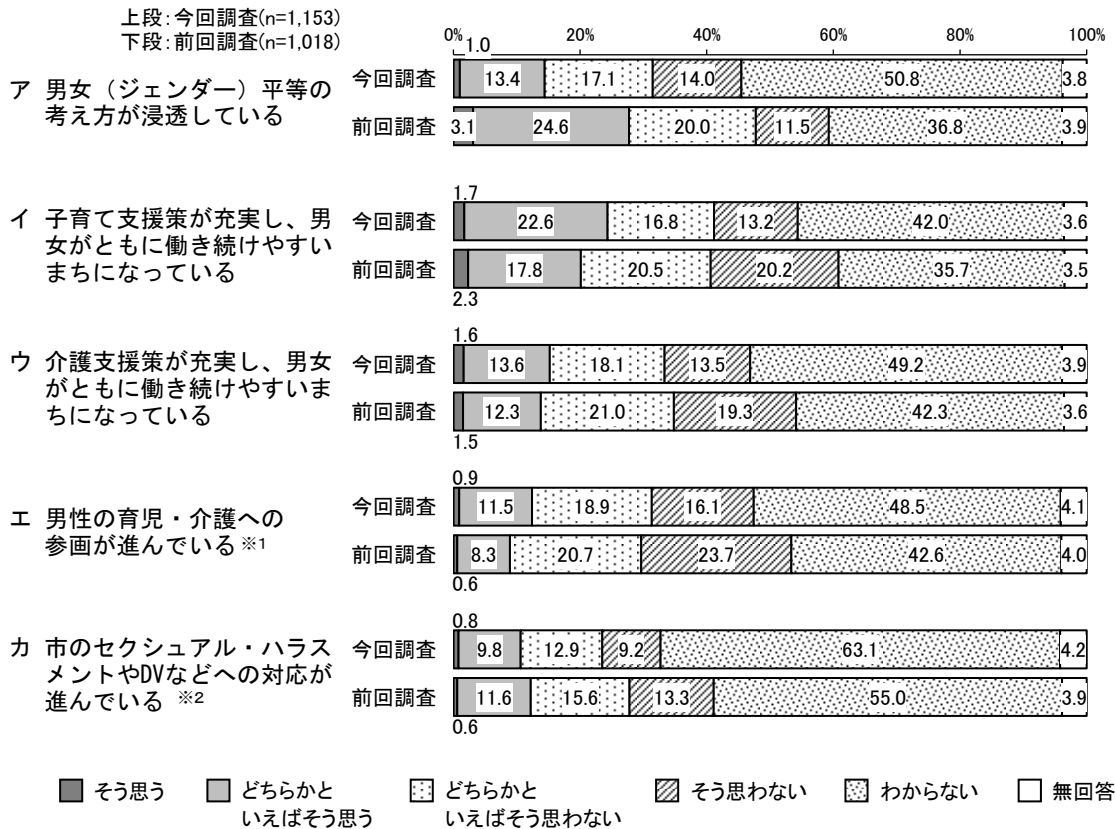
図 性年齢別 男女共同参画の進展に関する認識 — カ 市のセクシュアル・ハラスメントやDVなどへの対応が進んでいる



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、「イ 子育て支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている」「ウ 介護支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている」「エ 男性の育児・介護への参画が進んでいる」が前回調査よりも『そう思う』の割合が高くなっている。一方で「ア 男女（ジェンダー）平等の考え方が浸透している」の『そう思う』は前回調査よりも13.3ポイント低くなっており、「わからない」が14.0ポイント高くなっている。また、比較したすべての項目で『そう思わない』の割合は、前回調査よりも低くなっているが、「わからない」の割合はすべての項目で前回調査よりも高くなっている。

図 男女共同参画の進展に関する認識(前回調査との比較)



※1 前回調査では「男性の子育て・介護への参画が進んでいる」

※2 前回調査では「市のセクシュアル・ハラスメントやDVなど女性に対する暴力への対応が進んでいる」

8. 自由記述

◆男女共同参画社会に関して、ご意見やご感想がございましたらご自由にお書きください。

自由記述意見の回答は165人(14.3%)で、意見は延べ191件である。

分類番号	分類	件数
1	社会の意識づくり	16件
2	個人の尊重	14件
3	学習機会	13件
4	行政の取組について	13件
5	両立支援について	12件
6	家庭内の役割分担	12件
7	広報の拡充について	12件
8	学びのきっかけ	11件
9	推進の重要性	8件
10	女性の活躍・登用について	8件
11	あまり意識していない	6件
12	働き方改革	5件
13	過度な取組	5件
14	保育環境の整備	4件
15	LGBTQについて	4件
16	性差の尊重	4件
17	不平等な慣習や意識	4件
18	福祉について	2件
19	調査への意見	22件
20	その他	16件
合計		191件

分類番号		自由意見
1	3	性別だけでなく、世の中には色々な差別に苦しんでいる人がいると思います。行政の努力と地域の協力、そして何より教育こそが大切と考えます。いくら形が整ったとしても、人間自体が正しい理解をしていなければ何も良くなるはず。法律で平等をうたい、地域が環境を整えたとしても、周りの人間に差別意識があれば気持ちよく暮らすことは難しいという意味です。
1	19	問15に関して思わずコメントしてしまいましたが選択肢5の内容は女性蔑視なのではと思いました。女性だからリーダーにはなれないのか?と感じました。多様性に関しては男・女・ジェンダーを超えて考えていかなければいけないと思いました。
1		100%平等は、体のつくりや性的な面で不可能だと思うが、男性女性で「差」を出来るだけ無くすべきだとは思。女性ばかりが、差別されていると訴えている現状もおかしいと思います。もう一度完全なる中立な視点から物事を見直すべき。
1		「男女」を意識しない社会が、本当の意味で男女平等社会だと思います。例えば、女性が消防士をしていたり、男性がCAをしていたりしても、「女性／男性なのにすごいね」などと言う人がいるようではまだ平等とは言えないと思います。TVなどでも女性消防士の特集などを度々目にしますが、「消防士＝男性の仕事」という固定観念が根底にあるからこそ、女性なのに消防士になってすごい、と人々は思うのではないのでしょうか。つまり、性差によらず誰がどんな仕事をしていても、何も変わったことはなく当たり前だと誰もが思える社会こそ、本当の意味での男女平等社会と言えると私は考えます。
1		セクシュアルマイノリティの権利を守ったり、職場、家庭でも男女平等への意識が今より高まる社会になればいい。
1		原始時代より原則的に男性が外へ出て生活の糧を得て、女性が一定期間育児に専念するのが自然の姿である。現在の資本主義社会の飽くなき欲望の追求のため、全ての無駄を省き手段を択ばず、1%の者が90%の富を獲得している社会は、歴史的時間軸で見れば自滅する。能力の大きい者小さい者、セクシャルマイノリティ等何れも動物(人類)の自然の多様性である。無駄の効用と言う諺がある。今、半導体の在庫(無駄)を省いた為に酷い目にあっている。又、ワクチンの国産はコストリスクが高いので輸入する、保健所の数を削減したその結果、新型コロナで徹底的に打ちのめされている。これを機会に、人にとって何が本当の幸福なのか、一度立ち止まってあるべき姿を真剣に探さなければならぬ。今、政治家は票の獲得に狂奔しているが、喉元過ぎれば熱さを忘れないように。
1		女性の社会進出、男性の家事育児参加等はよく話題になり、少しずつ社会に浸透しつつあると思う。セクシャルハラスメント、DV、セクシャルマイノリティ等々の悩み等は、他人に相談しにくく、身近にないようで、もしかしたら、すぐく身近にある問題かもしれない。相談しやすい環境、偏見差別のない社会づくりを皆で考えていくことが大切だと思う。
1		差をつけるような文言、ニュースをするから差の意識が無意識に起こる。当たり前にするれば良い。そもそも専用の～を作ったり、男性の育児、女性の役員や活躍等、生活が豊かに行えるなら自然と出来るだろう。国策、政策、社会がうわべの机上の空論だから議論ばかりで進まない。
1		性差の問題も重要だが、より根底にある人権、人間の尊厳といった基本的価値の共有が重要。
1		政治・文化・社会で共同参画社会に変えていく。
1		新型コロナ感染も収まり、政治も進化し、今後の新しい世の中形成に、みんなの意識が変化しお互いの人権(人格権)を尊重し合う。あらゆる分野において性別に関係なく個人の能力・技量が発揮できる。そんな社会環境作りにより、お互いの力と関りが大切と感じています。このような絆(ネットワーク)形成に行政が声を上げ、地域を巻き込んだ取組に期待しています。
1		無関心の人が多い。
1		男女の問題は単純に性別だけでなく、個人差の問題(年齢や家庭環境)が多くあると思いました。
1		職場では女性の意見ばかり取りあげられて、逆差別になっていないか。
1		若い人(～30代)は、もう新しい考え方があるように思います。50代以降の方の意識改革が進めば、もっと住みやすい社会になるように思います。
1		行政、社会システムは徐々に改善されてきているが、人々の意識を変えていくことが今最も求められていると思う。
2	5	男女平等といっても身体的なこと(出産、体力など)の違いがあり、すべて同じにはできないと思う。家事、育児は女性に偏りがちで、プラス仕事となると身体がもたない。男女賃金格差も若い人から無くしていくべき。(むしろ、子育て男性(シングルファーザー)、子育て女性の賃金を上げる)また、男だから女だからというのではなく、各々の能力をフレキシブルに生かせるような世の中になると良いと思う。
2		もっと男とか女とか関係なく皆が互いに尊重し合い高めあえる社会を望む。
2		アンケート内容のどの項目も大切で、私が重視する内容です。積極的な情報収集、改善へ取り組んで下さりありがとうございます。その姿勢にすごく信頼感が上がりました。これからも一市民として、男女問わず性別関係なく活躍できる、住みやすい社会に出来るよう頑張りたいと思います。
2		一番は性別に関わらず、個人の能力、個性、希望に応じたチャレンジができる社会である事が肝心だと思います。
2		人を男女云々ではなく、一人の人間として捉えるといった意識付けをするだけでも、この問題は幾分か改善できるのではないかと思います。
2		性別にこだわるのではなく、個人の希望、能力が優先され社会に生かされると良いと思います。「その人らしさ」が尊重されるような環境が整えられると良いと思います。
2		性別に関わらず、得意なことでも能力を発揮することは大切だとは思いますが、むしろ苦手なことをお互いが補える関係でいたいと思います。

II 市民意識調査の結果

分類番号		自由意見		
2		性別に関係なく”人”それぞれが良い		
2		性別に限らず、適材適所という考え方が社会に欠如している。それには何が適切かを判断できる人間を育てなければならぬ。情報を記憶するだけの日本の教育が諸問題の根源であり、状況判断能力・知識に頼らないコミュニケーション能力を育てる教育が必要。		
2		時代が大きく変化してきています。男性として女性としてではなく、「人」としてを大切に出来る社会であってほしい、又社会でもどんどん取り組んでほしいです。		
2		現在女性が活躍できていないとは思わないので、女性もこうした方がいいとかこうするべきといった運動こそが男女の差を生み出しているのではないかと考えた。性別関係なくそれぞれが活躍できる場になれば良いと思う。		
2		男女こだわらず個人として自立が一番。意見を云える人間でありたい。「和」と云うことによる弊害が多い。群をなすことが男と男、男と女、女と女にかかわらず組織が成り立つと問題が多い。私は男女にこだわりません。但し、人の話はよく耳を傾けなければならないと思っています。		
2		男女共同参画社会の形成には、以下の点が基本となります。(1)男女の差異や個々の特質について、科学的に正しい知識を有する。(2)人間の尊厳性や基本的人権の尊重は、社会的に公正に実践される。		
2		能力のある方、又は興味のある方は、男女問わずどんどん参画すればいいと思います。		
3	4	・市長の考え方を根本からかえる必要がある。・高齢者の意識をかえるセミナーを強要する。・意識の変わらない高齢者が死ぬまで待つ。・高齢者をあきらめ、次の世代を教育をしっかりする。		
3	5	男女ともに働き、ともに子育てを行うことができるよう各種制度が改定され、また人々の意識も追いついていくことが必要だと思います、男性は子育てと仕事が両方できるような働き方ができるような制度が実現するとよいかと思います。女性については、いずれ結婚して専業主婦になるという思いを持つのではなく、働くことが当たり前になるよう、10代のころから意識づけられるようにすることが必要だと思います。		
3	6	14	19	まずこのアンケートが女性目線で男性に暴力を振るわれたか、という質問形式になっているので、男の回答者である私は回答しにくい内容でした。質問内容はもう少し公平な目線での内容であってほしかった。男女関係なく、個人の努力があれば男女平等に十分な機会は開かれていると思います。最近の若い世代は特に、女性の社会進出率も高まっており、共働き世代も多い中で男女共同参画社会を問うよりは、共働きに伴う影響、例えば子育てにおける保育園の枯渇等、生活の上での直接的に影響のある課題に対して取り組んでもらいたい。女は家庭に入って、などという価値観自体、40代の私でも古い考えと思っていて、今でも炊事、洗濯、掃除に育児をすべて担っています。逆に、女性でも楽なので専業主婦でいたいという人もいたり、そういう人に限って炊事すら満足にできない女性がいるわけです。人が生きるという事に対する教育を子供のうちからする施策は必要かと思えます。子供のころから、料理、洗濯のお手伝いをさせて立ち立って困らないようにできること、それは家庭で教育すべきことだと思います。市としてやってほしいことは、そうしたスキルを学べる環境を整備すること、市民教室とか気軽に学べるのがあるといいと思います。会社でも女性の管理職登用とか、言われていて、逆に男は無視されているように感じ、こうした男女共同参画、という題目自体が私としてはあまり好きではありません。
3	6	15	私は学生で、視野が狭いという自覚もあるため素っ頓狂な意見となっていたらお許しください。まず、学校というのは一種の閉鎖空間であり、学生にとって大部分を占めるコミュニティです。そのため、実際の社会でどのような不平等があり、どのような状況を打破するために取組がなされているのか分かりにくい状態にあります。結果として、テストのための勉強に重きを置き、文字列を暗記するだけで学びのない授業となってしまいます。特に雇用機会や仕事形態についてなどはいま想像が出来ず、問題意識が低いです。もっと実感を伴う状況があればと思います。また、少し違う話になりますが、男女平等を謳うあまり男女が必ず同じだけ、同じことをしなければならぬといった風潮があるように感じます。このアンケートにも、男女で役割に偏りがあるか同じかという選択肢しかないわけですが、別にパートナー間で了承し合えば片方が家事育児を全部していても問題はないし、仕事を強制されるものでもないと思います。平等を叫んだ結果、女性が働いていないのは悪、家事をしない男に価値はない、というような逆差別の可能性も考慮した取組の必要性もあります。最後に、男女共同参画社会からは脱線しますが、なぜ日本では同性婚の法整備が進まないのでしょうか。何か不都合があるんですか。それとも、後回しにされているんでしょうか。どちらにせよ、まだまだ海外の先進国と比べて遅れていると感じます。	
3	8		今回の調査から、茨木市が男女共同参画についてどのような活動をしているのかということについて全く知りもしなければ、意識としても弱かったことが分かりました。学校などでそういったパンフレットを配るなど、茨木市の取組についてもっと知ってもらえる機会があればいいのではないかと感じました。	
3	8		知らない事がありました。良い機会でした。小さい頃から子どもの教育(親、子どもに携わる大人)子どもの生活していく中で、大人達の正しい生き方を示す事が大切だと思います。親の場合、経済や精神的余裕が必要ですね。	
3	10		女性の社会進出は、たいへん重要なことでこれは是非すすめていくべきだと思います。能力ある女性もたくさんいらっしゃる、是非社会貢献していただきたいと思えます。この問題は視野が広く、1つ1つの問題のポイントがちがっていることもあり、意見というのは非常にむずかしいと思えました。DV、LGBT、育児、雇用と視点がちがいます。時間はかかりますが、教育現場での意識改革の取組が必要なのではないでしょうか。	
3			幼稚園の保育士さんの男性の方を、今は珍しいと思わなくなりました。園児達も男性・女性の差別なく学ぶ時代はとてほしいと思います。	
3			男女平等と声高く訴えたとしても、それは現世代である自分達大人が無くそうと躍起になっているだけで、子ども達には良かれ悪かれそういう差別があることを知ってしまった。つまり差別を無くそうと声高に訴えても、それは差別を生んでしまうように感じる。差別という言葉がある限り、差別はなくなる。どうすれば差別がなくなるのかは、人々がいつしかそういう考えを生みださない限り、人々の性的マイノリティは自由にならないと思う。差別を失くすことは無理だと思うが、少なからず歪曲した考えや親からだけの一方的な考えを失くし、より多方面の情報を渡すことによって今よりは幾分かは明るい未来になることを願って止まない。	

Ⅱ 市民意識調査の結果

分類番号		自由意見	
3		男女平等の社会が理想的ですが、女性である自分自身も「女性だからまあいいか」というような半分甘えのような考えを持つことがあります。これは子供の頃からの教育や風習に影響されると思います。今の子供達はそういった教育を受けつつあると思うので、今後はもう少し男女平等やLGBTが社会に浸透していくと思います。	
3		結婚や性的な問題等男女に関する事で慣習や制度、法整備などを変える必要があると思うが、まだ理解に欠ける事が多いのでしっかり勉強したい。	
3		茨木市だけの問題ではありませんが、日本はものすごく性教育が遅れていると思います。性教育＝保健体育の授業の様な発想で、性教育＝人権教育だと思えないことが大問題だと思っています。人権教育は幼児期から必要なものですし、幼い頃から自分を大切にできる子は自然と男女のレッテルに囚われない考えを持てると思います。中途半端に男女の身体の違いを学校で習い、思春期に間違った情報で誤魔化すぐらいなら、何も教えない方が優しいとさえ感じます。今の大人ができることは、子供達の為に正しい情報を教えることです。男女の性差別の為に女性を表に立たせて終了ではなく、単純に個々の能力を尊重すれば男女差別は無くなると思います。	
4	5	学校に多目的トイレの数を増やしてほしい。保育所に勤めてるが、男性職員は働きにくい環境になっている。妊娠希望だが、仕事をしていると中々妊活ができず、地域の人からは子どもはまだ？と聞かれたりしてすごく辛い。	
4	6	最近の旦那さんはとても積極的で子どもにとっても優しい方がおおくなってきたなと思いました。しかし、私の友達であり子育てに参加していない男性もあり、もっと相談しやすい環境が必要ではないだろうかと思っています。子どもを産むまえに婦人科などで相談所とのやりとりをしてもらったり、気軽に相談ができる場が必要だと思います。意外にもシングルマザーが多いような気がしました。	
4	7	今回このようなアンケートをいきなり送ってこられました。一応お答えさせてもらいました。茨木市の業務内容が一市民としてあまりみえてきません。コロナの対応・支援にしても、小学生児童を持った家族にのみ支援(給食費)するなど、もっと市民全員に対しての支援を考えてほしい。他の市では全市民に5000円のクーポンを出したりしているが、茨木市の議員のみなさまは、普段何を考え行動しているのでしょうか？もっと市民に見える活動をしてほしいです。	
4	7	茨木市が実施している男女共同参画施策を市民に浸透させるために、積極的に情報発信する必要があると思います。また市役所内においてジェンダーやLGBTについて、職員の認識が低いように感じますので、職員への研修が必要と考えます。	
4		このアンケートで何がよくなるのか目指すところがわかりませんね。実態把握の次の方向性を示すべきと感じました。	
4		これと言って男女協同作業に関する事は特にありませんが、市役所の人数の多さの割にはやる事が遅い。特にコロナワクチンの案内は他の市と比べ、明らかに遅いし遅すぎる。男女協同作業云々も大事だが、他に注力すべき事をなさらないと、魅力が無くなり他市への流出問題に発展しかねない。些細な意見を汲んで行政に力を入れて頂けるように願うばかりです。	
4		一番効果が高く影響力のある資金の投下先を定めるにぎやかし企画を実行する ※市立小中学校で学生のアイデアコンテストを開き、優勝者の素晴らしいアイデアに投資し実現してあげるとか	
4		市民意識調査が市政に反映できればと思います。	
4		平等の考え方が日本は間違っている。平等とは女性が働きやすい社会ではなく男女共ども自分が何を選ぶかの自由がある社会が平等社会。「共同参画社会」と言う言葉でお役所の人は何がしたい？してるつもり？とてもくだらない。このような何かをみざす事が正しいという風が、人には生きにくい社会!! 無意味な活動はやめましょう。	
4		目に見える形で(例えば、議員の男女同数、役職の女性数)実現してほしい。	
4		職員の日々の仕事の人権につながっていることを自ら再認識してほしい。市民対応が良いだけでなく、言うべきことは言うという姿勢が必要だと思う。福岡市長、身体に気を付けてがんばって下さい。	
4		負の部分ばかりが強調されて、どのような社会の実現が着地点なのか分からない。そのような社会の意図性、目標が明確ならば到達時間も短縮されると思います。	
5	6	12	・働き方改革と連動する。男性の長時間労働をなくす。・転居転勤などは本人の希望で。子育て世代は転居転勤拒否可能とか、残業禁止とか、育児を大切に考えられるようにする。育休も分割取得(例えば50日連続休むのではなく、50週間週1回休めるなど)ができるように。・女性が外に出ることを考える前に男性が家事育児をできるように考える。すると、女性も外に出ている。順番が大事。
5	8		・このことに対して余り(?)興味というか関心が高くないということが、自分でわかった。・このことと、直接には関係がないが、ずい分前に、友人が「共働き、子育てをずっと続けるなら吹田市が一番良い!!」と話してくれたことがあった。どのことを比較して、そんな評価をしたのか正しくおぼえていないが、JR茨木市から16分で大阪駅にも行けるし、住み良い街で気に入っています。
5	10		私の子供の頃とは、女は家庭、男は仕事！と言われ育ってきましたが、子育てを終えて今思うことは、女も手に職をつけて仕事をしながらでも子育てをした方が良かったかなと思います。男の人も、育児に積極的に参加して、女性もどんどん社会に出れる様な仕組みが欲しいです。年金の事など、年を取ってから思う事は、もっとパートではなく、正社員で頑張っていた方が絶対良いです。若い人に言いたい。
5	12		女性が働きやすい環境作りをし、男性が育休等取得しやすい環境にして欲しい。会社では「冠婚葬祭以外で休むな」という古い考え方があり、休みづらい。残業して人並みの給料なので、残業ありきの生活となっています。家族との時間を作りたいです。意識調査ありがとうございます。茨木市大好きなので今後ともよろしく願います。
5			ジェンダー、子育て、介護と生産世代ではたくさん抱えていると思います。高齢社会なので、お年寄りの施策が必要なことはもちろん理解していますが、まずはそれを支える人たちをしっかりと支えられる政策をお願いしたいです。
5			ワーク・ライフ・バランスは男、女、年齢によりむずかしいと思う

II 市民意識調査の結果

分類番号		自由意見
5		子どもが体調不良であると休むのは必ずといっていいほど女性である。平等と言いながらも、そういう環境なので、もっと男女ともに子育てに積極的な世の中になるといいなと思います。
5		男性が育休を取得しやすい社会になれば女性の負担も減るので、早くそうなってくれたら良いなと思います。
5		社会で、特に男性が法律で決められている育児、介護休暇などをとれる雰囲気、業務の調整をする動きがとられていない。個の考え方の改善よりも各々の会社の考え方を指導していくべき。上の人が変わらないと何も下は言えない。悪循環だと思う。女性が育休を取得して子育てをする。女性は子育てが得意だと決めつけている状況も変えていくべき。
6	8	市や自治会などへの期待が無かった。多少進歩している様子が分かった。研修、教育以上に親の意識が大切。自分自身東京のいわゆるニューファミリー(?)に育った。父母に性差別は全く無かった。大阪ではずっと若い人がもっと遅れている。
6	12	性別にかかわらず、個人として社会活動参画を希まない人もいるので、あまりPRすることはよくないと思う。働いている人が企業等の長時間労働から解放されれば、自然に活動に参加する人が増えると思うが、まずは家庭内での子育てや仕事の分担ができるようになってからのことではないでしょうか。
6	12	海外に住んだことがあります、家事を外注するのはめずらしくありません。子どものお迎えも父親以外にもシッターさんだったりします。子どもをあずけて母親がでかけるなど、「母」「女性」ではなく、一人の人間(個)として生活されています。日本も海外の取組を見習って、意識をかえてほしいです。学校等のプリント類も父親が目を通すことはほとんどありません、家族間でシェアできるようメールで保護者(父、母など2名)に送るなど工夫してほしいです。まずは働き方、残業や接待文化を見直し、男性が仕事から解放されることを望みます。”母は家事、父は仕事”という姿をみて育つ子どもの将来が不安です。
6	20	●共働きが多いと思われませんが、それでも「女性は家庭」という思想が強いと女性だけ外でも内でも働き続けるという事になります。家事には終業時間も決まっておらず、給料が出る訳でも無い。でも男性はそれを女性がする事が当たり前と思っている方が多い。これって平等なのでしょう。●性別に関わらず「思いやる心」は大事だと思うのですが、男女平等となると体の作りとして男性のほうが良い(筋肉など)場合も多いと思います。だから「男女平等」よりも「弱い女性や子供を男が守らねば」という考えだけは必要だと思うのです。男女関係なくDVもあるし、傷つのに性別は関係ないですが、どこかで止められる事件もあるのでは……。●男性が多い職場が多く下ネタとかありましたけど、信頼関係があり、本気とかではなくジョークと分かり切っていましたので別に何も思わなかったです。何なら返答していましたから。仲が良ければ何しても良いとかそんな話では無いのですが、そういったジョークが面白い事もまああると思います。年配の方にデュエットしようや〜と言われても、こちらからしたら“おじいちゃん”とかでするので、あまり気にした事もないです。やはり“関係性”が重要なのではないかと思います。
6		問4に関することですが、家事の役割についてすべて男女が同じ程度に○をしましたが、それぞれ得意な分野を多めに担うのも良いと思います。
6		家庭での家事労働も仕事であるという認識が広まってほしい。
6		現在未就学児の子ども2人の子育て中ですが、子育てしやすい環境だと感じたことはほとんどありません。茨木市に限った事ではないと思いますが、「子どもは女性が育てて当たり前」という風潮がまだまだあると感じます。私が昼間子ども2人を抱っこしてベビーカーを押して連れていても、誰かに何か親切にもらった経験はほぼありませんが、夫が同じ状況で連れて歩いていると「お父さんえらいねー」とよく声をかけられるそうです。私達は少し前まで中国で暮らしていましたが、中国ではこのような男女の差はあまり感じることなく、子どもが小さくても働いている女性は多かったですし、皆がもっと親切でした。もっと男性が育児をすることが当たり前である社会であってほしいです。
6		男女共同参画社会とはどのような社会なのか？男と女が平等に働く機会を得て、社会で活動する社会を目指すのか？茨木市の活動としては、夫婦＋子供2人以上＋老夫婦を推進し、家庭内での共同生活を通して社会へ参画を図るべき。3世代世帯は経済的に余裕がある場合が多いと思われるので、まずは夫婦＋子供の世帯が安心して子育てが可能となるようにする事が第一優先。女性の社会参画は子供が親から離れてからでも遅くはない。若い親達子供を育てることに楽しみ、他の親とも共同の活動を通して横のつながりを広げていければ、その後5年、10年で、子供が成長し、社会人になってからも茨木市の男女共同参画社会での絆で、女性の活動が変わると思う。
7	11	全く気にも掛けていない事柄である。悩みがない状況であるが、茨木市としてもっと活動について広報して欲しい。
7	19	①質問の内容が回答を誘導している質問が多々あるので、このアンケートの目的・成果が疑問を感じる。②アンケート結果からのアクションについても公報で展開してほしい。
7		このアンケートを返信してくれる方々が茨木市にたくさんいますように。このアンケートが基になって、何かが変わりますように。このアンケートの結果が、お金のかからない形で、一人でも多くの市民(あるいは誰にでも)の目の触れる形で可視化されますように。(例えば市役所HPのトップページの分かりやすいところへそれなりに長い間リンクが貼られるとか)
7		別紙にて多くの相談窓口がある事をはじめで知りました。もっと広く宣伝して、もっと身近に感じてもらえたらいいと思います。なんかもったいないなあと思います。
7		前頁の茨木市の状況は全くわからない 自分の意識は高めてるが、地域としてどうかは全くわからない
7		男女共同参画する具体的なものを、中長期にわたって発表する。
7		社会全体の理解が進むように、行政にはもっと発信して欲しい。
7		茨木市からの情報を知るツールが少なく、また子供達も何をしてもらっているのかをわかっていないと思います。相談したとしても、よりよい返事をもらえてないと思う。

分類番号	自由意見
7	行政等は、どんどん進んでいっていると感じますが、地域の人たち、特にインターネット等を使わない年代の人達に、情報が伝わっておらず、未だに昭和時代の様な考えを堂々と口にする人が多くみられます。興味の有る人は、色々な場所に参加して知識を更新されますが、それ以外の方は情報が有る事すら知らない様子です。市の情報誌(地域の回覧板)等で、現代の考え方を興味の無い人にも目につくような形で情報発信をしていってほしいです。
7	障がい者に対する市民の理解を、仕事と家庭での助け、援助の啓発に発信を密にして欲しい
8	2000人の中から選出されてこの答えでいいかわからないですが、色々勉強になりました。又わからない事も多いのもっと勉強しなければと思いました。ありがとうございます。
8	あまり詳しくない事柄ですが、福祉を含め誰もが生きやすい社会を築いていくためにみんなで考えていかないとけないことなので、自分の生まれ育った市がこういう活動を前向きに行っているのを知って誇らしいです。
8	このような質問がこなければ、なかなか意識しないと思いますので、茨木市のアピールを期待します。
8	今まで通勤族でようやく親の介護もあり5年前に茨木に定住する事となりました。まだまだ茨木市について詳しく理解できていないので、これから自治会などとかかわりながら少しずつ茨木市の取組など勉強していきたいです。
8	学校で男女共同参画社会についてや性について学ぶ機会が増え理解してきましたが、実際社会や茨木市での取組でいうと知らないことも多いなと思ったので、自分自身で調べてみようと思いました。
8	市役所の役割が以前に比べると多種多様になっていると感じました。見直したいと思います。
8	茨木のいろいろな取組について何も知らないということがわかりました。もう少し関心を持って広報誌など見てみようと思います。
9	これからも男女共同参画社会の取組をしてほしいです。
9	上記の参画社会の理想像が全くわかりません。但し、社会は少しずつゆっくりとその方向に進んでいるとは思っています。
9	今後も推進して欲しい。
9	先進国の中でも日本は差別に関してレベルが低いと思う。もっと考えて、話し合っって進歩ある国づくりをして欲しい。
9	政治家をみても男女の差がありすぎます。日本における社会政策にもかかわらず。諸外国と比べると日本は後進国だと思えます。茨木市から日本を変えられるような政策を考え、「女性が茨木市に住みたい」「子育てするなら茨木市」など、いろんな事にチャレンジしてもらいたいと思えます。
9	法的には推進する法律が施行されて久しいが、日本はまだまだその実体には疑問符が付く。まして、現状ではまだまだ厳しい社会情勢である。歴史的にも「やってる感」のみが先行し、遅々として進んでいない。日本は経済的には世界でもトップクラスの先進国に数えられているが、今企画では先行するヨーロッパ系諸国に比べると遅々として進んでいない。最近では経済的指標においても後塵を拝する面が多くなっている。「本当に先進国なのか」という状況でもあり、大半の政治家、経済界もそれに気づいていない。新しい未来をひらくには絶対に避けて通れない問題であり、政治家の意識を変え国を上げて取り組むべき大きな課題である。
9	男女、LGBT、年齢、障害、など包括的に取り組んでもらいたいと思う。
9	私は在日韓国人で、制度上の差別(参政権がないなど)、日本社会全般に見られる差別(ヘイトスピーチの横行、他多数)を受けている立場である。男女差別も民族差別もその根は深く、政治や社会運動に相当のエネルギーがなければ中々解消は難しいと思う。
10	中央、会社、地域で重要ポスト、決定、任務分担する時、男女別の定数を決め、任務に付けてはどうでしょう。安定した意識を持てるようになるまでやってみてはいかがでしょうか。
10	就職や政治等についてまだまだ男性優位であるが、女性管理職や女性を雇うことについて、数値目標が先走り、その目標達成が目的となっていることがある。就職や出世、政治参加は、男女問わず能力で評価されるべきであり、女性の大学進学率の向上や子どもの頃からの男女参画に対する教育等によって、男女の平等を目指すのが理想だと思う。
10	男の仕事と思われている仕事への女性進出をはかる。(建設現場、運輸、交通、公共の仕事で現場仕事など)
10	男女や男女比ではなく、能力のある人がふさわしい場所で活躍できるようになればいいと思います。
10	男女共に労働時間や、役割等も全て平等に行う社会が必要だと思います。
10	職位が上になった人がたまたま女性ということを目指し、幹部の女性は何パーセントという数値目標は止めるべき
11	まだまだあまり身近に感じられない。
11	当人、男女共同参画社会に理解していない
11	普段今回のアンケート内容のことについて意識していないのでご参考にならないかもしれませんが…どうぞよろしくお願ひ致します。
11	男女共同参画社会と言う言葉は耳にした事があるくらいです。
11	男女共同参画社会について真剣に考えた事がなかったと思いました。
12	生活の豊かさは経済的な面が大きいと考えることが多い。少しでもゆったりした環境にないと男女共同参画環境が進んでいかないのでと考えることが、茨木市が主導するものがあれば参画していきたい。

II 市民意識調査の結果

分類番号	自由意見
13	LGBTなど多様性を認めて、全ての人が生きやすい社会を目指すことはとても重要だと思いますが、明石市でトイレの色分けをなくすような過度な配慮は必要なのか？と疑問に感じます。
13	完全にジェンダー的に平等な社会とは、違いがないのだから、そもそもジェンダーというものが意識されなくなった社会のことだと思います。そんなことになったら現実的に困ることにならないのかと思いますし、そうではなくてお互いの違いを認め合っとかいうのであれば、今どちらが優遇されてる、なんて捉え方をする限りいつまでも同じことを繰り返すんじゃないかと思います。なので個人的には、あまりこの視点を社会だとか大きいレベルに広げて扱っていくことについては、どちらかという反対です。
13	意味を履き違え、女尊男卑となってしまう節もあると思う。また形骸化が酷く、経済・社会活動の枷になってもある。まずはパターンリズムからの脱却を。
13	社会がいろいろと言い過ぎ。ここに税金を使わず、他に必要なことがあると思う。
13	過激な言動をする女性が増えている印象が強いです。あの様に声を張り上げない女性や静的マイノリティの方達の意見を必ず聞いてください。過激な言動をしている方の意見は極端すぎて、現状の社会のありようにはそぐわないと思います。
14	今の日本の制度、政治では無理だと思います。しかし努力はしないと前に進めない。とにかく子供に予算をつけて、子育てしやすい茨木市になってほしい。私は60才ですが、日本は子供を産んで人口をふやしてほしいらしいが、老人にばかりお金をつかい子供にお金を使って保育園を義務教育にして医療費も15才まで無料にしたいと思っています。子供、女性を守ってください。
14	子供が3歳から全員保育園に入れるようになれば、女性はもっと社会復帰できると思います。
14	現在、保育園入園を申請中ですが、1年以上待機のままです。入れたとしても保育費は所得税階級方式で高額、ひとり親家庭などが優遇されるのは理解できなくはないものの、腑に落ちないままずっと待機です。こどもの健診は平日昼間、仕事があっても休まねばならず、問い合わせると「皆さんお仕事お休みされて来られてますけど？」の一言。こどものイベント、発熱などで仕事を休むのは母親ばかり(職種や家庭にもよるとは思いますが)、とても男女平等な社会とはいえないですね。とりあえず、茨木市には保育園、小学校学童問題を早急に改善してほしいと思います。こどもをもつ親は皆同じ意見です。
15	「男女」共同参画社会という言葉はマイノリティを含有していない言葉であり不適切な表現だと個人的に思っていたが、現在の用法としては性別に関わりないという意味合いをもつのだと知ることができました。一方で、マイノリティも含有されていることが直接的に表現されるような単語のほうが望ましいとは思いますが。また、セクシュアルマイノリティを表す言葉がLGBT→LGBTQ→LGBTQIAPKと変化しているように、新たな性自認が増えてきていますが、それらを区別して個別に対応するというよりは、どんな性自認の人がいたとしても(今後新たな性自認が現れても)それを受け入れられることが大事だというのが個人的な意見です。
15	性別で何かを判断する時代が早く終わってほしいです。この意識調査自体がなかなかのストレスでした。好きでその性別に生まれたわけでも何か悪いことをしたわけでもないのに偏見を向けられるのは本当に鬱陶しいです。最後に、LGBTの団体の名前に「にじいろ」と名づけるのは安易すぎるなどと思います。
15	茨木市もセクシュアルマイノリティの方が安心して暮らせるように、同性婚が認められる自治体に早くなって欲しい。夫婦別姓(選択的夫婦別姓)についても、世界にもっと目を向ければ、日本が遅れている、決して先進国家ではないことに気付かされる。いつまでも古くさい固定観念に縛られていないで、私たちの子どもたち、孫たち、その先の未来を考えたとき、いかに暮らしやすい街にするか、ぬくもりのある、包み込む街になって欲しい。
16	全てが男女平等というのは難しいと思う。一般的に見て男性と女性では体力差があり、全く同じ仕事をこなすには無理がある。差別ではなく、配慮ある区別が個人にあてられるような優しい社会が望ましいと思う。
16	昨今の風潮は、何でもかんでも男女平等にこだわりすぎていると思う。だが、男女では身体づくりも異なる。性差はあってしかるべきなのに、いきすぎている意見はどうかと思う。男性も女性も社会や地域、家庭で活躍することは大切だが、性差があることは無視すべきではないと思う。
16	男女平等にするべきところ、しなくてもいいところをもっと議論が必要だと思います。なんでも平等とは違うと思っています。職業でも、事務的なことは男女平等にできても体力を使う仕事などはやはり優先が出てくるし、スポーツ競技なども難しいと思います。
16	男性は男性の役割、女性は女性の役割があるので、何でもかんでも平等という概念は難しいと感じます。
17	PTA活動への参加は女性がメインで9割以上が女性を占めるにもかかわらず、会長など責任のある役割は男性に押し付けるという風習は変わらず続いている。
17	これまで生きてきて「女のくせに、女だてらに」をどれだけ聞いてきたか。せめて憲法前文くらい頭において24条の(同等の権利を有する)くらい守れないものか。見せかけの詩的美的表現は不要。男女共同→誠意を尽くし信頼され、深い愛情と謙虚な態度こそが基本。今でも「女のくせに、女だてらに」が残っている代表的な例(多数の町村議会で女性が一人もいないというより出られない)。共存共栄社会がこれでは生まれない。
17	年配の方がどうしても社会・会社において上の立場にあり、昔ながらの考えが正しいと思われ、強要されている場面が多い。私も若くはないが…。人それぞれと思える様にしている。昔の考えが全て悪いとは思わないが、パワハラ、セクハラじみた言葉をさらっと言うのは年配者、社会においての強者が平気で言っているのが日常だと常々感じながら生活をしている。多様性を全ての人が認める必要がある。
17	若い人はわからないが、やはり女性が一步下がってとの意識があると思う。色々な男女共同の組織、PTAなどでも男にゆずる所もあり、めんどろな役は男でも女でも嫌であり、参画している組織で対応・態度が違うと思う
18	これから高齢化が進むと思われるが安心して生活が出来る自治体をお願いしたい。

分類番号	自由意見
18	・所得の低い高齢者に対する取組もしてほしい。職場、生活補助など。・子育て世帯も大事だと思うが、高齢者にもやさしい市であってほしい。
19	77才の意見が役にたつのか心配です。
19	このような機会をもっと作っていくべきだと思います。
19	このアンケートの質問項目がセクシャルハラスメントに感じました。回答しながら非常に残念な気持ちになりました。無記名調査とはいえ、個人の住所宛に届いているものなので、かなりプライベートな質問に正直に回答する方がいるのか、非常に疑問に思いました。この調査の運営自体にも、20代、30代の市の女性職員の方の反応や意見も取り入れていただければと思います。
19	このアンケートは長すぎます。無作為2000人ならばセクションごとに分けて2000人に送ることもできるはずで、セクションごとに母集団が一致している必要はないでしょうから。答え手の負担を減らす工夫をすべきです。
19	この調査にも費用が掛ると思うが、税金を大切に使うべきです。
19	この質問は学校とその親に聞け、全てにおいて
19	アンケートですが、申し訳ないですがある程度、年齢を考慮していただけた方が良いのでは、家庭にいるために、あまり参考にならないような…仕事も定年となって年金生活。
19	セクシャルマイノリティや男女平等を意識するのであれば、質問の文言を見直すべきかと思います。
19	一応わかる所だけは○をつけさせていただきましたが、これでいいのかと思います。
19	学生にとってはいささか答え難い質問が多かったです。
19	年齢のアンケートを5歳ごとに細分化すればより市場が見えて来ると思う。例えば、21歳と29歳では同じ括りになるが生活の実態や考え方は全然違う。あとせっかくだし茨木市が今こんなことやっている、ということも合わせて同封・紹介してくれると悩んでる人にも届きやすいと思う。市民税の活用、よろしく願います。
19	特にありませんが問16、19、20は暴力・性行為や中絶の強要等男性への質問としては不適格では？それともこれがジェンダーレス？
19	私の様な者には、この様な調査は適当ではない
19	私は70才後半の年金生活者で、このアンケートは書きにくい。これは60才以下の方にお問い合わせすべきでは…
19	答えにくい質問のところは何問もありました。一般的に、などという文言は、決めつけになるように感じるので答えるのが難しいですね。そもそもその考えがないので、それを、一般的に、と言われても答えられません。
19	色々な調査 なんで同じ家庭ばかりに届くのですか
19	茨木市が実施する市民意識調査に協力したいと思い、調査票の回答に積極的に取り組みましたが、非常に難しく感じました、用語の解説をみながら回答し、非常に時間がかかりました。私の様な年代の者には、とても答えにくく難しかったです。
19	質問内容の幅と回答者年齢の幅の整合性が見いだせない。もう少し、年齢層、或いは就業条件に沿った質問形式でないと、妥当性のある回答を記載し難いです。
19	質問内容を理解することもむずかしい。適当に書くしかない。自分には関係のない質問も多い。
20	コロナ自粛であらゆる活動がなくなり、生活にうるおいがなくなりました。
20	主婦
20	今年1月にEテレで、トランスジェンダーを公表していたオードリー・タンさん(台湾IT担当関係)と落合陽一さんのリモート対談を見ました。タンさんのだらかさにファンになり家族にその話をすると、後日娘がオードリー・タンさんの”自由への手紙”という本をプレゼントしてくれました。”慎ましきこそ真のエレガンス”とか”個を慎む”は対談の時の言葉で私のノートに残っています。他にもです。オリンピックで日本に来られるとニュースで見ても楽しみにしていましたが、2日後ぐらいに来られないとの事であらゆる活動を思い出しています。日本の「わび、さび」の事もよく知っておられました。
20	大正生まれには答になってなくて恥かしいです。初級のナンプレや漢字、行き詰ると若い子にスマホで調べてもらって楽しい毎日を送っています。
20	年齢90才になっていますので、すみませんがこの各項目に対して一応○をつけましたが、本音は余り関係ない様に思っていますのでよろしく。
20	意識調査に参加させていただいて、嬉しかったです。男女平等は、中々難しい課題です。ありがとうございました。
20	昔と違い、今の時代の方が生きづらいついて思える。誰もがスマホばかりに夢中になり過ぎる。あまり目の前にいる人には関心ない様子。これが今の社会の現実だと思う。会社でも学校でも電車の中でも老若男女問わず、口きくの最小限になっているし、情報化社会で、人に聞くまでもなく自分で調べて答えるのがあたりまえの時代となりコロナも重なり、より閉塞感が増し、知らない人と口きく事も余程の事がないときかない。そんな昨今で、いろんな不安を抱く人は多いと思える。人と同じ様に普通にしていれば世の中、カテゴリー、ジャンル分けされる人はより大変だと思われる。
20	昭和53年に茨木市に越して来ましたが、子供3人を育てそれこそ人権を尊重しつつ、家庭、学校、あらゆる分野においても茨木市が気に入っています。

II 市民意識調査の結果

分類番号		自由意見
20		最近、人間関係が悪い
20		現在まだ仕事をしており、生活のほとんどが仕事中心となっているため、正直地域社会の事をあまり理解していません。職場の中ではESG推進本部のダイバーシティ推進部に所属している為、会社の意識も高く、ダイバーシティやインクルージョンが進んでいますが、今後退職した際、地域社会と密着していく上で、今までの環境とは異なることになった時の不安はあります。地域が誰にとっても暮らしやすい社会になったらいいと思います。
20		私は1人になって10年未満ですが、昔の事で今も時々フラッシュバックがあり、とても辛い。しかも、その内容が特別で人に話すと勝手に涙が出てきて…話せない！話せたとしても理解が得られないと思う。それに自分の無知が招いた事として受け取っていて早く忘れたいのにたまにグッと来る。人が怖い！それをかくすのに良くしゃべるようにしている…。
20		私は70才を過ぎてますのでトンチンカンな答を出してしまったかもしれません。申し訳ありません。
20		私は人間ではなく「貝」として生きたい！
20		老人ですが、手軽に外出やサークルに参加できる所があればいいのと思います。私には自由が少なく、家事に追われています。
20		道路の整備と緑多き町作りを望んでいる。

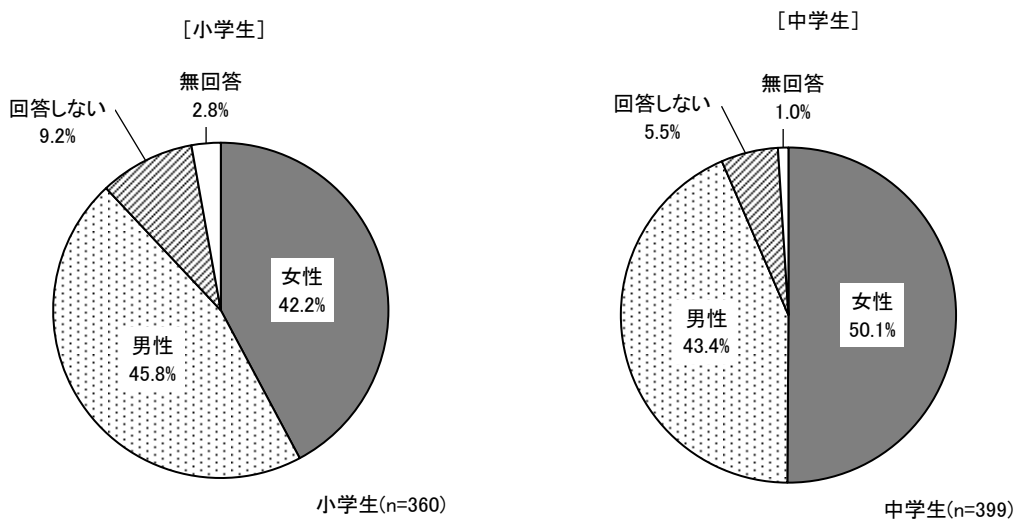
Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

1. あなた自身やご家族について

(1) 性別

回答者の性別は、小学生では「女性」が42.2%、「男性」が45.8%、「回答しない」が9.2%となっている。中学生では「女性」が50.1%、「男性」が43.4%、「回答しない」が5.5%となっている。

図 性別



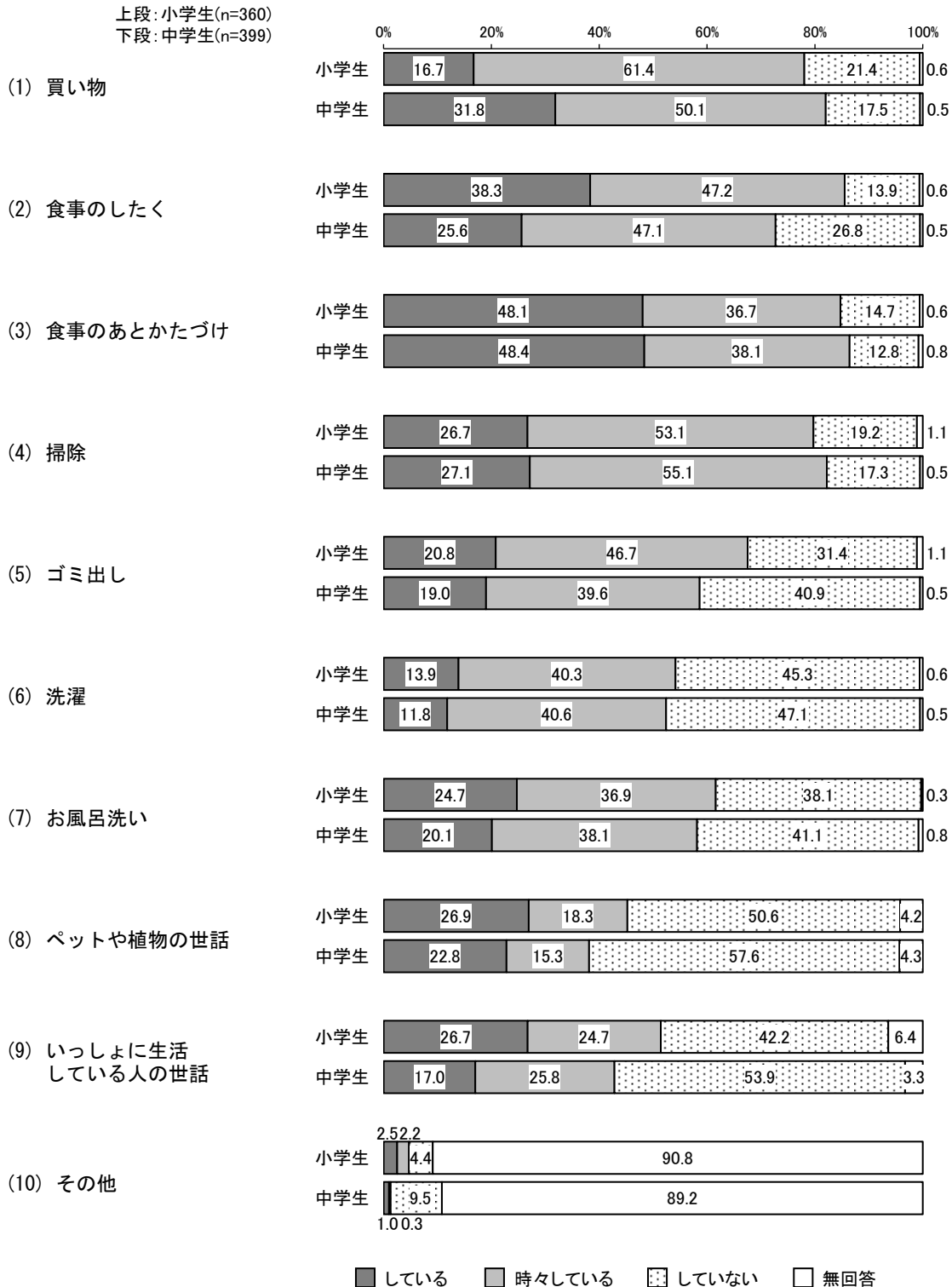
Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

(2) 家事分担などの内容

問1 あなたは、生活の中で次のようなことをしていますか。(○はそれぞれ1つ)

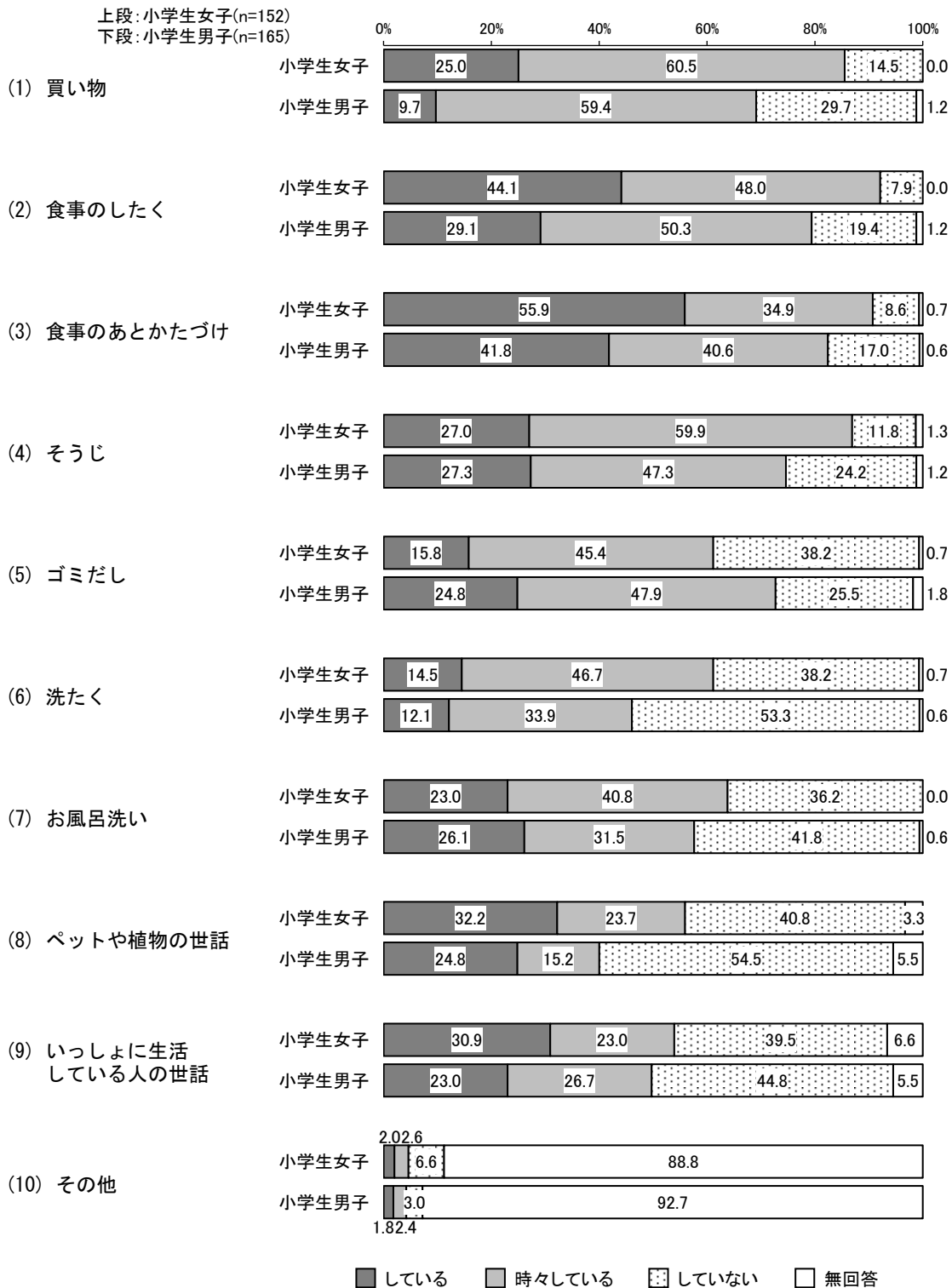
家で行っている家事分担などの内容についてたずねたところ、小学生・中学生ともに「(1) 買い物」「(2) 食事のしたく」「(3) 食事のあとかたづけ」「(4) 掃除」で『している』『している』と「時々している」の合計がそれぞれ7割以上となっている。中学生は小学生よりも『している』が「(2) 食事のしたく」で12.8ポイント、「(5) ゴミ出し」で8.9ポイント、「(9) いっしょに生活している人の世話」で8.6ポイント低くなっている。

図 家事分担などの内容



小学生で性別にみると、「(5) ゴミだし」を除くすべての項目で女子の『している』が男子よりも高くなっており、特に「(1) 買い物」「(6) 洗たく」「(8) ペットや植物の世話」は、女子の方が15ポイント以上高くなっている。

図 性別 家事分担などの内容(小学生)

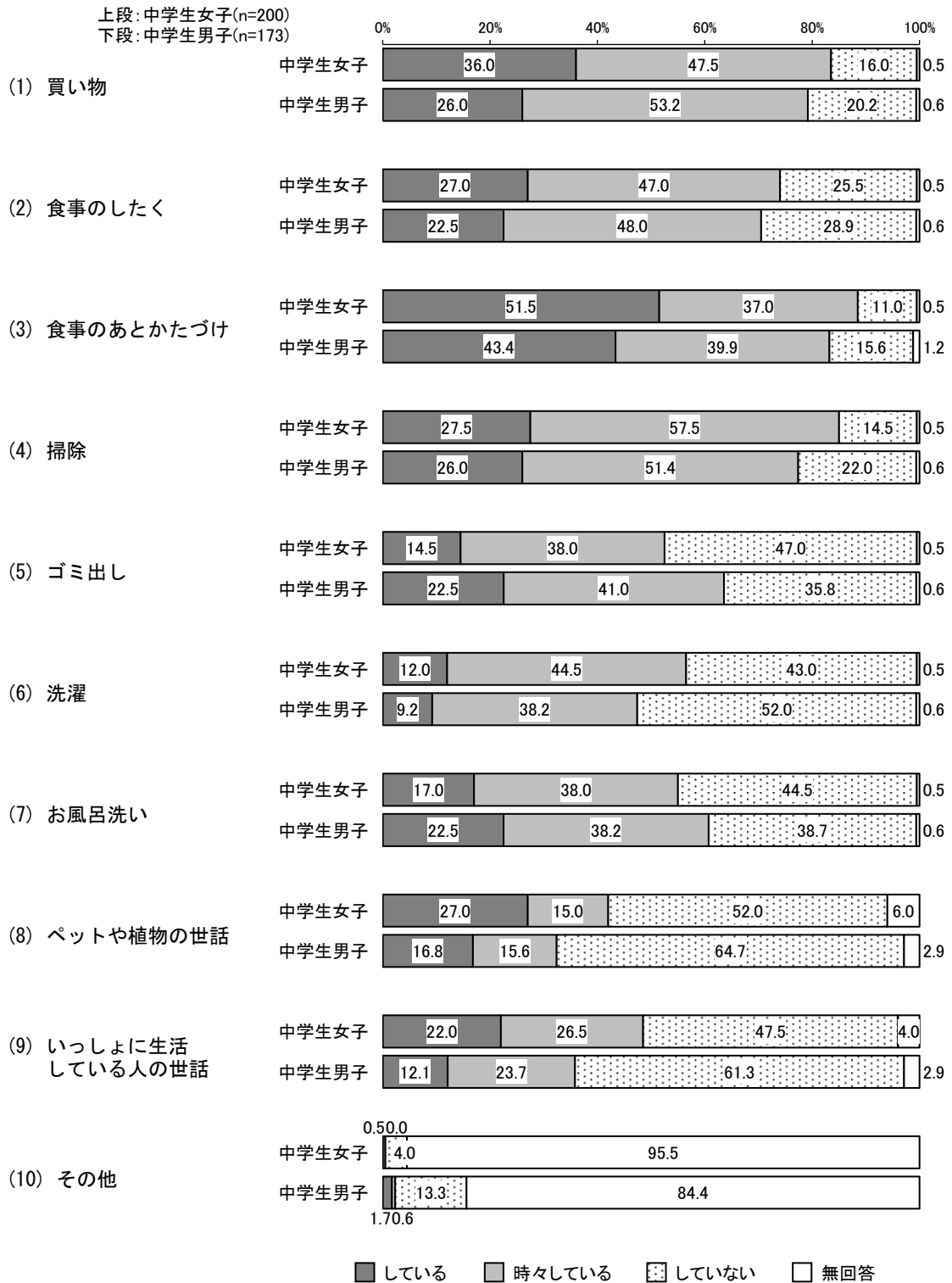


その他意見の要約		
ふとんしき・たたみ	5件	うわぐつ洗い 1件
新聞とり	3件	お母さんの手伝い 1件
トイレそうじ	2件	ふろに入れる 1件
靴ならべ	2件	

Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

中学生で性別にみると、「(5) ゴミ出し」「(7) お風呂洗い」「(10) その他」を除くすべての項目で女子の『している』が男子よりも高くなっており、特に「(9) いっしょに生活している人の世話」は、女子の方が12.7ポイント高くなっている。一方で「(5) ゴミ出し」は男子の『している』が女子よりも11.0ポイント高くなっている。

図 性別 家事分担などの内容(中学生)



その他意見の要約		
ふとんしき・たたみ	1件	受け取り 1件
他のてつだい	1件	

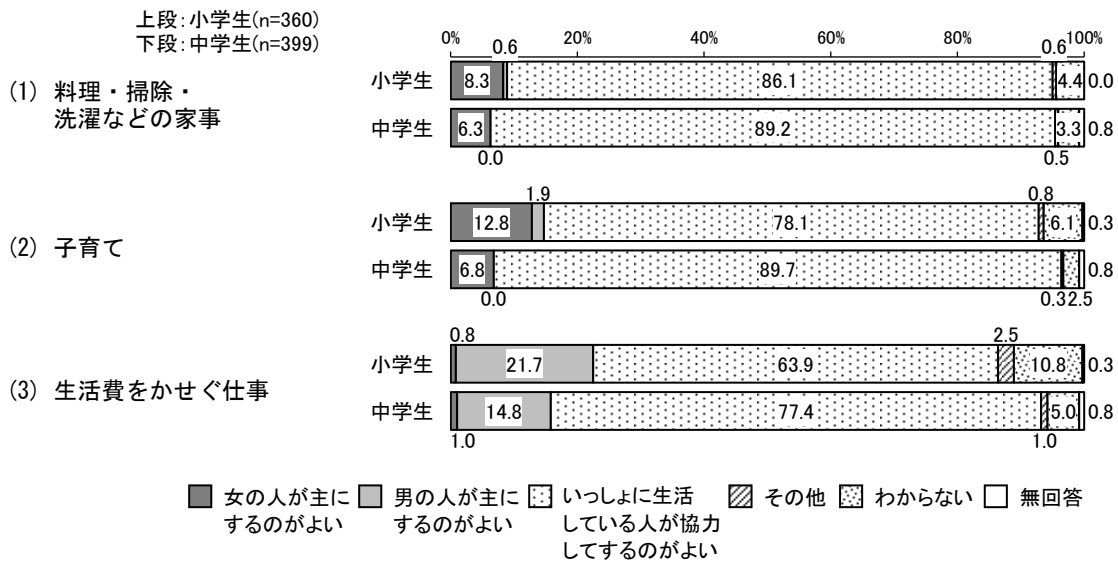
2. 男女共同参画に関する意識について

(1) 家庭の仕事の役割分担

問2 あなたは、次のようなことは、だれがするのが一番よいと思いますか。(○はそれぞれ1つ)

家での仕事の役割分担についてどう思うかたずねたところ、すべての項目で「いっしょに生活している人が協力してするのがよい」が6割以上となっており、中学生の方が小学生より高くなっている。「(1) 料理・掃除・洗濯などの家事」と「(2) 子育て」は「女の人が主にするのがよい」が、「(3) 生活費をかせぐ仕事」は「男の人が主にするのがよい」が、それぞれ小学生の方が中学生よりも割合が高くなっている。

図 家庭の仕事の役割分担



(1) 料理・掃除・洗濯などの家事 その他意見の要約		
小学生	とくいな人	1件
	親	1件
中学生	得意な人	2件

(2) 子育て その他意見の要約		
小学生	おとなの人	1件
	とくいな人	1件
	親	1件
中学生	年取による	1件

(3) 生活費をかせぐ仕事 その他意見の要約		
小学生	大人	5件
	親	3件
	とくいな人	1件
中学生	かせげる方、もしくは働きたい方	1件
	年取による	1件
	金を多くかせげる方	1件

Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

性別にみると、小学生では「(1) 料理・掃除・洗濯などの家事」と「(2) 子育て」で「女の方が主にするのがよい」は男女で違いはほとんどみられないが、中学生では男子が女子よりも5ポイント以上高くなっている。「(3) 生活費をかせぐ仕事」は「男の方が主にするのがよい」は、小学生での男女差は5.3ポイントだが、中学生では13.4ポイントと大きくなっている。また、すべての項目で「いっしょに生活している人が協力するのがよい」の割合は女子の方が高くなっており、男女とも「(2) 子育て」は中学生の方が小学生より10ポイント以上高くなっている。

図 性別 家庭の仕事の役割分担(小学生)

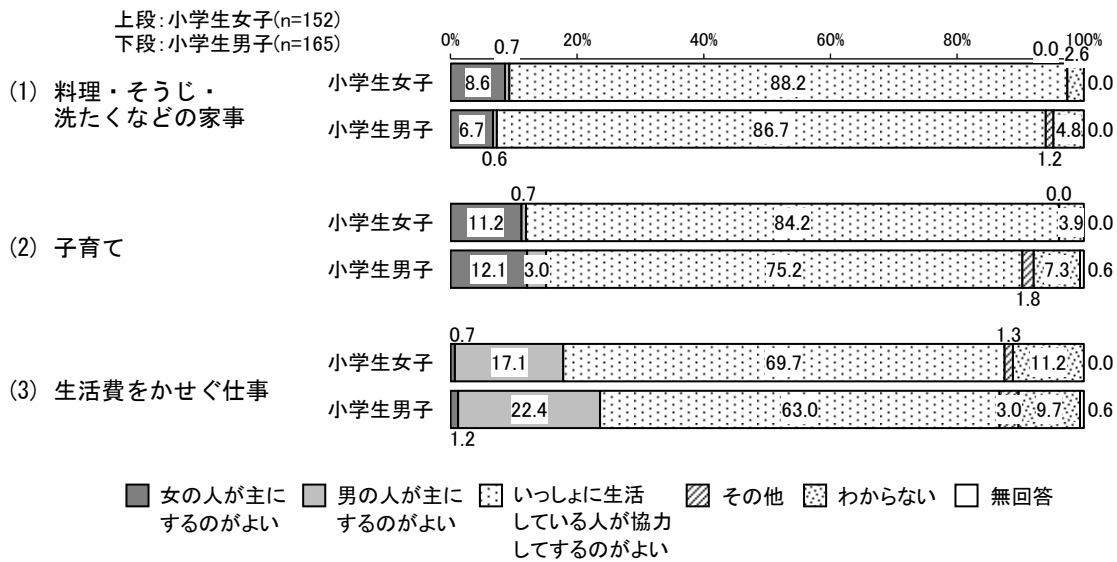
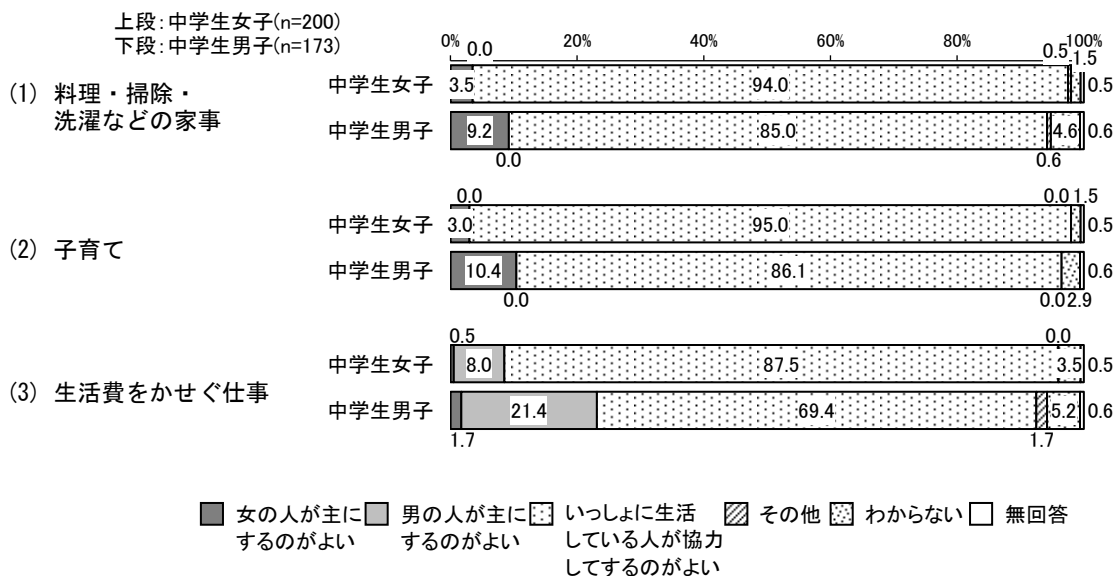


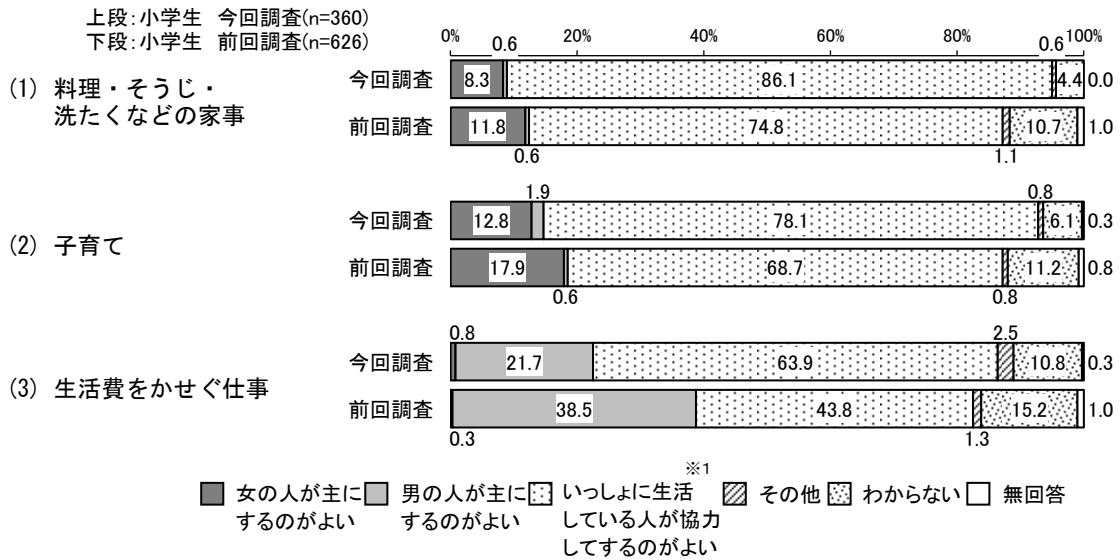
図 性別 家庭の仕事の役割分担(中学生)



■ 前回調査との比較

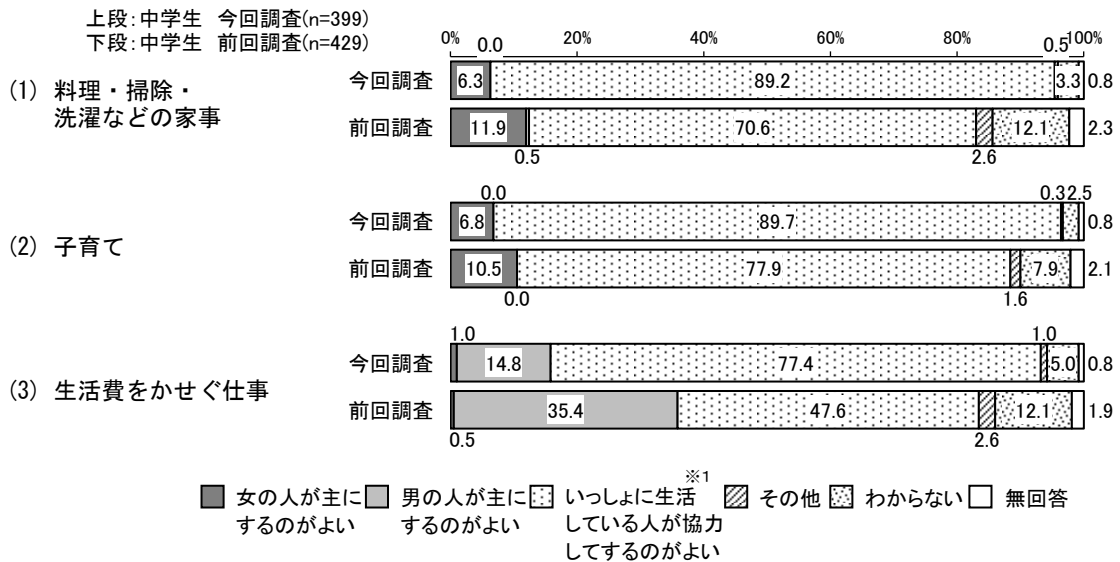
平成28年度に実施した前回調査と比較すると、すべての項目で「いっしょに生活している人が協力してするのがよい」の割合が前回調査よりも高くなっており、特に「(3) 生活費をかせぐ仕事」では小学生で20.1ポイント、中学生で29.8ポイント高くなっている。

図 家庭の仕事の役割分担(小学生 前回調査との比較)



※1 前回調査では「家族で協力してするのがよい」

図 家庭の仕事の役割分担(中学生 前回調査との比較)



※1 前回調査では「家族で協力してするのがよい」

Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

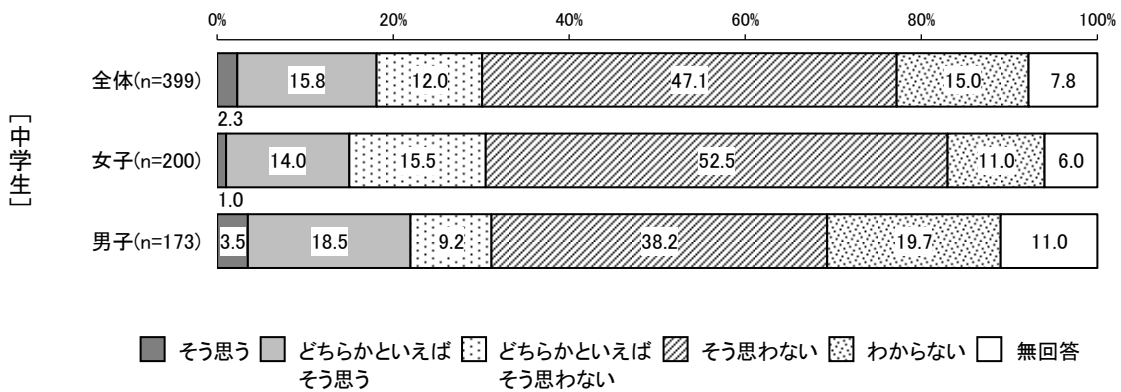
(2) 性別役割分担意識

《中学生調査のみ》

問3 「家庭の外の仕事は男性、家庭の中の仕事は女性」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

「家庭の外の仕事は男性、家庭の中の仕事は女性」という考え方(性別役割分担意識)についてどう思いかたずねたところ、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が18.1%で、『そう思わない』(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)が59.1%と、『そう思わない』が高くなっている。
性別にみると、女子の方が男子よりも『そう思わない』が20.6ポイント高くなっている。

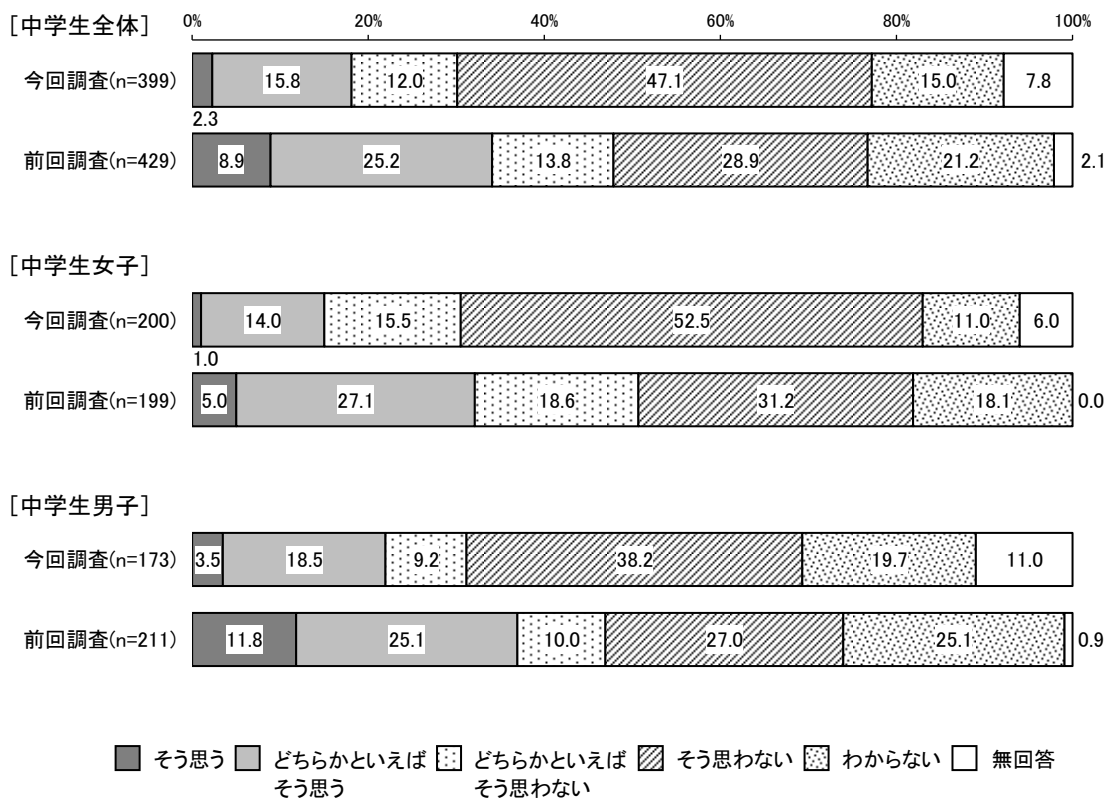
図 性別 性別役割分担意識



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、前回調査よりも『そう思う』が低く、『そう思わない』が高くなっており、この傾向は女子の方が顕著である。

図 性別 性別役割分担意識(前回調査との比較)



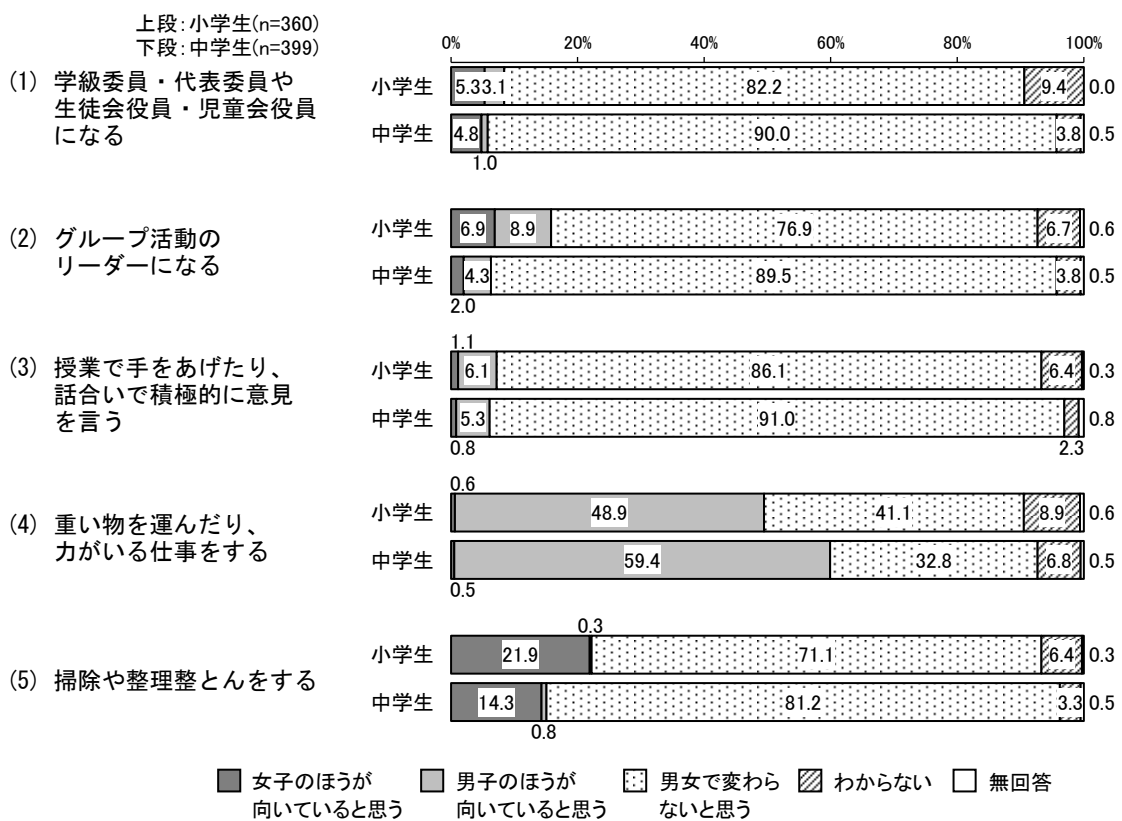
3. 学校生活について

(1) 学校生活における役割分担

問4 学校での生活について聞きます。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

学校生活での役割分担についてどう思いかたずねたところ、「(4) 重い物を運んだり、力がある仕事をする」を除くすべての項目で、「男女で変わらないと思う」が7割以上となっており、「(2) グループ活動のリーダーになる」は小学生で76.9%、中学生で89.5%となり、中学生の方が12.6ポイント高くなっている。小学生・中学生ともに「(4) 重い物を運んだり、力がある仕事をする」は「男子のほうが向いていると思う」(小学生48.9%・中学生59.4%)が5割前後と高くなっている。「(5) 掃除や整理整頓をする」で「女子のほうが向いていると思う」(小学生21.9%・中学生14.3%)が他の項目と比べて高くなっている。

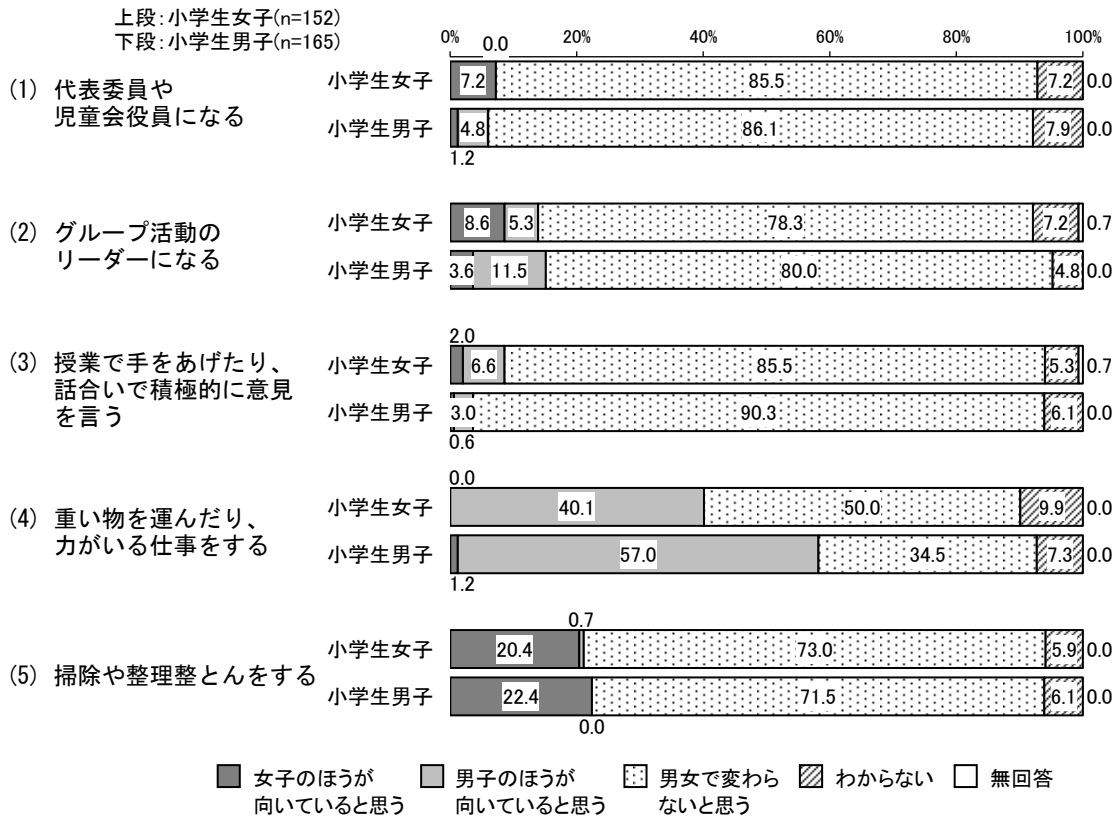
図 学校生活における役割分担



Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

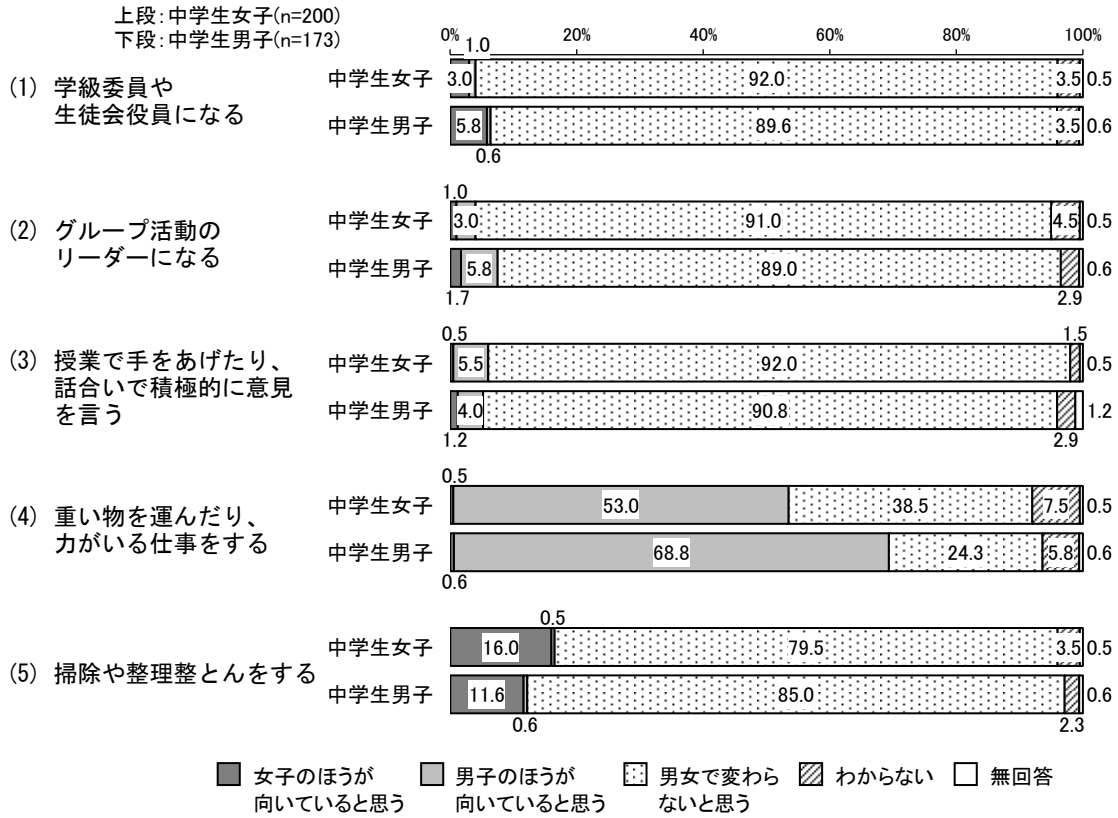
小学生で性別にみると、「(4) 重い物を運んだり、力がある仕事をする」では、女子は「男女で変わらないと思う」が50.0%、男子は「男子のほうが向いていると思う」が57.0%と最も高くなっている。また「(1) 代表委員や児童会役員になる」と「(2) グループ活動のリーダーになる」では、「女子のほうが向いていると思う」と「男子のほうが向いていると思う」の回答をみると、男女とも自身の性別が向いていると答える傾向となっている。

図 性別 学校生活における役割分担(小学生)



中学生で性別にみると、「(4) 重い物を運んだり、力がある仕事をする」では、「男子のほうが向いていると思う」の割合が男子の方が女子よりも15.8ポイント高くなっており、小学生と同様に男女で差が大きい。また、「男子のほうが向いていると思う」の回答割合は小学生と比べて男女とも10ポイント以上高くなっている。

図 性別 学校生活における役割分担(中学生)



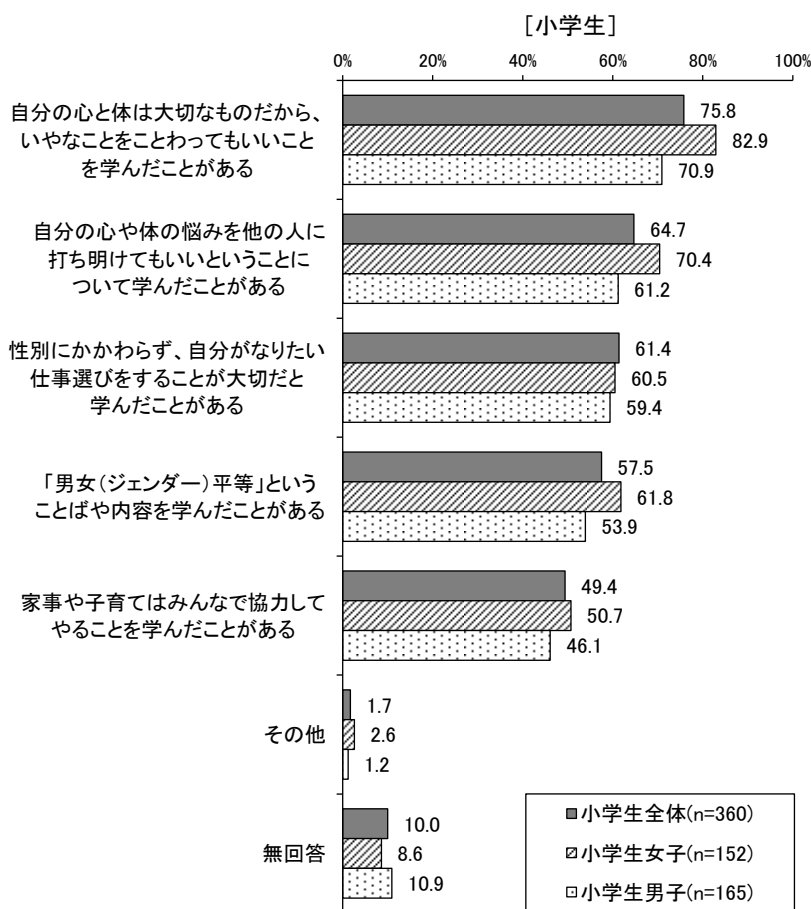
(2) 学校で勉強した内容

問5 あなたは、学校などで、次のようなことを学んだことがありますか。(〇はいくつでも)

小学生が学校で勉強した内容についてたずねたところ、「自分の心と体は大切なものだから、いやなことをこわってもいいことを学んだことがある」が75.8%で最も高く、次いで「自分の心や体の悩みを他の人に打ち明けてもいいということについて学んだことがある」(64.7%)、「性別にかかわらず、自分がなりたい仕事選びをすることが大切だと学んだことがある」(61.4%)となっている。

性別にみると、すべての項目で女子の方が男子より割合が高くなっており、「自分の心と体は大切なものだから、いやなことをこわってもいいことを学んだことがある」と「自分の心や体の悩みを他の人に打ち明けてもいいということについて学んだことがある」が、男子よりも10ポイント前後割合が高くなっている。

図 性別 学校で勉強した内容(小学生)

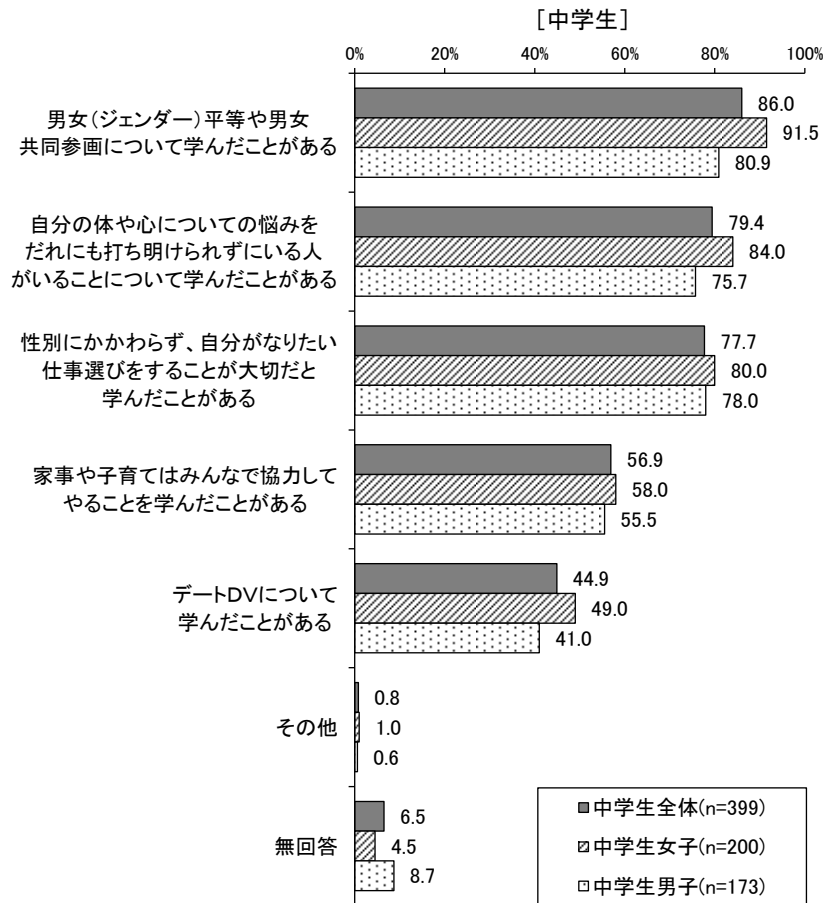


その他意見の要約		
小学生	みんな違っていい	2件
	高齢者体験	1件
	友達の大切さ	1件
	男女仲良くする	1件
中学生	部落差別	2件

中学生が学校で勉強した内容についてたずねたところ、「男女(ジェンダー)平等や男女共同参画について学んだことがある」が86.0%で最も高く、次いで「自分の体や心についての悩みをだれにも打ち明けられずにいる人がいることについて学んだことがある」(79.4%)、「性別にかかわらず、自分がなりたい仕事選びをすることが大切だと学んだことがある」(77.7%)となっている。

性別にみると、すべての項目で女子の方が男子より割合が高くなっており、「男女(ジェンダー)平等や男女共同参画について学んだことがある」は、男子よりも10.6ポイント高くなっている。

図 性別 学校で勉強した内容(中学生)



4. 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われたこと

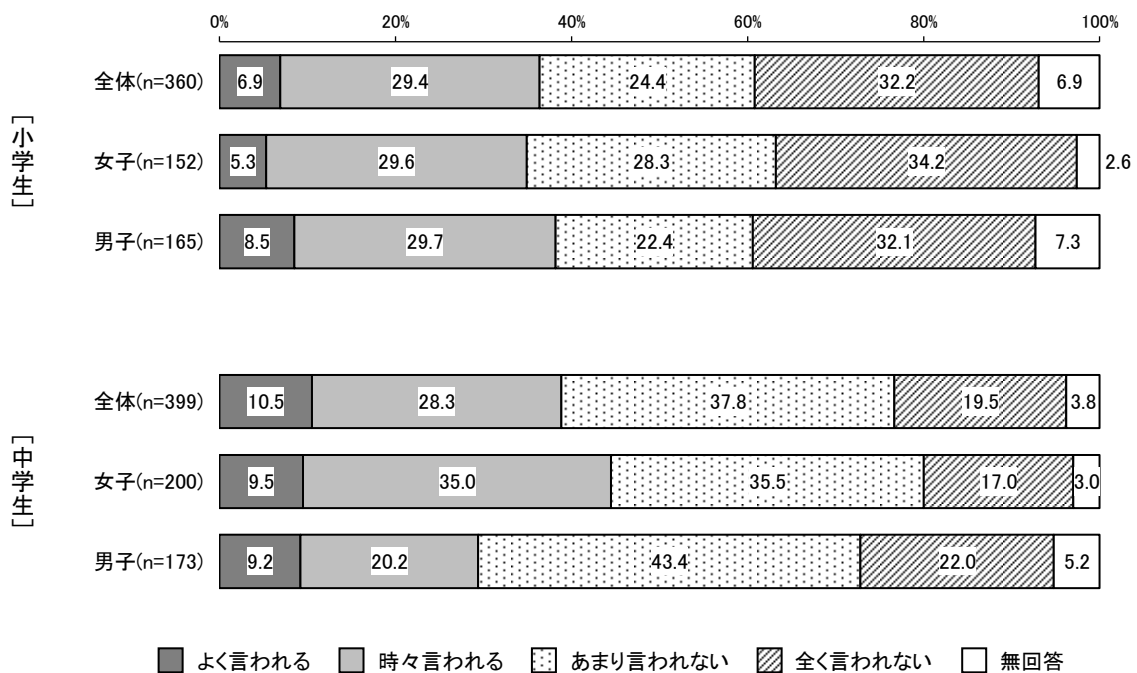
(1) 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた経験の有無

問6 あなたは、たとえば「男の子は泣いてはいけない」や「女の子はやさしく」など「男だから〇〇」や「女だから〇〇」のようにだれかに言われたことがありますか。(〇は1つ)

「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた経験の有無についてたずねたところ、『言われる』(「よく言われる」と「時々言われる」の合計)が小学生で36.3%、中学生で38.8%となっており、小学生・中学生ともに『言われる』が3割台となっている。

性別にみると、小学生の『言われる』は女子34.9%・男子38.2%と、男子の方が3.3ポイント高く、中学生の『言われる』は女子44.5%・男子29.4%と、女子の方が15.1ポイント高くなっている。

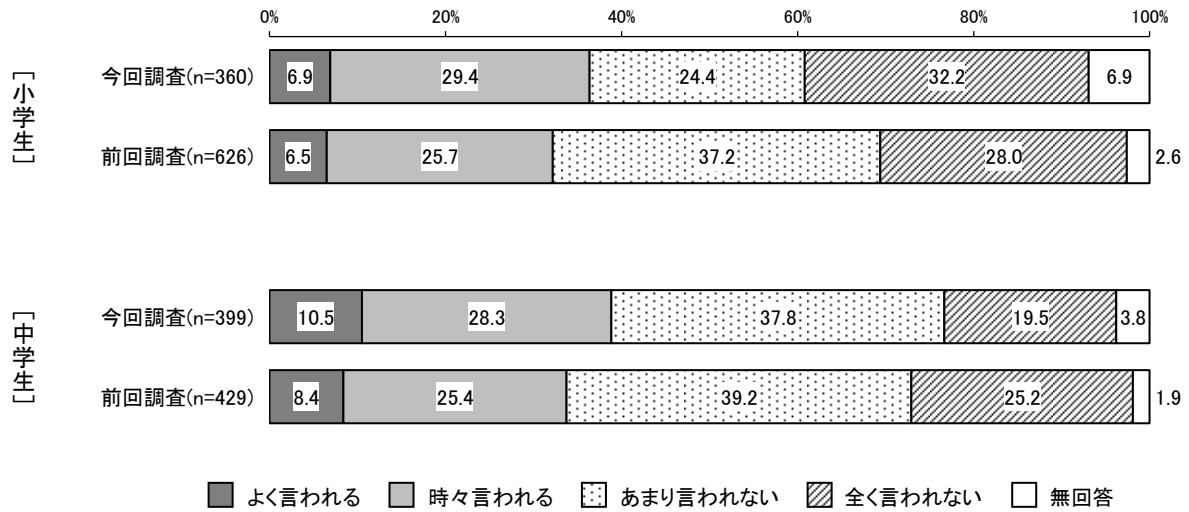
図 性別 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた経験の有無



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、前回調査よりも小学生・中学生ともに『言われる』が高くなり、『言われない』（「あまり言われない」と「全く言われない」の合計）が低くなっている。

図 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた経験の有無（前回調査との比較）



Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

(2)「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた原因

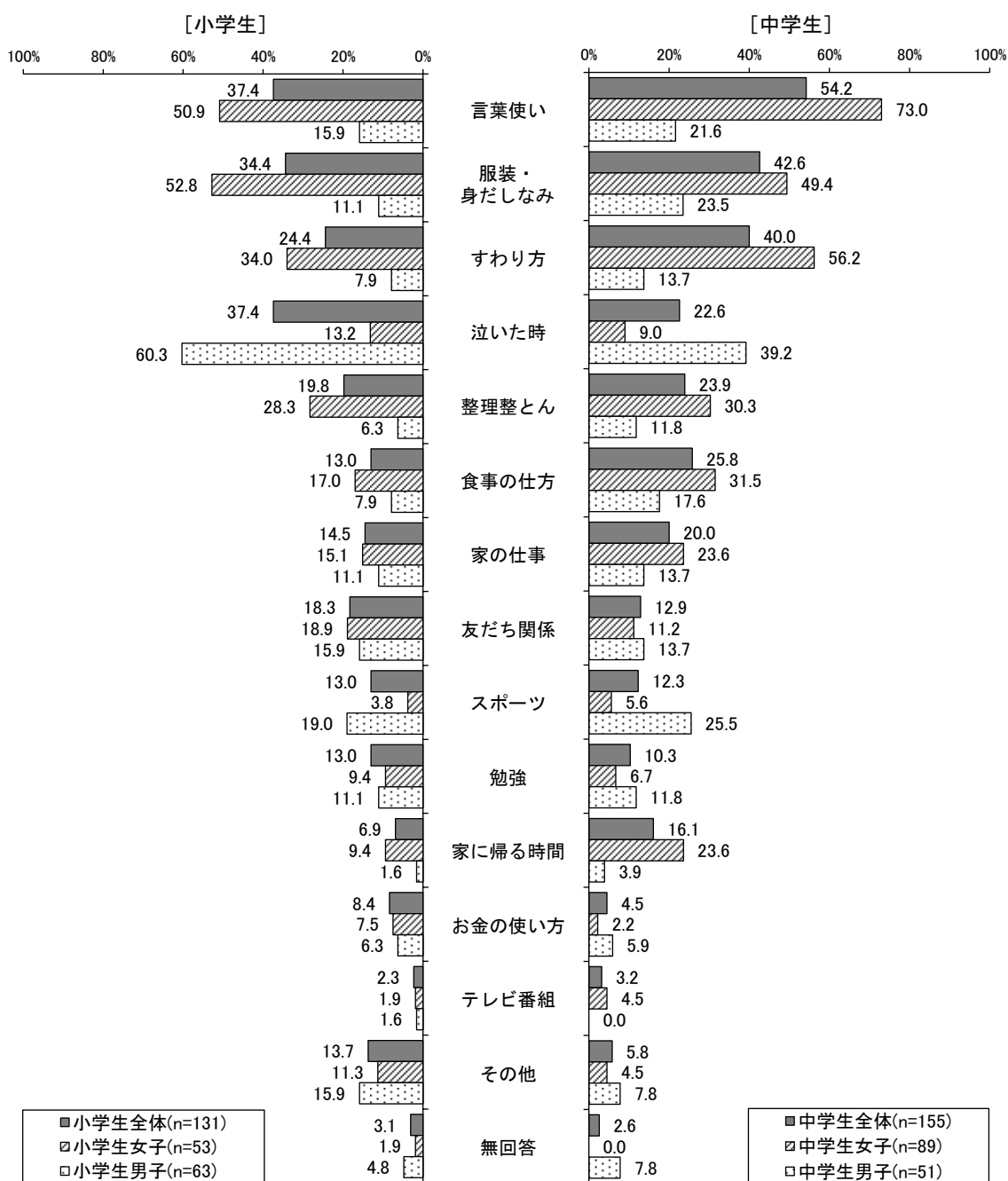
《問6で「1. よく言われる」、「2. 時々言われる」と答えた方に質問します。》

問6-1 どんなことで言われましたか。(〇はいくつでも)

「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた原因についてたずねたところ、小学生では「言葉使い」と「泣いた時」がそれぞれ37.4%で最も高く、次いで「服装・身だしなみ」(34.4%)、「すわり方」(24.4%)となっている。中学生では「言葉使い」が54.2%で最も高く、次いで「服装・身だしなみ」(42.6%)、「すわり方」(40.0%)、「食事の仕方」(25.8%)となっている。

性別にみると、小学生・中学生ともに「言葉使い」「服装・身だしなみ」「すわり方」「整理整とん」「食事の仕方」「家の仕事」「家に帰る時間」「テレビ番組」が女子の割合が高く、「泣いた時」「スポーツ」「勉強」が男子の割合が高くなっており、「言葉使い」「服装・身だしなみ」「すわり方」「泣いた時」はその差が顕著である。

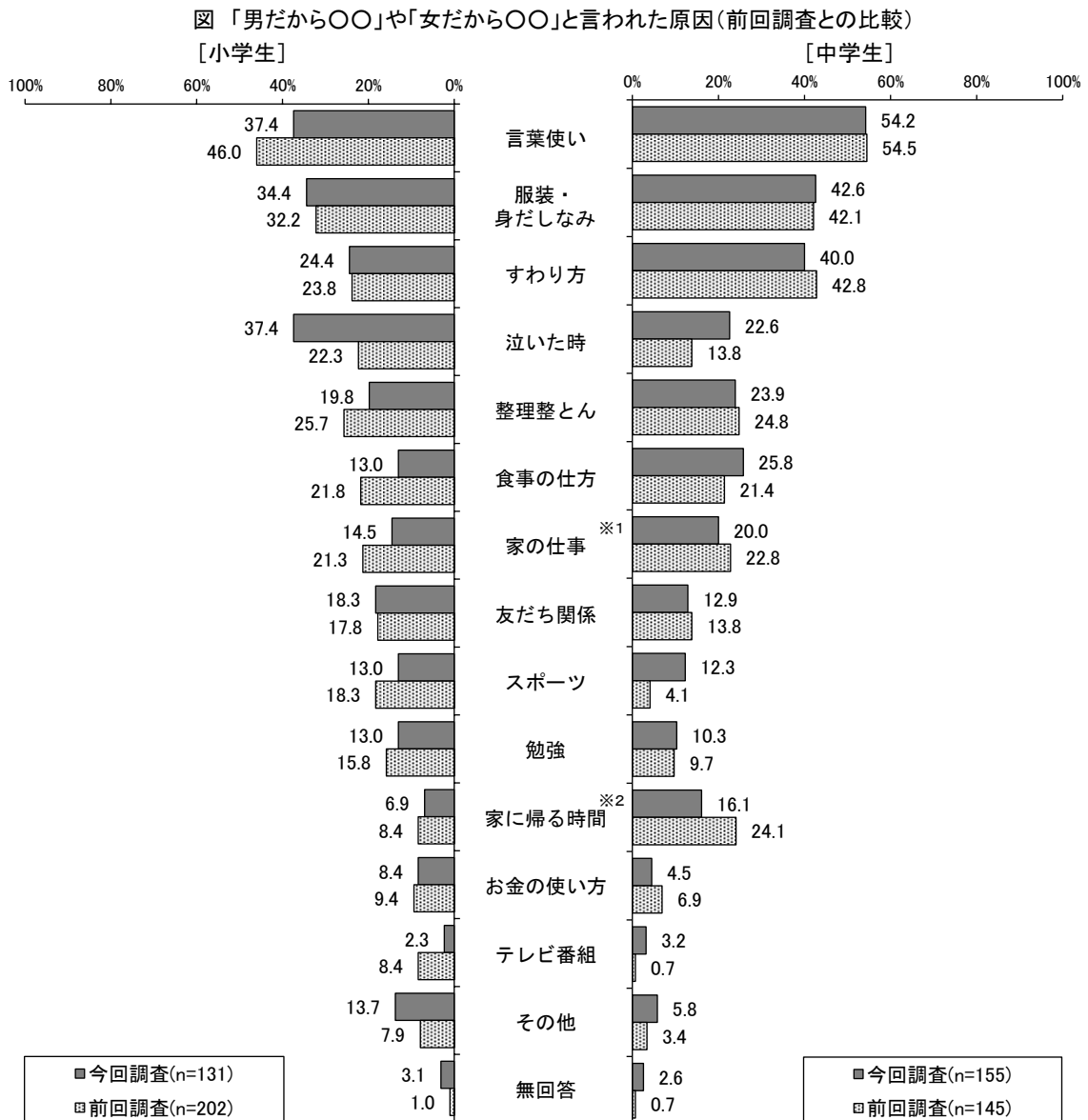
図 性別「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた原因



その他意見の要約					
小学生	趣味	3件	中学生	性格	2件
	きょうだいげんか	3件		力の強さ	1件
	虫が苦手	2件		声の高さ	1件
	性格	2件		料理をするとき	1件
	姿勢	2件		しぐさ	1件
	遊んでいる時	1件		気づかい	1件
	おねえちゃんだから～しなさい	1件		結婚しなさい	1件
	お楽しみ会	1件		自分の呼び方	1件
	力の強さ	1件			
	ならいごと	1件			
	何もしていないのにいきなり言われた	1件			

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、小学生では「泣いた時」が前回調査よりも15.1ポイント高く、「言葉使い」が8.6ポイント低くなっている。中学生では「泣いた時」が前回調査よりも8.8ポイント高く、「家に帰る時間」が8.0ポイント低くなっている。



※1 前回調査では「手伝い」

※2 前回調査では「家に帰る時刻」

Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

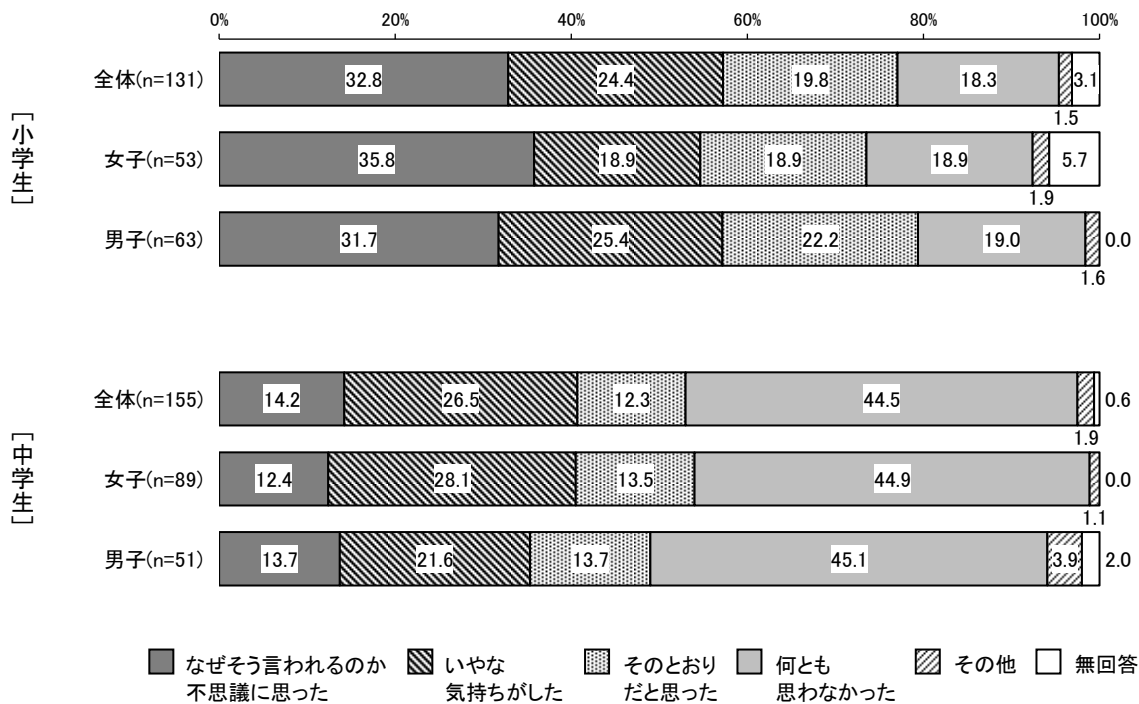
(3)「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた時の気持ち

問6-2 あなたは言われた時、どんな気持ちでしたか。(〇は1つ)

「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた時の気持ちについてたずねたところ、中学生は小学生よりも「何とも思わなかった」(小学生18.3%・中学生44.5%)の割合が、小学生は中学生よりも「なぜそう言われるのか不思議に思った」(小学生32.8%・中学生14.2%)の割合が高くなっている。

性別にみると、小学生では男子で「いやな気持ちでした」が女子よりも6.5ポイント高くなっている。中学生では女子で「いやな気持ちでした」が男子よりも6.5ポイント高くなっている。

図 性別 「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言われた時の気持ち



その他意見の要約				
小学生	べつにいいやんけ	1件	中学生 関係ないと思った	2件
	自分らしくしちゃうだめなのかなと思った	1件		

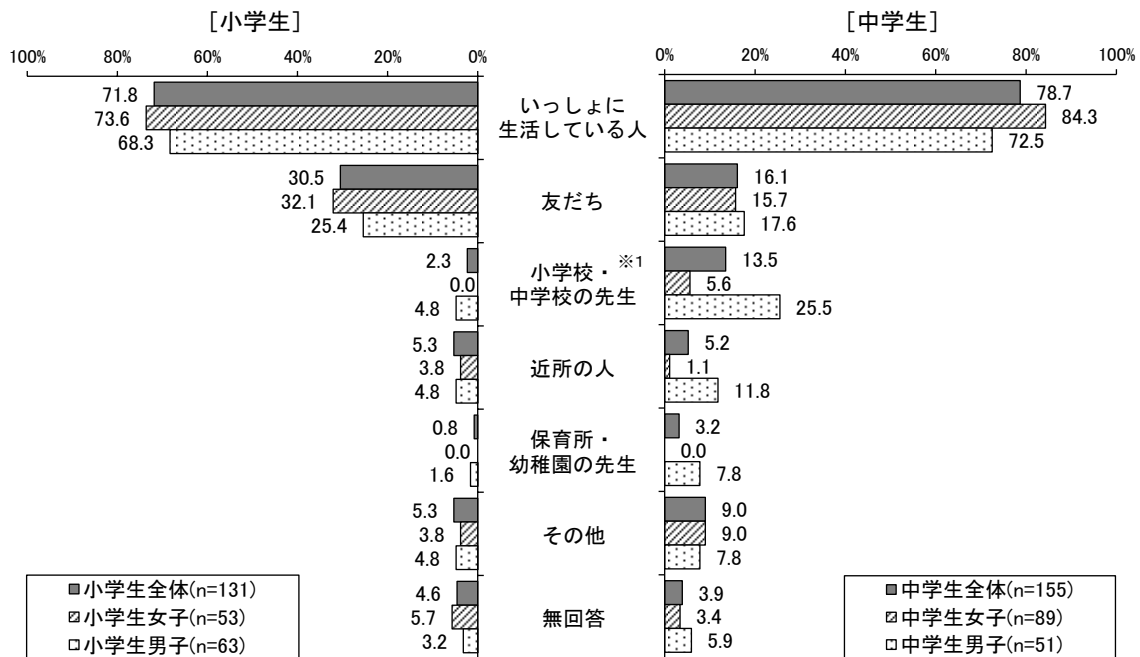
(4)「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言った相手

問6-3 それはだれに言われましたか。(〇はいくつでも)

「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言った相手についてたずねたところ、小学生・中学生ともに「いっしょに生活している人」(小学生71.8%・中学生78.7%)が最も高く、次いで「友だち」(小学生30.5%・中学生16.1%)となっている。

性別にみると、小学生では男女で大きな違いはみられない。中学生では、女子で「いっしょに生活している人」が男子よりも11.8ポイント高く、男子で「小学校・中学校の先生」と「近所の人」が女子よりもそれぞれ19.9ポイント、10.7ポイント高くなっている。

図 性別「男だから〇〇」や「女だから〇〇」と言った相手



※1 小学生調査では「小学校の先生」

その他意見の要約					
小学生	親せき	2件	中学生	祖母	6件
	祖父母	1件		親せき	2件
	乱ぼう者	1件		コーチ・監督	2件
	習いごとの先生	1件		塾の先生	1件
	通りすがった人	1件		大人	1件
	野球のコーチ	1件		知らない人	1件

5. デートDVについて

(1)「デートDV」の認知度

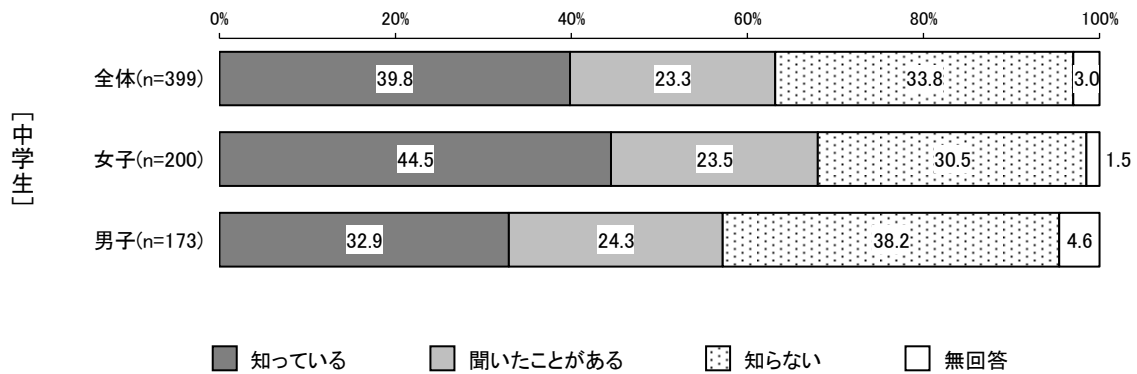
《中学生調査のみ》

問7 あなたは、「デートDV」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

「デートDV」という言葉の認知度についてたずねたところ、「知っている」が39.8%で最も高く、次いで「知らない」(33.8%)、「聞いたことがある」(23.3%)となっており、『聞いたことがある』(「知っている」と「聞いたことがある」の合計)は63.1%となっている。

性別にみると、『聞いたことがある』は女子の方が男子よりも10.8ポイント高くなっている。

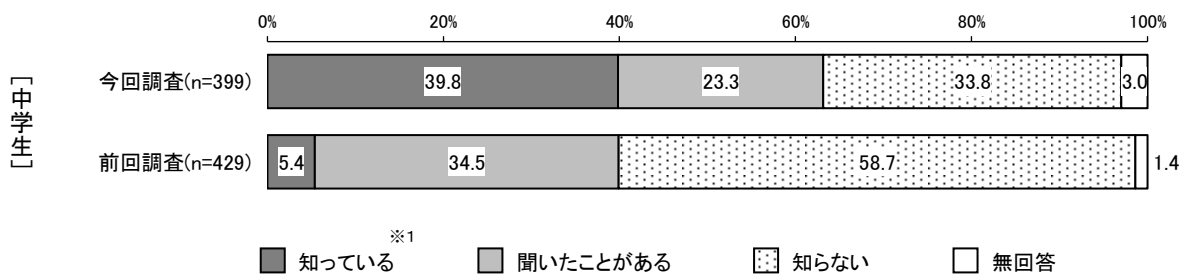
図 性別「デートDV」の認知度



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、『聞いたことがある』が前回調査よりも23.2ポイント高くなっている。

図 「デートDV」の認知度(前回調査との比較)



※1 前回調査では「よく知っている」

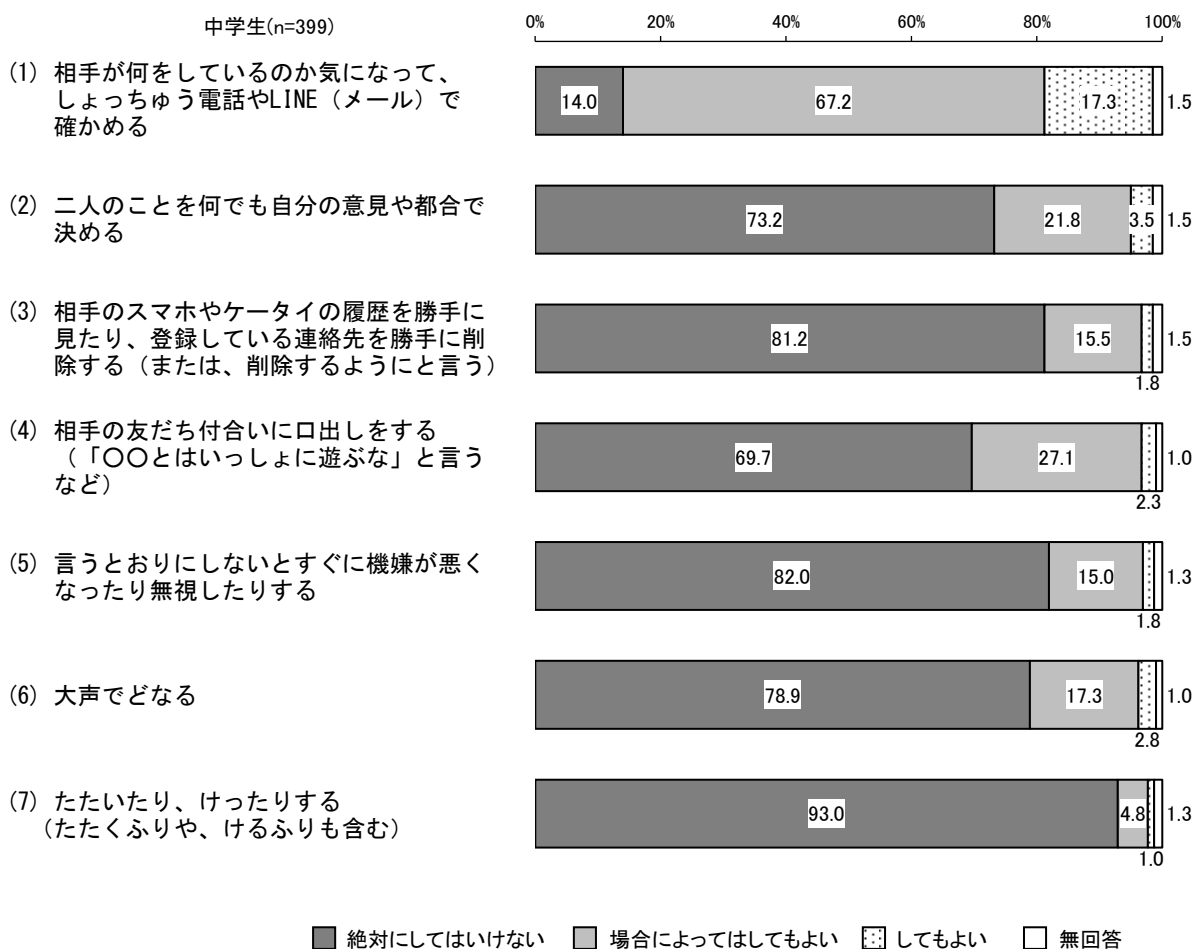
(2) 交際関係について変だと思うこと

《中学生調査のみ》

問8 あなたは、交際中の人同士で(1)から(7)のようなことをすることについてどう思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

交際関係について変だと思うことについてたずねたところ、「(1) 相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE(メール)で確かめる」を除くすべての項目で、「絶対にしてはいけない」がそれぞれ約7割以上となっている。一方、「(1) 相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE(メール)で確かめる」では「場合によってはしてもよい」が67.2%と7割弱を占めており、「してもよい」が17.3%となっている。

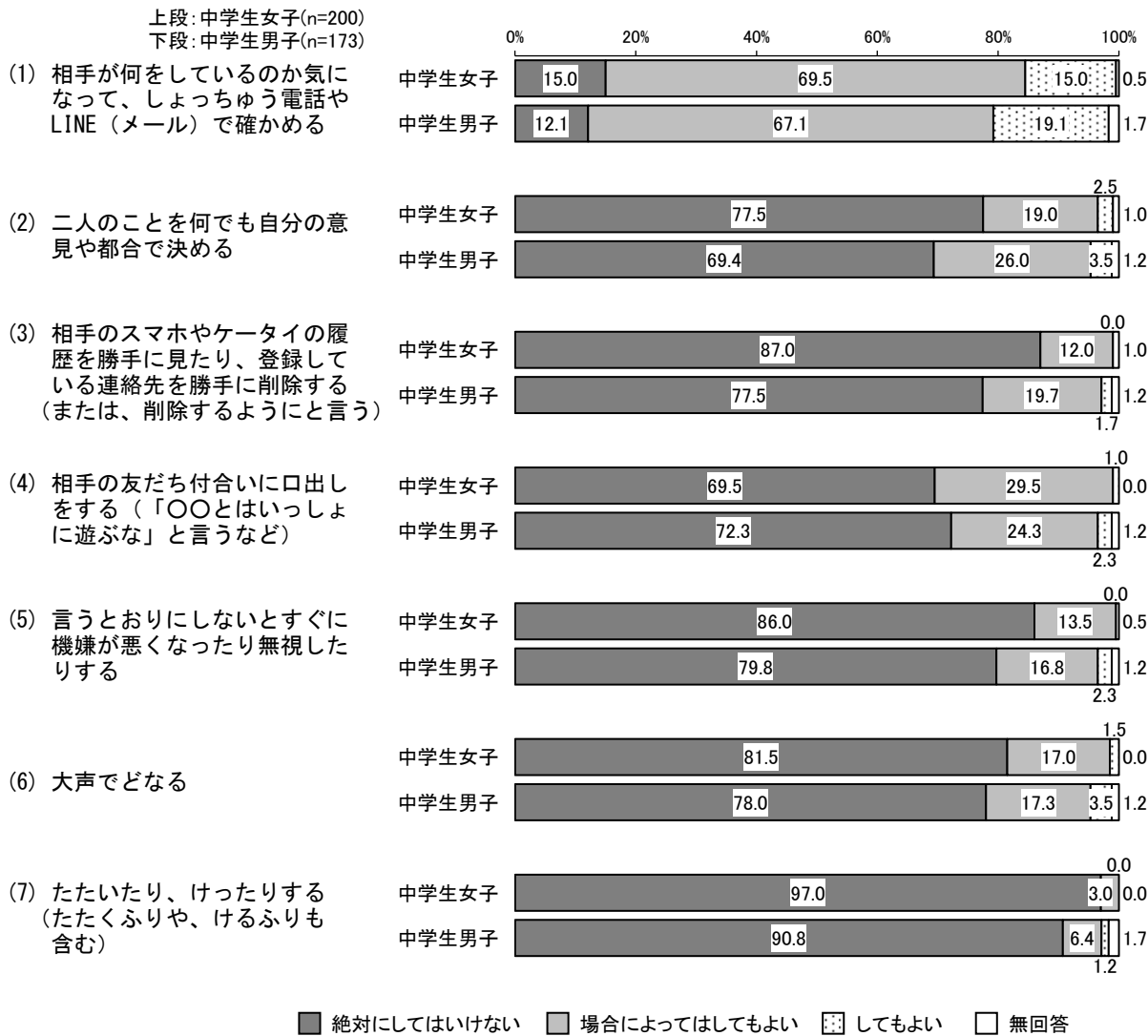
図 交際関係について変だと思うこと



Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

性別にみると、「(4) 相手の友だち付合いに口出しをする(「○○とはいっしょに遊ぶな」と言うなど)」を除くすべての項目で、女子の方が男子よりも「絶対にしてはいけない」の割合が高くなっている。「(1) 相手が何をしているのか気になって、しょっちゅう電話やLINE(メール)で確かめる」では、男子の方が女子よりも「してもよい」が4.1ポイント高くなっている。

図 性別 交際関係について変だと思うこと



6. セクシュアルマイノリティについて

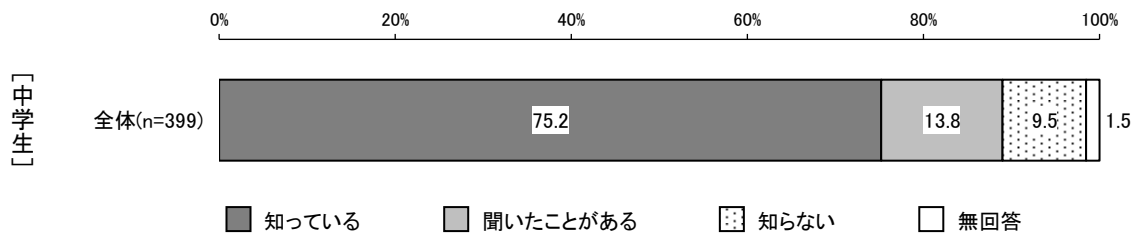
(1) セクシュアルマイノリティの認知度

《中学生調査のみ》

問9 あなたは、「セクシュアルマイノリティ（LGBTQなど）」という言葉を知っていますか。（○は1つ）

「セクシュアルマイノリティ(LGBTQなど)」という言葉の認知度についてたずねたところ、「知っている」が75.2%で最も高く、次いで「聞いたことがある」(13.8%)、「知らない」(9.5%)となっており、『聞いたことがある』(「知っている」と「聞いたことがある」の合計)は89.0%となっている。

図 セクシュアルマイノリティの認知度



7. 悩みごとの相談状況

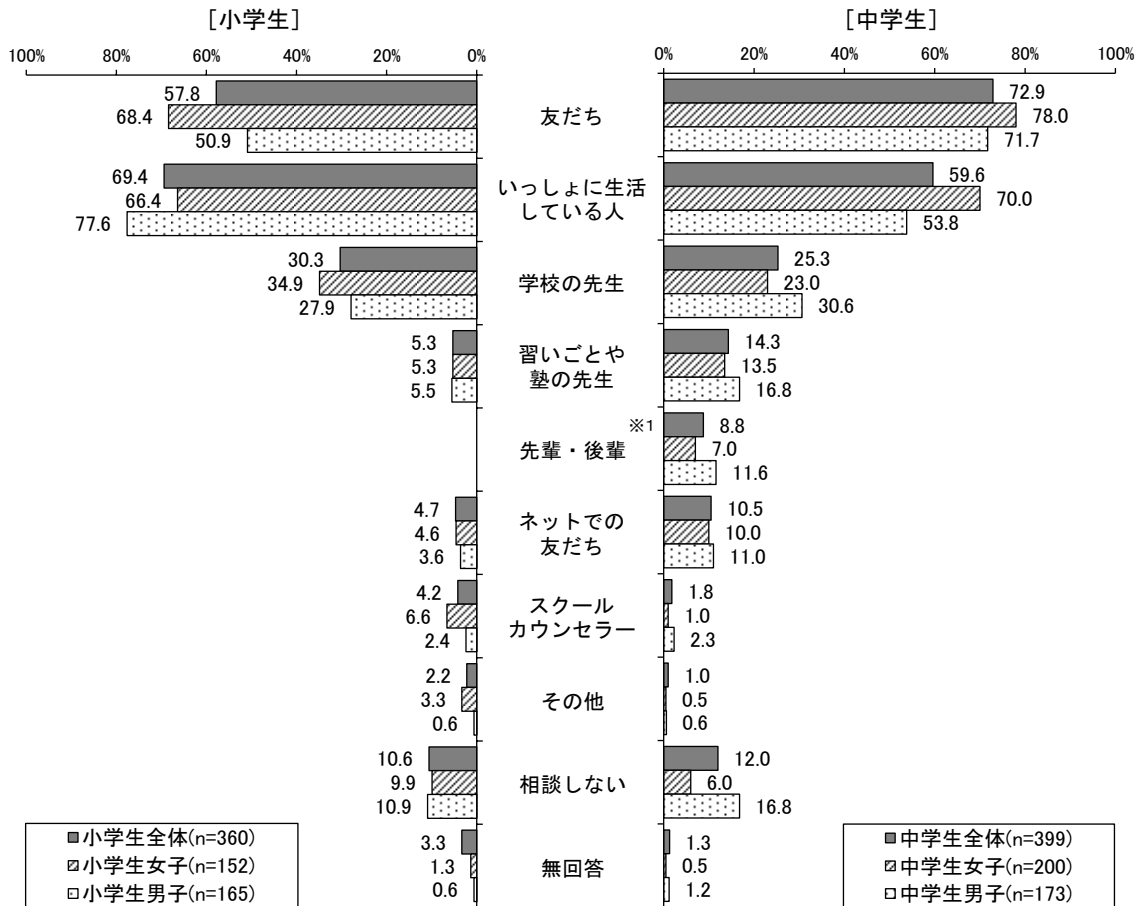
(1) 悩みごとや心配ごとがある時の相談相手

問10 あなたは、悩みごとや心配ごとがある時、だれに相談しますか。(○はいくつでも)

悩みごとや心配ごとを相談できる人についてたずねたところ、小学生・中学生ともに「友だち」(小学生57.8%・中学生72.9%)、「いっしょに生活している人」(小学生69.4%・中学生59.6%)、「学校の先生」(小学生30.3%・中学生25.3%)が上位3項目となっている。「相談しない」は小学生で10.6%、中学生で12.0%と1割台となっている。

性別にみると、小学生・中学生ともに女子の「友だち」が男子よりも高く、小学生では17.5ポイントの差となっている。「いっしょに生活している人」は小学生では男子の方が11.2ポイント、中学生では女子の方が16.2ポイント高くなっている。また、中学生男子の「相談しない」が、女子よりも10.8ポイント高くなっている。

図 性別 悩みごとや心配ごとがある時の相談相手



※1 「先輩・後輩」は中学生調査のみの項目

その他意見の要約					
小学生	ペット	2件	中学生	ペット	2件
	祖母	1件		かかりつけの医師	1件
	親せき	1件		将来の上司	1件
	きれいなクラスの人	1件			
	紙に書く こんな感じ	1件			
	言葉の教室の先生	1件			
	話しかけやすい人	1件			

8. 茨木市の取組について

(1) ローズWAMの認知度

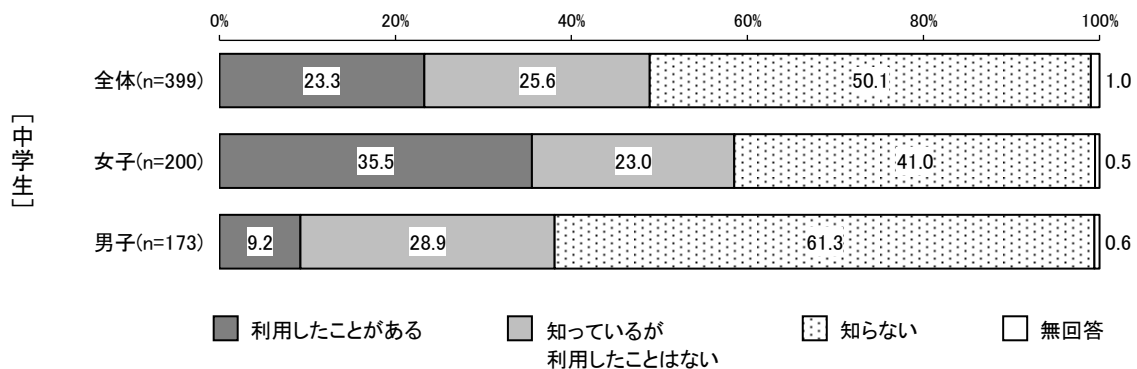
《中学生調査のみ》

問11 男女共生センター ローズWAMのことを知っていますか。(〇は1つ)

ローズWAMの認知度についてたずねたところ、「知らない」が50.1%で最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」(25.6%)、「利用したことがある」(23.3%)となっており、『知っている』(「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」の合計)は48.9%となっている。

性別にみると、女子の方が男子よりも『知っている』が20.4ポイント高くなっている。

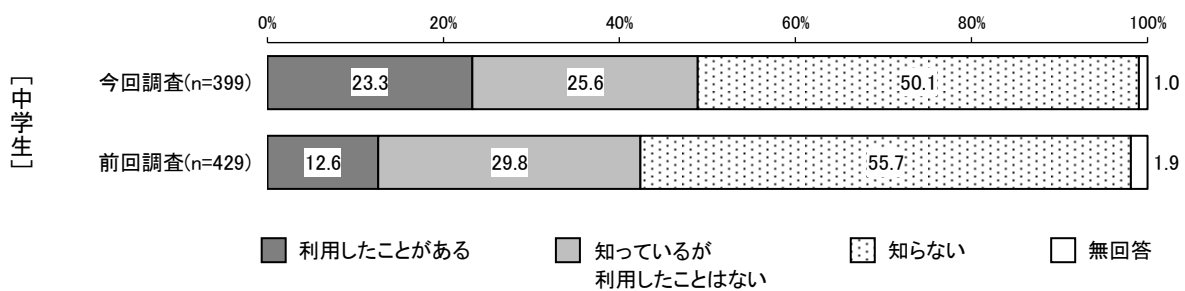
図 性別 ローズWAMの認知度



■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、『知っている』が前回調査よりも6.5ポイント微増している。

図 ローズWAMの認知度(前回調査との比較)



Ⅲ 小中学生アンケート調査の結果

(2) ローズWAMの利用内容

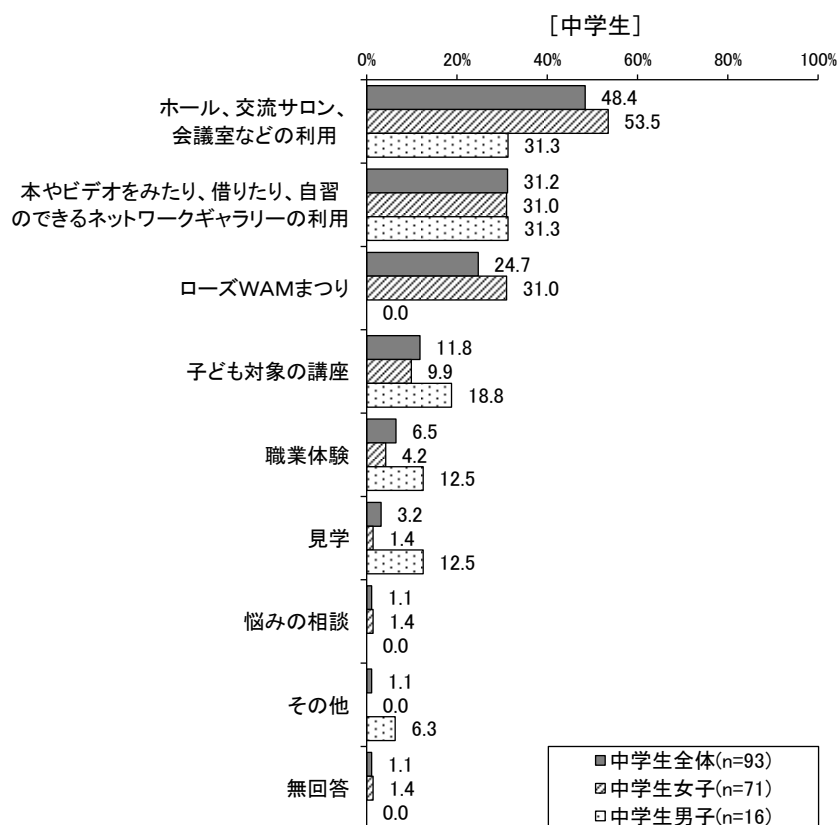
《中学生調査のみ》

問11-1 どんなことで利用しましたか。(〇はいくつでも)

ローズWAMの利用内容についてたずねたところ、「ホール、交流サロン、会議室などの利用」が48.4%と最も高く、次いで「本やビデオをみたり、借りたり、自習のできるネットワークギャラリーの利用」(31.2%)、「ローズWAMまつり」(24.7%)、「子ども対象の講座」(11.8%)となっている。

性別にみると、女子の方が男子よりも「ホール、交流サロン、会議室などの利用」と「ローズWAMまつり」で20ポイント以上高くなっている。

図 性別 ローズWAMの利用内容

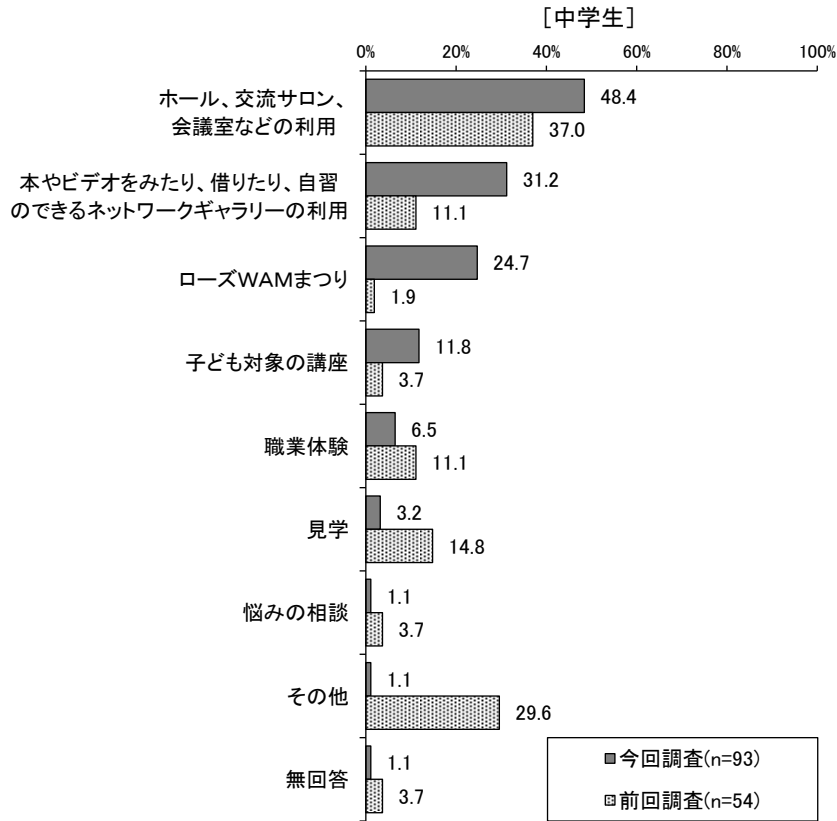


その他意見の要約		
中学生	ユースプラザ	1件

■ 前回調査との比較

平成28年度に実施した前回調査と比較すると、「本やビデオをみたり、借りたり、自習のできるネットワークギャラリーの利用」が20.1ポイント、「ローズWAMまつり」が22.8ポイント高くなっており、「見学」が11.6ポイント低くなっている。

図 ローズWAMの利用内容(前回調査との比較)

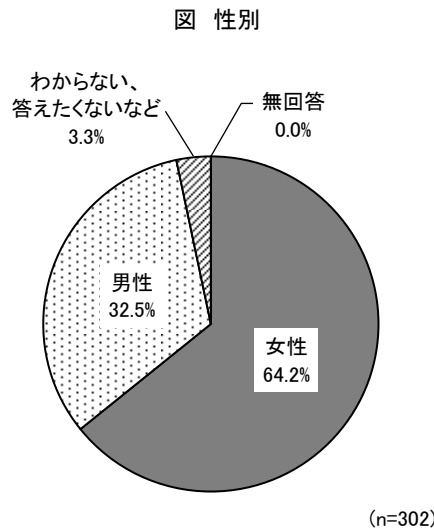


IV 大学生意識調査の結果

1. あなた自身について

(1) 性別

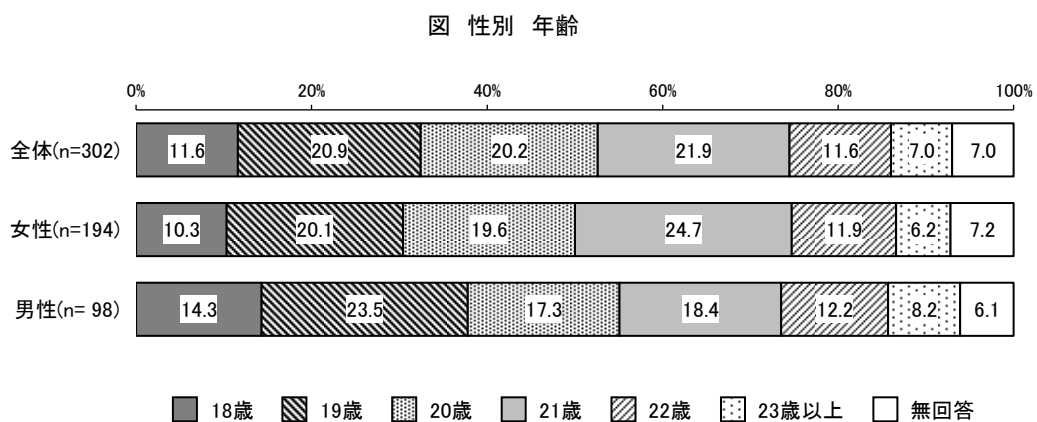
回答者の性別は「女性」が64.2%、「男性」が32.5%、「その他」が3.3%となっており、「女性」の割合が高くなっている。



(2) 年齢

回答者の年齢は、「21歳」が21.9%で最も高く、次いで「19歳」が20.9%、「20歳」が20.2%となっており、20歳以上の回答者が約6割となっている。

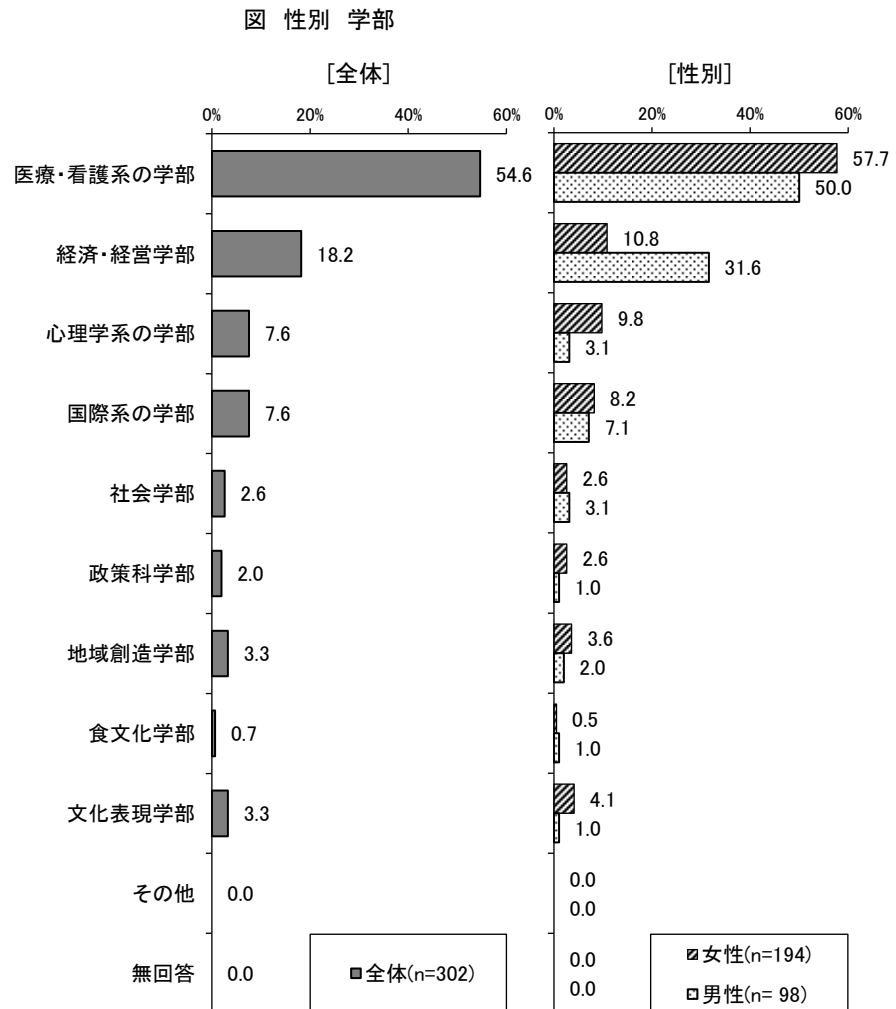
性別にみると、男性よりも女性の方が20歳以上の割合が6.3ポイント高くなっている。



(3) 学部

回答者の所属する学部は、「医療・看護系の学部」が54.6%で最も高く、次いで「経済・経営学部」が18.2%、「心理学系の学部」と「国際系の学部」がそれぞれ7.6%となっており、半数以上が「医療・看護系の学部」となっている。

性別にみると、男性の方が女性よりも「経済・経営学部」が20.8ポイント高くなっている。



2. 男女共同参画に関する意識について

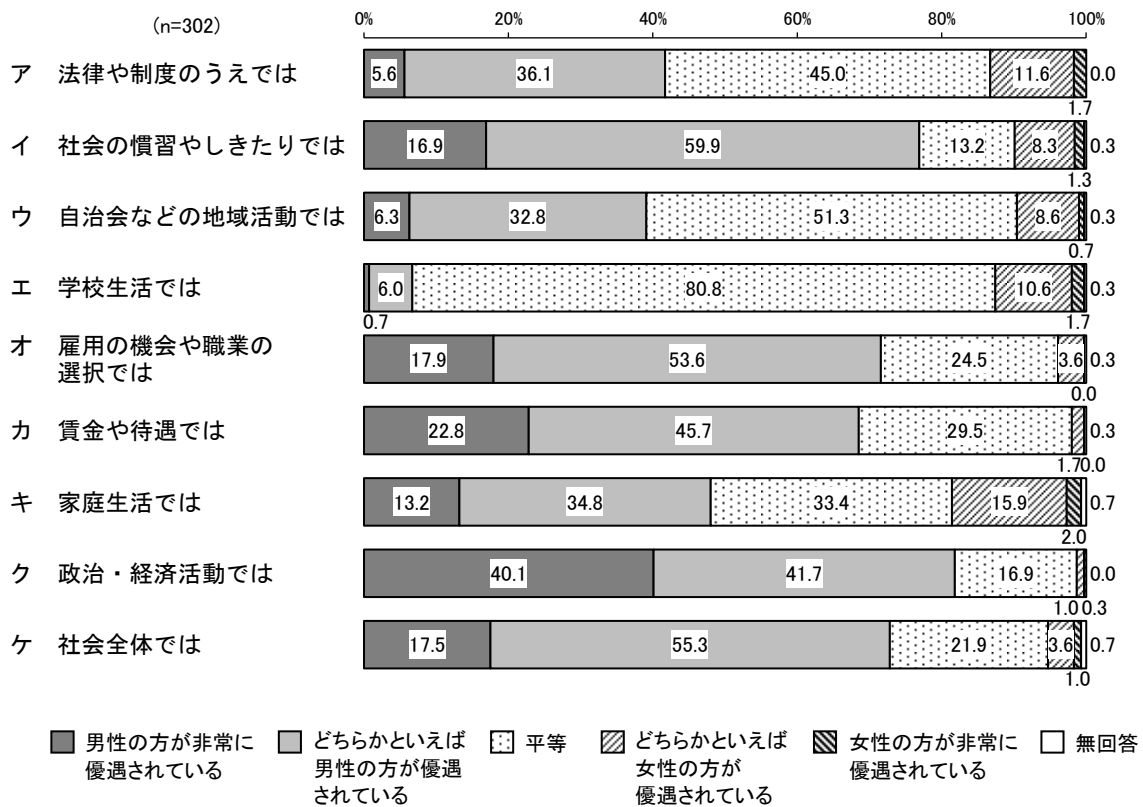
(1) 男女の地位の平等感

問1 あなたは、男女の地位がどの程度平等になっていると思われますか。次の分野で、あてはまる番号に○をつけてください。(それぞれ1つ)

社会の様々な分野において男女の地位がどの程度平等になっていると思うかたずねたところ、「ア 法律や制度のうえでは」「ウ 自治会などの地域活動では」「エ 学校生活では」の3分野は「平等」が『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）よりも高くなっており、特に「エ 学校生活では」は「平等」が80.8%と、他の分野と比べて高くなっている。

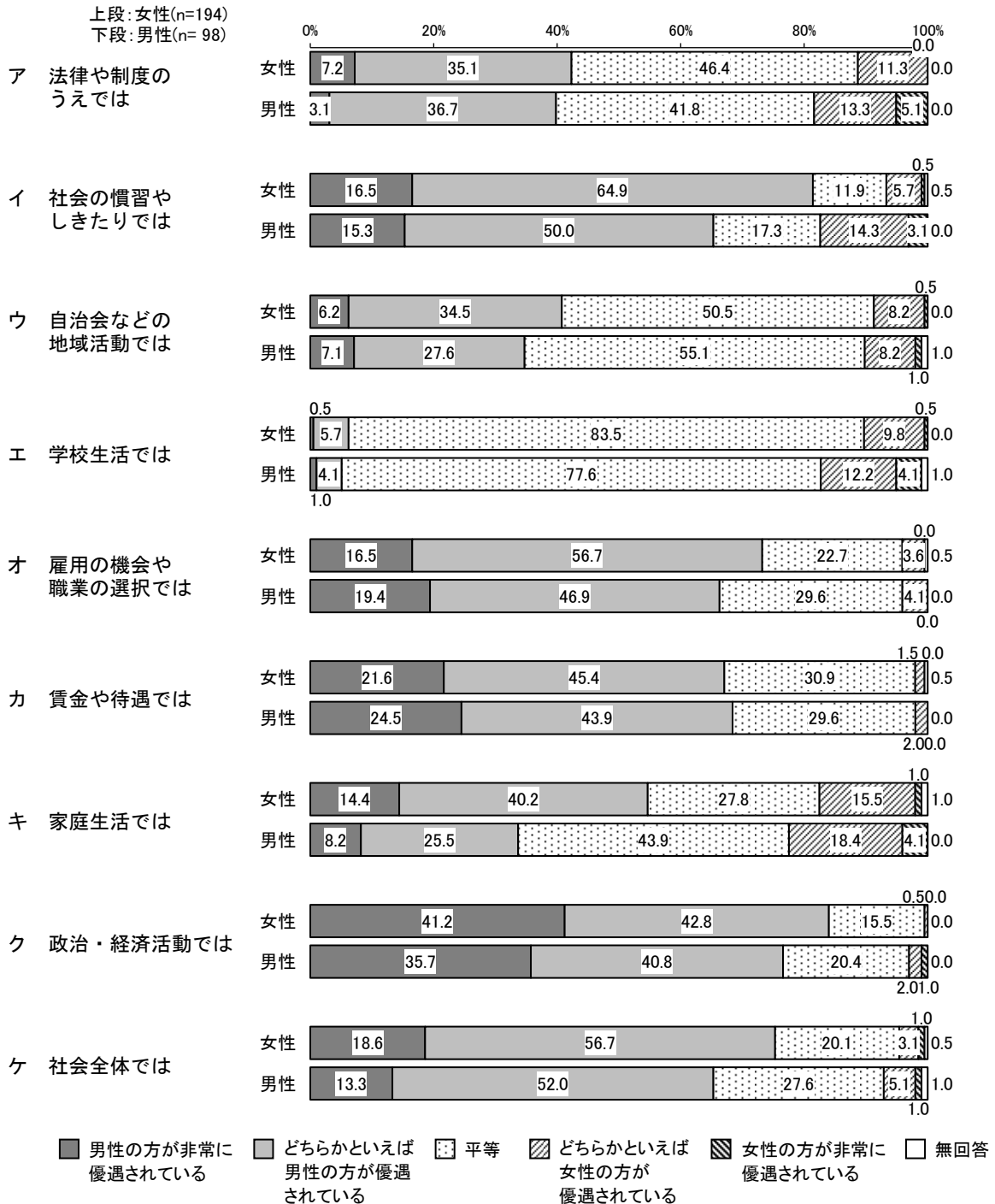
そのほかの分野はいずれも「平等」よりも『男性優遇』の割合が高くなっており、特に「ク 政治・経済活動では」(81.8%)、「イ 社会の慣習やしきたりでは」(76.8%)、「ケ 社会全体では」(72.8%)、「オ 雇用の機会や職業の選択では」(71.5%)で『男性優遇』の割合が高くなっている。

図 男女の地位の平等感



性別にみると、「カ 賃金や待遇では」を除くすべての分野で、『男性優遇』と回答した人の割合は女性の方が男性よりも高くなっており、特に「キ 家庭生活では」で20.9ポイント、「イ 社会の慣習やしきたりでは」で16.1ポイント、「ケ 社会全体では」で10.0ポイント高くなっている。一方、「エ 学校生活では」は、性別による『男性優遇』の違いはほとんどみられない。

図 性別 男女の地位の平等感



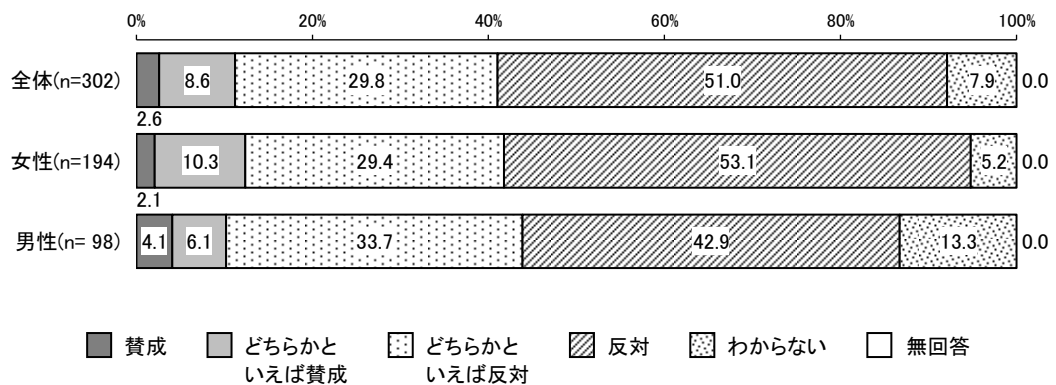
(2) 性別役割分担意識

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(1つだけ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方(性別役割分担意識)についてどう思うかたずねたところ、「賛成」(2.6%)と「どちらかといえば賛成」(8.6%)を合計した『賛成』が11.2%、「どちらかといえば反対」(29.8%)と「反対」(51.0%)を合計した『反対』が80.8%と、約8割が『反対』となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも『反対』の割合が5.9ポイント高くなっている。また男性では「わからない」が13.3%と1割以上を占めており、女性よりも8.1ポイント高くなっている。

図 性別 性別役割分担意識



(3) 性別役割分担に賛成する理由

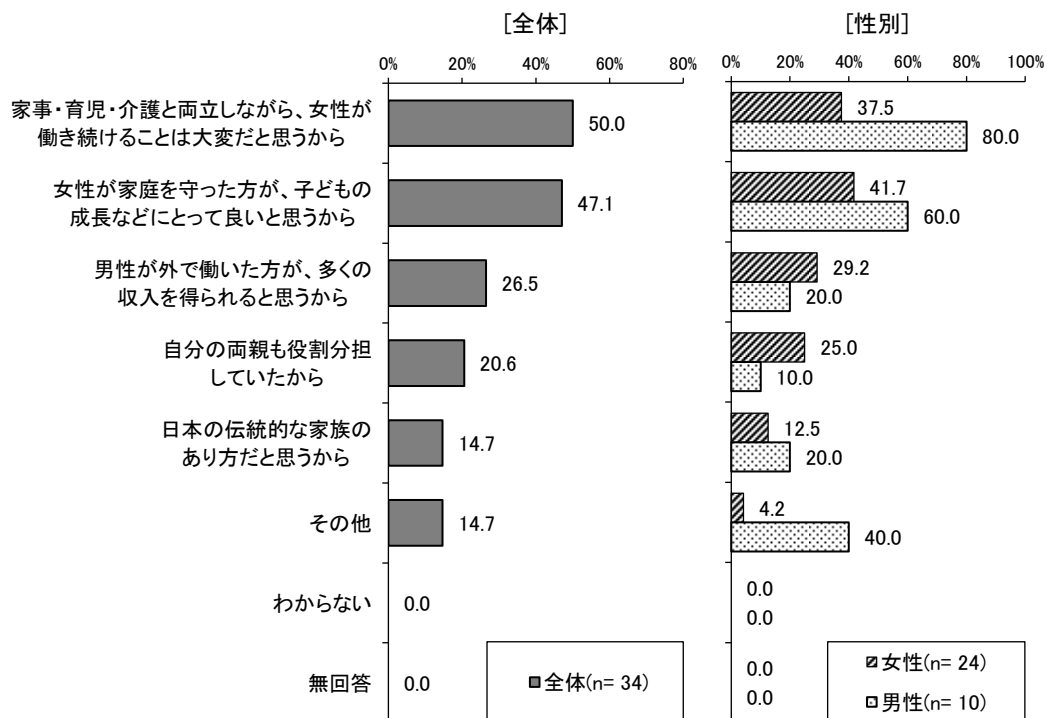
《問2で、「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。》

問3-1 それはなぜですか。(いくつでも)

性別役割分担に賛成する人にその理由をたずねたところ、「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が50.0%で最も高く、次いで、「女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が47.1%、「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が26.5%となっている。

性別にみると、男性の方が女性よりも「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」が42.5ポイント、「その他」が35.8ポイント高くなっている。また、女性の方が男性よりも「自分の両親も役割分担していたから」が15.0ポイント高くなっている。

図 性別 性別役割分担に賛成する理由



その他意見の要約

生活面で問題のある人の両親が共働きであることが多かった	1件
身体的性差がある	1件
男女の特性を生かす	1件
互いが納得して役割分担するのはよい	1件
相手のために頑張れる気がする	1件

(4) 性別役割分担に反対する理由

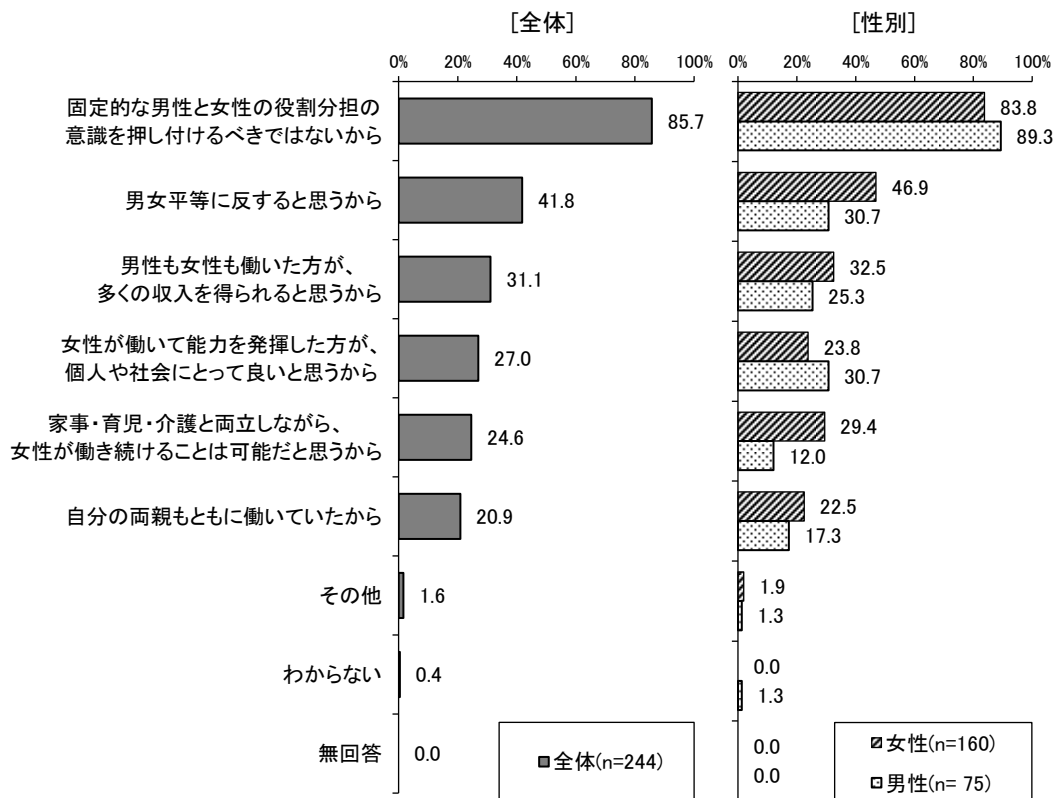
《問2で、「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方におたずねします。》

問3-2 それはなぜですか。(いくつでも)

性別役割分担に反対する人にその理由をたずねたところ、「固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」が85.7%で最も高く、次いで、「男女平等に反すると思うから」が41.8%、「男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が31.1%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから」が17.4ポイント、「男女平等に反すると思うから」が16.2ポイント高くなっている。

図 性別 性別役割分担に反対する理由



その他意見の要約	
古い考え方である	1件
反対だが、男性の方が仕事に、女性の方が家庭に向いていると思う	1件
女性が家事・育児をしながら仕事をするのは負担が大きい	1件

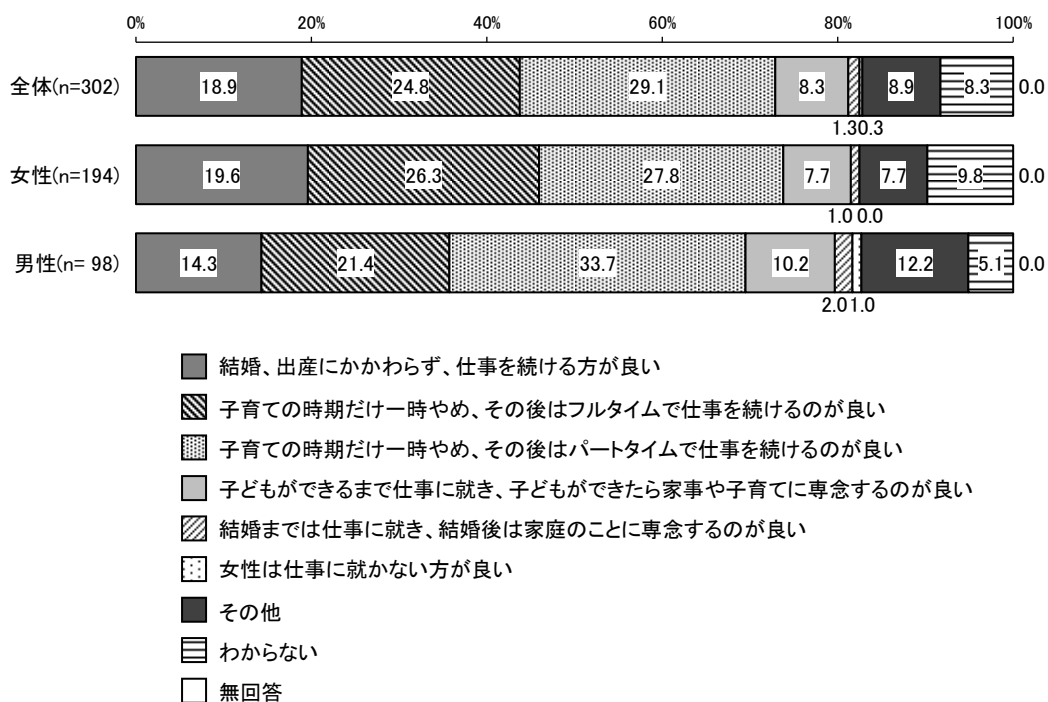
(5) 女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考え

問4 一般的なこととして、女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわりについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(1つだけ)

女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考えについてたずねたところ、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けるのが良い」が29.1%で最も高く、次いで「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けるのが良い」(24.8%)、「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い」(18.9%)、「その他」(8.9%)となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い」で5.3ポイント、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けるのが良い」で4.9ポイント高くなっている。また、男性の方が女性よりも「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けるのが良い」で5.9ポイント高くなっている。

図 性別 女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわり方についての考え



その他意見の要約	
本人の意思に任せる	14件
どのような選択も自由に選べるのが重要	5件
夫婦で話し合って決めればよい	3件
家庭の状況に応じて選べばよい	2件
男女とも仕事と家庭が両立できる社会になればよい	1件
子どもはいらぬ	1件
一概に言えない	1件

3. 男女の人権について

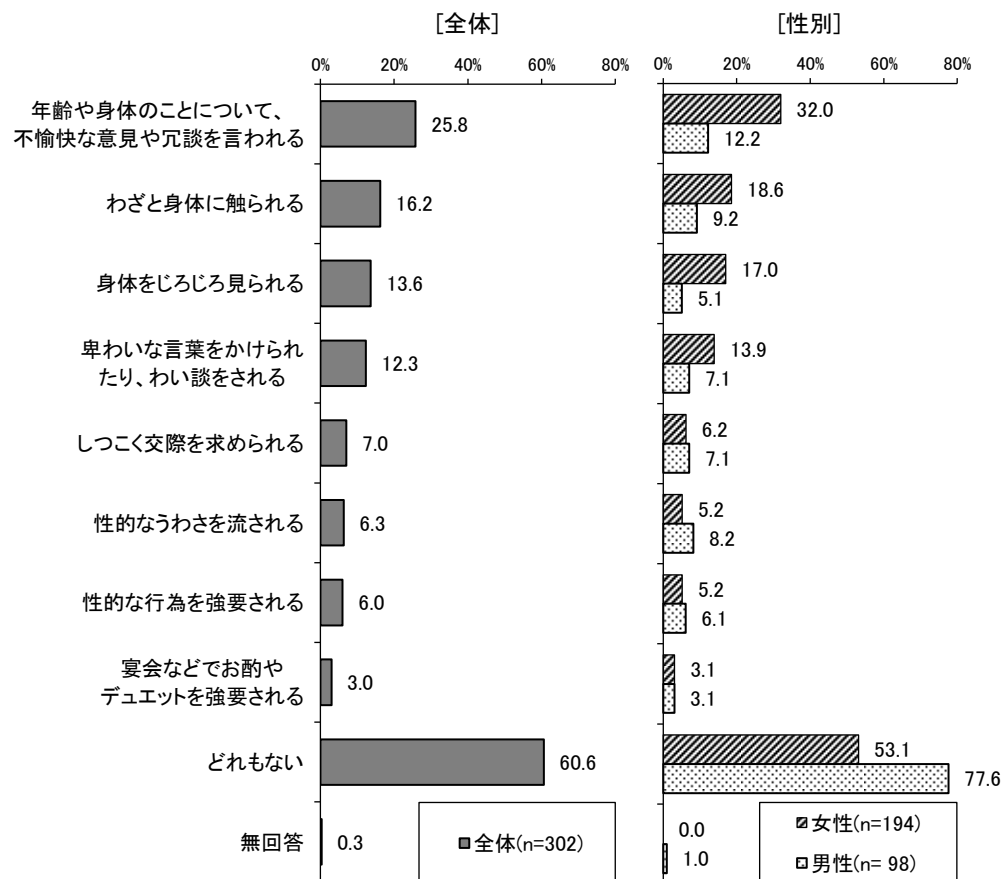
(1) セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

問5 セクシュアル・ハラスメントについておたずねします。あなたは、次のような行為をされたことがありますか。(いくつでも)

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験をたずねたところ、「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」が25.8%で最も高く、次いで「わざと身体に触られる」(16.2%)、「身体をじろじろ見られる」(13.6%)、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる」(12.3%)となっており、「どれもない」は60.6%となっている。

性別にみると、女性の方がセクシュアル・ハラスメントを受けたと回答する割合が高く、特に「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる」は19.8ポイント、「身体をじろじろ見られる」は11.9ポイント、男性よりも高くなっている。

図 性別 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

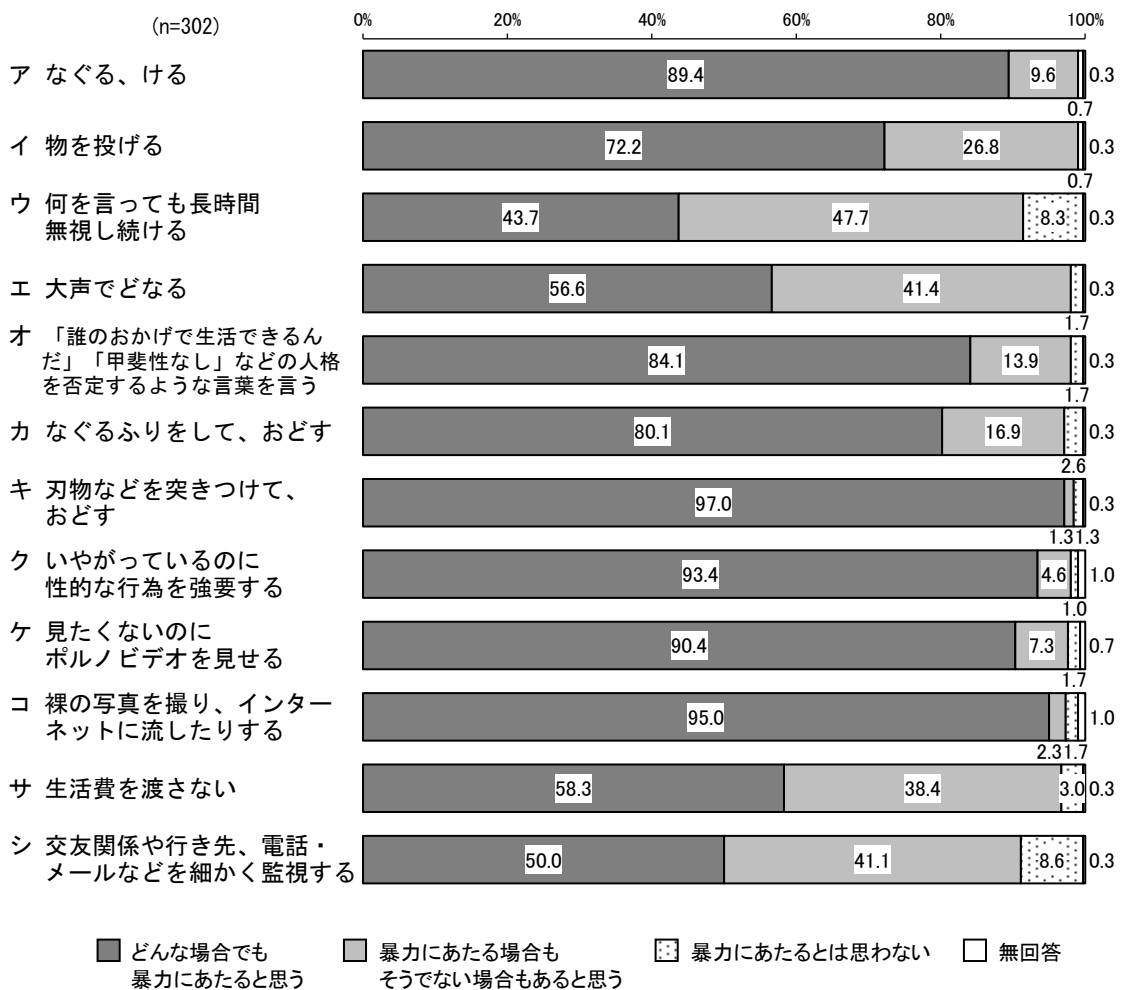


(2) 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと

問6 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、暴力だと思いますか。
(それぞれ1つ)

配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思う事柄についてたずねたところ、多くの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割以上と高くなっているが、「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」「エ 大声でどなる」「シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」では「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が他の項目と比較して高く、4割以上となっている。

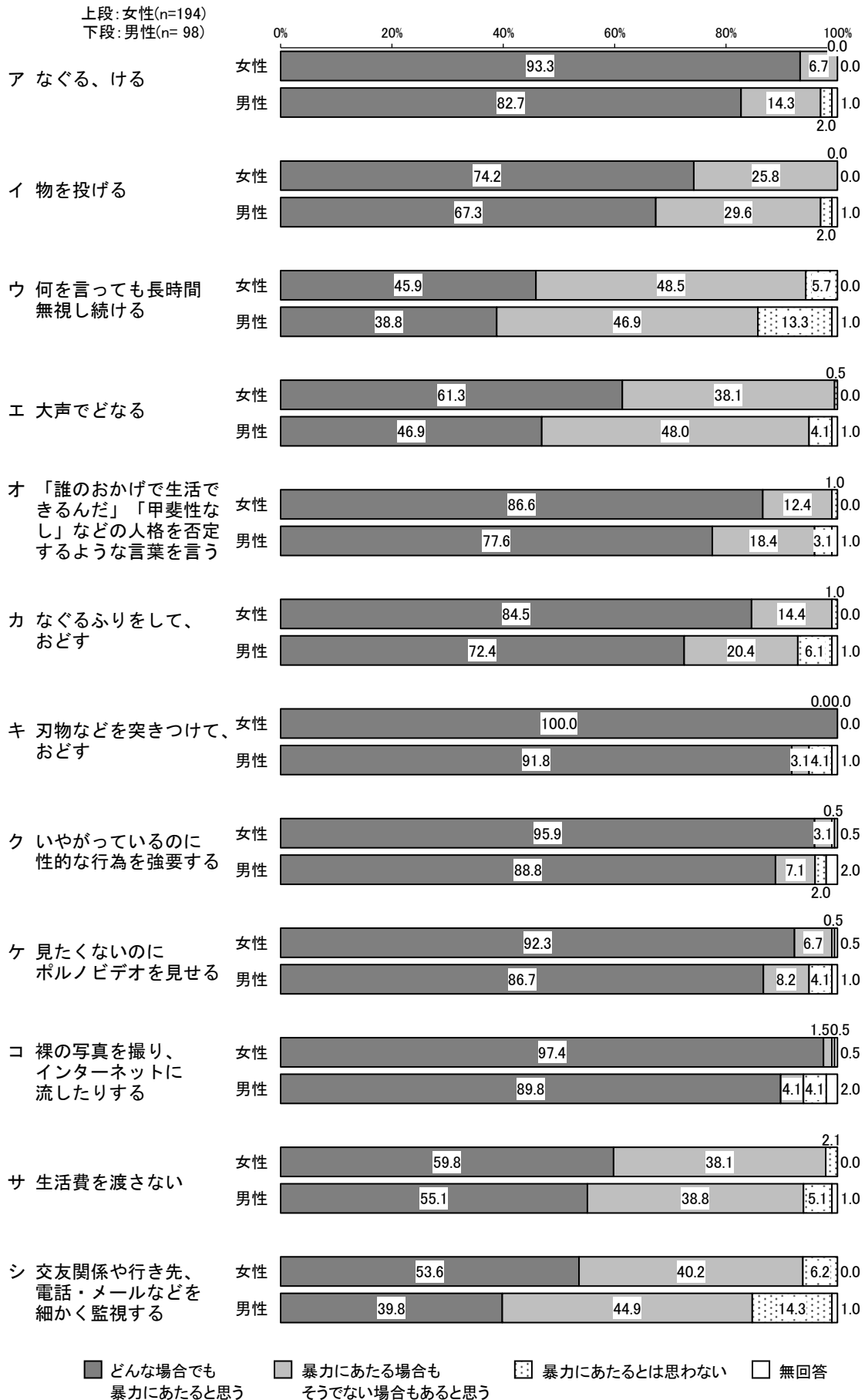
図 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと



性別にみると、すべての項目で女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっている。一方で、男性の「暴力にあたるとは思わない」で、「シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」が14.3%、「ウ 何を言っても長時間無視し続ける」が13.3%と、他の項目と比べて高くなっている。

IV 大学生意識調査の結果

図 性別 配偶者・パートナー・恋人間で暴力だと思うこと



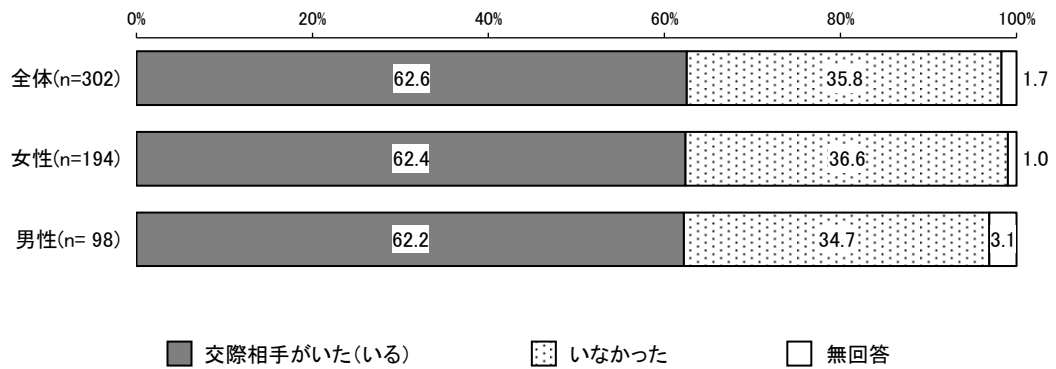
(3) 交際相手の有無

問7 あなたは、これまでに交際相手がありましたか。(1つだけ)

交際相手の有無についてたずねたところ、「交際相手がい(いる)」が62.6%、「いなかった」は 35.8% となっている。

性別による交際相手の有無の違いはほとんどみられない。

図 性別 交際相手の有無



IV 大学生意識調査の結果

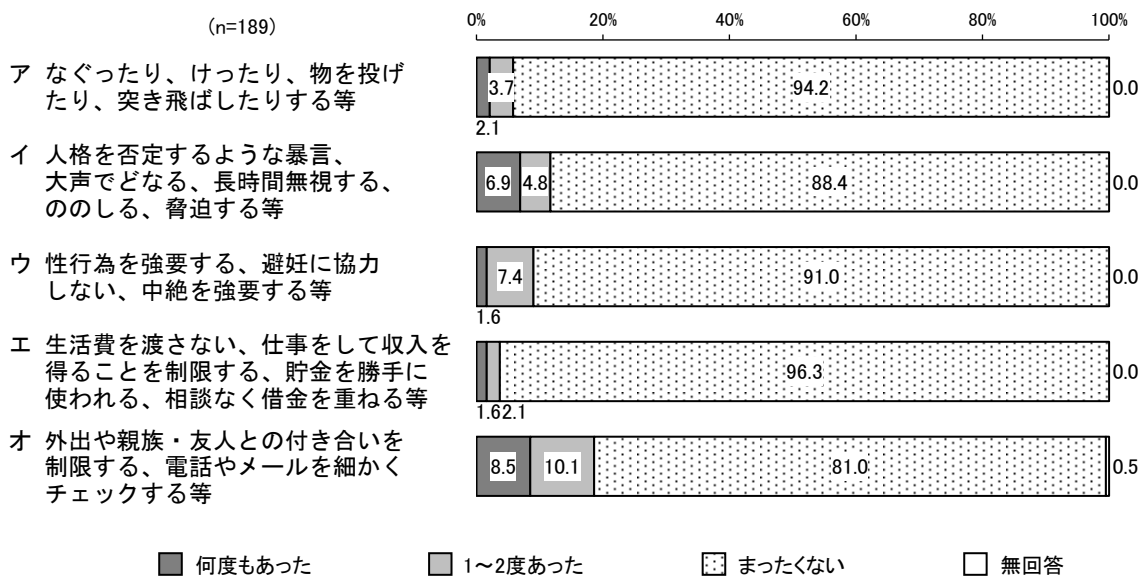
(4) 交際相手からの暴力の有無

《交際相手のいた(いる)方におたずねします。》

問8 これまでに交際相手が、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。(それぞれ1つ)

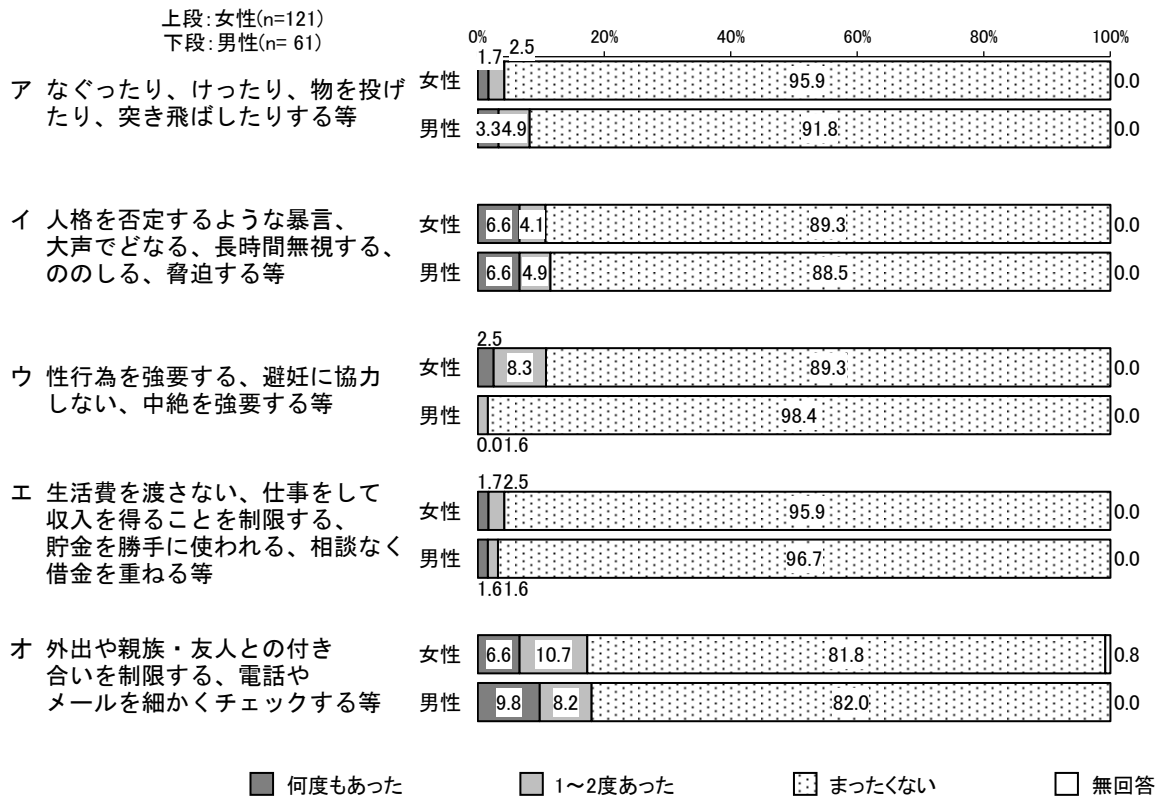
交際相手からの暴力の有無についてたずねたところ、『あった』(「何度もあった」と「1~2度あった」の合計)は「オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等」で18.6%、「イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等」で11.7%、「ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等」で9.0%、「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」で5.8%、「エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等」で3.7%となっている。

図 交際相手からの暴力の有無



性別にみると、「ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等」で女性の『あった』の割合は、男性よりも9.2ポイント高くなっている。一方で、「ア なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等」で男性の『あった』の割合は、女性よりも4.0ポイント高くなっている。

図 性別 交際相手からの暴力の有無



IV 大学生意識調査の結果

(5) 暴力を受けた際の相談状況

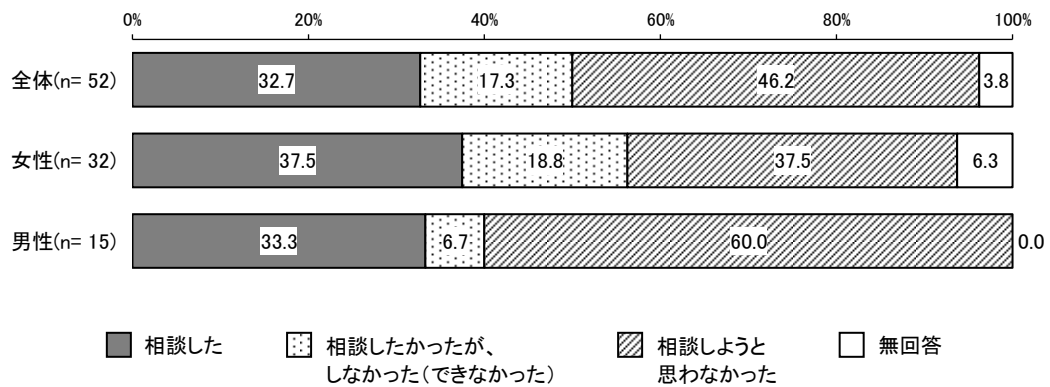
《問8で、1つでもされたことがあったと答えた方におたずねします。》

問9 そのことを誰か（どこか）に相談しましたか。（1つだけ）

暴力を受けた際の相談状況についてたずねたところ、「相談しようと思わなかった」が46.2%で最も高く、次いで「相談した」（32.7%）、「相談したかったが、しなかった（できなかった）」（17.3%）となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「相談したかったが、しなかった（できなかった）」が12.1ポイント高く、男性の方が女性よりも「相談しようと思わなかった」が22.5ポイント高くなっている。

図 性別 暴力を受けた際の相談状況



相談した相手の要約	
友人	12件
母親	1件
おば	1件
学校のカウンセラー	1件
公的機関	1件

4. 悩みごとの相談状況

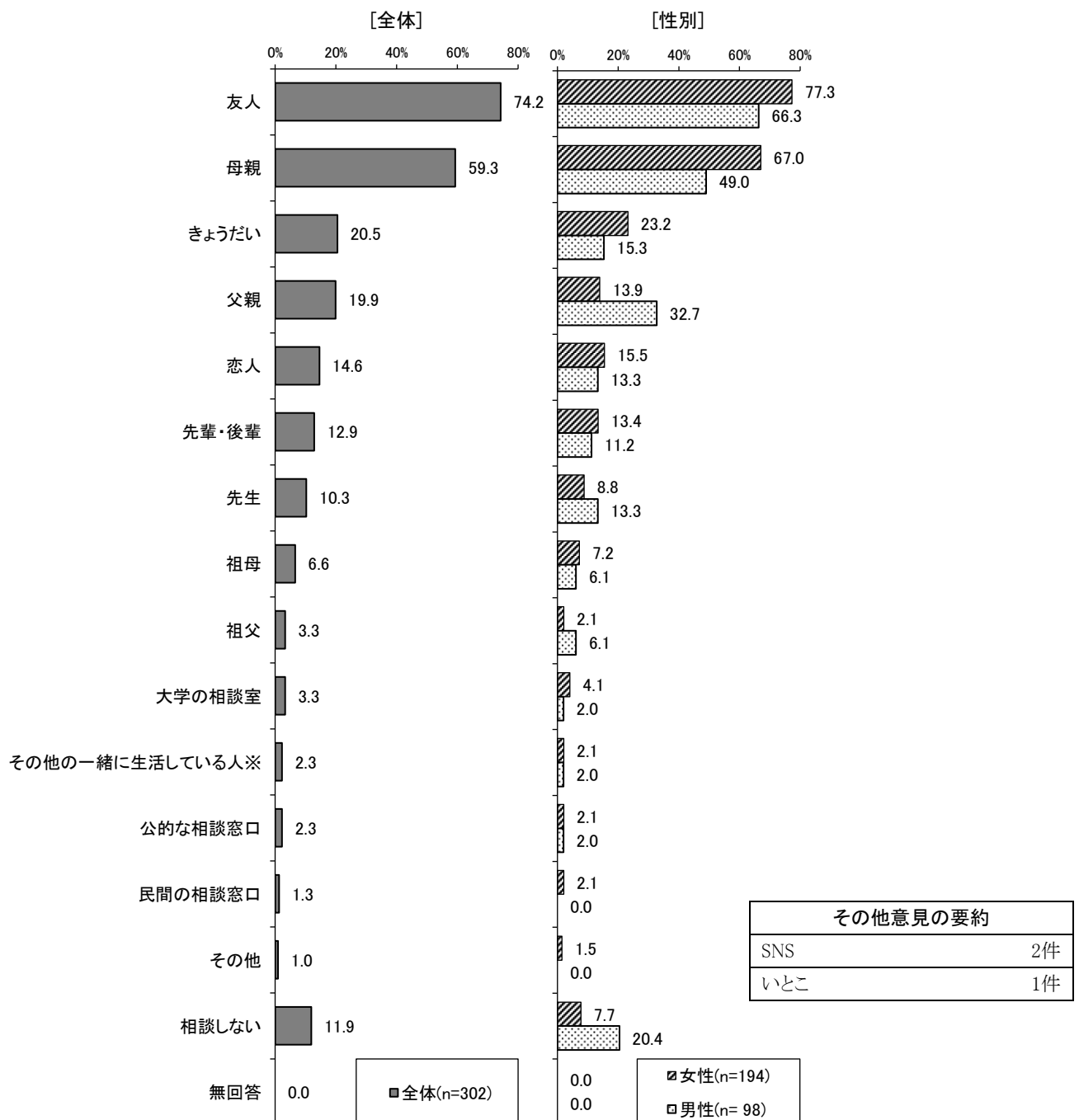
(1) 悩みごとや心配ごとがある時の相談相手

問10 あなたは、悩みや困りごとがあったときの相談は誰（どこ）にしますか。（いくつでも）

悩みごとや心配ごとがある時の相談状況についてたずねたところ、「友人」が74.2%で最も高く、次いで「母親」(59.3%)、「きょうだい」(20.5%)、「父親」(19.9%)となっている。一方で、「相談しない」は11.9%となっている。

性別にみると、「母親」は女性の方が男性よりも18.0ポイント高く、「父親」は男性の方が女性よりも18.8ポイント高くなっている。一方で「相談しない」は、男性の方が女性よりも12.7ポイント高くなっている

図 性別 悩みごとや心配ごとがある時の相談相手



※その他の一緒に生活している人……「母親」「父親」「きょうだい」「祖母」「祖父」以外の一緒に生活している人

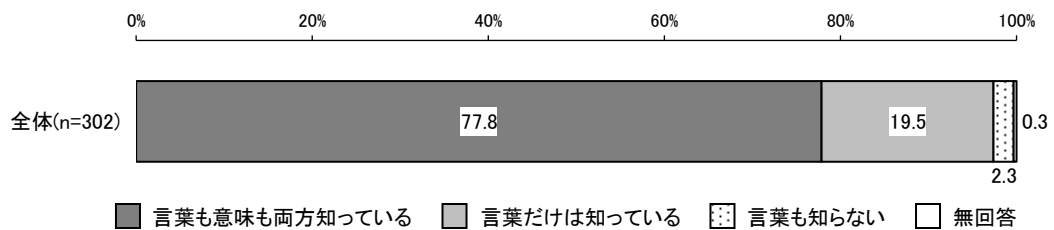
5. セクシュアルマイノリティについて

(1) セクシュアルマイノリティの認知度

問11 あなたは、LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティについて、どの程度知っていますか。
(1つだけ)

セクシュアルマイノリティの認知度についてたずねたところ、「言葉も意味も両方知っている」が77.8%で最も高く、次いで「言葉だけは知っている」(19.5%)、「言葉も知らない」(2.3%)となっており、『知っている』(「言葉も意味も両方知っている」と「言葉だけは知っている」の合計)は97.3%と大多数を占めている。

図 セクシュアルマイノリティの認知度

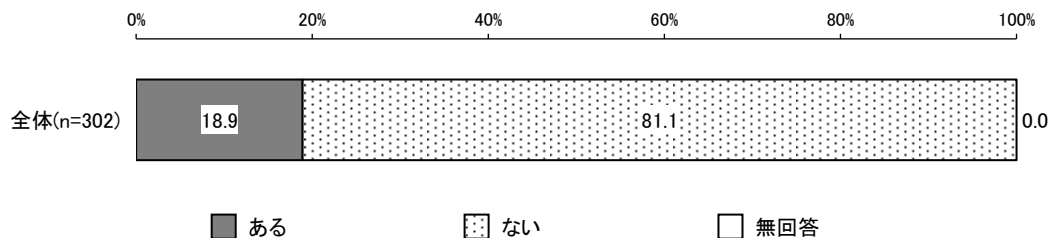


(2) 性自認・性的指向で悩んだことの有無

問12 あなたは、今までに性自認（自分で自分の性別をどう思うか）または性的指向（どんな性別の人を好きになるか）に悩んだことがありますか。(1つだけ)

性自認・性的指向で悩んだことの有無についてたずねたところ、「ある」は18.9%となっている。

図 性自認・性的指向で悩んだことの有無

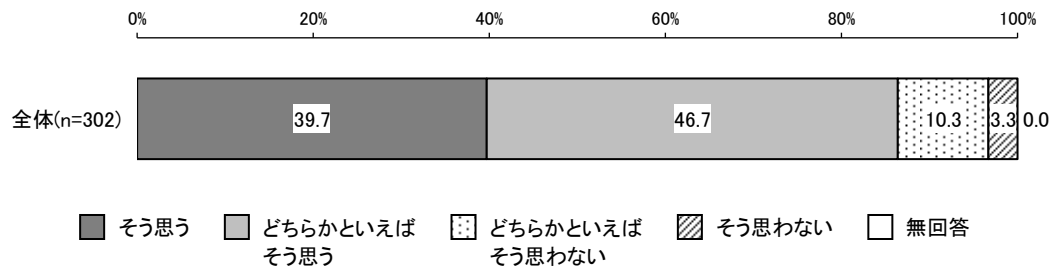


(3)セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか

問13 LGBTをはじめとするセクシュアルマイノリティにとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。
(1つだけ)

セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うかについてたずねたところ、「そう思う」が39.7%、「どちらかといえばそう思う」が46.7%となっており、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が86.4%となっている。

図 セクシュアルマイノリティにとって生活しづらい社会だと思うか



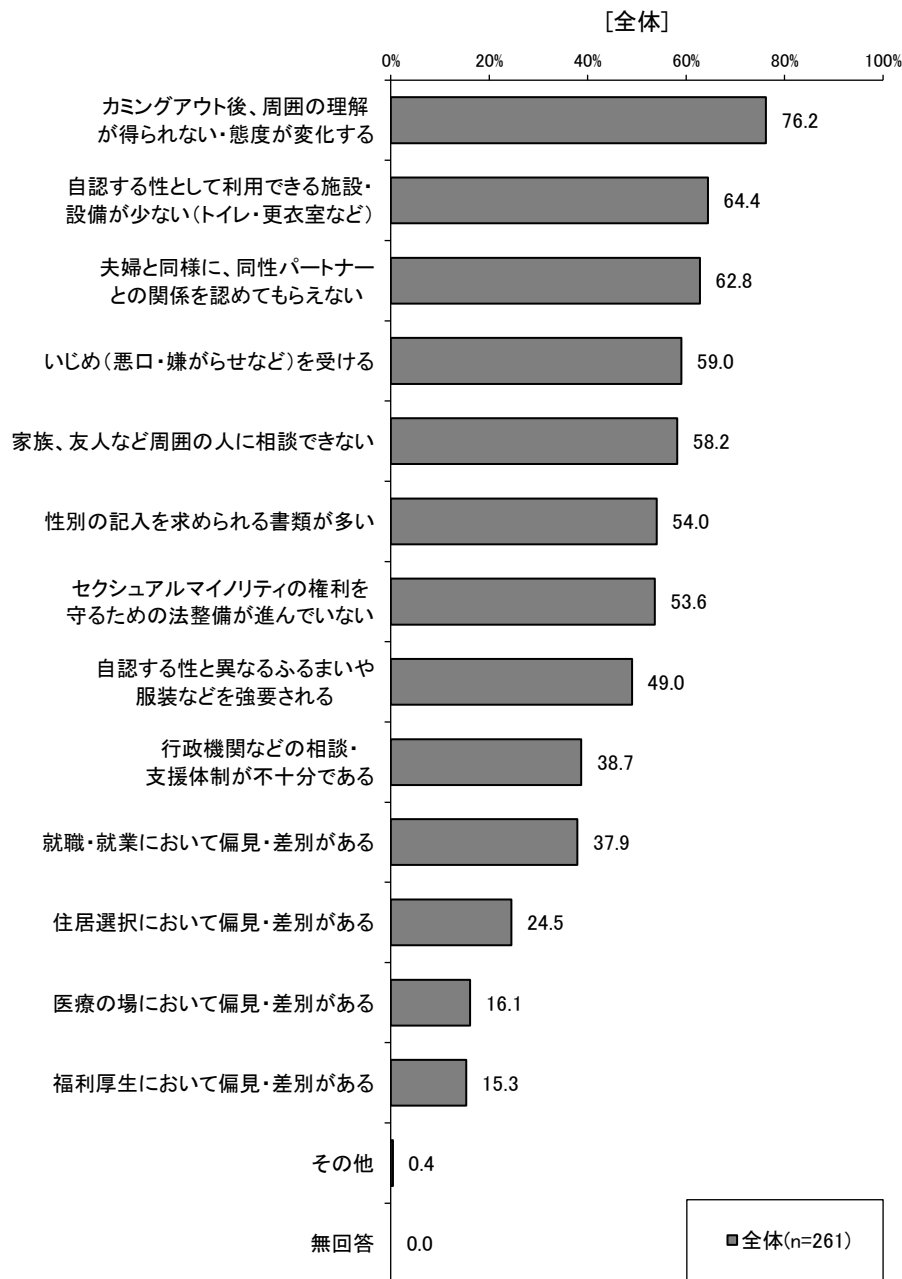
(4)セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由

《問13で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と答えた方におたずねします。》

問14 どのようなことが生活しづらい社会にしていると思いますか。(いくつでも)

セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由についてたずねたところ、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が76.2%と最も高く、次いで「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」(64.4%)、「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」(62.8%)、「いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける」(59.0%)となっている。

図 セクシュアルマイノリティが生活しづらい社会である理由



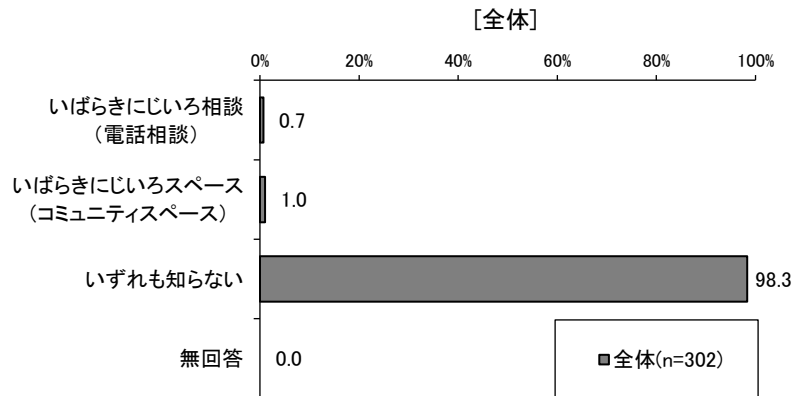
その他意見の要約	
セクシャルマイノリティの友人が苦勞していることが多い	1件

(5) 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度

問15 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組を知っていますか。(いくつでも)

茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度についてたずねたところ、「いばらきにじいろ相談(電話相談)」が0.7%、「いばらきにじいろスペース(コミュニティスペース)」が1.0%となっており、「いずれも知らない」は98.3%と大多数を占めている。

図 茨木市のセクシュアルマイノリティ支援に関する取組の認知度



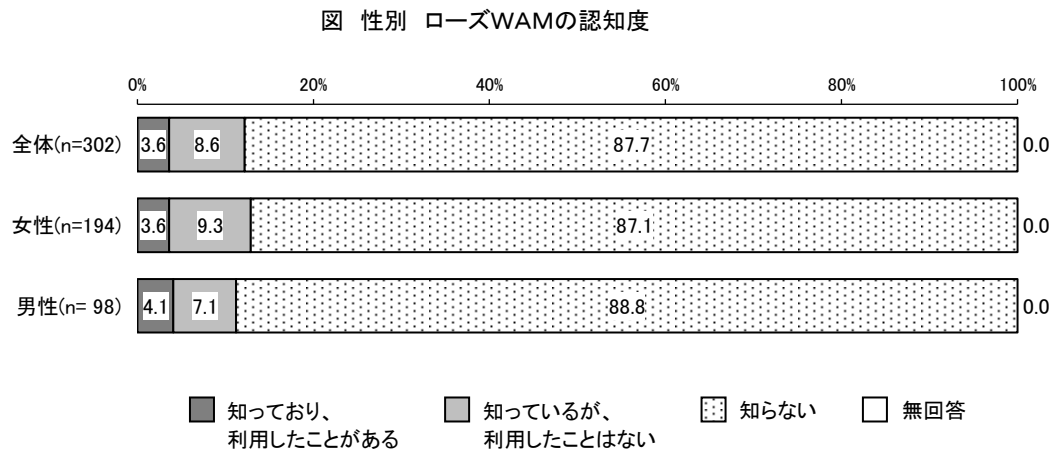
6. 茨木市の取組について

(1) ローズWAMの認知度

問16 あなたは、男女共生センター ローズWAMを知っていますか。(1つだけ)

ローズWAMの認知度についてたずねたところ、「知らない」が87.7%で最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」(8.6%)、「知っており、利用したことがある」(3.6%)となっており、『知っている』(「知っており、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計)は12.2%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも『知っている』がやや高くなっている。



V 調査結果の考察

茨木市男女共同参画に関する調査結果をみて

田間 泰子

大阪府立大学名誉教授

博士(文学)、専門社会調査士

はじめに

国際的にみて、日本社会がジェンダー平等において遅れをとっていることは、近年では内閣府『男女共同参画白書』やメディアの報道を通じて、よく知られるようになってきている。しかし、これを実際に改善するには、国レベルでの政策とともに、人々が実際に暮らす地域社会での政策が必須である。調査はそのための根幹となるデータ収集の行程であり、今回の調査結果からも、今後の政策立案に繋がる多くの知見が得られるものとする。

I では、市民意識調査で特に注目された点を4点にまとめて述べる。II では小中学生調査と大学生調査の結果について述べる。それぞれにおいて、適宜、今後の取組として必要なこと、残された課題などに言及する。III では、以上を総合してみた場合に特に政策課題と考える点を2つ挙げて論じ、終わりに、茨木市総合計画にかかる調査(2013年)を参考にして、市の取組への期待を述べる。

なお、単位表記はすべて「ポイント」で統一した。

I. 市民意識調査

I-1. 男性の世代的変化について

前回と今回の回答傾向に違いがみられる項目は、性別役割分担意識(問2、p.22)、および生活の中で優先したいこと(ワーク・ライフ・バランス)に関する意識(問10、p.50)である。いずれにおいても、全体として男女共同参画政策が目指す方向に変化している。

まず、問2の「賛成」と「どちらかといえば賛成」(以下、【賛成】とする)を合わせると39.9ポイントから29.1ポイントへ減少し、「反対」と「どちらかといえば反対」(以下、【反対】とする)は44.9ポイントから59.1ポイントへと大きく増加した。

この傾向は男女同様で、女性は【賛成】が35.7ポイントから25.3ポイントへ、【反対】が49.3ポイントから61.4ポイントへ、男性は【賛成】が45.7ポイントから34.2ポイントへ、【反対】が39.1ポイントから56.0ポイントへと変化した。これは、男女共同参画社会の実現のために望ましい変化が生じているといえよう(表1)。

表1 問2性別役割分担意識(前回調査との比較)

	【賛成】の変化	【反対】の変化
全体	(前回)39.9 → 29.1(今回)	(前回)44.9 → 59.1(今回)
女性	35.7 → 25.3	49.3 → 61.4
男性	45.7 → 34.2	39.1 → 56.0

さらに注目したいことは、今回調査では【反対】の割合の男女間での差が小さくなり(10.2ポイントから5.4ポイントへ減少)、なかでも「反対」という回答に男女の差がないという点である(女性29.2ポイント、男性29.9ポイント、p.21)。この結果を支えているのは男性の回答の変化で、男性は世代間でほぼ直線的に【賛成】が急減している。他方、女性は総じて【反対】が多いものの、世代間でのそのような違いはみられず、70歳以上の女性と60歳代以下の女性のあいだに傾向の断絶的な違いがみられる。

V 調査結果の考察

結果として、10・20 歳代のみで比較すると、男性のほうが【賛成】が少なく【反対】が多いという現象がみられることになった(ただし、男性は「どちらかといえば反対」が女性より多い)。くわえて、30 歳代では女性が【賛成】20.1 ポイント、【反対】67.6 ポイントであるのに対して、男性は 17.5 ポイントと 66.6 ポイントであり、男女がほぼ同じ回答結果となっている。

女性に比べての、男性のこのように顕著な世代的变化は、「家庭におけるさまざまな役割」(問4、p.27～34)にもみられる。「家庭におけるさまざまな役割」に関して、「主に男性が担う」「どちらかといえば男性が担う」を【男性】、「どちらかといえば女性が担う」と「女性が担う」を【女性】、「男女が同じ程度」を【平等】とすれば、【男性】の減少と【平等】の増加は、「生活費をかせぐ」においてみられる。そして、【平等】の増加と【女性】の減少は、「日常の買い物」「食事のしたく、後片付け」「洗濯」「老親や病身者の介護・看護」「学校行事への参加」「乳幼児の世話」という多くの項目においてみられる。その結果、10・20 歳代では「掃除」「子どもの教育としつけ」以外のすべての項目で、男性のほうが【平等】とするポイントが高くなっている(「掃除」は 4.7 ポイント差、「子どもの教育としつけ」は 0.8 ポイント差)。統計上の誤差を考えるなら、男女にほぼ意識差はないと考えてよく、むしろ「生活費をかせぐ」や「日常の買い物」「学校行事への参加」「乳幼児の世話」など、若い世代の男性の平等志向が女性よりも高い項目が存在する(表2)。

表2 問4家庭の仕事の役割分担(10・20歳代と30歳代の「男女が同じ程度」の割合)

		女性	男性			女性	男性
ア 生活費をかせぐ	10・20 歳代	47.5	56.4	カ 掃除	10・20 歳代	84.7	80.0
	30 歳代	45.0	47.6		30 歳代	78.8	88.9
イ 日々の家計の管理を する	10・20 歳代	61.0	65.5	キ 老親や病身者の介護・ 看護	10・20 歳代	83.1	89.1
	30 歳代	73.8	61.9		30 歳代	83.8	81.0
ウ 日常の買い物	10・20 歳代	66.1	76.4	ク 子どもの教育としつけ	10・20 歳代	88.1	87.3
	30 歳代	65.0	73.0		30 歳代	86.3	82.5
エ 食事のしたく、後片 付け	10・20 歳代	76.3	81.8	ケ 学校行事への参加	10・20 歳代	78.0	85.5
	30 歳代	67.5	69.8		30 歳代	81.3	81.0
オ 洗濯(洗濯物干し・た たみを含む)	10・20 歳代	78.0	80.0	コ 乳幼児の世話	10・20 歳代	57.6	65.5
	30 歳代	71.3	73.0		30 歳代	58.8	61.9
				サ 自治会、町内会など地 域活動への参加	10・20 歳代	83.1	83.6
					30 歳代	82.5	77.8

また、子育てについての考え方(問8、p.41～43)においても、これらは女性の世代的变化も大きい、男性も特に10・20 歳代と30 歳代は大きく変化している。「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」というしつけ方や、「3歳くらいまでは母親が育てた方がよい」という3歳児神話への反対が顕著に増えて、場合によっては女性よりも男性のほうが「そう思わない」割合が高い。

以上から、男性において世代間に大きな意識変化がみられること、そして若い世代では家庭での役割分担においても男性が女性と同様かそれ以上に平等志向が高いことが明らかである。男性の世代的な意識変化は、他の調査にもみられる現象である。茨木市においても、この変化を本調査で確認できたことは重要な成果であり、さらにより具体的な他の質問項目の結果や、ヒアリング結果と合わせることによって、今後の計画を構想するためのより具体的な示唆が得られるものとする。

I-2. 男性の世代的特点

問10では、前回調査に比べて今回調査では『仕事』と『家庭や地域活動』と『個人の生活』の3つとも大切にしたい』が多くなったが(p.50)、この質問項目については問2のように一律な変化の傾向はみられない(p.47)。女性

では、50 歳代以下の世代で4割前後がこの選択肢を選んでおり、世代を通じて女性たちにとって主要な志向となっている。60 歳代以上との間に世代間の違いがみられるが、60 歳代での割合の低さは、定年退職後の人が多いことが関係しているのではないかと思われるが、この推測にはデータ検証が必要である。

男性の回答で注目されるのは、30 歳代・40 歳代と、10・20 歳代である。

30 歳代と 40 歳代は「3つとも大切にしたい」と考える割合が高く、特に 40 歳代は女性の 40 歳代とほぼ同割合となっている。40 歳代は「仕事を優先したい」が 7.5 ポイントあるので 30 歳代よりも「仕事人間」的な人が若干多いことになるが、選択肢のなかに「仕事」が入っている割合は 40 歳代で 67.7 ポイント、30 歳代で 66.7 ポイントであって、30 歳代が仕事を大切に考えていないわけではない。30 歳代も 40 歳代もともに家庭生活と仕事などの調和を求める傾向が高いといえることができる。

また 30 歳代と 40 歳代は、『家庭や地域活動』と『個人の生活』を優先したいという割合が、70 歳以上に次いで高いことが特徴である。この選択肢には「仕事」が入っていないが、その割合は同世代の女性に近い値となっており、労働力の中核を占めるこれらの世代で、50 歳代や 60 歳代と異なる傾向が明確に表れている。

他方、10・20 歳代男性は他世代と全く異なる傾向を示す。最もよく選ばれた選択肢は『仕事』と『個人の生活』を優先したい(30.9 ポイント)、これとほぼ同割合で『個人の生活』を優先したい(29.1 ポイント)となっており、「家庭や地域活動」を優先するものを含めた割合は 36.4 ポイントという低さである。この傾向は、他世代の男性と異なるだけでなく、同世代および他世代の女性の傾向とも異なる。現実のコロナ前後の生活を比較すると、仕事優先であった生活が激減し(27.3 ポイント→7.3 ポイント)、『仕事』と『個人の生活』(12.7 ポイント→21.8 ポイント)や、『仕事』と『家庭や地域活動』(3.6 ポイント→10.9 ポイント)という増加があったことが分かるが(p.48～49)、希望としては『仕事』と『家庭や地域活動』は 5.5 ポイントしかないので、10・20 歳代の男性の生活設計において「家庭や地域活動」の比重が特に軽いようである。

この傾向は、男性に女性の就労等のかかわり方を尋ねる質問(問 12「一般に」、問 13「あなたに配偶者やパートナーがいる場合」)にも関連するように思われる。10・20 歳代男性に「分からない」が多く(問 12 は女性 0.0 ポイント、男性 16.4 ポイント。問 13 は女性 20.3 ポイント、男性 36.4 ポイント)、特に問 13 では無回答が女性 0.0 ポイント、男性 16.4 ポイントと多い。つまり、実際の結婚生活を想像してもらった場合に、男性の 52.8 ポイントは選択肢から自分の意見を選ぶことができなかつたのである(p.56)。先に述べたように男女共同参画の意識としては平等志向の高いこの世代が、結婚や地域社会での生活のあり方、そして女性のライフコースについて意見をもてていないということになる。

政策的には、これを大切な機会と捉えるべきで、「家庭や地域活動」への関心を高めることが肝要である。また、女性の現状への理解を深めてもらうとともに、「わからない」「無回答」の原因を探ることが必要である。この「わからない」「無回答」のなかには、無関心などの否定的な態度だけでなく、実際には当事者(女性)の意見を聴き、それに従おう、あるいは話し合っ一緒に考えようとする態度の男性も含まれているかもしれない。男性たちの未決の姿勢に可能性を見たい。

I-3. 女性の意識と現状について

I-1とI-2でみたように、意識の上では男性の世代的変化がみられるにもかかわらず、現代の日本社会が男女平等かどうかについて、「法律や制度」から「社会全体」まで、すべての項目で男女に認識の違いが明らかにみられる(問1, p.13)。女性のほうがより不平等と考え、男性のほうがより平等、項目によってはより女性が優遇されていると考えているのである。

社会の現状を平等とみなすかどうかという質問項目は、現実にはその社会が平等であるかどうかを測るものではなく、不平等な社会であることを前提として、人々のジェンダー・センシティブな意識のありかたを測っている。この観点からは、現代の日本はいまだに女性が不平等を感じる社会であること、そして特に「社会の慣習やしきたり」「雇用の機会や職業の選択」「賃金や待遇」「政治・経済活動」で不平等を認識しているという結果が重要である(p.14

V 調査結果の考察

～19)。問5の「負担感や生きづらさ」において、「ある」と回答する女性の割合の高さ、男性の割合との大きな差がこれを裏付けている(p.35)。政治と経済の領域でジェンダー不平等が甚だしいことは、男女共同参画白書や世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数の世界ランキングによって広く知られるようになってきているが、それ以外の「社会の慣習やしきたり」や家庭生活に伴う性別役割分担なども女性差別撤廃条約に従って不平等を是正する必要があることがわかる(問6、p.36～37)。

ただ、問1の結果には留意も必要である。男性の「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」という回答に注目すると、「法律や制度」については30歳代を中心に高くなっており、「社会の慣習やしきたり」「学校生活」、また特に「家庭生活」でも10・20歳代から項目によっては40歳代、50歳代でも割合が相対的に高い。I-1でみたような男性の平等志向という結果と併せて考えると、認識のギャップの原因は単純ではなく、複数の可能性が考えられる。単純に認識が表面的であること(たとえば商業上の女性優遇の価格設定など)や、積極的是正措置の必要性が正しく理解されていないことも考えられる。また、学校生活などで現実に「隠れたカリキュラム」的に女子生徒の優遇(「女子生徒に甘く対応すること」)を経験した可能性もある。しかし、「自治会などの地域活動」では、興味関心をもって参加した30歳代男性が不平等や参加しづらさを感じた可能性もある。家庭生活においても、男性の意欲とのズレがこのような不平等の認識となった可能性がある。この調査結果は、現代社会が一様にまだ不平等である、ということとはできないこと、家庭や地域といった従来女性に割り当てられてきた生活の場、就労の場、学校教育の場など、個々の場の特性と問題性をふまえながら男女共同参画に取り組みねばならないことを示唆していると思われる。その際、男性は女性による認識との差とその原因を理解し、また女性は男性の平等志向、家庭生活や地域での活動への参画意欲を尊重できるように工夫する必要がある。

さらに、コロナの影響は男女に異なる影響を与えている(問7、p.38～40)。男性においては在宅勤務とテレワークが増えて残業が減り、それがワーク・ライフ・バランスについての考え方の変化に繋がったようである。しかし、女性は家事・育児・介護の負担が増え、さらに注意すべき点として「精神的に不安定になった、イライラすることが増えた」割合が男性と比較して高い。国連の調査によれば、調査対象となった16カ国の、ドイツ以外のすべての国でコロナ禍が父親の育児時間を増加させた。しかし、母親の育児時間も大きく増加しており、結果として父親と母親との育児時間の差が拡大した国のほうが多い。日本も、週平均にしてコロナ禍前の差8.7時間が9.9時間に拡大した(内閣府『令和3年男女共同参画白書』)。茨木市の調査は、生活時間を尋ねていないのでこれを裏付けるものとはならないが、同様の現象が起こった可能性はある。

また、10・20歳代女性は「自分の収入が減った」と「生活に対する不安が大きくなった」も同世代の男性に比較して高い。将来の社会での活躍を期待したい10・20歳代女性たちに対して、エンパワメントのための施策が必要であるように思われる。

I-4. 人権について

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験や、配偶者・パートナー・交際相手からの暴力の経験、これらのハラスメントやデートDVを含む暴力についての認識のいずれについても、男女差が存在する(問16、17、19、22、p.61～68、p.70～72、p.75～77、)。暴力については、特に認識の低い「何を言っても長時間無視し続ける」「大声でどなる」「生活費を渡さない」「細かく監視する」について、それらがなぜ暴力なのか理解されるよう、一層の啓発が必要である。交際相手からの経験としては、10・20歳代や30歳代女性は性に関わる暴力が多く、30歳代から50歳代女性は暴言や長時間の無視、社会関係の監視の経験が多い。配偶者・パートナーからの経験としては、10・20歳代女性は監視、年上の世代では、なぐる・ける・無視などの経験も多い。これらの被害経験を相談することができれば、問題の解決に繋がったかもしれない。そこで、「相談しなかった、しようと思わなかった理由」(問24、p.81)をみると、回答に世代の違いがあまりみられない(「相談するほどのことではない」「むだだと思った」「自分さえがまんすれば」。ただし、10・20歳代と30歳代は回答者数が非常に少ないため一般化することは難しい)。他方、「自分にも悪いところがあると思った」「恥ずかしくて」「思い出したくなかった」「相談することで自分が傷つきたくなかった」など、10・

20 歳代に多い理由がある。若い世代に対して、さらに調査する必要がある、また特に配慮した啓発が必要であると思われる。加えて、友人・知人や家族・親族に相談できた場合でも、専門機関ではないため、それによって解決に繋がったかどうか不明である(問 23、p.79)。広く啓発を行うことによって、相談された家族や友人などが専門機関に繋ぐ可能性を高める必要がある。

ハラスメントについては、特に女性に職場での経験が多い。それらの職場が茨木市内にあるとは限らないが、市内事業所に対して一層の啓発を行い、働く場としての茨木市が人々にとって安全・安心で快適であることを目指すべきだと考える。この点は、茨木市の状況についての認識(問 32、p.92～97)での「セクシュアル・ハラスメントや DV などへの対応が進んでいる」かどうか「わからない」とする回答の多さを克服することに繋がると考える。次回の調査時に、可能であれば被害経験をした職場が市内かどうかを尋ねるとよい。また、事業所へのヒアリング調査は女性活躍促進を中心に構成されているが、職場の人間関係とその延長線上にある宴会などにおいてハラスメントが起こることは、活躍促進以前の問題である。活躍促進を評価や昇進などだけでとらえず、就労継続を可能にする基本的な労働環境の問題を含めてとらえるべきである。なお、男性の育児・介護休業取得とそれに関わるハラスメントや職場の理解についても、同じことがいえる(問 14)。

セクシュアルマイノリティに関する知識は若い世代を中心に普及しており、特に 10・20 歳代は現代社会での生活のしづらさも認識できている(問 25、27、28、p.82、p.84～86)。60 歳代やとりわけ 70 歳以上との認識の差が大きいが、家族・親族や地域社会と共に生きていくのであるから、意識啓発をより推進し、差別と偏見のない社会を目指す必要がある。調査結果では、10・20 歳代と 30 歳代で、10%に満たないが悩んだことがある」という回答が得られているが(問 26、p.83)、茨木市の取組はほとんど知られていない(問 29、p.87)。さらなる広報など取組が必要である。このような市内で顔が見えるかたちの支援が一番重要ではあるが、大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の増進に関する条例も作られており、インターネットで居住地と関わらない支援組織にアクセスすることも現代では可能である。調査において、特に府の条例を知っているかどうかや悩んだ時の相談先などを尋ねれば、周知の良い機会になっただろうと思われる。

II. 小中学生アンケートと大学生意識調査

II-1. 小中学生アンケート

小中学生や、茨木市内への通学者を含む大学生への調査は、男女共同参画を次世代につなぐためのデータとなり、また調査自体に啓発の効果があるので、貴重な取組である。

小中学生については、家庭での性別役割分担の意識は、前回調査より今回がより平等志向へと変化しており、なかでも特に「生活費をかせぐ仕事」が大きく変化したことが目立つ(問2、p.113)。「家庭の外の仕事は男性、家庭の中の仕事は女性」という考え方についても、中学生では男女ともに【賛成】が減少して【反対】が増加した(問3、p.114)。

ただし、問3や問4(p.115～117)の結果については、幾つかの注意が必要である。まず、女子と男子に意識差がある。たとえば問3では【賛成】は女子 15.0 ポイント、男子 22.0 ポイント、【反対】は女子 68.0 ポイント、男子 47.4 ポイントとなっており、女子のほうが性別役割分担を否定する割合が高い。問2「生活費をかせぐ仕事」も、同様である。さらに中学生男子は家庭での家事・子育て、問4学校生活での「重い物を運んだり、力がいる仕事をする」でも、男性としての性別役割を意識する傾向が強い。思春期は特に性別を意識する時期となるが、本来、性別のアイデンティティが社会的な役割分担と結びつく必要がないことを、教育者は意識的に学ばせる必要があると思われる。

また、この結果を市民意識調査の 10・20 歳代と比較すると、中学生女子は 10・20 歳代女性より平等志向である。学校においては、女子のこの平等志向を支援し、将来の活躍へと繋げることが大切と思われる。問5にみられるように家事や子育てにおける平等や、性別にかかわらず将来の仕事を考えることは、性別にかかわらず人として誰にとっても重要な権利であるから、小学生から当たり前のこととして学んでおくべきである。

V 調査結果の考察

他方、家庭において実際には、すでに小学生の段階で、家庭生活において食事の支度や同居家族の世話、ゴミ出しなど、明らかに性別役割分担がみられる(問1、p.108～110。この点はヤングケアラーの問題にも関わってくると思われる。)。また、「男だから」「女だから」と言われる経験の場は圧倒的に家庭が多く、特に女子のほうがいやな思いをしている(問6、p.122～125)。保護者に対して、この結果をもとにして男女共同参画の意識啓発を行う必要がある。

デートDVについては認知度が前回調査より高まっており、セクシュアルマイノリティの問題についても比較的良好に知られている。心や体の悩みの相談も、心や体の大切さもかなり学びが浸透していることが評価できる。しかし、1割から項目によっては4割の割合で「学んだことがある」と回答していないため、一層の取組が必要である(問5、p.118～119)。また、交際関係では、電話やLINE(メール)の利用に「してもよい」の回答割合が高い(問8、p.127～128)。DVにおける暴力の明確な定義を踏まえての教育が、あらためて必要と考えられる。

ローズ WAM を特に若い世代に利用してもらえるよう工夫することも、すでに小中学生調査で一定の利用がみられるが、一層取り組んでいただきたいことの一つである。

II-2. 大学生調査

大学生調査も貴重な取組であるが、専攻分野の偏りが大きいいため、それが回答の傾向に影響していないかどうか気がなるところであり、一般化もできない。また、無作為抽出で行われた市民意識調査との比較にも注意が必要という留保をつけて述べる。

「男女の地位の平等感」(問1、p.136～137)で男女の回答の違いが特に目立つ項目は、「社会の慣習やしきたり」と「家庭生活」である。【男性】という回答について、「社会の慣習やしきたり」では女性が81.4ポイント、男性が65.3ポイント、「家庭生活」では女性が54.6ポイント、男性が33.7ポイントであるから、どちらの項目においても女性のほうが不平等を感じていることが明白である。ただし、女性と男性とのポイント差は、前者が16.1、後者が20.9で違いがみられる。「社会の慣習やしきたり」で差を生み出しているのは、女性の「どちらかといえば男性」という回答の多さだが、他方で「どちらかといえば女性」という回答もみられ、男女の意識差を縮小させる結果となっている。「家庭生活」では、女性が「どちらかといえば男性」と考える傾向に対して、男性が「平等」と回答することで男女差が生じている。さらに、問1では「法律や制度」「学校生活」「家庭生活」の項目において、値は小さいが、男性の4～5ポイントが「女性の方が非常に優遇されている」と回答している点が、市民意識調査の男性の回答傾向と異なっている。

男女共同参画の前提となる不平等の認識とその是正のための諸施策は、男女を利害対立させるゼロサムゲームではなく、性別にかかわらず共に生きやすい社会をめざすものである。したがって、「平等」や「女性が優遇されている」という認識を、なぜもっているのか、また実際に女性が優遇されているという事実を経験しているならそれはなぜ優遇なのか(積極的是正措置か、商業的な利益追求か、男性の性別役割分担が負担となっているのかなど)について、ヒアリング調査などで探らなければ対策に繋がらない。

人権については、ハラスメントを受けた経験が女性に多く(問5、p.142)、他方で暴力の認識においては「無視」と社会関係の監視について男性の認識が特に低い(問6、p.144)。この2項目は交際相手からの経験が相対的に高い割合である(問8、p.146～147)。同様に割合の多い性行為の強要など性的暴力と合わせて、しっかりとした人権教育が必要である。被害を受けた際に男性に「相談しようと思わなかった」、女性に「したかったがしなかった(できなかった)」が相対的に多いことから(問9、p.148)、相談に繋がらない原因を探り解決していく必要がある。また、相談相手として男性に父親、男女ともに母親が多いことから、保護者世代の理解も重要であると思われる。市民で保護者世代の人々に、この調査結果を活かすかたちで啓発ができるはずである。

セクシュアルマイノリティに関する理解は相対的に高いが(問11、p.150)、より具体的な生きづらさの理解については制度や慣習における差別的状況への理解が不足している(問14、p.152)。悩んだ経験があるとする回答が2割近いことを考えると(問12、p.150)、茨木市の取組(問15、16、p.153～154)やその他の支援制度の有無、および現状の問題点を、客観的なデータや国際的な動向に関する知識とともに、明確に啓発活動で伝える必要がある。

Ⅲ. 政策的課題

Ⅲ-1. 男性の意識の変化について

男性の意識は、男女共同参画社会の実現に向けて、世代間で大きく変化しつつある。したがって、家庭生活を子育て支援などを通してサポートするとともに、問14でも多く望まれているように、事業所や地域に対する様々な働きかけによって、この変化をより一層促進する必要がある。特に、ワーク・ライフ・バランスを求める傾向が高くなっている30歳代と40歳代に対して、育児や看病・介護、地域活動などでの支援が望まれる。

ただし、10・20歳代男性については、「家庭や地域活動」が優先項目に入りにくい傾向が、他世代の男性と比べても、同世代の女性と比べても明白である。近年、男性の未婚率の上昇傾向が顕著であるが、加えて、第15回出生動向基本調査(独身者調査)によると、結婚の利点がないと考える男性の割合は33.3%と高い(女性は20.7%)。利点があると考える者のなかでも、その理由として男女ともに1位である「子どもや家庭をもてる」を選んだ者は、男性は35.8%で、女性の49.8%と大きな差がある。結婚はもちろん本人の自由ではある。しかし、茨木市においても女性の意識との差は決して小さくない。結婚することや子どもを産み育てること、また地域社会での活動など、仕事や個人生活以外の過ごし方について、コロナ前(仕事重視)ともコロナ後(個人生活重視)とも異なる、家庭生活や地域での活動にも若い世代がヴィジョンを描けるようになる取組が望まれる。

Ⅲ-2. 女性の意識の変化について

女性の意識の世代的変化は、男性のように生じていない。今回調査では、逆転現象もみられた。その一方で、全体として不平等の認識や、希望のライフコース、性別役割分担に関する考え方、暴力の経験、家庭での役割など多くの項目において、市民意識調査・小中学生調査・大学生調査で男女差があった。特に注意が必要と感ぜられたことは、配偶者やパートナー、交際相手からの暴力における認識および経験での男女差、およびセクシュアル・ハラスメントにおける経験の男女差である。若い世代の男性への啓発だけでなく、若い女性自身への支援と、および若い女性を取り巻く社会環境(職場、学校、家族など)を視野に入れた取組が必要である。とりわけ、日本全体として経済活動の領域と、ジェンダーギャップ指数には反映されていないが性と生殖の健康と権利における遅れがあるため、この2領域での支援(エンパワメント)が必要と考える。コロナ禍のもとでの若い女性世代にみられる不安は、彼女たちへの支援の必要をとりわけ示唆しているように思われる。そして、そのエンパワメントが女性たちの政治的な活動のエンパワメントに繋がり、男女共同参画社会に近づくことを期待する。

終わりに

茨木市が行った「まちづくりに関するアンケート報告書」によれば、「男女共同参画社会の推進」は、2013年度には期待度スコアの順位が42項目中の第40位、満足度スコアでは第13位、2019年度には期待度スコアが第37位で満足度スコアが第18位であった。男女共同参画政策は、基本的にはジェンダー主流化に従ってあらゆる施策において配慮されつつ行われるべきものである。そのため、直接には市民に見えにくく、実感もされにくい。しかし、このように調査を行い、その結果を丁寧に施策に繋げることによって、男女共同参画が人々に実感され、当たり前の生きやすい社会を実現することに繋がる。

調査結果を用いて述べたように、市民の意識は変化している。そして様々な生活の場で、世代ごとの違いを踏まえた男女共同参画のための施策が必要とされている。たとえば、上述の「まちづくり」の調査では期待の上位に防災・防犯や健康、子育て・介護に関わる項目が挙がっている。性別役割分担に賛成する理由(市民意識調査の問3-1、大学生調査の問3-1)でも、「女性が働き続けることは大変だと思うから」が1位となっている。大変だから現状の差別的状況を追認する市民や大学生が多いという結果であるから、まさに施策が求められているということが

V 調査結果の考察

出来よう。施策の一つ一つに確実に男女共同参画が組み込まれることによって、市民が生活実感できる男女共同参画が可能となり、茨木市の取組が「わからない」(市民意識調査の問 32、p.92～97)という回答が減ることを期待する。

さらに言えば、市民調査では性別役割分担への賛成理由の第 2 位が「子どもの成長にとってよい」、第 3 位がより多くの収入、第 4 位が「伝統」である(市民意識調査の問3-1)。これらの理由への対策は、みな異なる(子どもの成長に関する父親の意義、就労における平等、日本の歴史の理解)。大変なことではあるが、一つ一つ、どのように施策で対応できるかを考えねばならない。

そして、調査結果によれば、人々が性別役割分担に反対する理由の第 1 位は、固定的な押し付けへの反発である。したがって、男女共同参画政策が性別にかかわらず一人一人の多様性を尊重し、自己実現を支援するものであることをあらためて確認して、施策を推進する必要がある。

茨木市に住む子どもたちの世代、そして通学してくる大学生世代が、茨木市で働きたい、住みたいと思うようになるためにも、男女共同参画の施策は基盤的役割の一端を担う。上述の 2013 年『茨木市のまちづくりに関するアンケート(高校生)報告書』では、高校生が茨木市に望むこととして、第 1 位「子育てがしやすいまち」(35.9%)となっていた。今回の調査で高校生のデータがないことが残念であるが、いずれにせよ、子育てや仕事のような具体的な生活課題において男女共同参画計画が果たす役割は大きい。

男女共同参画の担当課は、この調査結果を男女共同参画計画の個々の施策の担当課としっかりと共有し、他方、個々の担当課はこの調査結果を活かして、市民の回答を反映したと胸を張って言える施策を行われることを期待する。

VI 調査票

1. 市民意識調査

茨木市男女共同参画に関する市民意識調査 ご協力のお願い

市民の皆さまには、日頃から市政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。本市では、「第2次茨木市男女共同参画計画」(平成 24 年度～令和 3 年度)のもと、誰もが互いの人権を尊重し、性別にかかわらず、社会のあらゆる分野の活動に参画する男女共同参画社会の実現をめざして、さまざまな施策に取り組んでいます。

このたび、「第3次茨木市男女共同参画計画」の策定にあたり、より一層の施策の推進を図るため、広く市民の皆さまの意見をお聞きしたいと市民意識調査を実施することといたしました。ご多忙のこととは思いますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年 10 月

茨木市長 福岡 洋一

インターネットによる回答方法

本調査は無記名調査です。
調査票に貼り付けている下記の ID 番号は、返信された紙の調査票とインターネット回答との重複をチェックするために設定しているものであり、個人情報と結びついているものではありません。
この番号で宛名の方が特定されることはありません。

【注意】

- ご回答は、宛名(または代理のご家族)の方が、紙の調査票への記入またはインターネット回答のいずれか一方を選んでください。
- インターネット回答された方は、調査票の記入・送付は不要です。
- 両方に回答された場合は、一方の回答が無効となります。

<インターネット回答方法>

1. 下記 URL を入力するか右のQRコードを読み取り、インターネット回答ページへアクセスしてください。

【インターネット回答ページ URL】

<https://al-form.tank.jp/survey/110/>



2. トップページにアクセスしていただき、下記のIDを入力の上、**回答を始める**を押してください。
調査票の回答ページが表示されたら、順番に該当する番号にチェックを入れてください。

ID番号

3. 入力が終わったら、確認ページで回答内容を確認して、**送信する**を押してください。

4. インターネットでの回答は1回限りです。回答を送信されると、その後の修正はできませんので、ご注意ください。

ご記入にあたってのお願い

- この調査は、茨木市にお住まいの 18 歳以上の市民の皆さまの中から無作為に抽出した 2,000 人の方を対象として行っています。ご回答いただきました内容は、統計的な分析にのみ使用するものであり、それ以外の目的には使用しません。また、名前の記入も不要です。
- お答えは必ず、あて名の方ご自身のお考えをご記入ください。
- 回答は質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに近いもの番号に○をつけてください。質問によって、複数選んでいただく場合があります。「その他」にあてはまる場合は、() 内になるべく具体的に記入ください。
- セクシュアルマイノリティの方など、答えにくいもしくは答えられない質問があるときは、飛ばして次の質問にお進みください。
- 記入された調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)で10月31日(日)までにご返送ください。
- 本調査は、この調査票に記入するほか、インターネット上の回答フォームにアクセスして回答することができます。裏面の「インターネットによる回答方法」をごらんください。

問合先 茨木市 市民文化部 人権・男女共生課
電話 072(620)1640(直通) FAX 072(620)1725
メール jinken@city.ibaraki.lg.jp

問1 あなたは、男女の地位がどの程度平等になっていると思われるか。次の分野で、あてはまる番号に○をつけてください。

	男性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている	平等	女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
ア 法律や制度のうえでは	1	2	3	4	5
イ 社会の慣習やきたりでは	1	2	3	4	5
ウ 自治会などの地域活動では	1	2	3	4	5
エ 学校生活では	1	2	3	4	5
オ 雇用の機会や職業の選択では	1	2	3	4	5
カ 賃金や待遇では	1	2	3	4	5
キ 家庭生活では	1	2	3	4	5
ク 政治・経済活動では	1	2	3	4	5
ケ 社会全体では	1	2	3	4	5

(○はそれぞれ1つ)

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

《問2で、「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。》

問3-1 それはなぜですか。(○はいくつでも)

1. 女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
2. 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから
3. 男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 日本の伝統的な家族のあり方だと思うから
5. 自分の両親も役割分担していたから
6. その他(具体的に)
7. わからない

《問2で、「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方におたずねします。》

問3-2 それはなぜですか。(○はいくつでも)

1. 固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから
2. 女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
3. 男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 男女平等に反すると思うから
5. 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから
6. 自分の両親もともに働いていたから
7. その他(具体的に)
8. わからない

《全員におたずねします。》

問4 家庭におけるさまざまな役割について、おたずねします。あなたは以下のことがらをどのように分担するのが良いと思いますか。

	主に男性が担う	男性が担う	どちらかといえば男性が担う	男女が同じ程度	女性が担う	どちらかといえば女性が担う	主に女性が担う
ア 生活費をかせぐ	1	2	3	4	5		
イ 日々の家計の管理をする	1	2	3	4	5		
ウ 日常の買い物	1	2	3	4	5		
エ 食事のしたく、後片付け	1	2	3	4	5		
オ 洗濯(洗濯物干し・たたみを含む)	1	2	3	4	5		
カ 掃除	1	2	3	4	5		
キ 老親や病身者の介護・看護	1	2	3	4	5		
ク 子どもの教育としつけ	1	2	3	4	5		
ケ 学校行事への参加	1	2	3	4	5		
コ 乳幼児の世話	1	2	3	4	5		
サ 自治会、町内会など地域活動への参加	1	2	3	4	5		

(○はそれぞれ1つ)

問5 あなたは、「女性であること」または「男性であること」によって、負担感や生きづらさを感じたことがありますか。(〇は1つ)

1. ある 2. ない 3. わからない

《問5で、「1. ある」と答えた方におたずねします。》

問6 それは、どのようなきに感じましたか。(〇はいくつでも)

1. なにかにつけ「男だから、女だから」「男のくせに、女のくせに」と言われる
 2. 自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある
 3. 仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい
 4. 「妻子を養うのは男の責任だ」と言われる
 5. 「男なのに酒が飲めないのか」「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされたり、からかわれる
 6. 仕事の責任が大きい、仕事ができなくて当たり前と言われる
 7. 責任のある仕事を任せてもらえない、決定権のある役割に就けない
 8. 家事、育児ができなくて当たり前と言われる
 9. 女性はやさしくて、よく気がつき、従順であることを求められる
 10. その他(具体的に)

《全員におたずねします。》

問7 新型コロナウイルス感染症の仕事や生活への影響についておたずねします。新型コロナウイルス感染症拡大以前(概ね2020年3月以前)と、現在の仕事や生活の状況を比べて、次のようなことがありますか。(〇はいくつでも)

1. 就業時間が増えた 2. 就業時間が減った
 3. 在宅勤務やテレワークが増えた 4. 時差出勤など柔軟な働き方になった
 5. 残業が増えた 6. 残業が減った
 7. 転職した 8. 仕事を失った
 9. 自分の収入が増えた 10. 自分の収入が減った
 11. 家計収入が増えた 12. 家計収入が減った
 13. 家事や育児、介護の負担が増えた 14. 家事や育児、介護の負担が減った
 15. 休校・休園等になった子どもの世話のため、仕事を休んだ
 16. 家庭内のけんかや言いあそいが増えた
 17. 家庭内のコミュニケーションが良くなった
 18. 精神的に不安定になった、イライラすることが増えた
 19. 生活に対する不安が大きくなった
 20. 上記のどれもない

問8 子育てについて、あなたの考え方に近いものはどれですか。

	そう思う	そう思う どちらかといえ ば	どちらかといえ ば	そう思わない	わからない
ア 性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方が良い (〇はそれぞれ1つ)	1	2	3	4	5
イ 言葉遣いや仕事など、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、しつけるのが良い	1	2	3	4	5
ウ 子どもが3歳くらいまでは母親が育てた方が良い	1	2	3	4	5

問9 学校教育や学校生活の中で、男女共同参画を進めるために、どのような取組が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 男女(ジェンダー)平等に関する教職員研修を充実する
 2. 校長や教頭に女性を増やしていく
 3. 学校生活の中で、性別による固定的な役割分担を行わない
 4. 性別にかかわらず、個人の能力、個性、希望に応じたチャレンジができてきる雰囲気づくりをする
 5. 自分の心と体を大切にし、相手も大切にしている性教育の充実を努める
 6. セクシュアルマイノリティについての理解を深める
 7. 保護者会などを通じて男女(ジェンダー)平等教育への保護者の理解を深める
 8. その他(具体的に)
 9. 学校教育の中で取り組む必要はない

問10 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭や地域活動」、「個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実(現状)に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

※「仕事」……週1時間以上働いていること。フルタイムパート、アルバイト、嘱託などは問わない
 「家庭や地域活動」……家族と過ごす、家事、育児、介護・看護、看護、地域活動など
 「個人の生活」……学習・研究(学業も含む)、趣味・娯楽、スポーツなど

	1. 「仕事」を優先したい 2. 「家庭や地域活動」を優先したい 3. 「個人の生活」を優先したい 4. 「仕事」と「家庭や地域活動」を優先したい 5. 「仕事」と「個人の生活」を優先したい 6. 「家庭や地域活動」と「個人の生活」を優先したい 7. 「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい 8. その他(具体的に) 9. わからない
<希望> (○は1つ)	
	1. 「仕事」を優先していた 2. 「家庭や地域活動」を優先していた 3. 「個人の生活」を優先していた 4. 「仕事」と「家庭や地域活動」を優先していた 5. 「仕事」と「個人の生活」を優先していた 6. 「家庭や地域活動」と「個人の生活」を優先していた 7. 「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしていた 8. その他(具体的に)
<コロナ後の現実> (○は1つ)	
	1. 「仕事」を優先している 2. 「家庭や地域活動」を優先している 3. 「個人の生活」を優先している 4. 「仕事」と「家庭や地域活動」を優先している 5. 「仕事」と「個人の生活」を優先している 6. 「家庭や地域活動」と「個人の生活」を優先している 7. 「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしている 8. その他(具体的に)

問11 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

1. よく知っている	2. 聞いたことがある	3. 知らない
------------	-------------	---------

問12 一般的なこととして、女性の就労と結婚、出産、子育てとのかかわりについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

1. 結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い 2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けるのが良い 3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けるのが良い 4. 子どもができるまで仕事に就き、結婚後は家庭のことに専念するのが良い 5. 結婚までは仕事に就き、結婚後は家庭のことに専念するのが良い 6. 女性は仕事に就かない方が良い 7. その他(具体的に) 8. わからない
--

問13 女性の方 → あなたの場合、実際の働き方は、どれにあたりますか。またはどのようににされるつもりですか。(○は1つ)

男性の方 → あなたに配偶者・パートナーがいる場合、あなたの配偶者・パートナーの実際の働き方は、どれにあたりますか。またはどのようににされると思いますか。(○は1つ)

1. 結婚、出産にかかわらず、仕事を続けている(続けていた/続けるつもり) 2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり) 3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている(続けていた/続けるつもり) 4. 子どもができるまで仕事に就き、子どもができたら家事や子育てに専念している(専念していた/専念するつもり) 5. 結婚までは仕事に就き、結婚後は家庭のことに専念している(専念していた/専念するつもり) 6. 仕事に就いたことはない(就くつもりはない) 7. その他(具体的に) 8. わからない
--

問14 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 男性のための、家事・子育て・介護などの情報提供を行う 2. 男性が参加しやすい方法や場づくりをする 3. 男性が子育てや介護を行うための仲間(ネットワーク)づくりを進める 4. 講習会や研修等を行い、男性の家事・子育て・介護の技能を高める 5. 男性に対して、仕事中心の生き方や考え方を見直すための機会をつくる 6. 社会の中で、男性が家事・子育て・介護に参画することに対する評価を高める 7. 事業主や企業に対して、長時間労働の削減など、仕事と生活の両立の重要性について啓発を行う 8. その他(具体的に) 9. 特になし
--

問15 災害時において、性別や年齢などによる違いや多様性に配慮した災害対応をしていくためには、日頃からどのようなことを行っていく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

1. 防災に関する会議の女性委員の割合を増やす
2. 男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施
3. 性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施
4. 男女共同参画の視点を取り入れた啓発冊子やマニュアルの作成・配布
5. 地域で防災活動に参画する女性リーダーの養成
6. 日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める
7. その他(具体的に)
8. 特に必要なことはない

問16 セクシュアル・ハラスメントについておたずねします。あなたは、職場や学校、地域などで次のような行為をされたことがありますか。

	職場で			学校で			地域で			受け取ったことがない
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
ア 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる	1	2	3	4						
イ 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされる	1	2	3	4						
ウ 身体をじろじろ見られる	1	2	3	4						
エ わざと身体に触られる	1	2	3	4						
オ 宴会などでお酌やデュエットを強要される	1	2	3	4						
カ 性的なうわさを流される	1	2	3	4						
キ しつつく交際を求められる	1	2	3	4						
ク 性的な行為を強要される	1	2	3	4						

(〇はいくつでも)

問17 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、暴力だと思いませんか。

	どんな場合でも暴力にあたると思う	あつてない場合もあると思う	暴力にあたる場合もあると思わない	暴力にあたると思わない
ア なくる、ける	1	2	3	
イ 物を投げる	1	2	3	
ウ 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3	
エ 大声でどなる	1	2	3	
オ 「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」などの人格を否定するような言葉を言う	1	2	3	
カ なくるふりをしつて、おどす	1	2	3	
キ 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3	
ク いやがつているのに性的な行為を強要する	1	2	3	
ケ 見たくないのにポルノビデオを見せる	1	2	3	
コ 裸の写真を撮り、インターネットに流したりする	1	2	3	
サ 生活費を渡さない	1	2	3	
シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3	

問18 あなたは、これまでに交際相手がいきましたか。(結婚している方は結婚前について)(〇は1つ)

1. 交際相手がいいた(いる) _____

2. いなかった _____

《交際相手のいた(いる)方におたずねします。》

問19 これまでに交際相手が、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。(○はいくつでも)

	何 あ つ た も	あ つ た あ ら じ の 度	な い た く
ア (○はそれぞれ1つ) なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等	1	2	3
イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等	1	2	3
ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等	1	2	3
エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等	1	2	3
オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等	1	2	3

《全員におたずねします。》

問20 あなたは、「デートDV」について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

1. よく知っている	2. 聞いたことがある	3. 知らない
------------	-------------	---------

問21 あなたは、結婚(事実婚を含む)していますか。(○は1つ)

1. 結婚していない(したことがない)	2. 結婚したが、離婚または死別した
3. 結婚している	4. 結婚していないがパートナーと暮らしている

《結婚(事実婚を含む)したことのある方におたずねします。》

問22 これまでに配偶者・パートナーが、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。

	何 あ つ た も	あ つ た あ ら じ の 度	な い た く
ア (○はそれぞれ1つ) なぐったり、けったり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等	1	2	3
イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等	1	2	3
ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等	1	2	3
エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等	1	2	3
オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等	1	2	3
カ 子どもの前で暴力をふるったり、子どもに暴力をふるう	1	2	3

《問19・問22で、1つでもされたことがあったと答えた方におたずねします。》

問23 そのことを誰か(どこか)に相談しましたか。(○はいくつでも)

1. 家族や親族	2. 友人・知人
3. 茨木市配偶者暴力相談支援センター	4. 男女共生センターローズ WAM
5. 市役所の相談窓口	6. 大阪府女性相談センター
7. 性暴力支援センター・大阪 SACHICO	8. 警察
9. 3~8以外の公的な機関	
10. 民間の専門家や専門機関(弁護士・カウンセリング機関・民間シェルターなど)	
11. 医療機関	
12. その他(具体的に))
13. 相談したかったが、しなかった(できなかった)	
14. 相談しようと思わなかった	

《問23で「13.相談したかったが、しなかった(できなかった)」「14.相談しようと思わなかった」と答えた方におたずねします。》

問24 相談しなかった、しよと思わなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

1. どこ(誰)に相談してよいかわからなかったから	2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	4. 他人を巻き込みたくなかったから
5. そのことについて思い出しだくなかったから	6. 相談することで自分が傷つきたくなかったから
7. 相手の仕返しが怖かったから(暴力・嫌がらせなど)	8. 世間体が悪いと思ったから
9. 知られると仕事や学校などで今まで通りのつきあいができなくなると思ったから	10. 「誰にも言うな」と脅されたから
11. 監視が厳しく連絡や相談ができなかった	12. 相談してもむだだと思ったから
13. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていたらいいから	14. 自分にも悪いところがあると思ったり
15. 相談するほどのことではないと思ったり	16. 自分が受けている行為が暴力とは認識していなかったから
17. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから	18. その他(具体的に)

《全員におたずねします。》
問25 あなたは、LGBTをはじめとするセクシュアルマイリティについて、どの程度知っていますか。(〇は1つ)
 1. 言葉も意味も方知っている 2. 言葉だけは知っている 3. 言葉も知らない

問26 あなたは、今までに性自認(自分で自分の性別をどう思うか)または性的指向(どんな性別の人を好きになるか)に悩んだことがありますか。(〇は1つ)
 1. ある 2. ない

問27 LGBTをはじめとするセクシュアルマイリティにとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。(〇は1つ)
 1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う
 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

《問27で「1.そう思う」「2.どちらかといえばそう思う」と答えた方におたずねします。》
問28 どのようなことが生活しづらい社会にしていると思いますか。(〇はいくつでも)
 1. 家族、友人など周囲の人に相談できない
 2. カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する
 3. いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける
 4. 住居選択において偏見・差別がある
 5. 医療の場において偏見・差別がある
 6. 就職・就業において偏見・差別がある
 7. 福利厚生において偏見・差別がある
 8. 自認する性と異なる、ふるまひや服装などを強要される
 9. 自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)
 10. 夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない
 11. セクシュアルマイリティの権利を守るための法整備が進んでいない
 12. 行政機関などの相談・支援体制が不十分である
 13. 性別の記入を求められる書類が多い
 14. その他(具体的に)

《全員におたずねします。》
問29 茨木市のセクシュアルマイリティ支援に関する取組を知っていますか。(〇はいくつでも)
 1. いばらきにいろいろ相談(電話相談) 3. いずれも知らない
 2. いばらきにいろいろスペース(コミュニティスペース)

問30 あなたは、男女共生センターローズWAMを知っていますか。(〇は1つ)
 1. 知っており、利用したことがある 2. 知っているが、利用したことはない
 3. 知らない

《問30で「1.知っており、利用したことがある」と答えた方におたずねします。》
問31 どういったことで利用されましたか。(〇はいくつでも)
 1. ローズWAMまつりに参加
 2. ローズWAMの講座やセミナーを受講
 3. 電話相談や面接相談を利用
 4. ホール、交流サロン(フリースペース)、会議室などの利用
 5. 図書やビデオなどの貸出
 6. 喫茶「ぼーどな-」の利用
 7. その他(具体的に)

《全員におたずねします。》
問32 この5年間の間の茨木市の状況についておたずねします。あなたご自身の経験に照らして、あなたの考えに最も近いと思うものを選んでください。

	そう思う	そう思う 2	どちらかといえば 3	そう思わない 4	どちらかといえば 5
ア 男女(ジェンダー)平等の考え方が浸透している	1	2	3	4	5
イ 子育て支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている	1	2	3	4	5
ウ 介護支援策が充実し、男女がともに働き続けやすいまちになっている	1	2	3	4	5
エ 男性の育児・介護への参加が進んでいる	1	2	3	4	5
オ 職場や地域で活躍する女性が増えた	1	2	3	4	5
カ 市のセクシュアル・ハラスメントやDVなどへの対応が進んでいる	1	2	3	4	5

あなた自身についておたずねします。

F1 あなたの性別は。(○は1つ) ※統計的な分析に必要であるため性別等をおたずねします。

1. 女性 2. 男性 3. ()
 わからない、答えたくないなど自由に書きください

F2 あなたの年齢は。(○は1つ)

1. 18~19 歳 2. 20~29 歳 3. 30~39 歳 4. 40~49 歳
 5. 50~59 歳 6. 60~69 歳 7. 70 歳以上

F3 あなたの家族構成は。(○は1つ)

1. ひとり世帯 2. 一世代世帯(夫婦またはパートナーと自分だけ)
 3. 二世帯世帯(親と子) 4. 三世帯世帯(親と子と孫)
 5. その他の世帯(具体的に)

F4 あなたのお子さんの人数は。

(別居を含む) (○は1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上
 5. 子どもはいない

F4-1 あなたの一番下のお子さんは。

(○は1つ)

1. 3歳未満 2. 3歳以上就学前
 3. 小学生 4. 中学生
 5. 高校生 6. それ以上

F5 あなたの職業は。(○は1つ)

1. 勤め人(正規の社員や職員) 2. 勤め人(臨時・パート・アルバイト等非常規社員や職員)
 3. 会社などの役員 4. 自営業
 5. 家族従業員 6. 家事専業(専業主婦・主夫)
 7. 無職(家事専業を除く) 8. 学生
 9. その他(具体的に)

《就労中の方(F5で1~5を選択した方)におたずねします。》

F5-1 あなたの仕事の内容は。(○は1つ)

1. 看護師 2. 医師
 3. 介護士・ヘルパー等 4. 保健師
 5. 保育士 6. 薬剤師
 7. 栄養士
 8. 上記以外の専門・技術系の職業(弁護士、教員、エンジニア、作家など)
 9. 管理的職業(課長担当以上の管理職、議員など)
 10. 事務系の職業(事務系会社員、公務員、オペレーターなど)
 11. 営業・販売系の職業(店主、販売店員、営業社員、セールス、外交員など)
 12. サービス系の職業(飲食店店主・店員、美容師など)
 13. 生産技能・作業(工具、職人、大工、土木作業、清掃員、倉庫労働者など)
 14. 保安の職業(警察官・消防士・自衛官、守衛など)
 15. 農林漁業職(植木職、造園業を含む)
 16. 運輸・通信(運転手、郵便集配・配達員など)
 17. その他(具体的に)

《全員におたずねします。》

F6 あなたの配偶者・パートナーは、現在、収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

1. している 2. していない 3. 配偶者・パートナーはいない

◆男女共同参画社会に関して、ご意見や感想がございましたらご自由にお書きください。

.....

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、この調査票のみを同封の返信用封筒に入れ、10月31日(日)までにお近くの郵便ポストにご投函ください。(切手を貼る必要はありません。)

2. 小学生調査

いばききだんじよきようどうさんかく かん
茨木市男女共同参画に関する

ちようさ
アンケート調査

R3 小学5年生用

【ご協力のお願い】

茨木市では、男女共同参画社会※を実現させるために、小学5年生のみなさんをお願いして、男女共同参画に関する考え方を知るアンケート調査を実施することになりました。

これはテストではありませんので、名前を書く必要はありません。答えは先生や他の人にはわかりませんので、ふだん思っていることをそのまま答えてください。

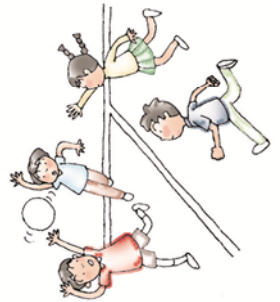
令和3年10月

※男女共同参画社会とは、性別に関係なく、だれもが自分の意志によって自由な活動や生き方ができ、また、喜びや責任をいっしょに分ち合うことができる社会のことです。

※参画とは、計画から実行・反省までいっしょに進めることです。

アンケートの書き方

1. 質問には、あなたの考えに近いもの番号に○をつける質問と、考えた答えを書く質問があります。
2. 質問によっては、1つだけ○をつけてもらう場合と、「○はいくつでも」と、複数○をつけてもらう場合がありますので、よく質問文を読んでください。
3. 「その他」に○をした時は、()の中に自分で考えた答えを書いてください。
4. 意味のわからない質問や答えたくない質問があった時は、その質問をとばして先に進んでください。



問合せ先 茨木市 市民文化部 人権・男女共生課
電話 072(620)1640(直通)

問1 あなたは、生活の中で次のようなことをしていますか。(○はそれぞれ1つ)

	している	していない	している	していない
(1) 買い物	1	2	3	3
(2) 食事のしたく	1	2	3	3
(3) 食事のあとのかたづけ	1	2	3	3
(4) そうじ	1	2	3	3
(5) ゴミだし	1	2	3	3
(6) 洗たく	1	2	3	3
(7) お風呂洗い	1	2	3	3
(8) ペットや植物の世話	1	2	3	3
(9) いっしょに生活している人の世話	1	2	3	3
(10) その他()	1	2	3	3



問5 あなたは、たとえば「男の子は泣いてはいけない」や「女の子はやさしく」など「男だから〇〇」や「女だから〇〇」のようにだれかに言われたことがありますか。(〇は1つ)

- 1. よく言われる
- 2. 時々言われる
- 3. あまり言われない
- 4. 全く言われない

《問5で「1.よく言われる」、「2.時々言われる」と答えた方に質問します。》

問5-1 どんなことで言われましたか。(〇はいくつでも)

- 1. ことば使い
- 2. 服さう・身だしなみ
- 3. 整理整頓
- 4. 家の仕事
- 5. 食事の仕方
- 6. すわり方
- 7. 勉強
- 8. テレビ番組
- 9. 友だち関係
- 10. 家に帰る時間
- 11. スポーツ
- 12. お金の使い方
- 13. 泣いた時
- 14. その他()

問5-2 あなたは言われた時、どんな気持ちでしたか。(〇は1つ)

- 1. なぜそう言われるのか不思議に思った
- 2. いやな気持ちでした
- 3. その通りだと思った
- 4. 何とも思わなかった
- 5. その他()

問5-3 それだれに言われましたか。(〇はいくつでも)

- 1. いっしょに生活している人
- 2. 友だち
- 3. 保育所・幼稚園の先生
- 4. 小学校の先生
- 5. 近所の人
- 6. その他()

問6 あなたは、悩みごとや心配ごとがある時、だれに相談しますか。(〇はいくつでも)

- 1. いっしょに生活している人
- 2. 友だち
- 3. ネットでの友だち
- 4. 学校の先生
- 5. 習いごとや塾の先生
- 6. スクールカウンセラー
- 7. その他()
- 8. 相談しない

問7 あなたの性別は。(〇は1つ)

- 1. 女性
- 2. 男性
- 3. 回答しない

質問はこれで終わります。ご協力ありがとうございました。

問2 あなたは、次のようなことは、だれがするのが一番よいと思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

	女の子が全に	男の子が全に	する人が協力して	いっしょに生活して	その他	わからない
(1) 料理・そうじ・洗たくなどの家事	1	2	3	4	5	
(2) 子育て	1	2	3	4	5	
(3) 生活費をかせぐ仕事	1	2	3	4	5	

問3 学校での生活について聞きます。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

	女子のほうが向いてると思う	男子のほうが向いてると思う	男女で変わらないと思う	わからない
(1) 代表委員や児童会役員になる	1	2	3	4
(2) プループ活動のリーダーになる	1	2	3	4
(3) 授業で手をあげたり、話合いで積極的に意見を言う	1	2	3	4
(4) 重い物を運んだり、力が入る仕事をする	1	2	3	4
(5) そうじや整理整頓をする	1	2	3	4

問4 あなたは、学校などで、次のようなことを学んだことがありますか。(〇はいくつでも)

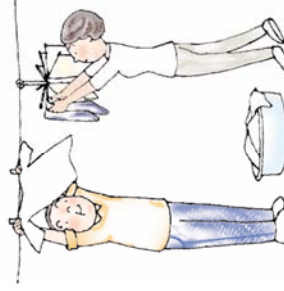
- 1. 「男女(ジェンダー)平等」ということや内容を学んだことがある
- 2. 家事や子育てはみんなで協力してやることを学んだことがある
- 3. 性別にかかわらず、自分なりにしたい仕事選びをすることが大切だと学んだことがある
- 4. 自分の心や体の悩みを他の人に打ち明けてもいいということについて学んだことがある
- 5. 自分の心と体は大切なものだから、いやなことを我慢していいことを学んだことがある
- 6. その他()

※ジェンダーとは、「男らしさ」「女らしさ」というように、社会や生活の中でつくられた役割としての性別のことです。

3. 中学生調査

問1 あなたは、生活の中で次のようなことをしていますか。(○はそれぞれ1つ)

(1) 買い物	している	1	2	3
(2) 食事のたく	している	1	2	3
(3) 食事のあとかたづけ	している	1	2	3
(4) 掃除	している	1	2	3
(5) ゴミ出し	している	1	2	3
(6) 洗濯	している	1	2	3
(7) お風呂洗い	している	1	2	3
(8) ペットや植物の世話	している	1	2	3
(9) いっしょに生活している人の世話	している	1	2	3
(10) その他()	している	1	2	3



いばききだんじよきようどうさんかく かん
茨木市男女共同参画に関する

ちようさ
アンケート調査

R3 中学3年生用

【ご協力のお願い】

茨木市では、男女共同参画社会を実現させるために、中学3年生のみなさんにお願ひして、男女共同参画に関する考え方を調べるアンケート調査を実施することになりました。

これはテストではありませんので、名前を書く必要はありません。答えは先生や他の人にはわかりませんので、ふだん思っていることをそのまま答えてください。

令和3年10月

※男女共同参画社会とは、性別に関係なく、だれもが自分の意志によって自由な活動や生き方ができ、また、喜びや責任をいっしょに分ちあうことができる社会のこと。

※参画とは、計画から実行・反省までいっしょに進めること。

アンケートの書き方

1. 質問には、あなたの考えに近いもの番号に○をつける質問と、考えた答えを書く質問があります。

2. 質問によっては、1つだけ○をつけてもらう場合と、「○はいくつでも」と、複数○をつけてもらう場合がありますので、よく質問文を読んでください。

3. 「その他」に○をした時は、()の中に自分で考えた答えを書いてください。

4. 意味のわからない質問や答えたくない質問があった時は、その質問をとはして先に進んでください。

問合先 茨木市 市民文化部 人権・男女共生課
電話 072(620)1640(直通)

問5 あなたは、中学校などで、次のようなことを学んだことがありますか。(○はいくつでも)

1. 男女(ジェンダー※)平等や男女共同参画について学んだことがある
2. 家事や子育てはみんなで協力してやることを学んだことがある
3. 性別にかかわらず、自分がなりたいたい仕事選びをすることが大切だと学んだことがある
4. 自分の体や心についての悩みをだれにも打ち明けられずにいる人がいることについて学んだことがある
5. デートDVIについて学んだことがある
6. その他()

※ジェンダーとは、生物学的な性別に対して社会的・文化的に形成された性別のこと。

問6 あなたは、たとえば「男の子は泣いてはいけない」や「女の子はやさしく」など「男だから○○」や「女だから○○」のようにだれかに言われたことがありますか。(○は1つ)

1. よく言われる
2. 時々言われる
3. あまり言われない
4. 全く言われない

《問6で「1.よく言われる」、「2.時々言われる」と答えた方に質問します。》

問6-1 どんなことで言われましたか。(○はいくつでも)

1. 言葉使い
2. 服装・身だしなみ
3. 整理整頓
4. 家の仕事
5. 食事の仕方
6. すわり方
7. 勉強
8. テレビ番組
9. 友だち関係
10. 家に帰る時間
11. スポーツ
12. お金の使い方
13. 泣いた時
14. その他()

問6-2 あなたは言われた時、どんな気持ちでしたか。(○は1つ)

1. なぜそう言われるのか不思議に思った
2. いやな気持ちになった
3. そのとおりでと思った
4. 何とも感わなかった
5. その他()

問6-3 それだれに言われましたか。(○はいくつでも)

1. いっしょに生活している人
2. 友だち
3. 保育所・幼稚園の先生
4. 小学校・中学校の先生
5. 近所の人
6. その他()

問2 あなたは、次のようなことは、だれがするのが一番よいと思いますか。(○はそれぞれ1つ)

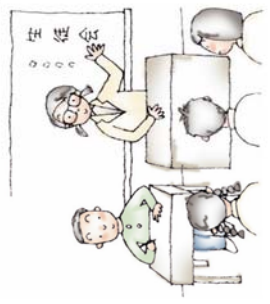
	女の子の方がよい	男の子の方がよい	いる人が協力して	いっしょに生活して	その他	わからない
(1) 料理・掃除・洗濯などの家事	1	2	3	4	()	5
(2) 子育て	1	2	3	4	()	5
(3) 生活費をかせぐ仕事	1	2	3	4	()	5

問3 「家庭の外の仕事は男性、家庭の中の仕事は女性」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問4 学校での生活について聞きます。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで○をつけてください。

	女子のほうがいいと思う	男子のほうがいいと思う	男女で変わらないと思う	わからない
(1) 学級委員や生徒会役員になる	1	2	3	4
(2) グループ活動のリーダーになる	1	2	3	4
(3) 授業で手をあげたり、話合いで積極的に意見を言う	1	2	3	4
(4) 重い物を運んだり、力がある仕事をする	1	2	3	4
(5) 掃除や整理整頓をする	1	2	3	4



問7 あなたは、「デートDV」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

- 1. 知っている
- 2. 聞いたことがある
- 3. 知らない

問8 あなたは、交際中の人同士で(1)から(7)のようなことをすることにどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

	絶対にしては	場合によっては	してもよい
(1) 相手が荷をしているのか気になって、しよちゅう電話やLINE(メール)で確かめる	1	2	3
(2) 二人のことを何でも自分の意見や都合で決める	1	2	3
(3) 相手のスマホやケータイの履歴を勝手に見たり、登録している連絡先を勝手に削除する(または、削除するように言う)	1	2	3
(4) 相手の友だち付き合いに口出しをする(「○○とはいっしょに遊ぶな」と言うなど)	1	2	3
(5) 言うとおりにしないときに嫌味が悪くなったり無視したりする	1	2	3
(6) 大声でどなる	1	2	3
(7) たいたいたり、けったりする(たたくふりや、けるふりも含む)	1	2	3

問9 あなたは、「セクシュアルマイリリティ(LGBTQなど)」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

- 1. 知っている
- 2. 聞いたことがある
- 3. 知らない

※セクシュアルマイリリティ…セクシュアルマイリリティ(性的少数者)を表す言葉の一つとして、次の言葉の頭文字をとって組み合わせた「LGBTQ」が使われることもある。
 L:レズビアン(女性を好きになる女性)、G:ゲイ(男性を好きになる男性)、B:バイセクシュアル(男女どちらも好きになる人)、T:トランスジェンダー(出生時に割り当てられた性別と異なる性別を生きる人/生きたい人)、Q:クイア、クエスチョニングなど(自分の性別や、好きになる相手の性別を決めない人など「LGBT」だけでは表せないセクシュアルマイリリティ)

問10 あなたは、悩みごとや心配ごとがある時、だれに相談しますか。(○はいくつでも)

- 1. いっしょに生活している人
- 2. 友だち
- 3. ネットでの友だち
- 4. 先輩・後輩
- 5. 学校の先生
- 6. 習いごとや塾の先生
- 7. スクールカウンセラー
- 8. その他()
- 9. 相談しない

問11 男女共生センター ローズWAMのことを知っていますか。(○は1つ)

- 1. 利用したことがある
- 2. 知っているが利用したことはない
- 3. 知らない

問11-1 どんなことで利用しましたか。(○はいくつでも)

- 1. 見学
- 2. ローズWAMまつり
- 3. 子ども対象の講座
- 4. ホール、交流サロン、会議室などの利用
- 5. 職業体験
- 6. 本やビデオをみたり、借りたり、自習のできるネットワークギャラリーの利用
- 7. 悩みの相談
- 8. その他()

問12 あなたの性別は。(○は1つ)

- 1. 女性
- 2. 男性
- 3. 回答しない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

4. 大学生調査

茨木市男女共同参画に関する意識調査 ご協力のお願い

大学の学生の皆様

茨木市では、誰もがお互いの人権を尊重し、性別にかかわらず、社会のあらゆる分野の活動に参加する男女共同参画社会の実現をめざして、さまざまな施策に取り組んでいます。
このたび、市内の大学生のみなさんに、男女(ジェンダー)平等に関する意見をお聞きするWEBアンケート調査を実施し、男女共同参画施策の推進を図るための基礎資料にしたいと考えています。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年 10月

茨木市長 福岡 洋一

調査の概要

【調査項目】 男女共同参画に関する意識、デートDVについて、セクシュアルマイノリティについて、

性別、年齢、学部

【設問数】 20問

【調査期間】 2021年10月20日～11月30日

WEBアンケート調査回答方法

本調査は無記名調査で、この用紙に貼り付けているID番号は、個人情報と結びついているものではありません。また、調査の回答から回答者のメールアドレスなどの情報を収集することはありません。

<WEB回答方法>

1. 下記URLを入力するか右のQRコードを読み取り、回答ページへアクセスしてください。

【WEB回答ページURL】 https://al-form.tank.jp/survey/i_20/



2. トップページにアクセスして、下記のIDを入力の上、**回答を始める**を押してください。調査票の

回答ページが表示されたら、順番に該当する番号にチェックを入れてください。

ID番号

3. 入力が終わったら、確認ページで回答内容を確認して、**送信する**を押してください。

4. インターネットでの回答は1回限りです。回答を送信されると、その後の修正はできませんので、ご注意ください。

問合先 茨木市 市民文化部 人権・男女共生課

電話 072(620)1640(直通) FAX 072(620)1725

メール jinken@city.ibaraki.lg.jp

相談窓口 一人て悩まないでください。
※特別の記載が無い限り、年末年始を除く

施設名	電話番号	受付時間	休館日等
【女性相談(総合相談)】			
大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター) https://www.dawncenter.jp/jigyosupport.php	06-6937-7800	【火から金】 16時00分から20時00分 【土・日】 10時00分から16時00分	祝日 (土・日を除く)
大阪府女性相談センター	06-6949-6022 06-6946-7890 (FAX)06-6940-0075	9時00分から20時00分	祝日
【デートDV相談】			
大阪府女性相談センター	06-6949-6022 06-6946-7890 (FAX)06-6940-0075	9時00分から20時00分	祝日
デートDV110番	050-3204-0404	上記以外の時間帯、365日対応 【火から木】 19時00分から21時00分 【土】 18時00分から21時00分	
【性犯罪相談(被害や捜査に関する相談)】			
性犯罪被害110番(大阪府警察本部) https://www.police.pref.osaka.lg.jp/sodan/seihan110/4954.html	0120-548-110 または #8103	24時間、365日対応	
性暴力救済センター・大阪 SACHICO https://sachicoosaka.wixsite.com/sachico	072-330-0799	24時間、365日対応	
19歳までの子どもの性暴力の相談 SAP子どもサポートセンター「サチッコ」	06-6632-0699	【水から土】 14時00分から20時00分	
【ストーカー被害相談】			
ストーカー110番(大阪府警察本部) https://www.police.pref.osaka.lg.jp/sodan/seihan110/4954.html	06-6937-2110	24時間、365日対応	
【その他相談】			
こころの電話相談 (大阪府こころの健康総合センター)	06-6607-8814	【月・火・水・金】 9時30分から17時00分	祝日
女性の人権ホットライン(大阪法務局)	0570-070-810	8時30分から17時15分	土・日・祝日
DV・セクハラ・性被害の電話相談 (大阪弁護士会)	06-6364-6251	【第2木】 11時30分から13時30分	

問1 あなたは、男女の地位がどの程度平等になっていると思われるですか。次の分野で、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	男性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
ア 法律や制度のうえでは	1		2	3	4	5
イ 社会の慣習やしきたりでは	1		2	3	4	5
ウ 自治会などの地域活動では	1		2	3	4	5
エ 学校生活では	1		2	3	4	5
オ 雇用の機会や職業の選択では	1		2	3	4	5
カ 賃金や待遇では	1		2	3	4	5
キ 家庭生活では	1		2	3	4	5
ク 政治、経済活動では	1		2	3	4	5
ケ 社会全体では	1		2	3	4	5

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

《問2で、「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。》

問3-1 それはなぜですか。(○はいくつでも)

1. 女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
2. 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから
3. 男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 日本の伝統的な家族のあり方だと思うから
5. 自分の両親も役割分担していたから
6. その他(具体的に)
7. わからない

茨木市男女共同参画に関する意識調査

ご回答にあたってのお願い

- ご回答いただきました内容は、統計的な分析にのみ使用するものであり、それ以外の目的には使用しません。また、名前の記入も不要です。
- 回答は質問ごとの選択肢の中から、あなたのお考えに近いものを選んでください。質問によって、複数選んでいた場合もあります。「その他」にあてはまる場合は、()内になるべく具体的に記入してください。
- 回答終了後に「回答内容確認ページ」が表示されます。修正を行う場合は、「回答ページに戻るボタン」を押すことで、回答ページに移動して修正を行うことができます。
- 回答は1回限りです。回答を送信されると、その後の修正はできませんので、ご注意ください。

ID番号

回答を始める

実施主体 茨木市
 問合先 茨木市 市民文化部 人権・男女共生課
 電話 072(620)1640(直通) FAX 072(620)1725
 メール jinken@city.ibaraki.lg.jp

《問2で、「3.どちらかといえば反対」「4.反対」と答えた方におたずねします。》

問3-2 それほどですか。(○はいくつでも)

1. 固定的な男性と女性の役割分担の意識を押し付けるべきではないから
2. 女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
3. 男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 男女平等に反すると思うから
5. 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから
6. 自分の両親もともに働いていたから
7. その他(具体的に)
8. わからない

《全員におたずねします。》

問4 一般的なこととして、女性の就労と結婚、出産、子育てとのかわりについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

1. 結婚、出産にかかわらず、仕事を続ける方が良い
2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続けるのが良い
3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けるのが良い
4. 子どもがでるまで仕事に就き、結婚後は家庭のことに専念するのが良い
5. 結婚までは仕事に就き、結婚後は家庭のことに専念するのが良い
6. 女性は仕事に就かない方が良い
7. その他(具体的に)
8. わからない

問5 セクシュアル・ハラスメントについておたずねします。あなたは、次のような行為をされたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われる
2. 卑わいな言葉をかけられたり、わい 談をされる
3. 身体をじろじろ見られる
4. わざと身体に触られる
5. 宴会などでお酌やデュエットを強要される
6. 性的なうわさを流される
7. しつこく交際を求められる
8. 性的な行為を強要される
9. どれも無い

問6 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人の間で行われた場合、暴力だと思いませんか。

	どなたにもあたる場合	ほとんどあたる場合	あつた場合	暴力にあたると思われない
ア なくる、ける	1	2	2	3
イ 物を投げる	1	2	2	3
ウ 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	2	3
エ 大声でどなる	1	2	2	3
オ 「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」などの人格を否定するような言葉を言う	1	2	2	3
カ なくるふりをし、おどす	1	2	2	3
キ 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	2	3
ク いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	2	3
ケ 見たくないのにポルノビデオを見せる	1	2	2	3
コ 裸の写真や撮り、インターネットに流したりする	1	2	2	3
サ 生活費を渡さない	1	2	2	3
シ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	2	3

(○はそれぞれ1つ)

問7 あなたは、これまでに交際相手がいまいましたか。(○は1つ)

1. 交際相手がいいた(いる)
2. いなかった

《交際相手のいた(いる)方におたずねします。》

問8 これまでに交際相手が、あなたに対して次のようなことをしたことがありますか。

	あつた回数	あつた度	なまいたく
(○はそれぞれ1つ)			
ア なくぐったり、けつたり、物を投げたり、突き飛ばしたりする等	1	2	3
イ 人格を否定するような暴言、大声でどなる、長時間無視する、ののしる、脅迫する等	1	2	3
ウ 性行為を強要する、避妊に協力しない、中絶を強要する等	1	2	3
エ 生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、貯金を勝手に使われる、相談なく借金を重ねる等	1	2	3
オ 外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックする等	1	2	3

問12 あなたは、今までに性自認(自分で自分の性別をどう思うか)または性的指向(どんな性別の人を好きになるか)に悩んだことがありますか。(○は1つ)

- 1. ある
- 2. ない

問13 LGBTをはじめとするとセクシュアルマイリティにとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。(○は1つ)

- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらかといえばそう思わない
- 4. そう思わない

《問13で「1.そう思う」「2.どちらかといえばそう思う」と答えた方におたずねします。》

問14 どのようなことが生活しづらい社会にしていると思えますか。(○はいくつでも)

- 1. 家族、友人など周囲の人に相談できない
- 2. カミングアウト後、周囲の理解が得られない、態度が変化する
- 3. いじめ(悪口・嫌がらせなど)を受ける
- 4. 住居選択において偏見・差別がある
- 5. 医療の場において偏見・差別がある
- 6. 就職・就業において偏見・差別がある
- 7. 福利厚生において偏見・差別がある
- 8. 自認する性と異なるふるまいや服装などを強要される
- 9. 自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)
- 10. 夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない
- 11. セクシュアルマイリティの権利を守るための法整備が進んでいない
- 12. 行政機関などの相談・支援体制が不十分である
- 13. 性別の記入を求められる書類が多い
- 14. その他(具体的に)

《全員におたずねします。》

問15 茨木市のセクシュアルマイリティ支援に関する取組を知っていますか。(○はいくつでも)

- 1. 1. いばらきにじいろ相談(電話相談)
- 2. 2. いばらきにじいろスペース(コミュニケーションスペース)
- 3. 3. いずれも知らない

問16 あなたは、男女共生センター ローズWAMを知っていますか。(○は1つ)

- 1. 1. 知っており、利用したことがある
- 2. 2. 知っているが、利用したことはない
- 3. 3. 知らない

《問8で「1つでもされたことがあったと答えた方におたずねします。》

問9 そのことを誰か(どこか)に相談しましたか。(○は1つ)

- 1. 相談した → (相談先:)
- 2. 相談したかったが、しなかった(できなかった)
- 3. 相談しようと思わなかった

《全員におたずねします。》

問10 あなたは、悩みや困りごとがあったときの相談は誰(どこ)にしますか。(○はいくつでも)

- 1. 母親
- 2. 父親
- 3. きょうだい
- 4. 祖母
- 5. 祖父
- 6. 1~5以外の一緒に生活している人
- 7. 友人
- 8. 先輩・後輩
- 9. 恋人
- 10. 先生
- 11. 大学の相談室
- 12. 公的な相談窓口
- 13. 民間の相談窓口
- 14. その他()
- 15. 相談しない

問11 あなたは、LGBTをはじめとするとセクシュアルマイリティ^{*}について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

- 1. 言葉も意味も両方知っている
- 2. 言葉だけは知っている
- 3. 言葉も知らない

※セクシュアルマイリティ…セクシュアルマイリティ(性的少数者)を表す言葉の一つとして、次の言葉の頭文字をとって組み合わせた「LGBT」が使われることもあります。
 L:レズビアン(女性を好きになる女性)、G:ゲイ(男性を好きになる男性)、B:バイセクシュアル(男女どちらも好きになる人)、T:トランスジェンダー(出生時に割り当てられた性別と異なる性別を生きる人/生きたい人)
 また、現在は、Q:クィア、クエスチョニングなど(自分の性別や、好きになる相手の性別を決めていない人など「LGBT」だけでは表せないセクシュアルマイリティ)を含めて「LGBTQ」と表現することが増えています。

あなた自身について

F1 あなたの性別は。(○は1つ) ※統計的な分析に必要であるため性別等をおたずねします。

1. 女性 2. 男性 3. ()
 わからない、答えたくないなど自由にお書きください

F2 あなたの年齢は。

()歳

F3 あなたの学部は。(○は1つ)

1. 医療・看護系の学部
 2. 経済・経営学部
 3. 心理学系の学部
 4. 国際系の学部
 5. 社会学部
 6. 政策科学部
 7. 地域創造学部
 8. 食文化学部
 9. 文化表現学部
 10. その他(具体的に)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

茨木市男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和4年（2022年）3月

発行：茨木市 市民文化部 人権・男女共生課

567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号

TEL：072-620-1640 FAX：072-620-1725

Eメール：jinken@city.ibaraki.lg.jp
